

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	コリツダガクテツジン カザワガク 国立大学法人 金沢大学									
フリガナ大学の名称	カザワガク 金沢大学 (Kanazawa University)									
大学本部の位置	石川県金沢市角間町									
大学の目的	金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材を養成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	医薬保健学域 [College of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences]  医薬科学類 [School of Medical and Pharmaceutical Sciences]  計	年	人	年次人	人	人	学士（生命医科学） [Bachelor of Biomedical Science] 又は 学士（創薬科学） [Bachelor of Pharmaceutical Sciences]	年 月 第 年次	石川県金沢市角間町	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>【学士課程】</p> <p>融合学域 先導科学類 [新設] (入学定員55, 3年次編入学定員25) (令和2年3月意見伺い)</p> <p>人間社会学域 人文学類 [定員減] (入学定員△4) (令和3年4月) 法学類 [定員減] (入学定員△10, 3年次編入学定員△5) (令和3年4月) 経済学類 [定員減] (入学定員△4) (令和3年4月) 学校教育学類 [定員減] (入学定員△15) (令和3年4月) 地域創造学類 [定員減] (入学定員△2) (令和3年4月) 国際学類 [定員減] (入学定員△2) (令和3年4月)</p> <p>理工学域 数物科学類 [定員減] (入学定員△2) (令和3年4月) 物質化学類 [定員減] (入学定員△2) (令和3年4月) 機械工学類 [定員減] (入学定員△3) (令和3年4月) フロンティア工学類 [定員減] (入学定員△3) (令和3年4月) 電子情報通信学類 [定員減] (入学定員△2) (令和3年4月) 地球社会基盤学類 [定員減] (入学定員△2) (令和3年4月) 生命理工学類 [定員減] (入学定員△1) (令和3年4月)</p> <p>医薬保健学域 薬学類 [定員増] (入学定員30) (令和3年4月) 創薬科学類 [廃止] (入学定員△40) (令和3年4月学生募集停止) 保健学類 看護学専攻 [定員減] (入学定員△1, 3年次編入学定員△6) (令和3年4月) 放射線技術科学専攻 [定員減] (3年次編入学定員△2) (令和3年4月) 検査技術科学専攻 [定員減] (3年次編入学定員△2) (令和3年4月) 理学療法科学専攻 [定員減] (入学定員△5) (令和3年4月) 作業療法科学専攻 [定員減] (入学定員△5) (令和3年4月)</p>									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	医薬保健学域医薬科学類	講義	演習	実験・実習	計					
		296 科目	126 科目	57 科目	479 科目	130 単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
	新設	融合学域 先導科学類	人	人	人	人	人	人	人	令和2年3月 意見伺い
	分	医薬保健学域 医薬科学類	4 (4)	3 (3)	1 (4)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	203 (203)	令和2年4月 事前伺い
	計	18 (18)	8 (8)	2 (2)	6 (6)	34 (34)	0 (0)	-	(-)	

教 員 組 織 の 概 要	既 設 分	人間社会学域							
		人文学類	25 (25)	14 (14)	2 (2)	1 (1)	42 (42)	0 (0)	94 (94)
		法学類	10 (10)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	82 (82)
		経済学類	15 (15)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	92 (92)
		学校教育学類	32 (32)	21 (21)	1 (1)	0 (0)	54 (54)	0 (0)	89 (89)
		地域創造学類	13 (13)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	91 (91)
		国際学類	10 (10)	10 (10)	2 (2)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	107 (107)
		理工学域							
		数物科学類	22 (22)	15 (15)	2 (2)	11 (11)	50 (50)	0 (0)	84 (84)
		物質化学類	16 (16)	13 (13)	0 (0)	7 (7)	36 (36)	0 (0)	94 (94)
		機械工学類	17 (17)	13 (13)	1 (1)	12 (12)	43 (43)	1 (1)	103 (103)
		フロンティア工学類	17 (17)	11 (11)	1 (1)	9 (9)	38 (38)	0 (0)	129 (129)
		電子情報通信学類	16 (16)	12 (12)	1 (1)	5 (5)	34 (34)	0 (0)	93 (93)
		地球社会基盤学類	19 (19)	13 (13)	1 (1)	8 (8)	41 (41)	0 (0)	90 (90)
		生命理工学類	8 (8)	11 (11)	1 (1)	7 (7)	27 (27)	0 (0)	99 (99)
		医薬保健学域							
		医学類	51 (51)	48 (48)	8 (8)	49 (49)	156 (156)	0 (0)	85 (85)
		薬学類	12 (12)	14 (14)	0 (0)	15 (15)	41 (41)	0 (0)	85 (85)
		保健学類	29 (29)	22 (22)	0 (0)	31 (31)	82 (82)	0 (0)	83 (83)
		計	312 (312)	239 (239)	26 (26)	157 (157)	734 (734)	1 (1)	— (—)
合計	330 (330)	247 (247)	28 (28)	163 (163)	768 (768)	1 (1)	— (—)		
教員以外の 職員の概要	職 種	専 任	兼 任	計					
	事務職員	425 (425)	448 (448)	873 (873)	人				
	技術職員	1,037 (1,037)	511 (511)	1,548 (1,548)	人				
	図書館専門職員	12 (12)	4 (4)	16 (16)	人				
	その他の職員	5 (5)	237 (237)	242 (242)	人				
計	1,479 (1,479)	1,200 (1,200)	2,679 (2,679)	人					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	731,780 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	731,780 m <sup>2</sup>	大学全体			
	運動場用地	115,740 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	115,740 m <sup>2</sup>	大学全体			
	小 計	847,520 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	847,520 m <sup>2</sup>	大学全体			
	そ の 他	1,793,478 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	1,793,478 m <sup>2</sup>	大学全体			
合 計	2,640,998 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	2,640,998 m <sup>2</sup>	大学全体				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	283,269 m <sup>2</sup> (283,269 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	283,269 m <sup>2</sup> (283,269 m <sup>2</sup> )	大学全体				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	138室	215室	903室	8室 (補助職員0人)	6室 (補助職員0人)	大学全体			
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	医薬保健学域 医薬科学類			11		室			

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学類単位で特定 不能のため、大 学全体の数量		
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕							
	医薬保健学域 医薬科学類	1,911,948 [678,273] (1,911,948 [678,273])	36,332 [14,394] (36,332 [14,394])	9,852 [8,485] (9,852 [8,485])		8,219 (8,219)	8,269 (8,269)	373 (373)			
	計	1,911,948 [678,273] (1,911,948 [678,273])	36,332 [14,394] (36,332 [14,394])	9,852 [8,485] (9,852 [8,485])		8,219 (8,219)	8,269 (8,269)	373 (373)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
		19,794 m <sup>2</sup>		2,191		1,625,424					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		6,295 m <sup>2</sup>		可動屋根付プール (1,193m <sup>2</sup> )		弓道場 (162m <sup>2</sup> )					
経費の 見積り 方法及 維持 の概要	経費 の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
		共同研究費等		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
		図書購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
	設備購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			-								
既 設 大 学 の 状 況	大 学 の 名 称		金沢大学								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	平成30年度より入 学定員減 (△50)  平成30年度より入 学定員増 (10) 平成30年度より入 学定員増 (15)  平成30年度より学 生募集停止 平成30年度より学 生募集停止 平成30年度より学 生募集停止 平成30年度より学 生募集停止
	人間社会学域		年	人	年次 人	人		倍		石川県金沢市角間町	
	人文学類		4	145	—	580	学士 (文学)	1.02	平成20年度		
	法学類		4	170	3年次 10人	700	学士 (法学)	1.02	平成20年度		
	経済学類		4	135	—	590	学士 (経済学)	1.02	平成20年度		
	学校教育学類		4	100	—	400	学士 (教育学)	1.03	平成20年度		
	地域創造学類		4	90	—	350	学士 (地域創造 学)	1.03	平成20年度		
	国際学類		4	85	—	325	学士 (国際学)	1.04	平成20年度		
	理工学域							1.02		石川県金沢市角間町	
	数物科学類		4	84	3年次 5人	341	学士 (理学)	1.03	平成20年度		
	物質化学類		4	81	3年次 4人	328	学士 (理学又は 工学)	1.04	平成20年度		
	機械工学類		4	100	3年次 10人	310	学士 (工学)	1.01	平成30年度		
フロンティア工学類		4	110	3年次 5人	335	学士 (工学)	1.01	平成30年度			
電子情報通信学類		4	80	3年次 7人	247	学士 (工学)	1.02	平成30年度			
地球社会基盤学類		4	100	3年次 7人	307	学士 (理学又は 工学)	1.02	平成30年度			
生命理工学類		4	59	3年次 2人	179	学士 (理学又は 工学)	1.02	平成30年度			
機械工学類		4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
電子情報学類		4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
環境デザイン学類		4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成20年度			
自然システム学類		4	—	—	—	学士 (理学又は 工学)	—	平成20年度			

既設	医薬保健学域						1.01				
	医学類	6	112	2年次 5人	697	学士（医学）	1.00	平成20年度	石川県金沢市宝町13-1		
	薬学類	6	35	—	210	学士（薬学）		平成20年度	石川県金沢市角間町		
	創薬科学類	4	40	—	160	学士（創薬科学）	1.04	平成20年度	石川県金沢市角間町		
	保健学類							1.02	平成20年度	石川県金沢市小立野5-11-80	
	看護学専攻	4	80	3年次 10人	340	学士（看護学）	1.01				
	放射線技術科学専攻	4	40	3年次 5人	170	学士（保健学）	1.01				
	検査技術科学専攻	4	40	3年次 5人	170	学士（保健学）	1.03				
	理学療法学専攻	4	20	3年次 5人	90	学士（保健学）	1.02				
	作業療法学専攻	4	20	3年次 5人	90	学士（保健学）	1.03				
大学	人間社会環境研究科								石川県金沢市角間町		
	人文学専攻 （博士前期課程）	2	23	—	46	修士（文学又は学術）	0.77	平成24年度			
	経済学専攻 （博士前期課程）	2	6	—	12	修士（経済学, 経営学又は学術）	1.24	平成24年度		平成30年度より入学定員減（△2）	
	地域創造学専攻 （博士前期課程）	2	14	—	28	修士（地域創造学又は学術）	0.88	平成24年度		平成30年度より入学定員増（6）	
	国際学専攻 （博士前期課程）	2	10	—	20	修士（国際学又は学術）	0.75	平成24年度		平成30年度より入学定員増（2）	
	人間社会環境学専攻 （博士後期課程）	3	12	—	36	博士（社会環境学, 文学, 法学, 政治学, 経済学又は学術）	1.11	平成18年度			
	法学・政治学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（法学又は政治学）	—	平成24年度		令和2年度より学生募集停止	
の状況	自然科学研究科								石川県金沢市角間町		
	数物科学専攻 （博士前期課程）	2	56	—	112	修士（理学又は学術）	0.96	平成24年度			
	（博士後期課程）	3	15	—	45	博士（理学又は学術）	0.66	平成16年度			
	物質化学専攻 （博士前期課程）	2	57	—	114	修士（理学, 工学又は学術）	1.11	平成24年度			
	（博士後期課程）	3	14	—	42	博士（理学, 工学又は学術）	0.42	平成26年度			
	機械科学専攻 （博士前期課程）	2	90	—	180	修士（工学又は学術）	1.17	平成24年度			
	（博士後期課程）	3	25	—	75	博士（工学又は学術）	0.54	平成26年度			
	電子情報科学専攻 （博士前期課程）	2	67	—	134	修士（工学又は学術）	1.09	平成24年度			
	（博士後期課程）	3	18	—	54	博士（工学又は学術）	0.53	平成16年度			
	環境デザイン学専攻 （博士前期課程）	2	40	—	80	修士（工学又は学術）	1.03	平成24年度			
	（博士後期課程）	3	10	—	30	博士（工学又は学術）	1.00	平成26年度			

既設	自然システム学専攻 (博士前期課程)	2	67	—	134	修士(理学, 工学又は学術)	1.04	平成24年度			
	(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(理学, 工学又は学術)	0.41	平成26年度			
	システム創成科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学又は学術)	—	平成16年度		平成26年度より学生募集停止	
	物質科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(理学, 工学又は学術)	—	平成16年度		平成26年度より学生募集停止	
	環境科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(理学, 工学又は学術)	—	平成16年度		平成26年度より学生募集停止	
	医薬保健学総合研究科										
大等	医科学専攻 (修士課程)	2	15	—	30	修士(医科学)	0.86	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1		
	医学専攻 (博士課程)	4	64	—	256	博士(医学)	0.93	平成28年度	石川県金沢市宝町13-1		
	薬学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士(薬学又は学術)	0.81	平成24年度	石川県金沢市角間町		
	創薬科学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	76	修士(創薬科学)	1.06	平成24年度	石川県金沢市角間町		
	(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(創薬科学又は学術)	0.87	平成24年度			
	保健学専攻 (博士前期課程)	2	70	—	140	修士(保健学)	0.88	平成24年度	石川県金沢市小立野5-11-80		
	(博士後期課程)	3	25	—	75	博士(保健学)	1.14	平成24年度			
	脳医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1	平成26年度より学生募集停止	
	がん医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1	平成26年度より学生募集停止	
	循環医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1	平成26年度より学生募集停止	
	環境医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1	平成26年度より学生募集停止	
	の状況	医学系研究科									
		脳医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成13年度	石川県金沢市宝町13-1	平成24年度より学生募集停止
		がん医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成13年度	石川県金沢市宝町13-1	平成24年度より学生募集停止
循環医科学専攻 (博士課程)		4	—	—	—	博士(医学, 医薬学又は学術)	—	平成13年度	石川県金沢市宝町13-1	平成24年度より学生募集停止	
環境医科学専攻 (博士課程)		4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成13年度	石川県金沢市宝町13-1	平成24年度より学生募集停止	
保健学専攻 (博士後期課程)		3	—	—	—	博士(保健学)	—	平成14年度	石川県金沢市小立野5-11-80	平成24年度より学生募集停止	
先進予防医学研究科									石川県金沢市宝町13-1		
況	先進予防医学共同専攻 (博士課程)	4	12	—	48	博士(医学)	1.04	平成28年度			

既設 大 学	新学術創成研究科 融合科学共同専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(融合科学)	0.99	平成30年度	石川県金沢市角間町
	(博士後期課程)	3	14	—	14	博士(融合科学, 理学又は工)	0.21	令和2年度	
	ナノ生命科学専攻 (博士前期課程)	2	6	—	6	修士(ナノ科学)	1.50	令和2年度	
	(博士後期課程)	3	6	—	6	博士(ナノ科学)	1.16	令和2年度	
等 の 状 況	法学研究科 法学・政治学専攻 (修士課程)	2	8	—	8	修士(法学又は政治学)	0.00	令和2年度	石川県金沢市角間町
	法務専攻 (専門職学位課程)	3	15	—	45	法務博士(専門職)	0.52	平成16年度	
況	教職実践研究科 教職実践高度化専攻 (専門職学位課程)	2	15	—	30	教職修士(専門職)	0.89	平成28年度	石川県金沢市角間町
附属施設の概要		<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、幼稚園教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地3,717㎡ 建物925㎡</p> <p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、小学校教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地24,757㎡ 建物7,545㎡</p> <p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、中学校教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地26,470㎡ 建物7,524㎡</p> <p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、高等普通教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、本学学生で高等学校教員となることを志望するものに教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地24,932㎡ 建物6,273㎡</p> <p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、特別支援学校の教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市東兼六町2-10 設置年月：昭和39年4月 規模等：土地10,517㎡ 建物4,813㎡</p> <p>名称：金沢大学附属病院 目的：医学の教育、研究及び診療を行う。 所在地：石川県金沢市宝町13-1 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地68,957㎡ 建物89,936㎡</p>							

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：金沢大学附属図書館          目的：教育、研究及び学習に必要な図書館資料を収集、整理、保存し、主として金沢大学の教職員及び学生の利用に供するとともに、一般利用者にも必要な学術情報を提供する。          所在地：石川県金沢市角間町（中央図書館及び自然科学系図書館）          石川県金沢市宝町13-1（医学図書館）          石川県金沢市小立野5-11-80（保健学類図書館）          設置年月：昭和24年5月          規模等：土地12,302㎡ 建物19,793㎡</p> <p>名称：金沢大学がん進展制御研究所          目的：全国共同利用・共同研究拠点として唯一のがん研究に特化した拠点としての活動を推進するとともに、大学院医薬保健学総合研究科大学院生の研究指導の協力をを行う。          所在地：石川県金沢市角間町          設置年月：昭和42年6月          規模等：土地3,353㎡ 建物5,035㎡</p> <p>名称：金沢大学医薬保健学域薬学類・創薬科学類附属薬用植物園          目的：薬学生教育の場として、生薬や薬用植物に対する知識を深めるため、薬用植物の観察、栽培、収穫などの実習を行う。          所在地：石川県金沢市角間町          設置年月：昭和44年4月          規模等：土地21,766㎡ 建物150㎡</p>	
----------------	---	--

金沢大学 設置申請に係わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
金沢大学				金沢大学				
				融合学域 <span style="float:right">学部の設置</span>				
				先導科学類 <span style="float:right">55 <small>3年度25</small> 270</span>				
人間社会学域				人間社会学域				
人文学類	145	—	580	人文学類	141	—	564	定員変更(入学定員△4)
法学類	170	<small>3年度10</small>	700	法学類	160	<small>3年度5</small>	650	定員変更(入学定員△10・編入学定員△5)
経済学類	135	—	540	経済学類	131	—	524	定員変更(入学定員△4)
学校教育学類	100	—	400	学校教育学類	85	—	340	定員変更(入学定員△15)
地域創造学類	90	—	360	地域創造学類	88	—	352	定員変更(入学定員△2)
国際学類	85	—	340	国際学類	83	—	332	定員変更(入学定員△2)
理工学域				理工学域				
数物科学類	84	<small>3年度5</small>	346	数物科学類	82	<small>3年度5</small>	338	定員変更(入学定員△2)
物質化学類	81	<small>3年度4</small>	332	物質化学類	79	<small>3年度4</small>	324	定員変更(入学定員△2)
機械工学類	100	<small>3年度10</small>	420	機械工学類	97	<small>3年度10</small>	408	定員変更(入学定員△3)
フロンティア工学類	110	<small>3年度5</small>	450	フロンティア工学類	107	<small>3年度5</small>	438	定員変更(入学定員△3)
電子情報通信学類	80	<small>3年度7</small>	334	電子情報通信学類	78	<small>3年度7</small>	326	定員変更(入学定員△2)
地球社会基盤学類	100	<small>3年度7</small>	414	地球社会基盤学類	98	<small>3年度7</small>	406	定員変更(入学定員△2)
生命理工学類	59	<small>3年度2</small>	240	生命理工学類	58	<small>3年度2</small>	236	定員変更(入学定員△1)
医薬保健学域				医薬保健学域				
医学類	112	<small>2年度5</small>	649	医学類	112	<small>2年度5</small>	637	※R3年度まで臨時定員増(R4年度以降は入学定員100名)
薬学類	35	—	210	薬学類	65	—	390	定員変更(入学定員30)
創薬科学類	40	—	160		0	—	0	令和3年4月学生募集停止
				医薬科学類 <span style="float:right">18 — 72 学部の学科の設置(事前伺い)</span>				
				保健学類 <span style="float:right">189 <small>3年度20</small> 796</span>				
				看護学専攻 <span style="float:right">79 <small>3年度4</small> 324 定員変更(入学定員△1・編入学定員△6)</span>				
				放射線技術科学専攻 <span style="float:right">40 <small>3年度3</small> 166 定員変更(編入学定員△2)</span>				
				検査技術科学専攻 <span style="float:right">40 <small>3年度3</small> 166 定員変更(編入学定員△2)</span>				
				理学療法学専攻 <span style="float:right">15 <small>3年度5</small> 70 定員変更(入学定員△5)</span>				
				作業療法学専攻 <span style="float:right">15 <small>3年度5</small> 70 定員変更(入学定員△5)</span>				
計	1,726	<small>2年度5</small>	7,335	計	1,726	<small>2年度5</small>	7,403	
				<small>3年度90</small>				
人間社会環境研究科				人間社会環境研究科				
人文学専攻(M)	23	—	46	人文学専攻(M)	23	—	46	
経済学専攻(M)	6	—	12	経済学専攻(M)	6	—	12	
地域創造学専攻(M)	14	—	28	地域創造学専攻(M)	14	—	28	
国際学専攻(M)	10	—	20	国際学専攻(M)	10	—	20	
人間社会環境学専攻(D)	12	—	36	人間社会環境学専攻(D)	12	—	36	
自然科学研究科				自然科学研究科				
数物科学専攻(M)	56	—	112	数物科学専攻(M)	56	—	112	
数物科学専攻(D)	15	—	45	数物科学専攻(D)	15	—	45	
物質化学専攻(M)	57	—	114	物質化学専攻(M)	57	—	114	
物質化学専攻(D)	14	—	42	物質化学専攻(D)	14	—	42	
機械科学専攻(M)	90	—	180	機械科学専攻(M)	90	—	180	
機械科学専攻(D)	25	—	75	機械科学専攻(D)	25	—	75	
電子情報科学専攻(M)	67	—	134	電子情報科学専攻(M)	67	—	134	
電子情報科学専攻(D)	18	—	54	電子情報科学専攻(D)	18	—	54	
環境デザイン学専攻(M)	40	—	80	環境デザイン学専攻(M)	40	—	80	
環境デザイン学専攻(D)	10	—	30	環境デザイン学専攻(D)	10	—	30	
自然システム学専攻(M)	67	—	134	自然システム学専攻(M)	67	—	134	
自然システム学専攻(D)	21	—	63	自然システム学専攻(D)	21	—	63	
医薬保健学総合研究科				医薬保健学総合研究科				
医科学専攻(M)	15	—	30	医科学専攻(M)	15	—	30	
医学専攻(D)	64	—	256	医学専攻(D)	64	—	256	
薬学専攻(D)	4	—	16	薬学専攻(D)	4	—	16	
創薬科学専攻(M)	38	—	76	創薬科学専攻(M)	38	—	76	
創薬科学専攻(D)	11	—	33	創薬科学専攻(D)	11	—	33	
保健学専攻(M)	70	—	140	保健学専攻(M)	70	—	140	
保健学専攻(D)	25	—	75	保健学専攻(D)	25	—	75	
新学術創成研究科				新学術創成研究科				
融合科学共同専攻(M)	14	—	28	融合科学共同専攻(M)	14	—	28	
融合科学共同専攻(D)	14	—	42	融合科学共同専攻(D)	14	—	42	
ナノ生命科学専攻(M)	6	—	12	ナノ生命科学専攻(M)	6	—	12	
ナノ生命科学専攻(D)	6	—	18	ナノ生命科学専攻(D)	6	—	18	
先進予防医学研究科				先進予防医学研究科				
先進予防医学共同専攻(D)	12	—	48	先進予防医学共同専攻(D)	12	—	48	
法学研究科				法学研究科				
法学・政治学専攻(M)	8	—	16	法学・政治学専攻(M)	8	—	16	
法務専攻(P)	15	—	45	法務専攻(P)	15	—	45	
教職実践研究科				教職実践研究科				
教職実践高度化専攻(P)	15	—	30	教職実践高度化専攻(P)	15	—	30	
計	862	—	2070	計	862	—	2070	



教育課程等の概要																
(医薬保健学域 医薬科学類)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○			1					兼1	共同	
	初學者ゼミ I	1①	1				○			1	1	1		兼2	共同	
	データサイエンス基礎	1①	1			○								兼2	共同	
	地域概論	1①～②	1			○								兼2	共同	
	小計(4科目)	—	4	0	0	—	—	—	1	1	1	1	0	兼5	—	
共通教育科目	1群(自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④		1		○							兼1		
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○							兼1		
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○							兼1		
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○							兼1		
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○							兼1		
		物理の世界	1②・④		1		○							兼1		
		化学の世界	1①・②・③・④		1		○							兼1		
		2群(自己を鍛える)	哲学(自我論)	1①・②・③・④		1		○							兼1	
			パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○							兼1	
			グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	健康科学		1①・②・③・④		1		○							兼1		
	細胞・分子生物学		1①・②・③・④		1		○							兼2	共同	
	3群(考える・価値観を表現する)	エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④		1				○					兼2	共同	
		プレゼン・ディベート論(初學者ゼミII)	1②	1				○			1	1	1		共同	
		クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1			○						兼1		
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1			○						兼1		
		論理学から見る世界	1①・②・③・④		1			○						兼1		
		数学的発想法	1①・②・③・④		1			○						兼1		
		芸術と自己表現	1①・②・③・④		1			○						兼1		
		スポーツ科学	1①・②・③・④		1			○						兼1		
		4群(世界とつながる)	金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④		1									兼1	
			日本史・日本文化	1②・③・④		1			○						兼3	
	異文化間コミュニケーション		1①・②・③・④		1			○						兼1		
	異文化体験A		1②・④		1				○					兼2	共同・集中	
	異文化体験B		1②・④		2				○					兼2	共同・集中	
	異文化体験C		1②・④		3				○					兼2	共同・集中	
	異文化体験D		1②・④		4				○					兼2	共同・集中	
	異文化体験E		1②・④		5				○					兼2	共同・集中	
	異文化体験F		1②・④		6				○					兼2	共同・集中	
	異文化体験G		1②・④		7				○					兼2	共同・集中	
	5群(未来の課題に取り組む)	異文化体験H	1②・④		8				○					兼2	共同・集中	
		国際社会とボランティア	1①・②		1			○						兼1		
		グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④		1			○						兼1		
		科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1			○						兼1		
		統計学から未来を見る	1①・②・③		1			○						兼1		
		情報の科学	1①・②・③・④		1			○						兼1		
		環境学とESD	1①・②・③・④		1			○						兼1		
		生活と社会保障	1①・②・③・④		1			○						兼1		
		人権・ジェンダー論	1②・③・④		1			○						兼1		
小計(39科目)		—	1	66	0	—	—	—	0	1	1	1	0	兼34	—	
GS言語科目(英語)	TOEIC準備 I	1①	1			○								兼1		
	TOEIC準備 II	1②	1			○								兼1		
	TOEIC準備 III	1③	1			○								兼1		
	TOEIC準備 IV	1④	1			○								兼1		
	TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④		1			○							兼1		
	English for Academic Purposes I	1①	1			○								兼1		
	English for Academic Purposes II	1①・②	1			○								兼1		
	English for Academic Purposes III	1③	1			○								兼1		
	English for Academic Purposes IV	1④	1			○								兼1		
English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④		1			○							兼1			
GS言語科目(日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○								兼1		
	アカデミック基礎日本語B	1②	1			○								兼1		
	講義の聴解A	1①・③		1		○								兼1		
	講義の聴解B	1②・④		1		○								兼1		
	口頭発表I A	1①		1		○								兼1		
	口頭発表I B	1②		1		○								兼1		
	口頭発表II A	1③		1		○								兼1		
	口頭発表II B	1④		1		○								兼1		
	上級読解I A	1①		1		○								兼1		
	上級読解I B	1②		1		○								兼1		
	上級読解II A	1③		1		○								兼1		
上級読解II B	1④		1		○								兼1			
日本語で学ぶ論理A	1③		1		○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
GS言語科目 (日本語)	日本語で学ぶ論理B	1④		1		○									兼1	
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1	
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1	
	小計 (28科目)	—	10	18	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼10	—
基礎科目	微分積分学ⅠA	1①		1		○									兼1	
	微分積分学ⅠB	1②		1		○									兼1	
	線形代数学ⅠA	1①		1		○									兼1	
	線形代数学ⅠB	1②		1		○									兼1	
	統計数学A	1③		1		○									兼1	
	統計数学B	1④		1		○									兼1	
	物理学実験	1③~④, 2⑩~⑫		2				○							兼1	
	物理学ⅠA	1①		1		○									兼1	
	物理学ⅠB	1②		1		○									兼1	
	物理学ⅡA	1③		1		○									兼1	
	物理学ⅡB	1④		1		○									兼1	
	化学実験	1③~④, 2⑩~⑫		2				○							兼1	
	化学ⅠA	1①		1		○									兼1	
	化学ⅠB	1②		1		○									兼1	
	化学ⅡA	1③		1		○									兼1	
	化学ⅡB	1④		1		○									兼1	
	小計 (16科目)	—	0	18	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼8	—
共通教育科目  初習言語科目	ドイツ語A1-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語A1-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語A2-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語A2-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語A3-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語A3-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語A4-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語A4-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語B-1	2①		1		○									兼1	
	ドイツ語B-2	2②		1		○									兼1	
	ドイツ語C-1	2①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語C-2	2②・④		1		○									兼1	
	フランス語A1-1	1①		1		○									兼1	
	フランス語A1-2	1②		1		○									兼1	
	フランス語A2-1	1①		1		○									兼1	
	フランス語A2-2	1②		1		○									兼1	
	フランス語A3-1	1③		1		○									兼1	
	フランス語A3-2	1④		1		○									兼1	
	フランス語A4-1	1③		1		○									兼1	
	フランス語A4-2	1④		1		○									兼1	
	フランス語B-1	2①・③		1		○									兼1	
	フランス語B-2	2②・④		1		○									兼1	
	フランス語C-1	2③		1		○									兼1	
	フランス語C-2	2④		1		○									兼1	
	ロシア語A1-1	1①		1		○									兼1	
	ロシア語A1-2	1②		1		○									兼1	
	ロシア語A2-1	1①		1		○									兼1	
	ロシア語A2-2	1②		1		○									兼1	
	ロシア語A3-1	1③		1		○									兼1	
	ロシア語A3-2	1④		1		○									兼1	
	ロシア語A4-1	1③		1		○									兼1	
	ロシア語A4-2	1④		1		○									兼1	
	ロシア語B-1	2①・③		1		○									兼1	
	ロシア語B-2	2②・④		1		○									兼1	
	ロシア語C-1	2①・③		1		○									兼1	
	ロシア語C-2	2②・④		1		○									兼1	
中国語A1-1	1①		1		○									兼1		
中国語A1-2	1②		1		○									兼1		
中国語A2-1	1①		1		○									兼1		
中国語A2-2	1②		1		○									兼1		
中国語A3-1	1③		1		○									兼1		
中国語A3-2	1④		1		○									兼1		
中国語A4-1	1③		1		○									兼1		
中国語A4-2	1④		1		○									兼1		
中国語B-1	2①・③		1		○									兼1		
中国語B-2	2②・④		1		○									兼1		
中国語C-1	2③		1		○									兼1		
中国語C-2	2④		1		○									兼1		
朝鮮語A1-1	1①		1		○									兼1		
朝鮮語A1-2	1②		1		○									兼1		
朝鮮語A2-1	1①		1		○									兼1		
朝鮮語A2-2	1②		1		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	朝鮮語A3-1	1③		1			○								兼1	
	朝鮮語A3-2	1④		1			○								兼1	
	朝鮮語A4-1	1③		1			○								兼1	
	朝鮮語A4-2	1④		1			○								兼1	
	朝鮮語B-1	2①・③		1			○								兼1	
	朝鮮語B-2	2②・④		1			○								兼1	
	朝鮮語C-1	2①・③		1			○								兼1	
	朝鮮語C-2	2②・④		1			○								兼1	
	ギリシア語A1-1	1①		1			○								兼1	
	ギリシア語A1-2	1②		1			○								兼1	
	ギリシア語A2-1	1③		1			○								兼1	
	ギリシア語A2-2	1④		1			○								兼1	
	ギリシア語A3-1	2①		1			○								兼1	
	ギリシア語A3-2	2②		1			○								兼1	
	ギリシア語A4-1	2③		1			○								兼1	
	ギリシア語A4-2	2④		1			○								兼1	
	ギリシア語B-1	3①		1			○								兼1	
	ギリシア語B-2	3②		1			○								兼1	
	ギリシア語C-1	3③		1			○								兼1	
	ギリシア語C-2	3④		1			○								兼1	
	ラテン語A1-1	1①		1			○								兼1	
	ラテン語A1-2	1②		1			○								兼1	
	ラテン語A2-1	1③		1			○								兼1	
	ラテン語A2-2	1④		1			○								兼1	
	ラテン語A3-1	2①		1			○								兼1	
	ラテン語A3-2	2②		1			○								兼1	
	ラテン語A4-1	2③		1			○								兼1	
	ラテン語A4-2	2④		1			○								兼1	
	ラテン語B-1	3①		1			○								兼1	
	ラテン語B-2	3②		1			○								兼1	
	ラテン語C-1	3③		1			○								兼1	
	ラテン語C-2	3④		1			○								兼1	
	スペイン語A1-1	1①		1			○								兼1	
	スペイン語A1-2	1②		1			○								兼1	
	スペイン語A2-1	1①		1			○								兼1	
	スペイン語A2-2	1②		1			○								兼1	
スペイン語A3-1	1③		1			○								兼1		
スペイン語A3-2	1④		1			○								兼1		
スペイン語A4-1	1③		1			○								兼1		
スペイン語A4-2	1④		1			○								兼1		
スペイン語B-1	2①		1			○								兼1		
スペイン語B-2	2②		1			○								兼1		
スペイン語C-1	2③		1			○								兼1		
スペイン語C-2	2④		1			○								兼1		
小計(96科目)		—	0	96	0	—			0	0	0	0	0	0	兼13	—
自由履修科目	アントレプレナーシップI	1①		1		○									兼1	
	里山里海体験実習 in 能登半島	1①・②		1				○							兼1	集中
	里山概論	1①・②		1		○									兼1	集中
	石川県の行政	1③～④		2		○									兼1	
	石川県の市町	1①～②		2		○									兼1	
	健康論実践D	1④		1				○							兼1	
	健康論実践E	1④		1				○							兼1	
	現代社会における保険の制度と役割	1③～④		2		○									兼1	
	ジャーナリズム論	1④		1		○									兼1	
	実践アントレプレナー学	1③		1		○									兼1	集中
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	1①～②		2		○									兼1	
	シュルスクリプト言語論	1①～②		2		○									兼1	
	地元学A(地域資源調査)	1①		1		○									兼1	
	地元学B(聞き書き)	1②		1		○									兼1	
	シュルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1②		2				○							兼1	集中
	世界農業遺産「能登の里山里海」とSDGsを考察するスタディ・ツアー	1①・②		1				○							兼1	集中
	イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①		1		○									兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②		1		○									兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③		1		○									兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④		1		○									兼1	
	香りと日本文化	1②		1		○									兼1	
心と体の健康A	1③		1		○									兼1		
心と体の健康B	1④		1		○									兼1		
地域「超」体験プログラム	1①・②・④		1					○						兼1	集中	
ひとのからだ1	1①		1		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通教育科目	自由履修科目	ひとのからだ2	1②	1		○									兼1	集中		
		ひとのからだ3	1③	1		○									兼1			
		ひとのからだ4	1④	1		○									兼1			
		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④	1		○									兼1			
		金沢の歴史と文化	1③～④	2		○									兼1			
		日本の伝統芸能1	1①	1		○									兼1			
		日本の伝統芸能2	1②	1		○									兼1			
		多民族・多文化共生の未来を探る	1①	1		○									兼1			
		地域創造学特別講義C	1③	1		○									兼1			
		地域創造学特別講義D	1④	1		○									兼1			
		日本国憲法概説	1③	2		○									兼1			
		日本史要説	2①～②	2		○									兼1			
		東洋史要説	2①～②	2		○									兼1			
		異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	1③	1		○									兼1			
		行政学の基礎	1①	2		○									兼1			
		ガラスとクリスタルⅠ	1②	1		○									兼1			
		ガラスとクリスタルⅡ	1③	1		○									兼1			
		ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①	1			○								兼1			
		ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③	1			○								兼1			
		コーヒーと社会	1③	1		○									兼1			
		コーヒーと科学	1④	1		○									兼1			
		地学実験	1②～③	2				○							兼1			
		生物学実験	1①～②	2				○							兼1			
		海洋生化学演習	1①	2				○							兼1			
		英国諸島の地史Ⅰ	1②	1			○								兼1			
		英国諸島の地史Ⅱ	1③	1			○								兼1			
		環境動態学概説Ⅰ	1③	1			○								兼1			
		環境動態学概説Ⅱ	1④	1			○								兼1			
		Pythonデータ分析入門	1③	1			○								兼1			
		プレゼンテーション演習A	1③	1			○								兼1			
		プレゼンテーション演習B	1④	1			○								兼1			
		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③	1					○						兼1			
		コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④	1					○						兼1			
		動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①	1			○								兼1			
		動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②	1			○								兼1			
		プログラミング演習Ⅰ	1③	1					○						兼1			
		プログラミング演習Ⅱ	1④	1					○						兼1			
		Society 5.0 概論	1③～④	2			○								兼1			
		英語セミナー	1①・②・③・④	1			○								兼1			
		ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	1				○							兼1			
		ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	1				○							兼1			
		ドイツ語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1			
		ドイツ語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○							兼1			
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1			
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1			
		フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1			
		フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○							兼1			
		フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1			
		フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1			
		中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1			
		中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1			
		小計(76科目)	—	0	91	0	—				0	0	0	0	0		兼36	—
		共通教育科目計(259科目)		—	15	289	0	—			1	2	1	1	0		兼90	—
専門教育科目	学域目GS	医薬保健学基礎Ⅰ	1①	1		○			2					兼1	オムニバス・共同(一部)			
		医薬保健学基礎Ⅱ	1②	1		○			2					兼5	オムニバス・共同(一部)			
		小計(2科目)	—	2	0	0	—			2	0	0	0	0	兼5	—		
	言語科目GS	医薬科学英語Ⅰ	2①	1		○				3		1				共同・クラス分け		
		医薬科学英語Ⅱ	2②	1		○				1	2		1			共同・クラス分け		
	小計(2科目)	—	2	0	0	—			4	2	1	1	0	—	—			
	専門基礎科目	基礎人体解剖学	1①	1		○									兼5	オムニバス		
		基礎人体構造学	1②	1		○							1		兼4	オムニバス		
		基礎人体機能学	1④	1		○									兼6	オムニバス		
		基礎分子細胞生物学	1②	1		○				1					兼2	オムニバス		
		基礎生物化学	1①	1		○							1		兼1	オムニバス		
		物理有機化学	1①	1		○									兼1	—		
		基礎医薬化学	1②	1		○				1					兼1	オムニバス		
		基礎有機反応学	1③	1		○									兼3	オムニバス		
基礎医薬合成学		1④	1		○					1				兼3	オムニバス			
基礎分析化学		1③	1		○							1		兼2	オムニバス			
小計(10科目)	—	10	0	0	—			2	1	0	3	0	兼23	—				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門共通科目	国際医薬科学 I	2③	1			○				1					兼2	共同・クラス分け	
	国際医薬科学 II	3①	1			○				1					兼2	共同・クラス分け	
	医薬科学イノベーション概論	1③	1			○				1					兼1	共同	
	医薬科学研究者入門	1④	1			○			4						兼2	オムニバス	
	医薬科学研究者養成 I	2①～④	1			○			2							共同(一部)・クラス分け	
	医薬科学研究者養成 II	3①～④	1			○			2							共同(一部)・クラス分け	
	医薬科学先端領域特論	3②～④④	1			○				1		1				共同(一部)・クラス分け	
	医薬科学基礎実習	2①	1					○	2							共同	
	医薬科学基礎ローテーション実習(生命医科学コース) I	2②～3①	6					○	1			1				兼9	共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(生命医科学コース) II	2②～3①	8					○	1		1					共同	
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース) I	2②	1.5					○				1				兼3	オムニバス・共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース) II	2②	1					○								兼4	共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース) III	2③	4					○	1	1						兼8	オムニバス・共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース) IV	2①, 2③	1					○								兼2	共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース) V	2④	3					○	1							兼6	オムニバス・共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース) VI	2④	1					○								兼2	共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース) VII	3①	2					○								兼5	オムニバス・共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース) VIII	3①	0.5					○	2							兼9	共同
	医薬科学特別演習	3③～④	0.5					○	4	3	1	3				兼42	
	医薬科学試問	4③～④	0.5					○	4	3	1	3				兼42	
小計(20科目)		—	37	0	0	—	—	—	4	3	1	3	0		兼53	—	
専門教育科目	【生命医科学コース】																
	人体解剖学 I	2①～②	2			○									兼4	オムニバス	
	人体解剖学 II	2①～②		3		○									兼4	オムニバス	
	組織学 I	2①～②	2			○									兼1		
	組織学 II	2③		1		○									兼1		
	神経解剖学 I	2①	1.5			○						1			兼2	オムニバス	
	神経解剖学 II	2②		1.5		○						1			兼2	オムニバス	
	発生学 I	2①	1			○									兼1		
	発生学 II	2②		2		○									兼3	オムニバス	
	器官生理学 I	2③	2			○									兼3	オムニバス	
	器官生理学 II	2④		2		○									兼3	オムニバス	
	神経生理学 I	2③	2			○									兼6	オムニバス	
	神経生理学 II	2④		2		○									兼6	オムニバス	
	生化学 I	2①～②	2			○									兼2	オムニバス	
	生化学 II	2①～②	2			○						1			兼3	オムニバス	
	生化学 III	2③		2		○									兼2	オムニバス	
	生化学 IV	2③		2		○						1			兼3	オムニバス・共同	
	薬理学 I	2③～④	1.5			○					1				兼2	オムニバス	
	薬理学 II	3①		1.5		○					1				兼2	オムニバス	
	薬理学実習	3①		0.5				○			1				兼2	共同	
	動物実験と再生医学	2③	1			○									兼5	オムニバス	
	遺伝学 I	2③	1			○				1					兼2	オムニバス	
	遺伝学 II	2④		1		○				1					兼2	オムニバス	
	ゲノム解析演習	3①	1					○		1					兼2	オムニバス	
	分子細胞病理学 I	2④～3①	2			○									兼2	オムニバス	
	分子細胞病理学 II	3②		2		○									兼2	オムニバス	
	人体病理学 I	2④～3①	2			○									兼2	オムニバス	
	人体病理学 II	3②		2		○									兼7	オムニバス	
	ウイルス感染学	2④	2			○									兼1		
	ウイルス感染学実習	3①		0.5				○							兼2	共同	
	細菌感染学 I	2③～④	1.5			○									兼4	オムニバス	
	細菌感染学 II	3①		1.5		○									兼2	オムニバス	
	細菌感染学実習	3①		0.5				○							兼4	共同	
	寄生虫学	2④	1			○									兼3	オムニバス	
寄生虫学実習	3①		0.5				○							兼4	共同		
免疫学	2③～④	2			○				1					兼2	オムニバス		
免疫学実習	3①		0.5				○		1								
衛生学 I	3①～②	1.5			○									兼1			
衛生学 II	3③		1.5		○									兼1			
衛生学実習	3①～②		0.5				○							兼1			
公衆衛生学 I	3①～②	1			○									兼2	オムニバス		
公衆衛生学 II	3③		0.5		○									兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目 コース専門科目	公衆衛生学実習	3①～②		1				○								兼1	
	法医学Ⅰ	2④	1			○										兼2	オムニバス
	法医学Ⅱ	3①～③		2		○										兼2	オムニバス
	法医学実習	3②～③		0.5				○								兼2	共同
	臨床法医学特論	3④		1		○										兼1	
	国際保健学	3①～②		0.5		○										兼1	
	脳神経医学	2①	1			○										兼2	オムニバス
	生命医科学海外AL実習Ⅰ	2①～④④		0.5				○		1							
	生命医科学海外AL実習Ⅱ	2①～④④		0.5				○		1							
	生命医科学国内AL実習Ⅰ	2①～④④		0.5				○		1							
	生命医科学国内AL実習Ⅱ	2①～④④		0.5				○		1							
	生物化学Ⅰ	2①		2		○										兼2	オムニバス
	生物化学Ⅱ	2③～④		2		○				1						兼1	オムニバス
	衛生薬学Ⅰ	2①		2		○										兼3	オムニバス
	衛生薬学Ⅱ	2③～④		2		○										兼3	オムニバス
	生体防御学	2③～④		2		○										兼4	オムニバス
	微生物学	2②		1		○										兼2	オムニバス
	薬品作用学Ⅰ	2①		2		○										兼2	オムニバス
	薬品作用学Ⅱ	2③～④		2		○										兼2	オムニバス
	物理化学Ⅰ	2①		1		○										兼1	
	物理化学Ⅱ	2②		1		○							1				
	物理化学Ⅲ	2③～④		2		○								1		兼1	オムニバス
	分析化学	2①		2		○										兼1	
	応用有機化学Ⅰ	2①		2		○				1							
	応用有機化学Ⅱ	2③～④		2		○										兼1	
	薬剤学Ⅰ	2③～④		2		○										兼1	
	薬剤学Ⅱ	3①～②		2		○										兼1	
	臨床薬物代謝化学	3①～②		2		○										兼2	オムニバス
	薬物治療学Ⅰ	3①～②		2		○										兼1	
	薬物治療学Ⅱ	3③～④		2		○										兼2	オムニバス
	応用有機化学演習Ⅰ	2②		0.5				○		1							
	応用有機化学演習Ⅱ	2④		0.5				○								兼1	
	生命・医療倫理	2③		1		○										兼7	オムニバス
	生薬学	2③～④		2		○										兼2	オムニバス
	無機薬化学	2②		1		○										兼1	
	病態生理学	2④		1		○										兼2	オムニバス
	細胞生物学	3①		1		○										兼2	オムニバス
	生命工学Ⅰ	3①		1		○										兼1	
	生命工学Ⅱ	3②		1		○										兼3	オムニバス
	天然物化学	3①～②		2		○					1					兼1	オムニバス
	生物有機化学	3①～②		2		○										兼1	
	有機反応化学	3①～②		2		○										兼3	オムニバス
	製剤学	3①～②		2		○										兼2	オムニバス
	有機金属化学	3③～④		2		○										兼3	オムニバス
	有機機器分析	3③～④		2		○										兼1	
	臨床検査学	3③～④		2		○										兼6	オムニバス
	東洋医学	3④		1		○										兼1	
	医薬品化学	3④		1		○										兼2	オムニバス
	放射薬品学	3④		1		○										兼1	
	毒性学	3④		1		○										兼2	オムニバス
小計 (91科目)		—	34	97.5	0		—		4	1	1	3	0		兼99	—	
	【創業科学コース】																
	生物化学Ⅰ	2①		2		○									兼2	オムニバス	
	生物化学Ⅱ	2③～④		2		○			1						兼1	オムニバス	
	衛生薬学Ⅰ	2①		2		○									兼3	オムニバス	
	衛生薬学Ⅱ	2③～④		2		○									兼3	オムニバス	
	生体防御学	2③～④		2		○									兼4	オムニバス	
	微生物学	2②		1		○									兼2	オムニバス	
	薬品作用学Ⅰ	2①		2		○									兼2	オムニバス	
	薬品作用学Ⅱ	2③～④		2		○									兼2	オムニバス	
	物理化学Ⅰ	2①		1		○									兼1		
	物理化学Ⅱ	2②		1		○						1					
	物理化学Ⅲ	2③～④		2		○							1		兼1	オムニバス	
	分析化学	2①		2		○									兼1		
	応用有機化学Ⅰ	2①		2		○			1								
	応用有機化学Ⅱ	2③～④		2		○									兼1		
	薬剤学Ⅰ	2③～④		2		○									兼1		
	薬剤学Ⅱ	3①～②		2		○									兼1		
	臨床薬物代謝化学	3①～②		2		○									兼2	オムニバス	
	薬物治療学Ⅰ	3①～②		2		○									兼1		
	薬物治療学Ⅱ	3③～④		2		○									兼2	オムニバス	
	応用有機化学演習Ⅰ	2②		0.5				○	1								
	応用有機化学演習Ⅱ	2④		0.5				○							兼1		
	生命・医療倫理	2③		1		○									兼7	オムニバス	
	生薬学	2③～④		2		○									兼2	オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 コース専門科目	無機薬化学	2②		1		○									兼1	
	病態生理学	2④		1		○									兼2	オムニバス
	細胞生物学	3①		1		○									兼2	オムニバス
	生命工学 I	3①		1		○									兼1	
	生命工学 II	3②		1		○									兼3	オムニバス
	天然物化学	3①～②		2		○				1					兼1	オムニバス
	生物有機化学	3①～②		2		○									兼1	
	有機反応化学	3①～②		2		○									兼3	オムニバス
	製剤学	3①～②		2		○									兼2	オムニバス
	有機金属化学	3③～④		2		○									兼3	オムニバス
	有機機器分析	3③～④		2		○									兼1	
	臨床検査学	3③～④		2		○									兼6	オムニバス
	東洋医学	3④		1		○									兼1	
	医薬品化学	3④		1		○									兼2	オムニバス
	放射薬品学	3④		1		○									兼1	
	毒性学	3④		1		○									兼2	オムニバス
	創薬科学海外AL実習 I	2①～4④		0.5					○						兼1	
	創薬科学海外AL実習 II	2①～4④		0.5					○						兼1	
	人体解剖学 I	2①～②		2			○								兼4	オムニバス
	人体解剖学 II	2①～②		3			○								兼4	オムニバス
	組織学 I	2①～②		2			○								兼1	
	組織学 II	2③		1			○								兼1	
	神経解剖学 I	2①		1.5			○						1		兼2	オムニバス
	神経解剖学 II	2②		1.5			○						1		兼2	オムニバス
	発生学 I	2①		1			○								兼1	
	発生学 II	2②		2			○								兼3	オムニバス
	器官生理学 I	2③		2			○								兼3	オムニバス
	器官生理学 II	2④		2			○								兼3	オムニバス
	神経生理学 I	2③		2			○								兼6	オムニバス
	神経生理学 II	2④		2			○								兼6	オムニバス
	生化学 I	2①～②		2			○								兼2	オムニバス
	生化学 II	2①～②		2			○						1		兼3	オムニバス
	生化学 III	2③		2			○								兼2	オムニバス
	生化学 IV	2③		2			○						1		兼3	オムニバス・共同
	薬理学 I	2③～④		1.5			○						1		兼2	オムニバス
	薬理学 II	3①		1.5			○						1		兼2	オムニバス
	薬理学実習	3①		0.5					○				1		兼2	共同
	動物実験と再生医学	2③		1			○								兼5	オムニバス
	遺伝学 I	2③		1			○				1				兼2	オムニバス
	遺伝学 II	2④		1			○				1				兼2	オムニバス
	ゲノム解析演習	3①		1				○			1				兼2	オムニバス
	分子細胞病理学 I	2④～3①		2			○								兼2	オムニバス
	分子細胞病理学 II	3②		2			○								兼2	オムニバス
	人体病理学 I	2④～3①		2			○								兼2	オムニバス
	人体病理学 II	3②		2			○								兼7	オムニバス
	ウイルス感染学	2④		2			○								兼1	
	ウイルス感染学実習	3①		0.5					○						兼2	共同
	細菌感染学 I	2③～④		1.5			○								兼4	オムニバス
	細菌感染学 II	3①		1.5			○								兼2	オムニバス
	細菌感染学実習	3①		0.5					○						兼4	共同
	寄生虫学	2④		1			○								兼3	オムニバス
	寄生虫学実習	3①		0.5					○						兼4	共同
	免疫学	2③～④		2			○				1				兼2	オムニバス
	免疫学実習	3①		0.5					○		1					
	衛生学 I	3①～②		1.5			○								兼1	
	衛生学 II	3③		1.5			○								兼1	
	衛生学実習	3①～②		0.5					○						兼1	
	公衆衛生学 I	3①～②		1			○								兼2	オムニバス
	公衆衛生学 II	3③		0.5			○								兼1	
	公衆衛生学実習	3①～②		1					○						兼1	
	法医学 I	2④		1			○								兼2	オムニバス
	法医学 II	3①～③		2			○								兼2	オムニバス
	法医学実習	3②～③		0.5					○						兼2	共同
	臨床法医学特論	3④		1			○								兼1	
	国際保健学	3①～②		0.5			○								兼1	
	脳神経医学	2①		1			○								兼2	オムニバス
	小計 (89科目)		—	34	96.5	0	—	—	—	4	1	1	3	0	兼99	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目 課題研究科目	医薬科学研究Ⅰ	3②～④	2.5					○	4	2	1	3		兼42	
	医薬科学研究Ⅱ	4①～②	3					○	4	2	1	3		兼42	
	医薬科学研究Ⅲ	4③～④	3					○	4	2	1	3		兼42	
	医薬科学演習Ⅰ	3②～④	0.5					○	4	2	1	3		兼42	
	医薬科学演習Ⅱ	4①～②	0.5					○	4	2	1	3		兼42	
	医薬科学演習Ⅲ	4③～④	0.5					○	4	2	1	3		兼42	
小計(6科目)		—	10	0	0	—			4	2	1	3	0	兼42	
合計(479科目)			—	144	483	0	—			4	3	1	3	0	兼203
学位又は称号		学士(生命医科学, 創薬科学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 薬学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>4年以上在学し, 以下の合計130単位以上を修得した者。</p> <p>(1) 共通教育科目34単位以上(導入科目: 4単位, GS科目: 各群から3単位15単位, GS言語科目8単位, 自由履修科目3単位, 基礎科目4単位)</p> <p>※ 自由履修科目は, 自由履修科目に加え, GS科目及び基礎科目の最低修得要件を超えて修得した科目並びにその他の共通教育科目(導入科目及びGS言語科目を除く。)を含む。</p> <p>(2) 専門教育科目96単位以上(必修科目81単位, 選択科目15単位以上)</p> <p>※ 専門科目における各コースの単位数は次のとおり。</p> <p>【生命医科学コース・創薬科学コース共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学域GS科目(必修科目2単位)</li> <li>・学域GS言語科目(必修科目2単位)</li> <li>・専門基礎科目(必修科目10単位)</li> <li>・専門共通科目(必修科目23単位)</li> </ul> <p>【生命医科学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース専門科目(必修科目34単位, 選択科目15単位以上)</li> </ul> <p>※ 選択科目のうち, 創薬科学コースにおいて必修とするコース専門科目(授業形態: 講義)2単位以上を, 選択必修とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究科目(必修科目10単位)</li> </ul> <p>【創薬科学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース専門科目(必修科目34単位, 選択科目15単位以上)</li> </ul> <p>※ 選択科目のうち, 生命医科学コースにおいて必修とするコース専門科目(授業形態: 講義)2単位以上を, 選択必修とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究科目(必修科目10単位)</li> </ul>							1学年の学期区分		4学期						
							1学期の授業期間		8週						
							1時限の授業時間		90分						



教育課程等の概要													角間キャンパス			
(医薬保健学域医薬科学類)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○			1					兼1	共同	
	初学者ゼミⅠ	1①	1				○							兼2	共同	
	データサイエンス基礎	1①	1			○								兼2	共同	
	地域概論	1①～②	1			○								兼2	共同	
	小計（4科目）	—	4	0	0	—			1	1	1	1	0	兼5	—	
共通教育科目	1群（自己の立ち位置を知る）	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		物理の世界	1②・④	1			○							兼1		
		化学の世界	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		2群（自己を鍛える）	哲学（自我論）	1①・②・③・④	1			○							兼1	
			パーソナリティ心理学	1①・②・③・④	1			○							兼1	
			グローバル時代の文学	1①・②・③・④	1			○							兼1	
	健康科学		1①・②・③・④	1			○							兼1		
	細胞・分子生物学		1①・②・③・④	1			○							兼2	共同	
	エクササイズ&スポーツ実技		1①・②・③・④	1					○					兼2	共同	
	3群（考え・価値観を表現する）	プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）	1②	1				○			1	1	1		兼1	共同
		クリティカル・シンキング	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		論理学から見る世界	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		数学的発想法	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		芸術と自己表現	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		スポーツ科学	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		4群（世界とつながる）	金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④	1			○							兼1	
			日本史・日本文化	1②・③・④	1			○							兼3	
			異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④	1			○							兼1	
	異文化体験A		1②・④	1					○					兼2	共同・集中	
	異文化体験B		1②・④	2					○					兼2	共同・集中	
	異文化体験C		1②・④	3					○					兼2	共同・集中	
	異文化体験D		1②・④	4					○					兼2	共同・集中	
	異文化体験E		1②・④	5					○					兼2	共同・集中	
	異文化体験F		1②・④	6					○					兼2	共同・集中	
	異文化体験G		1②・④	7					○					兼2	共同・集中	
	異文化体験H	1②・④	8					○					兼2	共同・集中		
	国際社会とボランティア	1①・②	1			○							兼1			
	グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④	1			○							兼1			
	5群（取り組む）	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		統計学から未来を見る	1①・②・③	1			○							兼1		
		情報の科学	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		環境学とESD	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		生活と社会保障	1①・②・③・④	1			○							兼1		
		人権・ジェンダー論	1②・③・④	1			○							兼1		
小計（39科目）	—	1	66	0	—			0	1	1	1	0	兼34	—		
GS言語科目（英語）	TOEIC準備Ⅰ	1①	1			○							兼1			
	TOEIC準備Ⅱ	1②	1			○							兼1			
	TOEIC準備Ⅲ	1③	1			○							兼1			
	TOEIC準備Ⅳ	1④	1			○							兼1			
	TOEIC準備（演習）	2①・②・③・④	1			○							兼1			
	English for Academic PurposesⅠ	1①	1			○							兼1			
	English for Academic PurposesⅡ	1①・②	1			○							兼1			
	English for Academic PurposesⅢ	1③	1			○							兼1			
	English for Academic PurposesⅣ	1④	1			○							兼1			
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④	1			○							兼1			
GS言語科目（日本語）	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○							兼1			
	アカデミック基礎日本語B	1②	1			○							兼1			
	講義の聴解A	1①・③	1			○							兼1			
	講義の聴解B	1②・④	1			○							兼1			
	口頭発表ⅠA	1①	1			○							兼1			
	口頭発表ⅠB	1②	1			○							兼1			
	口頭発表ⅡA	1③	1			○							兼1			
	口頭発表ⅡB	1④	1			○							兼1			
	上級読解ⅠA	1①	1			○							兼1			
	上級読解ⅠB	1②	1			○							兼1			
	上級読解ⅡA	1③	1			○							兼1			
	上級読解ⅡB	1④	1			○							兼1			
	日本語で学ぶ論理A	1③	1			○							兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
G S 言語科目 (日本語)	日本語で学ぶ論理B	1④		1		○									兼1	
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1	
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1	
	小計 (28科目)	—	10	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10	—
基礎科目	微分積分学 I A	1①		1		○									兼1	
	微分積分学 I B	1②		1		○									兼1	
	線形代数学 I A	1①		1		○									兼1	
	線形代数学 I B	1②		1		○									兼1	
	統計数学A	1③		1		○									兼1	
	統計数学B	1④		1		○									兼1	
	物理学実験	1③~④, 2①~②		2				○							兼1	
	物理学 I A	1①		1		○									兼1	
	物理学 I B	1②		1		○									兼1	
	物理学 II A	1③		1		○									兼1	
	物理学 II B	1④		1		○									兼1	
	化学実験	1③~④, 2①~②		2				○							兼1	
	化学 I A	1①		1		○									兼1	
	化学 I B	1②		1		○									兼1	
	化学 II A	1③		1		○									兼1	
化学 II B	1④		1		○									兼1		
	小計 (16科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
共通教育科目  初習言語科目	ドイツ語A 1-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語A 1-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語A 2-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語A 2-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語A 3-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語A 3-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語A 4-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語A 4-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語B-1	2①		1		○									兼1	
	ドイツ語B-2	2②		1		○									兼1	
	ドイツ語C-1	2①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語C-2	2②・④		1		○									兼1	
	フランス語A 1-1	1①		1		○									兼1	
	フランス語A 1-2	1②		1		○									兼1	
	フランス語A 2-1	1①		1		○									兼1	
	フランス語A 2-2	1②		1		○									兼1	
	フランス語A 3-1	1③		1		○									兼1	
	フランス語A 3-2	1④		1		○									兼1	
	フランス語A 4-1	1③		1		○									兼1	
	フランス語A 4-2	1④		1		○									兼1	
	フランス語B-1	2①・③		1		○									兼1	
	フランス語B-2	2②・④		1		○									兼1	
	フランス語C-1	2③		1		○									兼1	
	フランス語C-2	2④		1		○									兼1	
	ロシア語A 1-1	1①		1		○									兼1	
	ロシア語A 1-2	1②		1		○									兼1	
	ロシア語A 2-1	1①		1		○									兼1	
	ロシア語A 2-2	1②		1		○									兼1	
	ロシア語A 3-1	1③		1		○									兼1	
	ロシア語A 3-2	1④		1		○									兼1	
	ロシア語A 4-1	1③		1		○									兼1	
	ロシア語A 4-2	1④		1		○									兼1	
	ロシア語B-1	2①・③		1		○									兼1	
	ロシア語B-2	2②・④		1		○									兼1	
	ロシア語C-1	2①・③		1		○									兼1	
	ロシア語C-2	2②・④		1		○									兼1	
	中国語A 1-1	1①		1		○									兼1	
	中国語A 1-2	1②		1		○									兼1	
	中国語A 2-1	1①		1		○									兼1	
	中国語A 2-2	1②		1		○									兼1	
	中国語A 3-1	1③		1		○									兼1	
	中国語A 3-2	1④		1		○									兼1	
	中国語A 4-1	1③		1		○									兼1	
	中国語A 4-2	1④		1		○									兼1	
	中国語B-1	2①・③		1		○									兼1	
中国語B-2	2②・④		1		○									兼1		
中国語C-1	2③		1		○									兼1		
中国語C-2	2④		1		○									兼1		
朝鮮語A 1-1	1①		1		○									兼1		
朝鮮語A 1-2	1②		1		○									兼1		
朝鮮語A 2-1	1①		1		○									兼1		
朝鮮語A 2-2	1②		1		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	朝鮮語A3-1	1③		1			○								兼1		
	朝鮮語A3-2	1④		1			○								兼1		
	朝鮮語A4-1	1③		1			○								兼1		
	朝鮮語A4-2	1④		1			○								兼1		
	朝鮮語B-1	2①・③		1			○								兼1		
	朝鮮語B-2	2②・④		1			○								兼1		
	朝鮮語C-1	2①・③		1			○								兼1		
	朝鮮語C-2	2②・④		1			○								兼1		
	ギリシア語A1-1	1①		1			○								兼1		
	ギリシア語A1-2	1②		1			○								兼1		
	ギリシア語A2-1	1③		1			○								兼1		
	ギリシア語A2-2	1④		1			○								兼1		
	ギリシア語A3-1	2①		1			○								兼1		
	ギリシア語A3-2	2②		1			○								兼1		
	ギリシア語A4-1	2③		1			○								兼1		
	ギリシア語A4-2	2④		1			○								兼1		
	ギリシア語B-1	3①		1			○								兼1		
	ギリシア語B-2	3②		1			○								兼1		
	ギリシア語C-1	3③		1			○								兼1		
	ギリシア語C-2	3④		1			○								兼1		
	ラテン語A1-1	1①		1			○								兼1		
	ラテン語A1-2	1②		1			○								兼1		
	ラテン語A2-1	1③		1			○								兼1		
	ラテン語A2-2	1④		1			○								兼1		
	ラテン語A3-1	2①		1			○								兼1		
	ラテン語A3-2	2②		1			○								兼1		
	ラテン語A4-1	2③		1			○								兼1		
	ラテン語A4-2	2④		1			○								兼1		
	ラテン語B-1	3①		1			○								兼1		
	ラテン語B-2	3②		1			○								兼1		
	ラテン語C-1	3③		1			○								兼1		
	ラテン語C-2	3④		1			○								兼1		
	スペイン語A1-1	1①		1			○								兼1		
	スペイン語A1-2	1②		1			○								兼1		
	スペイン語A2-1	1①		1			○								兼1		
	スペイン語A2-2	1②		1			○								兼1		
	スペイン語A3-1	1③		1			○								兼1		
	スペイン語A3-2	1④		1			○								兼1		
	スペイン語A4-1	1③		1			○								兼1		
	スペイン語A4-2	1④		1			○								兼1		
	スペイン語B-1	2①		1			○								兼1		
	スペイン語B-2	2②		1			○								兼1		
	スペイン語C-1	2③		1			○								兼1		
	スペイン語C-2	2④		1			○								兼1		
	小計(96科目)		—	0	96	0	—			0	0	0	0	0	0	兼13	—
	自由履修科目	アントレプレナーシップI	1①		1			○								兼1	
里山里海体験実習 in 能登半島		1①・②		1				○							兼1	集中	
里山概論		1①・②		1			○								兼1	集中	
石川県の行政		1③～④		2			○								兼1		
石川県の市町		1①～②		2			○								兼1		
健康論実践D		1④		1					○						兼1		
健康論実践E		1④		1					○						兼1		
現代社会における保険の制度と役割		1③～④		2			○								兼1		
ジャーナリズム論		1④		1			○								兼1		
実践アントレプレナー学		1③		1			○								兼1	集中	
クラウド時代の「ものグラミング」概論		1①～②		2			○								兼1		
シェルスクリプト言語論		1①～②		2			○								兼1		
地元学A(地域資源調査)		1①		1			○								兼1		
地元学B(聞き書き)		1②		1			○								兼1		
シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習		1②		2				○							兼1	集中	
世界農業遺産「能登の里山里海」とSDGsを考察するスタディ・ツイノベーションを起こして、起業家になろう1		1①・②		1				○							兼1	集中	
イノベーションを起こして、起業家になろう2		1①		1			○								兼1		
イノベーションを起こして、起業家になろう3		1②		1			○								兼1		
イノベーションを起こして、起業家になろう4		1③		1			○								兼1		
香りとおもてなし文化		1④		1			○								兼1		
心と体の健康A	1③		1			○								兼1			
心と体の健康B	1④		1			○								兼1			
地域「超」体験プログラム	1①・②・④		1					○						兼1	集中		
ひとのからだ1	1①		1			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
共通教育科目	自由履修科目	ひとのからだ2	1②	1		○									兼1	集中			
		ひとのからだ3	1③	1		○									兼1				
		ひとのからだ4	1④	1		○									兼1				
		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④	1		○									兼1				
		金沢の歴史と文化	1③～④	2		○									兼1				
		日本の伝統芸能1	1①	1		○									兼1				
		日本の伝統芸能2	1②	1		○									兼1				
		多民族・多文化共生の未来を探る	1①	1		○									兼1				
		地域創造学特別講義C	1③	1		○									兼1				
		地域創造学特別講義D	1④	1		○									兼1				
		日本国憲法概説	1③	2		○									兼1				
		日本史要説	2①～②	2		○									兼1				
		東洋史要説	2①～②	2		○									兼1				
		異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	1③	1		○									兼1				
		行政学の基礎	1①	2		○									兼1				
		ガラスとクリスタルⅠ	1②	1		○									兼1				
		ガラスとクリスタルⅡ	1③	1		○									兼1				
		ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①	1			○								兼1				
		ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③	1			○								兼1				
		コーヒーと社会	1③	1			○								兼1				
		コーヒーと科学	1④	1			○								兼1				
		地学実験	1②～③	2					○						兼1				
		生物学実験	1①～②	2					○						兼1				
		海洋生化学演習	1①	2				○							兼1				
		英国諸島の地史Ⅰ	1②	1			○								兼1				
		英国諸島の地史Ⅱ	1③	1			○								兼1				
		環境動態学概説Ⅰ	1③	1			○								兼1				
		環境動態学概説Ⅱ	1④	1			○								兼1				
		Pythonデータ分析入門	1③	1			○								兼1				
		プレゼンテーション演習A	1③	1			○								兼1				
		プレゼンテーション演習B	1④	1			○								兼1				
		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③	1					○						兼1				
		コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④	1					○						兼1				
		動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①	1			○								兼1				
		動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②	1			○								兼1				
		プログラミング演習Ⅰ	1③	1					○						兼1				
		プログラミング演習Ⅱ	1④	1					○						兼1				
		Society 5.0 概論	1③～④	2			○								兼1				
		英語セミナー	①②・③・④	1			○								兼1				
		ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	1				○							兼1				
		ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	1				○							兼1				
		ドイツ語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1				
		ドイツ語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○							兼1				
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1				
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1				
		フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1				
		フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○							兼1				
		フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1				
		フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1				
		中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1				
		中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1				
		小計(76科目)	—	0	91	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0		兼36	—	
		共通教育科目計(259科目)		—	15	289	0	—	—	1	2	1	1	0	0		兼90	—	
		専門教育科目	学域目GS	医薬保健学基礎Ⅰ	1①	1		○			2						兼1	オムニバス・共同(一部)	
				医薬保健学基礎Ⅱ	1②	1		○			2						兼5	オムニバス・共同(一部)	
				小計(2科目)	—	2	0	0	—	—	2	0	0	0	0		兼5	—	
			言語域目GS	医薬科学英語Ⅰ	2①	1		○			2								共同・クラス分け
				医薬科学英語Ⅱ	2②	1		○				2							共同・クラス分け
				小計(2科目)	—	2	0	0	—	—	2	2	0	0	0		—	—	
			専門基礎科目	基礎分子細胞生物学	1②	1			○		1							兼2	オムニバス
				基礎生物化学	1①	1			○					1				兼1	オムニバス
				物理有機化学	1①	1			○									兼1	—
				基礎医薬化学	1②	1			○		1							兼1	オムニバス
				基礎有機反応学	1③	1			○									兼3	オムニバス
				基礎医薬合成学	1④	1			○			1						兼3	オムニバス
				基礎分析化学	1③	1			○					1				兼2	オムニバス
			小計(7科目)	—	7	0	0	—	—	2	1	0	2	0	—		兼9	—	
			通専科目共	国際医薬科学Ⅰ	2③	1			○									兼1	共同・クラス分け
				国際医薬科学Ⅱ	3①	1			○									兼1	共同・クラス分け
				医薬科学イノベーション概論	1③	1			○			1						兼1	共同

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門共通科目	医薬科学研究者入門	1④	1			○			4					兼2	オムニバス
	医薬科学研究者養成Ⅰ	2①～④	1			○			1						共同(一部)・クラス分け
	医薬科学研究者養成Ⅱ	3①～④	1			○			1						共同(一部)・クラス分け
	医薬科学先端領域特論	3②～④④	1			○			1						共同(一部)・クラス分け
	医薬科学基礎実習	2①	1					○	2						共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅰ	2②	1.5					○				1		兼3	オムニバス・共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅱ	2②	1					○						兼4	共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅲ	2③	4					○	1	1				兼8	オムニバス・共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅳ	2①, 2③	1					○						兼2	共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅴ	2④	3					○	1					兼6	オムニバス・共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅵ	2④	1					○						兼2	共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅶ	3①	2					○						兼5	オムニバス・共同
	医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅷ	3①	0.5					○	2					兼9	共同
	医薬科学特別演習	3③～④	0.5					○	4	3	1	3		兼42	
	医薬科学試問	4③～④	0.5					○	4	3	1	3		兼42	
小計(18科目)	—	23	0	0	—			4	3	1	3	0	兼43	—	
専門教育科目	【生命医科学コース】														
	生物化学Ⅰ	2①		2		○								兼2	オムニバス
	生物化学Ⅱ	2③～④		2		○			1					兼1	オムニバス
	衛生薬学Ⅰ	2①		2		○								兼3	オムニバス
	衛生薬学Ⅱ	2③～④		2		○								兼3	オムニバス
	生体防御学	2③～④		2		○								兼4	オムニバス
	微生物学	2②		1		○								兼2	オムニバス
	薬品作用学Ⅰ	2①		2		○								兼2	オムニバス
	薬品作用学Ⅱ	2③～④		2		○								兼2	オムニバス
	物理化学Ⅰ	2①		1		○								兼1	
	物理化学Ⅱ	2②		1		○						1			
	物理化学Ⅲ	2③～④		2		○						1		兼1	オムニバス
	分析化学	2①		2		○								兼1	
	応用有機化学Ⅰ	2①		2		○			1						
	応用有機化学Ⅱ	2③～④		2		○								兼1	
	薬剤学Ⅰ	2③～④		2		○								兼1	
	薬剤学Ⅱ	3①～②		2		○								兼1	
	臨床薬物代謝学	3①～②		2		○								兼2	オムニバス
	薬物治療学Ⅰ	3①～②		2		○								兼1	
	薬物治療学Ⅱ	3③～④		2		○								兼2	オムニバス
	応用有機化学演習Ⅰ	2②		0.5			○		1						
	応用有機化学演習Ⅱ	2④		0.5			○							兼1	
	生命・医療倫理	2③		1		○								兼7	オムニバス
	生薬学	2③～④		2		○								兼2	オムニバス
	無機薬化学	2②		1		○								兼1	
	病態生理学	2④		1		○								兼2	オムニバス
	細胞生物学	3①		1		○								兼2	オムニバス
	生命工学Ⅰ	3①		1		○								兼1	
	生命工学Ⅱ	3②		1		○								兼3	オムニバス
	天然物化学	3①～②		2		○				1				兼1	オムニバス
	生物有機化学	3①～②		2		○								兼1	
	有機反応化学	3①～②		2		○								兼3	オムニバス
	製剤学	3①～②		2		○								兼2	オムニバス
有機金属化学	3③～④		2		○								兼3	オムニバス	
有機機器分析	3③～④		2		○								兼1		
臨床検査学	3③～④		2		○								兼6	オムニバス	
東洋医学	3④		1		○								兼1		
医薬品化学	3④		1		○								兼2	オムニバス	
放射薬品学	3④		1		○								兼1		
毒性学	3④		1		○								兼2	オムニバス	
小計(39科目)	—	0	62	0	—			2	1	0	1	0	兼30	—	
コース専門科目	【創薬科学コース】														
	生物化学Ⅰ	2①		2		○								兼2	オムニバス
	生物化学Ⅱ	2③～④		2		○			1					兼1	オムニバス
	衛生薬学Ⅰ	2①		2		○								兼3	オムニバス
	衛生薬学Ⅱ	2③～④		2		○								兼3	オムニバス
	生体防御学	2③～④		2		○								兼4	オムニバス
	微生物学	2②		1		○								兼2	オムニバス
	薬品作用学Ⅰ	2①		2		○								兼2	オムニバス
	薬品作用学Ⅱ	2③～④		2		○								兼2	オムニバス
物理化学Ⅰ	2①		1		○								兼1		



教育課程等の概要

宝町・鶴間キャンパス

(医薬保健学域 医薬科学類)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
言語域 科目S	医薬科学英語Ⅰ	2①	1			○			1		1				共同・クラス分け
	医薬科学英語Ⅱ	2②	1			○			1			1			共同・クラス分け
	小計(2科目)	—	2	0	0	—			2	0	1	1	0	—	
専門 基礎 科目	基礎人体解剖学	1①	1			○								兼5	オムニバス
	基礎人体構造学	1②	1			○						1		兼4	オムニバス
	基礎人体機能学	1④	1			○								兼6	オムニバス
	小計(3科目)	—	3	0	0	—			0	0	0	1	0	兼14	—
専門 共通 科目	国際医薬科学Ⅰ	2③	1			○				1				兼1	共同・クラス分け
	国際医薬科学Ⅱ	3①	1			○				1				兼1	共同・クラス分け
	医薬科学研究者養成Ⅰ	2①～④	1			○			1						共同(一部)・クラス分け
	医薬科学研究者養成Ⅱ	3①～④	1			○			1						共同(一部)・クラス分け
	医薬科学先端領域特論	3②～④④	1			○					1				共同(一部)・クラス分け
	医薬科学基礎ローテーション実習 (生命医科学コース)Ⅰ	2②～3①	6					○	1			1		兼9	共同
	医薬科学基礎ローテーション実習 (生命医科学コース)Ⅱ	2②～3①	8					○	1		1				共同
小計(7科目)	—	19	0	0	—			2	1	1	1	0	兼10	—	
専門 教育 科目	【生命医科学コース】														
	人体解剖学Ⅰ	2①～②	2			○								兼4	オムニバス
	人体解剖学Ⅱ	2①～②		3		○								兼4	オムニバス
	組織学Ⅰ	2①～②	2			○								兼1	
	組織学Ⅱ	2③		1		○								兼1	
	神経解剖学Ⅰ	2①	1.5			○						1		兼2	オムニバス
	神経解剖学Ⅱ	2②		1.5		○						1		兼2	オムニバス
	発生学Ⅰ	2①	1			○								兼1	
	発生学Ⅱ	2②		2		○								兼3	オムニバス
	器官生理学Ⅰ	2③	2			○								兼3	オムニバス
	器官生理学Ⅱ	2④	2			○								兼3	オムニバス
	神経生理学Ⅰ	2③	2			○								兼6	オムニバス
	神経生理学Ⅱ	2④	2			○								兼6	オムニバス
	生化学Ⅰ	2①～②	2			○								兼2	オムニバス
	生化学Ⅱ	2①～②	2			○						1		兼3	オムニバス
	生化学Ⅲ	2③		2		○								兼2	オムニバス
	生化学Ⅳ	2③		2		○						1		兼3	オムニバス・共同
	薬理学Ⅰ	2③～④	1.5			○					1			兼2	オムニバス
	薬理学Ⅱ	3①		1.5		○					1			兼2	オムニバス
	薬理学実習	3①		0.5				○				1		兼2	共同
	動物実験と再生医学	2③	1			○								兼5	オムニバス
	遺伝学Ⅰ	2③	1			○				1				兼2	オムニバス
	遺伝学Ⅱ	2④		1		○				1				兼2	オムニバス
	ゲノム解析演習	3①	1					○			1			兼2	オムニバス
	分子細胞病理学Ⅰ	2④～3①	2			○								兼2	オムニバス
	分子細胞病理学Ⅱ	3②		2		○								兼2	オムニバス
	人体病理学Ⅰ	2④～3①	2			○								兼2	オムニバス
	人体病理学Ⅱ	3②		2		○								兼7	オムニバス
	ウイルス感染学	2④	2			○								兼1	
	ウイルス感染学実習	3①		0.5				○						兼2	共同
	細菌感染学Ⅰ	2③～④	1.5			○								兼4	オムニバス
	細菌感染学Ⅱ	3①		1.5		○								兼2	オムニバス
	細菌感染学実習	3①		0.5				○						兼4	共同
	寄生虫学	2④	1			○								兼3	オムニバス
	寄生虫学実習	3①		0.5				○						兼4	共同
	免疫学	2③～④	2			○				1				兼2	オムニバス
	免疫学実習	3①		0.5				○		1					
	衛生学Ⅰ	3①～②	1.5			○								兼1	
	衛生学Ⅱ	3③		1.5		○								兼1	
	衛生学実習	3①～②		0.5				○						兼1	
公衆衛生学Ⅰ	3①～②	1			○								兼2	オムニバス	
公衆衛生学Ⅱ	3③		0.5		○								兼1		
公衆衛生学実習	3①～②		1				○						兼1		
法医学Ⅰ	2④	1			○								兼2	オムニバス	
法医学Ⅱ	3①～③		2		○								兼2	オムニバス	
法医学実習	3②～③		0.5				○						兼2	共同	
臨床法医学特論	3④		1		○								兼1		
国際保健学	3①～②		0.5		○								兼1		
脳神経医学	2①	1			○								兼2	オムニバス	
生命医科学海外AL実習Ⅰ	2①～④④		0.5				○		1						
生命医科学海外AL実習Ⅱ	2①～④④		0.5				○		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	生命医科学国内AL実習 I	2①～4④		0.5				○	1							
	生命医科学国内AL実習 II	2①～4④		0.5				○	1							
	小計 (52科目)	—	34	35.5	0		—		2	0	1	2	0	兼69	—	
	【創薬科学コース】															
	人体解剖学 I	2①～②		2				○							兼4	オムニバス
	人体解剖学 II	2①～②		3				○							兼4	オムニバス
	組織学 I	2①～②		2				○							兼1	
	組織学 II	2③		1				○							兼1	
	神経解剖学 I	2①		1.5				○				1			兼2	オムニバス
	神経解剖学 II	2②		1.5				○				1			兼2	オムニバス
	発生学 I	2①		1				○							兼1	
	発生学 II	2②		2				○							兼3	オムニバス
	器官生理学 I	2③		2				○							兼3	オムニバス
	器官生理学 II	2④		2				○							兼3	オムニバス
	神経生理学 I	2③		2				○							兼6	オムニバス
	神経生理学 II	2④		2				○							兼6	オムニバス
	生化学 I	2①～②		2				○							兼2	オムニバス
	生化学 II	2①～②		2				○				1			兼3	オムニバス
	生化学 III	2③		2				○							兼2	オムニバス
	生化学 IV	2③		2				○				1			兼3	オムニバス・共同
	薬理学 I	2③～④		1.5				○				1			兼2	オムニバス
	薬理学 II	3①		1.5				○				1			兼2	オムニバス
	薬理学実習	3①		0.5				○				1			兼2	共同
	動物実験と再生医学	2③		1				○							兼5	オムニバス
	遺伝学 I	2③		1				○		1					兼2	オムニバス
	遺伝学 II	2④		1				○		1					兼2	オムニバス
	ゲノム解析演習	3①		1				○		1					兼2	オムニバス
	分子細胞病理学 I	2④～3①		2				○							兼2	オムニバス
	分子細胞病理学 II	3②		2				○							兼2	オムニバス
	人体病理学 I	2④～3①		2				○							兼2	オムニバス
	人体病理学 II	3②		2				○							兼7	オムニバス
	ウイルス感染学	2④		2				○							兼1	
	ウイルス感染学実習	3①		0.5				○							兼2	共同
	細菌感染学 I	2③～④		1.5				○							兼4	オムニバス
	細菌感染学 II	3①		1.5				○							兼2	オムニバス
	細菌感染学実習	3①		0.5				○							兼4	共同
	寄生虫学	2④		1				○							兼3	オムニバス
	寄生虫学実習	3①		0.5				○							兼4	共同
	免疫学	2③～④		2				○		1					兼2	オムニバス
	免疫学実習	3①		0.5				○		1						
	衛生学 I	3①～②		1.5				○							兼1	
	衛生学 II	3③		1.5				○							兼1	
	衛生学実習	3①～②		0.5				○							兼1	
	公衆衛生学 I	3①～②		1				○							兼2	オムニバス
	公衆衛生学 II	3③		0.5				○							兼1	
	公衆衛生学実習	3①～②		1				○							兼1	
	法医学 I	2④		1				○							兼2	オムニバス
	法医学 II	3①～③		2				○							兼2	オムニバス
法医学実習	3②～③		0.5				○							兼2	共同	
臨床法医学特論	3④		1				○							兼1		
国際保健学	3①～②		0.5				○							兼1		
脳神経医学	2①		1				○							兼2	オムニバス	
小計 (48科目)	—		0	67.5	0		—		2	0	1	2	0	兼69	—	
課題研究科目	医薬科学研究 I	3②～④		2.5				○	2	0	1	2				
	医薬科学研究 II	4①～②		3				○	2	0	1	2				
	医薬科学研究 III	4③～④		3				○	2	0	1	2				
	医薬科学演習 I	3②～④		0.5				○	2	0	1	2				
	医薬科学演習 II	4①～②		0.5				○	2	0	1	2				
	医薬科学演習 III	4③～④		0.5				○	2	0	1	2				
小計 (6科目)	—		10	0	0		—		2	0	1	2	0	—	—	
合計 (118科目)	—		68	103	0		—		2	1	1	2	0	兼70		



科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（生命医科学，創薬科学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。），薬学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>4年以上在学し，以下の合計130単位以上を修得した者。</p> <p>（1）共通教育科目34単位以上（導入科目：4単位，GS科目：各群から3単位15単位，GS言語科目8単位，自由履修科目3単位，基礎科目4単位）</p> <p>※ 自由履修科目は，自由履修科目に加え，GS科目及び基礎科目の最低修得要件を超えて修得した科目並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く。）を含む。</p> <p>（2）専門教育科目96単位以上（必修科目81単位，選択科目15単位以上）</p> <p>※ 専門科目における各コースの単位数は次のとおり。</p> <p>【生命医科学コース・創薬科学コース共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学域GS科目（必修科目2単位）</li> <li>・学域GS言語科目（必修科目2単位）</li> <li>・専門基礎科目（必修科目10単位）</li> <li>・専門共通科目（必修科目23単位）</li> </ul> <p>【生命医科学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース専門科目（必修科目34単位，選択科目15単位以上）</li> </ul> <p>※ 選択科目のうち，創薬科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）2単位以上を，選択必修とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究科目（必修科目10単位）</li> </ul> <p>【創薬科学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース専門科目（必修科目34単位，選択科目15単位以上）</li> </ul> <p>※ 選択科目のうち，生命医科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）2単位以上を，選択必修とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究科目（必修科目10単位）</li> </ul>						1学年の学期区分	4学期							
						1学期の授業期間	8週							
						1時限の授業時間	90分							

授 業 科 目 の 概 要				
(医薬保健学域医薬科学類)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	導 入 科 目	大学・社会生活論	本授業では、学生諸君が大学における学習方法・目的や社会的責任を果たす上で必要な常識・知識などを学んで早期に大学生活のありようを体得すること、さらに大学のなかに自己発見・自己開発の契機が多々存在することに気づき、それらを利用しながら将来イメージをより明確にできるようにすることを目標とする。 具体的には、以下を学生の学修目標とする。 ①できるだけ早く大学に慣れ、大学生らしい学修態度・学習技術・生活態度及び自己管理能力を身につける ②これからの人権・共生の時代に必要とされる知識・教養に触れ、その基本を理解する ③留学・就職・進学・ボランティア活動などについての知識を身につけ、大学4年間の過ごし方やその後の将来のあり方を自ら設計できるようにする	共同
		初学者ゼミⅠ	新入生に対し、大学で学ぶ上でかかすことのできない主体的・自主的学習への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学習に導くことを目標とする。さらに、学生と教員及び学生相互のディスカッションを通して、大学生としての自己表現能力、学習デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。 学生は、医学および薬学の研究室を取材する。取材する教員・研究室・研究内容を、アピールする立場となつて、他の人にもわかりやすいように、面白さ・特徴を紹介するプレゼン資料を作成し、発表する。研究室取材とプレゼンテーション資料の作成を通して、研究内容や研究室の雰囲気などを知り、学生相互、上級学生、教員との交流を深めることも目標とする。医学・薬学研究への理解も併せて獲得する。	共同
		データサイエンス基礎	データサイエンスの産業利用が活発な状況で、データサイエンスに関わる基本的知識の習得は重要である。本授業では、これに加え、データサイエンスの学習に必要な学内ネットワークの適切利用、セキュリティ、コンプライアンス・モラル、および基礎的情報リテラシー等を学修する。	共同
		地域概論	本授業の目標は、所属する学類（一括入試入学者にとっては該当する学域）の専門分野を社会との繋がり、地域への貢献という視点から理解し、学生としての決意を持って、大学4年間の学修をデザインできるようにすること。 この授業科目を通じて次の学修成果を獲得する。 ① 学類の専門分野を、地域との繋がりや社会への貢献の視点から理解し、地域の感性を育むこと。 ② 自分の将来の目標を明確化し、専門分野と地域社会への関わり方を見つけること。 ③ 将来の働く姿を描きつつ、大学4年間の学修を主体的にデザインできるようにすること。 ④ 石川県を一例として、地域の自然、文化、歴史、産業等を理解すること。	共同
GS 科目	1 群（自己の 立ち位置を 知る）	現代世界への歴史学的アプローチ	現代世界で発生しているさまざまな問題の多くは、そこに至る歴史的な経緯が大きく関係しており、それを正しく把握できなければ、問題も正しく理解できない。したがって、現代世界の理解のためには、世界史の基本的な知識と歴史学的な発想法・分析視角の獲得が必須である。本授業では前提となる知識を再確認しつつ、歴史学的発想法・分析視角を学ぶ。 獲得した知識と発想法・分析視角を使って、自己の置かれた歴史的状況を正しく認識し、現代世界の問題を読み解くことができるようになることを学修目標とする。	
		グローバル時代の政治経済学	グローバル化が進行する現代社会において、政治や経済の仕組みも大きく変容しつつある。そうしたなかにあつて、学生はグローバルな政治経済に関する具体的な事例に則しながら、いかにして国際社会に平和を構築していけばいいのかという、人類共通の課題解決に向けた科学的思考を習得する。 秩序ある国際社会の構築という、人類共通の課題解決に資する問題発見と問題解決のための科学的思考基盤の習得を学修目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	1群（自己の立ち位置を知る）	グローバル時代の社会学	<p>身の回りとその背後にある社会に批判的思考を働かせてみる、社会学という学問の世界に触れる。この講義においては、各回に具体的事例に即しながら、グローバル化する社会や社会学の知識を生かして、社会の中で協働しつつ生きていくあり方を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会学の重要な語句や視点について説明できる。</li> <li>社会学の基本的な見方、考え方を理解している。</li> <li>日常生活の中での経験を、社会学的な視点から分析できる。</li> <li>新しい社会のできごとについて、自ら探求し様々な可能性を考えることができる。</li> </ul>	
		ケーススタディによる応用倫理学	<p>個人と社会の実践的な倫理的問題を、客観的に分析し道徳的に判断する、という応用倫理学の基本的な考え方を学ぶ。授業では、医療倫理、工学倫理、企業倫理、環境倫理などの領域において、いくつかの事例を手がかりにして、倫理的問題に対するこのような取り組み方を学ぶ。</p> <p>応用倫理学を事例を通して学ぶことによって、自ら直面する倫理的問題に対して、事実認識と価値判断を区別し、自らの道徳的感覚に自覚的になることが期待される。</p>	
		地球生物圏と人間	<p>地球はその内部、表層から気圏に至るまで常に動的であり、私たちを含む生物は、その変動する地球の上に暮らしている。本授業では、地球の一員としてのヒトの立ち位置を理解するのに必要な、地球・生物の成り立ちや生物と地球環境との関わりについての知識を学ぶ。</p> <p>具体的には、以下について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球システムにおける人類の位置づけ</li> <li>地球での様々な出来事とプレートテクトニクスの関連</li> <li>地球のダイナミクスと人間社会への影響（特に災害）</li> <li>水と大気の動きをと人間社会への影響</li> <li>地球生命史の概略と生命と地球の相互作用</li> <li>種の共存と生物群集の成立のしくみ</li> <li>生物集団の進化の仕組み及び種の形成</li> <li>遺伝情報学、分子系統学</li> </ul>	
		物理の世界	<p>自然は私たちを取り巻いて厳に存在しており、その自然界の背後には普遍的な物理法則が存在している。</p> <p>本授業では、主として、文系の学生を対象とする力学、熱学、電磁気学を中心とする古典物理学の講義を、物理学の各基礎事項を日常生活で経験する事柄と関連づけながら行う。</p> <p>典型的な物理現象の理解を通して、見かけの相違にとらわれることなく法則の普遍性を捉え、物事の本質を見抜く科学的思考の獲得を目的とする。</p>	
		化学の世界	<p>物質の構成要素となる元素を対象とした化学の世界は、その構造、性質及び反応を究明することで目覚ましい進歩を遂げてきた。では、人類の物質に関する理解はどの様に進歩して、現代化学における物質観につながってきたのか。</p> <p>本授業では、化学的に考えるための基礎として、物質の成り立ちや基本事項について概観し、巨視的な現象と原子・分子・イオンなどの微視的な粒子の挙動との関係や、暮らしの中の色、味、匂いを題材とし、感覚発生メカニズムや分子構造との関係について学ぶ。化学の世界に関するこうした理解を通して、多種多様な世界観が存在する現代において、客観的かつ科学的な視点で物事を捉えることを目的とする。</p>	
	鍛え群（自己を知り、自己を鍛える）	哲学（自我論）	<p>&lt;私&gt;とは何かといった自己をめぐる問いは、日常の生活の中で改めて問われることはあまりないが、いざ答えようとしても容易には答えられない難問であり、しかも実は人にとってきわめて切実な問いである。</p> <p>本授業では自己をめぐる形而上学的、存在論的、認識論的な問題を、代表的な哲学者たちの見解を批判的に検討しながら考察し、自己の本質を探究することで、哲学がどのような学問であるかを知ること、自己の存在と様態、自己同一性、独我論、心身問題など自己をめぐるさまざまな哲学的問題の所在を理解すること、哲学文献の批判的な分析と解釈の方法を学ぶことを目的とする。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	GS科目	パーソナリティ心理学	<p>パーソナリティ心理学は、人間の性格に関するさまざまな問題を科学的に研究することを目的とする分野で、現代心理学のもっとも重要な研究領域の一つである。本授業ではパーソナリティとは何か、パーソナリティと性格、気質など他の類似概念との違いや、パーソナリティを客観的に測定するために開発されてきた心理学的査定の方法、パーソナリティの機能（はたらき）と構造（しくみ）に関する主要なパーソナリティ理論等について解説するとともに、パーソナリティを記述するために提唱されてきた類型論と特性論の特色について考察する等、パーソナリティ心理学の主要な理論とパーソナリティの研究方法について概観する。</p> <p>本授業では、パーソナリティに対する知識・理解を深め、科学的に考える能力を養うとともに、得た知見を基に、自己理解、他者理解を深め、人間関係の発展を目指す。</p>	
		グローバル時代の文学	<p>グローバル時代においては、様々な文学体験をすることで、自己を知り、自己を鍛えることが可能となる。世界各地域の文学作品を直に読む文学体験を実践して、批判的な思考を可能にし、豊かな想像力を養うとともに、世界各地域の文学作品を読解するための方法や物事を他者の視点で見ること＝自己を相対化することを学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は以下のとおり。</p> <p>①作られた小説を読み、フィクション世界を自らの「心」の内部に構築できる、豊かな想像力を身に着ける。</p> <p>②世界各地域の文学作品を読み、それら作品の背後（深層）にある意味（社会・文化・思想）を理解するために必要な知識と能力を獲得する。</p> <p>③文学解釈という行為を通して、物理的な対象ではない人間の「心」についての思索を深め、自己を知り、他者を知るための経験的な基盤を構築する。</p>	
		健康科学	<p>我々を取り巻く環境・生活習慣は、健康にとって危険な要素を含んでいる。健康に生活するためには、これらの危険な要素と対処法を知らねばならない。WHOは、健康は「肉体的、精神的及び社会に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と示し、「計画的な努力によって得られる状態であり、よりバランスの取れた健康的な生活を得ようとする行動そのもの」と定義している。</p> <p>本授業では、健康を守る身体のメカニズムと社会の仕組みを学ぶと共に、健康的な生活を送るために必要な知識を身に付け、日常生活の中に取り入れて、実践していくことを目指す。健康を守りさらに積極的に増進するために必要な社会全体としての目標・取組から、個人として実践可能な正しい食事、運動や休養の知識、日常生活、メンタルヘルスに関する知識について学ぶ。</p>	
		細胞・分子生物学	<p>私たち人間は細胞からできている。その細胞内に存在するタンパク質や核酸などの分子レベルの振る舞いや、細胞の構造と機能、その多様性を解説することにより、細胞の構造と機能制御のメカニズムを分子レベルで学習するとともに、生命科学の基礎知識を理解することを目的とする。</p>	共同
		エクササイズ&スポーツ 実技	<p>心身の鍛錬は自律の基本である。本授業では、運動を通して、身体形成の必要性を知り、体力づくりや運動技能習得のための原理・原則を理解し実践することによって、自己を知り自己を鍛えるための能力を高めることを目的とする。</p>	共同
	現3群（考え・価値観を表す）	プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）	<p>医薬科学類に入学した学生が、医学系および薬学系に所属する教員、教員の所属する研究室、およびその研究室で行われている研究内容を知る。</p> <p>学生は、初学者ゼミⅠとは異なる医学および薬学の研究室を取材する。取材する教員・研究室・研究内容を、アピールする立場となつて、他の学生にもわかりやすいように、面白さ・特徴を紹介するプレゼン資料を作成し、発表する。研究室取材とプレゼンテーション資料の作成を通して、研究内容や研究室の雰囲気などを知り、医学薬学研究へのさらに深い知識・理解を獲得するとともに、学生相互、上級学生、教員との交流をより深めることも目標とする。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS科目 3群（考え・価値観を表現する）	クリティカル・シンキング	<p>日本語は、他の言語と同様に、もちろん十分に論理的である。しかし、その論理性は日本語という文法構造によって具体化されているため、＜日本語を用いて＞論理的な表現を行うためには、英語やスワヒリ語とは別の規則を知らなければならない。</p> <p>本授業では、受講者間の文化的背景と価値観の多様性についての相互理解を深めた上で、批判的思考の方法や、関係する新しい概念や理論、方法を身につけ、実践的課題に取り組むことにより各人の問題解決能力の向上をめざし、クリティカル・シンキングの概念だけでなく、それを実践すること、つまり批判的に考えるとはどういうことかを学び、論理的なく思考・表現＞の能力を高めることを目的とする。</p>	
	価値と情動の認知科学	<p>行動や表現を引き起こすのは、最終的には理性というより、行為者の価値観や態度や情動である。しかもそれらは、往々にして非合理的な要素を多く含み、しかも行為者本人からは隠されている。自己の行動や表現を適切にコントロールし、他者の行動や表現を適切に理解するためには、価値や情動に関する＜認知・行動＞の仕組みに関する理解が必要となる。</p> <p>本授業では、人間の認知能力の様々な観点から、ヒトの認知能力には、私たちが常識的にとらえているのとは異なる意外な側面があるのだということについて、自分で考えながら、整理し、ヒトという動物である自分の認知能力についての、より深い理解を確立すること、さらに、以上のことを自分自身の言葉で説明し、表現できるようになることを目的とする。</p>	
	論理学から見る世界	<p>我々は日々「論理的」とか「非論理的」とかという言葉と比較的気楽に使うが、実際のところ、論理的に正しいというのがどのようなことかということを厳密に議論するのはそれほど簡単なことではない。論理学というのは結局のところ、その問題だけを探求する学問である。とはいえ、この極めて抽象的な学問は、その抽象性にもかかわらず、あるいはその抽象性のゆえに、現在では様々な学問に共通する基盤となる分野として学際的な観点から研究されている。</p> <p>この授業ではまず論理的に正しいというのはどのようなことかという基本的な問題を論じ、さらに論理的に正しい推論を行うための技術とはどのようなものかについて議論し、正しい概念的的理解と、論理的に正しい推論をするための技術を習得することで、いかなる分野を学ぶにあたって基盤となる論理的能力を身につけてもらうことを目的とする。</p>	
	数学的発想法	<p>数学は多くの学問分野において、その法則を適切に表現するための言葉として用いられ、文系、理系を問わず必要なリテラシーとされている。</p> <p>本授業では、数学を活用する事例を通して、数学の基礎概念のいくつかを学ぶ。具体的には、統計を活用する例として、平均や分散と数ベクトルと内積の関連の基礎を学び、また整数を活用する例として、情報化社会に欠かせない暗号理論の基礎を学ぶ。</p> <p>学生は、数学の基本的技法に加えて応用的方法を学ぶことによって、数学の思考方法を習得し、根拠の確かな判断能力や生活の中で数学を活用する能力を身に付けることを目的とする。</p>	
	芸術と自己表現	<p>人間の最も根源的で洗練された自己表現は、絵画、音楽、演劇、舞踏などの芸術であろう。それらは人間の諸能力のシンプルな表出であると同時に、人間存在の繊細で奥深い次元に根ざすものである。芸術においては、鑑賞するにせよ創作するにせよ、自己と表現との愚直な関係が求められる。</p> <p>本授業においては、様々な芸術の実際を体験することによって、自己表現の真摯なあり方を知ることを目的とする。</p>	
	スポーツ科学	<p>本授業では、保健体育の意義や、身体の理（ことわり）と自然・生活様式などとの関係についての理解を深めるとともに、これらの活動を通してコミュニケーション能力を高めることを目的とする。</p>	
	4群（世界とつながる） 金沢・能登と世界の地域文化	<p>グローバル化は国家の枠組を超えてローカルな枠組と結びやすく、また現実の国際化は国家総体よりも個々の地域の枠組のなかで進行する。グローバル化に対応するためには、地域とその文化に対する正確な理解は欠かせない。</p> <p>本授業では、私たちの住む金沢・能登および世界の文化を事例に地域文化の豊かさや変容を学ぶとともに、それらの地域について自ら調査する。</p> <p>自らの暮らす地域の文化とその世界との結びつきに対する理解を深め、その内容を情報発信するとともに、それらを相対化する視点を得ることを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS科目 4群（世界とつながる）	日本史・日本文化	<p>現代社会では、人は必ず国家に帰属することが求められ、海外に出ればその帰属した国家を代表する存在として見られがちである。一方、国家の歴史や文化についての一般的言説には誤りが含まれているものもあり、時としてそれは誤解・トラブルの原因となる。</p> <p>本授業では、日本の古代から近現代に至る歴史と文化について、各時代ごとの重要トピックを取り上げ、それを「世界の中の日本」という視角で考察することを通じて概観することにより、日本の歴史・文化の特色を理解するのみならず、世界の他地域との差異と共通性を理解する。加えて日本の古代から近現代に至る政治・社会・文化の、変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。</p>	
	異文化間コミュニケーション	<p>グローバル化した社会では、自らの育った文化を知り、その特徴を自覚した上で、自らの特殊性を認め、さらに、自らと異なる文化、人種、民族への理解を深めることが重要である。</p> <p>本授業では、「①異文化と自文化に関する知識」「②異文化に対する態度」「③コミュニケーション・スキル」の異文化間コミュニケーションで特に重要視される3つの概念についての理解を深める。①の知識については、文化的価値観と非言語行動における異文化と日本文化との類似点と相違点を理解する。②の態度については、偏見や自民族中心主義に陥らないで、異文化に対する寛容で柔軟な姿勢を持つことの重要性について学ぶ。③のスキルについては、傾聴力の必要性について学習する。</p> <p>偏見・差別をなくし文化的差異を認めることの必要性を認識することによって、他者への深い共感に基づいて異文化を受け入れ、異質な他者と共生する能力を身につけることを目的とする。</p>	
	異文化体験A	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外における短期のボランティア等を通し、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>45時間相当の留学を対象とする。</p>	共同
	異文化体験B	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の語学学校等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>90時間相当の留学を対象とする。</p>	共同
	異文化体験C	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の研究機関等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>135時間相当の留学対象とする。</p>	共同
	異文化体験D	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の大学等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>180時間相当の留学対象とする。</p>	共同
	異文化体験E	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>225時間相当の留学対象とする。</p>	共同
	異文化体験F	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>270時間相当の留学対象とする。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	4群 (世界とつながる)	異文化体験G	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 315時間相当の留学対象とする。	共同
		異文化体験H	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 360時間相当の留学対象とする。	共同
		国際社会とボランティア	ボーダーレス化が進む国際社会では、ボランティアのネットワークも国境を越えて広がる。 本授業では、貧困や紛争、災害など、国際社会が直面する様々なグローバル・イシューの解決に向けて活動を展開する様々な「ボランティア」の形を知り、その独自性や課題に対する理解を深めることにより、日本を含む世界の各地でどのようなボランティアのニーズがあるのか、国際社会・地域社会における共生のためにボランティアに何ができるのか等を、実践例に基づきながら理解することを目的とする。	
		グローバル社会と地域の課題	学生はいま学生として、あるいは将来地域社会を担っていく者として、グローバルな視野に立ちつつ、地域の様々な課題に取り組んでいかなければならない。そこで求められるのは地域の課題を的確に見抜く力であり、他者と協力しながらそれに取り組む力である。 本授業では、グローバル化が進行する現代社会において、どのような地域課題が発生しているのか、どのように解決をしていくべきか、そして自らどのように関わっていくのかを考え、地域社会の現状と課題を総合的に学びながら、地域の課題解決と活性化の理論と実践について理解を深めることを目的とする。	
		科学技術と科学方法論	人類の未来は、希望も絶望も、科学技術がそのカギを握っている。したがって、科学という「世界の捉え方」、技術という「ものの作り方・使い方」を知らずしては、人類の課題も解決も見えてこない。また、科学は、私達の住む世界を記述・説明する世界共通語のひとつである。この言語を操る能力、すなわち「科学的思考力・科学的表現力」は、私達の自然や社会に対する深い理解をもたらす。 本授業では、科学の方法を構成するコアとなる考え方について、議論や実験など実践的な活動を通して理解し、活用できるスキルを修得することを目的とする。	
	5群 (未来の課題に取り組む)	統計学から未来を見る	世界の人口問題とそれに伴う食料や資源、エネルギーの問題、また国内における少子高齢化とそれに伴う医療福祉・教育・労働・経済・産業に関する問題など、私たちを取り巻く現状を数値化して分析し、それに基づいて未来を予測するために、統計学はすべての学問分野において必要とされている。 本授業では、統計データに基づいて現状・将来を分析し、その分析から浮かび上がる諸課題の解決に向けてアイデアを提案できるようになることを目的とする。	
		情報の科学	世の中には多くの情報が溢れている。現状を理解し、今後の展望を見極めるためには、情報に踊らされることなく、正しい情報を見極めて、それを収集し発信していくことが必要である。 本授業では、情報とは何か、情報収集・発信の有効性と危険性、情報のモラル、セキュリティなどを学ぶことによって、情報を制御するために不可欠の知識と能力を習得し、研究や生活・仕事において問題発見・問題解決に役立てる情報の科学の幅広い知識を身につけることを目的とする。	
		環境学とESD	気候変動等、現代社会が直面する地球環境問題の現状を把握するとともに、その解決方法と「持続可能な社会」のあり方及び実現方法を多角的に学ぶ。 本授業では、わが国における公害問題の発生と克服、環境政策の展開について学ぶとともに、近年の地球環境の危機とグローバル・コミュニティの対応、今後取り組むべき対策などを理解することによって、地球環境問題の解決と「持続可能な社会」の実現を達成するために必要な肯定的な未来志向性および環境リテラシー（環境知識、論理的・多面的・総合的思考力、創造的・実践的問題解決能力等）の向上を図ることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS科目	5群 (未来の課題に取り組む)	生活と社会保障	<p>日本を含む世界の少なからぬ国々は今、人口減少、人口分布の地域的偏在、及び高齢化という局面を迎えながら、社会保障の一層の拡充という困難な課題に直面している。</p> <p>本授業では、少子・高齢化など人口変動やグローバル化に伴う社会経済の変動のなかで、社会保障が果たす役割と課題について、国民生活の視点から検討することで、世界・日本・地方という複眼的な視点からこの課題を捉えるとともに、社会保障のあゆみ、制度の概要、直面する問題、少子・高齢化のもとの社会保障の課題について考えるための基礎知識を身につけることで、有効な解決策に向けた議論を展開することを目的とする。</p>	
		人権・ジェンダー論	<p>未来を平和で豊かな持続可能な社会にしていくうえで、人権の思想とジェンダー学の視点は不可欠とされるが、現実の国際社会・日本社会は未だその理想からは遠い状況にある。</p> <p>本授業では、人権・ジェンダーについての基本的な知識を踏まえつつ、これらの視点から現代社会の問題を分析・考察する。学生は、その理解を通して、未来を構築するうえで必要な視点と問題意識を得ることを目的とする。</p>	
共通教育科目	GS言語科目 (英語)	TOEIC準備 I	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な聞き取りのテクニックを学び、リスニング能力の向上を図る。</p> <p>TOEICリスニングパート セクション1, 2, 3及び4対応。</p> <p>様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力をつけることを、学習目標とする。</p>	
		TOEIC準備 II	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な英文読解のテクニックを学び、読解能力の向上を図る。</p> <p>TOEICリーディングパート セクション5, 6, 及び7対応。</p> <p>読解力を磨くためのトレーニングを通じて、リーディングパートの対策を学び解答テクニックを身につけるだけでなく、語彙や慣用句を増やすし、英文読解力をつけることを、学習目標とする。</p>	
		TOEIC準備 III	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEIC準備 I, II で伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」を生かし、TOEIC L&amp;Rテストに実際に取り組む。</p> <p>TOEIC準備 I, II で学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施する。</p>	
		TOEIC準備 IV	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEIC準備 I～IIIを通して伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」の更なる開発と、それら能力を生かし、TOEIC L&amp;Rテストに実際に取り組む。</p> <p>TOEIC準備 I～IIIで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施。</p>	
		TOEIC準備 (演習)	<p>TOEIC L&amp;Rテストにおけるハイスコア獲得のために必要なリスニング能力、リーディング能力、解答テクニック向上を目指し、実際のテストで実践できる力を育てる。基本的な試験対策と、TOEICハイスコアを獲得するために必要な言語能力を開発する。</p> <p>様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力を身につけることを、学習目標とする。</p>	
		English for Academic Purposes I	<p>このアクティブラーニングコースでは、自分のアイディアを論理的に書いて表現する方法を学ぶ。具体的には、英語で文章を書き、的確な文章構造と構成を学ぶ。</p> <p>文章の構成要素に焦点を当てることで、文章の形式を考察し、書くための構想を練る。コースの後半では、理由とたとえを用いることに焦点を当て、洗練された文章を作ることを、学習目標とする。</p>	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS言語科目 (英語)	English for Academic Purposes II	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、プレゼンテーションの計画、実施、評価を学習することで、人前で話す際に必要な自信を育てる。 学生に英語で全クラスメイトの前で発表する機会を十分に与え、口頭でのコミュニケーション及び非言語コミュニケーションの両方を学ぶことにより、英語での発表能力を向上させる。 有益なプレゼンテーションを計画し発表する能力の開発やプレゼンテーションのカギとなる技術に気付き、評価することができるようになるほか、批判的思考を獲得する。	
	English for Academic Purposes III	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、EAP IとEAP IIで学んだスキルを統合し、その統合したスキルを用いて学術的課題や現代の社会問題の分析する。 このコースは主にサマリーライティング（要約文章の作成）と、授業内で読んだ教材に対して分析的な反応に焦点を当てる。 学術論文の正確な要約ができる能力 評価分析、対照分析または相対分析等の分析手法を学ぶことで、分析的な視点を培う。 ディスカッションの質問に対し口頭で答えることで、コミュニケーションにおける相互作用的な能力を伸ばす。	
	English for Academic Purposes IV	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、先のEAPの授業で学んだ能力・技術用いながらさらに発展させ、学術的テーマか現代社会の課題について小論文を書く。 与えられたトピック、要約された様々な意見について、批判的立場で議論を交わし、系統立てて自分の意見を表現する。 与えられたトピックについて、論文や要約及び口頭で、詳しい見解を述べるようになる。 書かれている文章の内容のみならず、根底にある関心や視点に目を向けるようにする。 アカデミックな環境で英語を使えるようにすることが期待される。	
	English for Academic Purposes (Retake)	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、学術的な文章を読む練習と、グループディスカッションや発表という形で、学術文書への対処の仕方を学ぶ。 学術論文を読むことに重点を置き、より難しい論文に取り組んでもらう。グループワークで論文の内容を把握し、ディスカッションをする。題材を探求するための基礎として論文を使い、発表をする。その中で、リスニング・スピーキング能力を伸ばし、自信を得ることが期待され、リサーチ能力を伸ばし、学術的語彙の知識を増やすことを求める。	
GS言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力（アカデミック日本語）を獲得するため、ノートの取り方や情報検索等、複合的な能力を養成することを目的とする。	
	アカデミック基礎日本語B	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力（アカデミック日本語）を獲得するため、論理的な内容の読解を中心に、レジユメの作成やプレゼンテーションなど、さらに高度で複合的な能力を養成することを目的とする。	
	講義の聴解A	大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーを習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	講義の聴解B	「講義の聴解A」に引き続き行うことで、大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーをさらに高いレベルで習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
共通教育科目			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	G S 言語科目（日本語）	口頭発表ⅠA	本授業では、留学生に向け、日常で使用する可能性のある内容について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議することにより、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントの理解を深めることを目的とする。	
		口頭発表ⅠB	本授業では、留学生に向け、大学での発表に関する内容等について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議する。「口頭発表ⅠA」からさらにアカデミックなスピーチ内容を検討することで、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントを共に討議しさらに理解を深めることを目的とする。	
		口頭発表ⅡA	本授業では、社会科学系のテーマを題材に、課題設定、先行研究、調査、分析・考察、まとめまでの一通りの流れで自分自身の目指す口頭発表ができるように指導をおこなうことにより、口頭発表のために必要な日本語の基本表現や自然な発音についての知識を得ることを目的とする。	
		口頭発表ⅡB	本授業では、社会科学系のテーマを題材に、課題設定、先行研究、調査、分析・考察、まとめまでの一通りの流れで自分自身の目指す口頭発表ができるように指導をおこなうことにより、口頭発表のために必要な日本語の基本表現や自然な発音についての知識を得た上で、自分自身の関心のあるテーマについてPPTを使って10分程度の口頭発表が行えるようになることを目的とする。	
		上級読解ⅠA	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、わかりやすく説明できるようになることを目的とする。	
		上級読解ⅠB	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、説明できるのみならず、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解する等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
		上級読解ⅡA	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解することを目的とする。	
		上級読解ⅡB	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深め、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解したする等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
	日本語で学ぶ論理A	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。そして、実際に日本語で書かれた文章の読解を行いながら、論理の展開と構成について学ぶことにより、論理トレーニング（論証と演繹）を通じて、日本の大学での学習や研究に必要な論理的思考力を日本語で修得することを目的とする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS言語科目 (日本語)	日本語で学ぶ論理B	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。「日本語で学ぶ論理A」の内容を発展させ、否定、条件構造、推論の技術（存在文の扱い方、消去法、背理法）について学び、最後に形式論理学の基礎についても学ぶことにより、日本の大学での学習や研究に必要な論理的思考力をさらに高度なレベルで日本語で修得することを目的とする。	
	日本事情A	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を歴史や地理等を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識を増やし、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
	日本事情B	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を宗教や文化、季節感等特に日本人の内面を形成している部分を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識をより深め、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
	アカデミック・ライティングA	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、レポート作成にかかる適切な資料の引用方法や、図表の説明の仕方を学び、自分の興味関心に従ってレポートを作成することで、資料探索や、図表の適切な説明方法とともに、レポートの基本的な表現と構成を身に付けることを目的とする。	
	アカデミック・ライティングB	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、資料等に対し考察や分析を述べたり、よ要約を書くことにより、文章の主となる部分を見つけ出す力を身に付けるとともに、文章を適切に引用し、考えと理由をレポートとして論理的に書けることを目的とする。	
基礎科目	微分積分学 I A	本授業では、微分積分の基礎から学び、例題を通してその理解を深める。求積法や多変数関数の微分法などいくつかの基本的な方程式を学ぶ。 これらを通し偏微分や全微分概念を理解し、合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができるようになる。重積分および変数変換公式について理解し、基本的な積分計算や面積・体積の計算ができるようになることを目的とする。	
	微分積分学 I B	本授業では、微分積分の基礎から学び、例題を通してその理解を深める。グリーンの定理やガウスの発散公式等さらに高度な方程式を学ぶ。 これらを通し偏微分や全微分概念を理解し、合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができるようになる。重積分および変数変換公式について理解し、基本的な積分計算や面積・体積の計算ができるようになることを目的とする。	
	線形代数学 I A	線形代数学は複雑な自然現象を数学的に理解したり、多数の情報を同時に扱うための手段として大きな役割を果たしている。 本授業では、行列とベクトルの基本概念の理解から始める。次に行列の計算と連立1次方程式を解く方法を学ぶ。 線形代数学に対する理解を深めることを目的とする。	
	線形代数学 I B	連立1次方程式で表される関係は、日常生活から高度の学問的議論の対象に至るまで、現象を数理的にとらえようとする時、最も基本的なものとして普遍的に現れる。 連立1次方程式がいつ解けるのか、そのために必要な階数や行列式や逆行列について学ぶ。 線形代数学に対する理解をさらに深めることを目的とする。	
共通教育科目			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎科目	統計数学 A 実験・観察を通じてデータを収集し、そのデータから導き出された法則性に対する理論の体系が統計学である。統計的方法は、自然科学、人文社会科学のあらゆる分野に浸透し、この方法を理解し応用する能力は社会の多くの分野で必要とされている。 本授業では、統計学の基本的部分である確率分布や正規分布、母平均などの理論を講義することで、統計の考え方を理解し、統計的方法を修得することを目的とする。	
		統計数学 B 実験・観察を通じてデータを収集し、そのデータから導き出された法則性に対する理論の体系が統計学である。統計的方法は、自然科学、人文社会科学のあらゆる分野に浸透し、この方法を理解し応用する能力は社会の多くの分野で必要とされている。 本授業では、統計学のカイ二乗検定や多重比較の方法を講義することで、統計の実践的スキルや発展的な統計的方法を修得することを目的とする。	
		物理学実験 物理学の歴史は実験によって切り開かれ、どのような理論も実験による検証が必要とされる。またその成果は技術として応用され、その技術が諸科学の新たな領域を提出している。このように実験が重要な役割を果たしているながら、高校までの学習では十分な機会がなかったと言える。本実験では主要な物理現象からテーマを選び、必要な測定方法を組み合わせて構成される代表的種目を半年のコースとして編成してある。各種測定機器の原理と取り扱い、データ処理の方法や結果のまとめ方などを学習し、その中で多様な現象を経験し物理学の法則の理解を深めることを目的とする。	
		物理学 I A 高校までの理科教育は多様化が強調され、入学時の知識や学力において格差が生じている。他方、大学で学ぶためには一定水準以上の学力が必要である。 本授業では、ニュートンの運動の法則や運動量の保存等古典力学的現象について学ぶことにより、それらの現象を支配している法則に関する知見を修得することを目的とする。	
		物理学 I B 高校までの理科教育は多様化が強調され、入学時の知識や学力において格差が生じている。他方、大学で学ぶためには一定水準以上の学力が必要である。 本授業では、空間とベクトルや力学的エネルギーの保存等について学ぶことで、ベクトルや微分・積分などの数学的手法を用いて現象を記述・解析する手法を修得することを目的とする。	
		物理学 II A 数学と物理学は密接な関係を持ちつつ発展してきた。現在では「計算科学」という学問を共有することで新たな局面を迎えている。数物科学の習得に欠かせない基礎の物理学（力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、相対性理論）とそのために必要な数学をじっくりと学ぶ必要がある。その基礎の上に、現在の研究の最先端につながる物性物理学、生物物理学、素粒子物理学、プラズマ物理学、分子物理学、計算科学の様々な分野などの学問に取り組むことができる。 本授業では、力学・電磁気学と並び重要な分野である熱力学・統計力学について講義することで、気体の熱力学、分子運動論や気相・液相間の転移等について、基本的な理解を得ることを目的とする。	
		物理学 II B 数学と物理学は密接な関係を持ちつつ発展してきた。現在では「計算科学」という学問を共有することで新たな局面を迎えている。数物科学の習得に欠かせない基礎の物理学（力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、相対性理論）とそのために必要な数学をじっくりと学ぶ必要がある。その基礎の上に、現在の研究の最先端につながる物性物理学、生物物理学、素粒子物理学、プラズマ物理学、分子物理学、計算科学の様々な分野などの学問に取り組むことができる。 本授業では、20世紀に革新を遂げた現代物理学の基礎、相対性理論と量子力学の理解に必要な数学的知識を、振動と波動を通して授け、それらについての基礎的知識を学ぶことで、振動と波動の基本概念や量子力学の基礎的知識を得ることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目	化学実験	化学は物質の性質や変化の過程を明らかにする学問分野である。物質に直接触れ、その反応を直接観察することによって、物質の性質とその変化について教科書より得た知識を確認することができる。実験結果を論理的に考察し、整理することによって化学の原理を学ぶことができ、さらに、自然界で起こる現象の理解に結びつけることができる。この授業では、先人がこれまで築き上げてきた著名な実験を実施することにより、化学実験を通してこれまで教科書等を使って学習してきた化学の理論や法則を理解することや化学実験に関する基本操作や手法を理解し体得することを目的とする。さらに、実験データの整理・解析し論理的な考察をもとにレポートの書く方法を習得する。	
		化学ⅠA	本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。 気体や分子といった身近なものを題材に化学に対する興味を深めながら、化学的なものの見方、考え方を習得することを目的とする。	
		化学ⅠB	本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。 化学結合やエントロピーといった発展的な原理を題材に化学に対する興味を深めながら、化学的なものの見方、考え方を習得することを目的とする。	
		化学ⅡA	本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。 化学Ⅰで学習した物質の構造や性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方をもとに、本授業では、平衡、動力学等を学ぶとともに、新素材、生体物質、測定法などの最新の基礎知識も修得することで将来どの専門に進んでも対処できる化学の知識と学力を獲得することを目的とする。	
		化学ⅡB	本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。 化学Ⅰで学習した物質の構造や性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方をもとに、本授業で典型元素や核化学等の知識を修得することで将来どの専門に進んでも対処できる化学の知識と学力を獲得することを目的とする。	
初習言語科目	ドイツ語A 1-1	文法を中心としてドイツ語の基礎を学ぶ。 文法に対応した練習問題のほかに、会話文のリスニング、少し長い文章のリーディングをペアワークやグループワークのなかで取り入れ、色々な練習を通じてドイツ語の文や表現に触れることで、ドイツ語初級文法の基本的な枠組みを理解し、平易な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。		
	ドイツ語A 1-2	本授業では、ドイツ語の初歩的な文法を学んでいく。ドイツ語の文法は、英文法に多くの点で類似しているため、英語の知識が活用できるような方式で授業を進めていく。 最終的には、ドイツ語の基礎単語の発音ができ、辞書があれば、ドイツ語で書かれた簡単な新聞や雑誌の文章が読める程度のミニマルな文法知識を習得することを目指す。		
	ドイツ語A 2-1	初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。 授業で取り上げる内容は下記の通り。 ドイツ語のアルファベットと発音、基本構文、自己紹介		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ドイツ語A 2-2	<p>初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。</p> <p>基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。</p> <p>本授業で取り上げる内容は下記の通り。</p> <p>趣味関する表現、将来の目標に関する表現（人称変化、前置詞等）</p>	
	ドイツ語A 3-1	<p>ドイツ語初級文法の最初舗段階の修得を目指す。</p> <p>ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>自己紹介、趣味について（動詞の現在人称変化と語順）／生ツの描写・持ち物について（名詞の性と格変化等）／動詞の活用・格変化／曜日・時間・年齢の表現（前置詞、再帰代名詞、再帰動詞等）／用事・希望・過去のことを話す（過去形、現在完了形、zu不定詞等）</p>	
	ドイツ語A 3-2	<p>ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>好みについて話す（形容詞の格変化、比較級、最上級）／部屋にある物について話す（関係代名詞、命令形）／仮定の話をする（接続法）等</p>	
	ドイツ語A 4-1	<p>本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。</p> <p>主に、趣味、家族、職業、自分にできる事できない事等、自分の身の回りのことを表現することについて学習する。</p> <p>ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。</p>	
	ドイツ語A 4-2	<p>本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。</p> <p>主に、買い物での場面、欲しいものの表現、気持ちの表現、指示・依頼の表現等、自分の考えを伝える表現について学習する。</p> <p>ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。</p>	
	ドイツ語B-1	<p>ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。</p> <p>主に、挨拶について、バス・駅・鉄道、地図、レストラン、買い物、ホテルなど日常生活や旅行に役立つ表現を学習する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会話で自己紹介をしたり、質問に答えたりすることができる。</li> <li>・辞書を用いて平易なドイツ語の文章を読むことができる。</li> <li>・日常生活の場面での簡単な質問や指示、話、アナウンスや短い会話を理解できる。</li> </ul>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語B-2	<p>ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。</p> <p>主に、ドイツ語圏に関する文章を読み、旅行計画を立て、プレゼンとディスカッションを実施する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短い広告などから、自分にとって大切な情報を取り出せる。</li> <li>・簡単なものであれば、所定の用紙に記入することができる。</li> <li>・短い個人的な文章を書くことができる。</li> </ul>	
	ドイツ語C-1	<p>既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。</p> <p>授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。</p> <p>ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、個人ワーク、プレゼンテーションなどを通して、日常的なコミュニケーションを簡単なドイツ語でできることを目標とする。</p>	
	ドイツ語C-2	<p>既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。</p> <p>授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。</p> <p>街での案内や過去の出来事等について、ドイツ語を使用したコミュニケーションを学ぶことで、ドイツ語圏の文化に関心を持ち、ドイツ語のコミュニケーション能力を養成することを目的とする。</p>	
	フランス語A1-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELTA/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、発音、綴り字と音声の対応、er動詞、etre, avoir, 数字、名詞のジェンダー等基本的な文法事項を学ぶ</p>	
	フランス語A1-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。ヨーロッパ文化の一番面白いところを正確に理解し、楽しむためにもフランス語は有益なツールとなるだろう。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELTA/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、ir動詞、動詞の活用、過去分詞、指示代名詞、単純未来等の文法事項を学ぶ。</p>	
	フランス語A2-1	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、名前を言う・尋ねる・綴りを言う、職業・身分・国籍について、家族について、年齢の言い方、好みについて等、自分の事を話し、相手について尋ねる方法を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フランス語の発音ルールを身につけ、文字を見て発音できる。</li> <li>・基本語彙、基本表現及び文法を学習し応用することで、フランス語で身近な話題について会話ができる力を養う。</li> </ul>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	フランス語A 2-2	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、用紙や服装について、交通手段について、時刻や値段の尋ね方、食習慣について等、コミュニケーションをとるために必要な表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学習目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学んだ初歩的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。</li> <li>・フランスとフランス語圏について紹介する。</li> </ul>	
	フランス語A 3-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFD/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、代名動詞、動詞の活用、強調構文、非人称構文、疑問形容詞、半過去、大過去等の文法事項を習得する。</p>	
	フランス語A 3-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFD/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、指示代名詞、関係代名詞、現在分詞、比較級・最上級、条件法、接続法等の文法事項を習得する。</p>	
	フランス語A 4-1	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、習慣、日常の活動について、過去のこと・過去の習慣についてトピックを立て、学習する。</p>	
	フランス語A 4-2	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、許可や禁止について、未来について、願望、比較、条件・仮定についてトピックを立て、学習する。</p>	
	フランス語B-1	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、満潮時のみ島になるモン・サン・ミッシェルに関する論説文や、「よつば」などの日本の漫画のフランス語訳をとりあげ、初級文法を復習しながら、相手の言いたいことを的確に理解し、自分の言いたいことを的確に表現する自然なフランス語が基本的にどういうものか体得することを目指す。</p>	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	フランス語B-2	フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。 本授業では、エッフェル塔やルーブル美術館について書かれた平易な論説文などをとりあげ、フランス語話者の書いていることの真意が実感をもって分かること、こちらからフランス語話者へ効果的に意思を通じさせられるような書き方（話し方）を身につける。	
	フランス語C-1	フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。 本授業では、ラグビーにおける国籍や観光地におけるフランス等の論説文などをとりあげ、ネットを使わなくても、ある程度の難易度を持ったフランス語の文章を読み聞かし、理解できるようにすること。フランス語話者とコミュニケーションし、ガイドできることを目指す。また、フランス語と英語の知識を結び付け、両言語でのレベルアップを目指す。 将来のフランス語検定試験（仏検）やフランス語圏（フランス、カナダ等）留学時に必要なDELFDALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。	
	フランス語C-2	総合的なフランス語力の一応の完成を目指す。フランス語でEメールを書き、ホットなラジオ・ニュースを聞き、論説文を読み、必要な文法知識の完成を目標とする。 フランス語による国際的コミュニケーション力を磨くため、また大学卒業後も少しずつフランス語力を自力で高めるようにするための体制を整えていく。フランス語と英語の知識が有機的に結びき、両方のレベルが向上することを目指す。フランス語圏での勉強、仕事に必要なDELFDALFの上の級に合格する態勢についても考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・読む、書く、聞く能力を伸ばし、話された言葉、書かれたテキストからできるだけ情報がとれるノウハウを体得する。 ・フランス語の基礎知識をしっかりと固め、生涯的スパンでのフランス語学習の展望を得る ・国際的コミュニケーションの言葉としてのフランス語の広がりを知る。 ・フランス語の知識と英語の知識を有機的に結びつけて、両方のレベルを向上させる。	
	ロシア語A1-1	ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 本授業では、ロシア語のアルファベットと発音、文法性、ロシア人の名前、簡単な現在形の肯定・否定・疑問文、形容詞、副詞、人称代名詞等、基礎的な知識や文法事項を学ぶ。	
	ロシア語A1-2	ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 本授業では、名詞の複数形、現在形の動詞の人称変化、重要な不規則動詞、方向の表現、数字等、基礎的な文法事項を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ロシア語A2-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア語を発音することができる。</li> <li>・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。</li> </ul> <p>本授業では、ロシア語の発音とアルファベット、挨拶、自己紹介、「これは何/誰ですか」「誰のものですか」等基本的な知識と表現を学ぶ。</p>	
	ロシア語A2-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く/言う」「私の家族」</li> <li>・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。</li> </ul> <p>本授業では、位置・場所の表現、時間についての表現、好みや能力の表現等基本的な会話表現を学ぶ。</p>	
	ロシア語A3-1	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリル文字を見て発音することができる。</li> <li>・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。</li> <li>・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。</li> </ul> <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。            名詞、人称代名詞の単数・複数、命令形、重要な不規則動詞、形容詞・名詞・代名詞の格変化、順序数詞等</p>	
	ロシア語A3-2	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリル文字を見て発音することができる。</li> <li>・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。</li> <li>・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。</li> </ul> <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。            重要な不規則動詞、再帰動詞、移動の動詞、時間表現、比較級・最上級、無人称文等</p>	
	ロシア語A4-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア語を発音することができる。</li> <li>・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。</li> <li>・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く/言う」「私の家族」</li> <li>・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。</li> </ul> <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。            金額を尋ねる、数字、好き嫌いについて、色の表現、所有物について等</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ロシア語A 4-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア語を発音することができる。</li> <li>・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。</li> <li>・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」</li> <li>・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。</li> </ul> <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>好き嫌いについて、方向・道案内、交通手段、天気や行動について過去形、未来形を用いた表現等</p>	
	ロシア語B-1	<p>ロシア語Aで学んだ文法の復習から、中級文法の習得を目指し、より高度な文法・表現の解説、その応用練習を行う。平易な会話の聞き取り能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文法の合間に、短く比較的簡単なテキストを読み、ロシア語の読解にも慣れる。</li> <li>・やや複雑な構文を使ったロシア語の文が読解できる。</li> <li>・基本語彙と平易な表現を用いてゆっくり話されるロシア語会話を、聞き取ることができる。</li> </ul> <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>時間の表現、数詞の格変化、仮定法、一般二人称、不定形の用法等</p>	
	ロシア語B-2	<p>実際にロシアに行ったら遭遇するであろうシチュエーションにおいて、ロシア語でどう表現すればよいか、実践的なロシア語の修得を目指す。</p> <p>シチュエーションごとの簡単な会話の聞き取り、ネイティブのナチュラルスピードに耳を慣らす練習をし、会話内容の理解を通して、ロシア語Aの文法の復習・発展的学習を行う。</p> <p>実際にロシアに行った場合に最低限必要なフレーズや語彙を学び、自分の言いたいことを表現するにはどのような言葉を使ったらよいかを学ぶ。またこれを応用して、日本の状況についても説明できるようにする。</p> <p>日本と異なるロシアの生活・文化様式についても解説する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア旅行で最低限必要となる語彙・表現を用いて話すことができる。（空港・ホテル・両替所・ファストフード店等での場面で）</li> <li>・ごく基本的な語彙・表現の範囲であれば、ナチュラル・スピードで話される内容を把握できる。</li> <li>・ロシア語でロシアに関する情報収集を自分でできる。</li> </ul>	
	ロシア語C-1	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは新聞・雑誌記事、インターネット上の書き込み等を例にジャンル、テーマ等問わずに幅広い種類の文章を読むことで読解力を鍛える等、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題にも取り組むことにより、辞書を使えば新聞レベルのロシア語テキストが読解できることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ロシア語C-2	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>授業では短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは学術論文、文学などから、ジャンル、テーマ、書かれた時期を問わず、幅広く扱う予定である。</p> <p>複雑な構文を把握できるように、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題に取り組む。ナチュラル・スピードのロシア語の聞き取り能力を高め、また聞き取った文を自分で言えるようになることを目指す。</p>	
	中国語A1-1	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。</li> <li>・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。</li> <li>・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。</li> </ul> <p>本授業の内容は下記の通り。 発音練習、常用表現、”是”構文、動詞述語文、完了表現他</p>	
	中国語A1-2	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。</li> <li>・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。</li> <li>・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。</li> </ul> <p>本授業の内容は下記の通り。 疑問視疑問文、形容詞述語文、近未来表現、方位詞、名詞述語文、動量補語等。ディクテーションや作文も行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	中国語A2-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。</li> <li>・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話することができる。</li> <li>・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。</li> <li>・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。</li> </ul> <p>本授業で学習する内容は以下の通り。</p> <p>発音練習，常用表現，国籍を尋ねる</p> <p>トピック：「町にはホテルもお店も銀行もあります」「どこで食事をしますか」</p>	
	中国語A2-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。</li> <li>・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話することができる。</li> <li>・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。</li> <li>・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。</li> </ul> <p>本学で学習する内容は以下の通り。</p> <p>交通手段を尋ねる，距離を表現する，日にち・月の表現</p> <p>「お箸どうぞ」，「疲れたら休もう」，「北京は人も車も多い」</p>	
	中国語A3-1	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。</li> <li>・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。</li> </ul> <p>本授業で学習する内容は下記のとおり。</p> <p>結果補語，助動詞，疑問視の応用表現，方向補語，進行表現など。</p> <p>ディクテーション，作文練習も行う。</p>	
	中国語A3-2	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。</li> <li>・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。</li> </ul> <p>授業で学習する内容は下記のとおり。</p> <p>可能補語，比較表現，受身表現，使役表現など。</p> <p>ディクテーション，作文練習も行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	初習言語科目 中国語A 4-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A 2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。</li> <li>・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。</li> </ul> <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り</p> <p>「車で来たので飲めません」  「午後病院へ行くつもりです」  「いつから腹痛が始まりましたか」  「彼女は何をしていますか」</p>	
	中国語A 4-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A 2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。</li> <li>・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。</li> </ul> <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り</p> <p>「財布が見つかりました」  「壁に古い写真が貼ってある」  「このパソコンはあれより重い」  「1月1日を元旦と呼びます」  「私に切符を買わせて」  スピーチ、暗唱などの練習を行う。</p>	
	中国語B-1	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聞き取ることができる。</li> <li>・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。</li> <li>・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。</li> </ul> <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。  レストランでの会話、買い物時の会話、大学の授業について、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
	中国語B-2	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聞き取ることができる。</li> <li>・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。</li> <li>・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。</li> </ul> <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。  インターネットについて、恋人に関して、転職について、日本と中国の文化・習慣比較等  作文、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	中国語C-1	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。</p> <p>授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学べます。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。</li> <li>・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。</li> <li>・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。</li> <li>・日中力国の国際交流がどのように行われるべきかについて、自分の意見を持つことができる。</li> </ul> <p>本授業で取り上げる内容。トピックは以下の通り。</p> <p>中国国内でのニュース報道に関するHPや、動画を講読・視聴し、ディスカッションを行う。</p>	
	中国語C-2	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。</p> <p>授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学べます。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。</li> <li>・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。</li> <li>・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。</li> </ul> <p>本授業で取り上げる内容・トピックは以下の通り。</p> <p>生活と健康について、男女平等、環境保護と資源節約、ビジネス中国語（財務・国際入札・待遇）</p> <p>中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。</p>	
	朝鮮語A1-1	<p>基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。</p> <p>韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を見て発音することができる。</li> <li>・母音と子音の組み合わせ方を理解する。</li> <li>・韓国文化について理解することができる。</li> </ul>	
	朝鮮語A1-2	<p>基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。</p> <p>韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。</li> <li>・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をするすることができる。</li> <li>・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	
	朝鮮語A2-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養うと同時に、自己紹介等身近な事柄について日常生活の簡単な会話ができることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。</li> <li>・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話をするすることができる。</li> <li>・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	朝鮮語A 2-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。            基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に、道を尋ねる、電話をかける、日付を尋ねる、値段を尋ねるなど日常生活の簡単な会話ができるようになることを目指す。            具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を見て発音することができる。</li> <li>・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。</li> <li>・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をすることができる。</li> <li>・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	
	朝鮮語A 3-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。            基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に自己紹介など日常生活の簡単な会話から、動詞の活用までを学ぶ。            具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。</li> <li>・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話をすることができる。</li> <li>・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	
	朝鮮語A 3-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。            文章を理解できる力を養うと同時に、K-POPや韓国の食べ物などの題材を使用し、形容詞の活用や短文の作成ができるようになることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。</li> <li>・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話をすることができる。</li> <li>・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	
	朝鮮語A 4-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、            基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、挨拶、好き嫌いを尋ねる、電話をかける等様々な日常にある様々トピックの中で簡単な会話ができる力を養う。            具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を見て発音することができる。</li> <li>・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。</li> <li>・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をすることができる。</li> <li>・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	
	朝鮮語A 4-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、            基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、家族の紹介、食文化比較等様々なトピックの中で簡単な日常会話ができる力を養う。            具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。</li> <li>・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。</li> <li>・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話をすることができる。</li> <li>・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	朝鮮語B-1	<p>朝鮮語で趣味や友人など身の回りの物事についてスピーチやディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。</li> <li>・ 韓国文化の理解を深める。</li> <li>・ 与えられた主題について会話ができる。</li> <li>・ 読解ができる。</li> <li>・ 「ハングル能力検定試験」3級を目指す。</li> </ul>	
	朝鮮語B-2	<p>朝鮮語で、訪問客に対して観光案内や日本の紹介についてスピーチとディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。</li> <li>・ 韓国文化の理解を深める。</li> <li>・ 与えられた主題について会話ができる。</li> <li>・ 読解ができる。</li> <li>・ 「ハングル能力検定試験」3級を目指す。</li> </ul>	
	朝鮮語C-1	<p>朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める</p> <p>韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景や経緯及びその意義について学び、東アジアの文化交流に焦点を当てて、その意義について検討する。</p>	
	朝鮮語C-2	<p>朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める</p> <p>韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景及びその意義について学び、還流の国家的戦略、将来像を考える。また、日本が世界に広めようとしている「クールジャパン」とは何か、中国の「華流」の可能性等も考える。</p> <p>東アジアの文化交流に焦点を当て、その意義を検討し、東アジアにおけるソフトパワー競争時代について考える。</p>	
	ギリシア語A1-1	<p>古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。</p> <p>古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルファベットを見て発音する。</li> <li>・ 文字の読み方、名詞の変化、動詞の変化等を理解する。</li> <li>・ 語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈する。</li> <li>・ 例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作る。</li> </ul>	
	ギリシア語A1-2	<p>古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。</p> <p>古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 形容詞、前置詞の用法、動詞の変化等を理解する。</li> <li>・ 語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈する。</li> <li>・ 例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作る。</li> </ul>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ギリシア語A2-1	<p>古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。            古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。            ・疑問代名詞、不定代名詞等を理解する。            ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈する。            ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作る。</p>	
	ギリシア語A2-2	<p>古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。            古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。            ・第三変化名詞、流音幹動詞、母音交換等を理解する。            ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈する。            ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作る。</p>	
	ギリシア語A3-1	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。            古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。            ・文単位のまとまりで音読する。            ・接続法、不定法、希求法、第三変化形容詞等を理解する。            ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章を解釈する。            ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べる。</p>	
	ギリシア語A3-2	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。            古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。            ・分詞の用法、形容詞の比較級・最上級等を理解する。            ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をする。            ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ギリシア語A 4-1	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。            古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。            ・まとまった文章を正確に音読する。            ・命令法、間接話法、否定詞等を理解する。            ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解する。            ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認する。</p>	
	ギリシア語A 4-2	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。            古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。            ・まとまった文章を正確に音読することができる。            ・mi動詞等を理解する。            ・基本的な文法事項に習熟し、クセノポン、ヘロドトス等の作品を読解する。</p>	
	ギリシア語B-1	<p>プラトンの対話篇『イオン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、原典の項目毎に議論を行い、そこに描かれているプラトンの芸術論を考察する。</p> <p>学習目標は以下の通り。            ・古典ギリシア語の読解能力を高める。            ・古典ギリシア語の文法力を高める。            ・プラトンの対話篇に現れている芸術論を考察する。</p>	
	ギリシア語B-2	<p>ギリシア語B-1の内容を踏まえ、プラトンの対話篇『イオン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、原典全般を通して議論を行い、そこに描かれているプラトンの芸術思想を理解する。</p> <p>学習目標は以下の通り。            ・古典ギリシア語の文法力を高める。            ・プラトンの芸術思想について理解する。</p>	
	ギリシア語C-1	<p>プラトンの対話篇『クリトン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、原典の項目毎に議論を行い、そこに描かれているソクラテスの行動原理を考察する。</p> <p>学習目標は以下の通り。            ・古典ギリシア語の読解能力を高める。            ・古典ギリシア語の文法力を高める。            ・プラトンの対話篇に現れているソクラテスの行動原理を考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	ギリシア語C-2	<p>ギリシア語C-1の内容を踏まえ、プラトンの対話篇『クリトン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、原典全般を通して議論を行い、そこに描かれているソクラテスの思想を理解する。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典ギリシア語の読解能力を高める。</li> <li>・古典ギリシア語の文法力を高める。</li> <li>・プラトンの対話篇に現れているソクラテスの思想を理解する。</li> </ul>	
	ラテン語A1-1	<p>古典ラテン語は古代ローマ時代に用いられていた言語で、とりわけ紀元前1-紀元後1世紀の古典ラテン文学の黄金時代には、キケロ、ウェルギリウス、オウィディウス、セネカ、カエサルなど多くの作品が残されている。本講義では古典ラテン語の初級文法の修得を目的とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベットを見て発音する。</li> <li>・動詞変化、形容詞変化、名詞変化等を理解する。</li> <li>・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈する。</li> <li>・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作る。</li> </ul>	
	ラテン語A1-2	<p>古典ラテン語は古代ローマ時代に用いられていた言語で、とりわけ紀元前1-紀元後1世紀の古典ラテン文学の黄金時代には、キケロ、ウェルギリウス、オウィディウス、セネカ、カエサルなど多くの作品が残されている。本講義では古典ラテン語の初級文法の修得を目的とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベットを見て発音する。</li> <li>・指示代名詞、疑問代名詞、動詞変化等を理解する。</li> <li>・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈する。</li> <li>・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作る。</li> </ul>	
	ラテン語A2-1	<p>古典ラテン語は古代ローマ時代に用いられていた言語で、とりわけ紀元前1-紀元後1世紀の古典ラテン文学の黄金時代には、キケロ、ウェルギリウス、オウィディウス、セネカ、カエサルなど多くの作品が残されている。本講義では古典ラテン語の初級文法の修得を目的とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベットを見て発音する。</li> <li>・不定法、数詞、接続法等を理解する。</li> <li>・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈する。</li> <li>・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作る。</li> </ul>	
	ラテン語A2-2	<p>古典ラテン語は古代ローマ時代に用いられていた言語で、とりわけ紀元前1-紀元後1世紀の古典ラテン文学の黄金時代には、キケロ、ウェルギリウス、オウィディウス、セネカ、カエサルなど多くの作品が残されている。本講義では古典ラテン語の初級文法の修得を目的とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベットを見て発音する。</li> <li>・間接疑問文、条件文、比較文等を理解する。</li> <li>・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈する。</li> <li>・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作る。</li> </ul>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ラテン語A 3-1	<p>古典ラテン語は古代ローマ時代に用いられていた言語で、とりわけ紀元前1-紀元後1世紀の古典ラテン文学の黄金時代には、キケロ、ウェルギリウス、オウィディウス、セネカ、カエサルなど多くの作品が残されている。本講義では、古典ラテン語の初級文法の一通りの修得を目標とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文単位のみで音読する。</li> <li>・数詞・ギリシア系名詞の変化、非人称代名詞等を理解する。</li> <li>・基本的な文法事項を理解し、簡易な文章を解釈する。</li> <li>・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べる。</li> </ul>	
	ラテン語A 3-2	<p>古典ラテン語は古代ローマ時代に用いられていた言語で、とりわけ紀元前1-紀元後1世紀の古典ラテン文学の黄金時代には、キケロ、ウェルギリウス、オウィディウス、セネカ、カエサルなど多くの作品が残されている。本講義では、古典ラテン語の初級文法の一通りの修得を目標とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文単位のみで音読する。</li> <li>・接続法・完了・過去完了、副詞的目的文、間接疑問文等を理解する。</li> <li>・基本的な文法事項を理解し、簡易な文章を解釈する。</li> <li>・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べる。</li> </ul>	
	ラテン語A 4-1	<p>古典ラテン語は古代ローマ時代に用いられていた言語で、とりわけ紀元前1-紀元後1世紀の古典ラテン文学の黄金時代には、キケロ、ウェルギリウス、オウィディウス、セネカ、カエサルなど多くの作品が残されている。本講義では、古典ラテン語の初級文法の一通りの修得を目標とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文単位のみで音読する。</li> <li>・比較文、理由文、条件文、譲歩文等を理解する。</li> <li>・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解する。</li> <li>・辞書を使って語形変化や語の用法を確認する。</li> </ul>	
	ラテン語A 4-2	<p>古典ラテン語は古代ローマ時代に用いられていた言語で、とりわけ紀元前1-紀元後1世紀の古典ラテン文学の黄金時代には、キケロ、ウェルギリウス、オウィディウス、セネカ、カエサルなど多くの作品が残されている。本講義では、古典ラテン語の初級文法の一通りの修得を目標とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文単位のみで音読する。</li> <li>・関係文、間接話法等を理解する。</li> <li>・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解する。</li> <li>・辞書を使って語形変化や語の用法を確認する。</li> </ul>	
	ラテン語B-1	<p>ルネサンスから17世紀のラテン語の重要文献（哲学系）を和訳し、かつ内容について深い理解を得る。</p> <p>具体的な文献として、ライプニッツ『24の命題』、ライプニッツ『実在的現象を想像的現象から区別する仕方について』等を購読し、各文献におけるラテン語文法を理解するとともに、各文献における西洋の宗教哲学・神学の根幹をつかむ。</p>	
	ラテン語B-2	<p>ルネサンスから17世紀のラテン語の重要文献（哲学系）を和訳し、かつ内容について深い理解を得る。</p> <p>具体的な文献として、スピノザ『エチカ』等を購読し、各文献におけるラテン語文法を理解するとともに、ラテン語B-1で購読した文献とも比較した上で、各文献における西洋の宗教哲学・神学の根幹について理解する。</p>	
	ラテン語C-1	<p>ルネサンスから17世紀のラテン語の重要文献（哲学系）を和訳し、かつ内容について深い理解を得る。</p> <p>具体的な文献として、デカルト『哲学原理』・『省察』を購読し、各文献におけるラテン語文法を理解するとともに、各文献における西洋の宗教哲学・神学の根幹をつかむ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ラテン語C-2	<p>ルネサンスから17世紀のラテン語の重要文献（哲学系）を和訳し、かつ内容について深い理解を得る。</p> <p>具体的な文献として、フィチーノ『プラトン神学』を購読し、各文献におけるラテン語文法を理解するとともに、ラテン語C-1で購読した文献とも比較した上で、各文献における西洋の宗教哲学・神学の根幹について理解する。</p>	
	スペイン語A1-1	<p>スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。</p> <p>基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音、数字、名詞の性、冠詞、規則動詞、tenen/haverの用法等初級文法の修得</li> <li>・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。</li> <li>・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。</li> <li>・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。</li> </ul>	
	スペイン語A1-2	<p>スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。</p> <p>基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不規則動詞、前置詞、動詞の変化等初級文法の修得</li> <li>・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。</li> <li>・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。</li> <li>・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。</li> </ul>	
	スペイン語A2-1	<p>スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。</p> <p>スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、人物描写、家族についての表現を学び平易な文で話すことができるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では下記の文法事項・表現を学習する。</p> <p>スペイン語の発音・数字・スベル、国籍の言い方、程度を表す表現、人の描写、家族・親族、定冠詞・不定冠詞、estar、規則動詞等</p>	
	スペイン語A2-2	<p>スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。</p> <p>スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、街中の描写や、位置関係、日常生活を表す描写を学び、平易な文で話すことができるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では下記の文法事項・表現を学習する。</p> <p>位置関係、Haverの用法、mucho/poco、大学内や周辺の建物・場所を表す動詞、交通機関、街中の描写、月と季節、現在進行形等</p>	
	スペイン語A3-1	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。</li> <li>・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。</li> <li>・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。</li> </ul>	
	スペイン語A3-2	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接的／間接的人称代名詞、比較表現等初級文法の修得。</li> <li>・基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。</li> <li>・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。</li> <li>・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。</li> </ul>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	スペイン語A 4-1	<p>スペイン語を学ぶなかで、異文化に触れる。            スペイン語の正しい発音及び初歩的な会話の修得を目標とし、ペアワークやグループワークを通じて会話の練習をしながら、単語や表現力を定着させる。            スペイン語の文章を正しく発音することを目標とする。            天気や住居のこと、料理のレシピ、レストランでの会話などについて学び、ゆっくり話される身近な話題についての簡単なことを尋ねたり、答えたりできるようになることを目指す。</p>	
	スペイン語A 4-2	<p>A3での文法の授業の内容とも関連した実践的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。グループによるゲーム、オーラル練習を通して単語を増やし、DVD教材などでスペイン語の表現を学び会話をステップアップしていくことを目標とする。            具体的な学修目標は、以下のとおり。            ・アルファベットを見て正しく発音することができる。            ・自分の背景や身の回りの状況を簡単な言葉で話すことができる。            ・短いはっきりとしたメッセージ、アナウンスの要点を聞き取ることができる。</p>	
	スペイン語B-1	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。            DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。            聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。            具体的な学修目標は、以下のとおり。            ・再帰動詞、関係詞、直接法現在完了等新しい文法事項の修得。            ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。            ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。            ・経験や印象を書くことができる。</p>	
	スペイン語B-2	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。            DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。            聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。            具体的な学修目標は、以下のとおり。            ・直接法過去完了、命令形、無人称表現等新しい文法事項の修得。            ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。            ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。            ・経験や印象を書くことができる。</p>	
	スペイン語C-1	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。            聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。            具体的な学修目標は、以下のとおり。            ・接続法現在、命令形、接続法現在完了等の文法事項の修得。            ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。            ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。            ・経験や印象を書くことができる。</p>	
	スペイン語C-2	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。            聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。            具体的な学修目標は、以下のとおり。            ・接続法過去、条件文、接続法過去完了等の文法事項の修得。            ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。            ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。            ・経験や印象を書くことができる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	アントレプレナーシップ I	<p>アントレプレナーシップは、事業を新しく創造するため、高い創造意欲を持ち、リスクや困難に挑戦していく姿勢、発想、レジリエンス等を総合的に示す能力（起業家精神）を意味する。学生が入学当初に起業家精神の重要性と必要性を理解し、学生自らがモチベーションを持ちながら、大学時代に様々な機会を利用して、アントレプレナーシップを涵養する必要がある。</p> <p>本授業では、学生がアントレプレナーシップを学ぶ最初のステップとして、様々な観点から、21世紀の社会で生き抜くために、アントレプレナーシップを学ぶ機会を提供することにより、アントレプレナーの社会的意義とそのために必要な素養となるアントレプレナーシップを体得するを目的とする。</p>	
	里山里海体験実習 in 能登半島	<p>本実習では、能登半島の里山里海を1泊2日で訪問し、地域の方々と交流しながら、里山里海の素晴らしさと現在の問題点を知り、今後の持続的発展の道を議論する。また、金沢大学の能登の里山里海の活動を知り、今後の発展に向け討議する。そして、能登の里山里海の再生と地域の再活性化のために必要なことと関わり方を総合討論する。</p> <p>これらの実習により、持続可能な開発目標（SDGs）の基本コンセプトについて理解した上で、里山里海の素晴らしさ、現状と問題点に気づき、本学が能登で実施している里山里海に関する活動を知り、里山、里海の定義、重要性、能登の再活性化に活用するための方策や課題等について、自身の言葉で説明できるようになるとともに、大学あるいは学生が地域に果たす役割、地域から大学、学生が何を学ぶかについて考察を深め、能登の里山里海への自分の関わり方、役割を考え、能登の里山里海の保全、活性化とどのように関わることについて、自分の言葉で説明できるようになることを目的とする。</p>	
	里山概論	<p>人と自然の絶え間ない相互交渉によって生まれる里山里海のシステムは今、持続可能な社会モデルの舞台として世界的にも注目されている。日本では、全国で里山を活用した地域創生の様々な試みがあり、石川県でも優れた取り組みが行われている。</p> <p>本授業では、そのような行いがどのような意味を持つのか、私たちの身近な里山に注目して実践事例を通して学ぶことにより、人と自然の関係を読み解く力を身に付けるとともに、現代における里山里海の課題と可能性を知り、今何に取り組む必要があるのかについて自分の考えを説明できるようになることを目的とする。</p>	
	石川県の行政	<p>本授業では、石川県の行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことにより、地方自治体が取り組む政策課題と、課題に対処するために政策が形成されて実施・評価されるプロセス（政策過程）についての理解を深めることや、地方自治・行政に関連する基礎的および実務的な知識を習得し、自ら地方自治や政策課題について深く考えることができるようになることを目的とする。</p> <p>また公務員志望の学生については、行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことで、将来のキャリア形成の参考になることを期待する。</p>	
	石川県の市町	<p>本授業では、石川県の市町からのゲストスピーカーの話を聞くことで、石川県の市や町が抱える課題を理解し、その課題解決の方策や、今後の大学や学生と地域との連携のあり方を考え、各市町に提言を出せるようになることを目的とする。</p>	
	健康論実践D	<p>本授業では、調理実習等気づきをもたらすような様々な講義、実習を通して、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。</p>	
	健康論実践E	<p>本授業では、角間の里において多彩なゲストスピーカーとの共同作業やグループワークを通して、教育実習や就職活動、日常の人間関係に役立つ内容を学ぶ。健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができることや社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神等を修得することを目的とする。</p>	
	現代社会における保険の制度と役割	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、民間保険と社会保障制度である公的保険（社会保険）の仕組みをともに学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。</p>	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	ジャーナリズム論	<p>情報化社会の現代を生きる上で、マスメディア（新聞とテレビなど）について学ぶことは重要である。あふれんばかりの商品経済の中にあつては商品の質を見定める消費者教育が必要であるように、氾濫する情報の中でどのニュースや情報の質が高いのかを見極め判断するメディア教育もまた必要である。</p> <p>本授業では、新聞メディアとそのジャーナリズムをめぐる現代をテーマとしている。その主なテーマは大きく分けると「新聞メディアが拠って立つ基盤とは何か」「新聞メディアが多メディアとインターネットの時代になぜ存在意義が問われているのか」「将来、社会はどのように変貌し新聞メディアはどう姿を変えていくのか」の3つになる。個々の講義では、これらのテーマを縦糸に、民主主義とジャーナリズム論、新聞メディアとインターネット（デジタル化）、新聞メディアと国内外の現状などを横糸として織り込んでいく。</p> <p>授業を通して、情報化社会を果敢に生き抜く知恵とセンスを獲得することを目的とする。</p>	
	実践アントレプレナー学	<p>アントレプレナーとは、ベンチャー企業を開業する者、また、産業構造の変革を担うベンチャー企業の実践者とも言われ、その育成および起業家精神の醸成は、国の再生と経済活性化に重要な役割をもつものとして位置づけられている。過去のベンチャーブームは、オイルショック、円高不況そしてバブル崩壊などの社会・経済の転換期と大きく関わっている。</p> <p>本授業では、大学生と就職そして起業家精神の育成の一つの方向性示すとともに、大学の勉学と研究への取り組みのあり方を解説することで、「イノベーションとは」から始めて、「産学官連携とは」「知的財産と特許とは」、さらに「ベンチャー育成と企業化とは」までを理解し、大学におけるアントレプレナー精神の育成を目的とする。</p>	
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	<p>Society5.0時代を迎えるにあたって、これまで個人が余暇に楽しんでいた「ものづくり」と、仕事や趣味などで行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではなくなる。それらは渾然一体となって、相互に連携し、利活用可能となる。このような社会で必要となる技法を、「ものづくり」と「プログラミング」をかけあわせた「ものグラミング」という言葉で表現している。</p> <p>この「ものグラミング」こそが、Society5.0に向けた人材に必要な技法であると考え、この技法を、講義と実習を通じて学ぶことを本授業の主題に据える。</p> <p>本授業では、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを講義と体験を通じて述べ、「ものグラミング」全体の理解を受講者に促すことを目的とする。</p>	
	シェルスクリプト言語論	<p>本授業では、古くから存在し、今もほとんど変わること無く使用できる「POSIX環境におけるシェルスクリプト」を使ったプログラミング手法について学習をしていく。シェルスクリプトは、UNIXやLinuxと呼ばれるOSにおいて、システム操作などにも使用されるもので、多くのコマンドから形成されるものであり、古くから変わらず存在するため、これから先も長く使用可能である。また、シェルスクリプトは、プログラミングに限らず、LinuxやWindows10、macOSなどをコマンドから操作するときに使用可能であり、シェルスクリプトを十全に使用できるようになると、研究活動を始めとする、さまざまな業務処理に、これまでとは違う視点からの作業環境を与えることができる。</p> <p>POSIX環境におけるシェルスクリプトについて新しい視点で学ぶとともに、「Win/Mac/UNIXすべてで25年後も動く普遍的なプログラム」を書く方法について会得し日頃の問題解決に適用できるようになることを目的とする。</p>	
	地元学A（地域資源調査）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークの基礎的な知識や技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	自由履修科目	地元学B（聞き書き）	この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークに最も重要である、聞き込みの知識と技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。 地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。	
		シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	近年では、インターネット上に大量の情報が集積され、これらを活用するサービスも用意されている。一方、小型のコンピュータ等が安価に普及し、これまでは手軽には手の届かなかった機器が当たり前のよう利用できる。このような時代にあっては、従来なら個人が余暇に趣味で楽しんでいた「ものづくり」と、日常の仕事で行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」と、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではない。このような世界で必要となる技法を「ものづくり」と「プログラミング」を掛け合わせた「ものグラミング」という言葉で表現する。 本授業では、「ものグラミング」のもとで、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを理解し、併せて、POSIX環境におけるシェルスクリプトを用いてプログラミングなどについて学ぶ。	
		世界農業遺産「能登の里山里海」とSDGsを考察するスタディ・ツアー	環境問題など問題を解決するため、「知の統合」として社会のための科学と文理融合をうたった「新しい学術体系」が必要である。それを生み出すには、超領域的な見方のできる人材が不可欠である。フィールド、臨地教育など、臨場主義に立つ教育研究こそ、そのような「知の統合」のできるマイスター育成が可能である。 本授業では、フィールドワークを主とすることで、人間的立場を再確認し、命のつながり、自然とのつながり、歴史とのつながり、つながりを再発見する面白さを見つけ出し、日常のキャンパスではなかなか得ることができない「気づき」をフィールドで得ることを目的とする。	
		イノベーションを起こして、起業家になろう1	「イノベーション」を生み出すメソッドとして世界的に注目を浴びている「デザイン・シンキング」（前例の無い問題や未知の課題に対し、最適な解決を図るための思考法）を中心に、「イノベーション」の核となる「クリエイティビティ」について理解する。 本授業では、「デザイン・シンキング」の基本的なプロセスを理解し、複数のワークショップを実施することで、クリエイティブな考えを生み出すということ等を体感的に理解し、習得することを目的とする。	
		イノベーションを起こして、起業家になろう2	本授業では、大学の内外で行われている起業に関連したイベント・研修紹介や起業家との対話を行い、イノベーションや起業、海外経験の重要性について学ぶ。また、身に付けるべきスキルや研修機会について理解した上で、キャリアアップを図ることを目的とする海外留学計画を実際に自身で立案することにより、長期的なキャリアの形成についても学ぶ。	
		イノベーションを起こして、起業家になろう3	情報産業（IT/ICT）は、近年は電子機器（ハードウェア）と密接に関連することで、IoT（モノのインターネット）やAIという形で、新たな産業の核となりつつある。これらの分野では、テクノロジーという理系的な視点だけでなく、価値あるサービスを見出し創造するという文系的な視点も重要になる。 本授業では、ハードウェアの試作（プロトタイピング）の習得と、それを用いたアイデア出しと試作による具体化のサイクルを通じたデザイン・シンキングを実践し、その知見を積むことを目的とする。	
		イノベーションを起こして、起業家になろう4	少子高齢社会となった先進諸国において、高齢者の生活を効果的に且つ低コストで支える仕組みづくりが多方面から求められている。中でも高齢者の健康問題は重要課題であり、健康寿命を延ばす医療の制度、技術、サービスの革新が期待されている。 本授業では、現代日本における超高齢社会やそれを支える医療の現状と課題を理解し、課題解決方法の1つである医療機器・サービスの技術革新について学ぶことにより、高齢者医療を取り巻く社会的環境や多様な課題を理解し、グループワークを通して、課題解決に向けた新しい手法を主体的且つ具体的に導き出すことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	自由履修科目	香りと日本文化	日本三大芸道の一つである香道。香道は日本独自の香りを楽しむ芸術で、約1500年前にその歴史は始まり、約500年前には現存する形となった。 本授業では、この香道を切り口に、日本文化への理解を深めていくことを目的とする。	
		心と体の健康A	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の間わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、一元論と二元論の考え方や認知等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
		心と体の健康B	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の間わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、音楽や神経経済学等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
		地域「超」体験プログラム	本授業では、学長と一緒に「合宿」することで、金沢大学に学ぶ意義を理解する。「プログラム」では、地域の歴史や文化を学び、地域住民との交流や社会活動を通して地域理解や人間力の涵養を図るとともに、地域社会の中に身を置いて考えることを通じて各人の就業観を養うことを目的とする。	
		ひとのからだ1	本授業では、ひとのからだの構造と機能を広く浅く講義し、理解と興味を持ってもらう。 特に循環器、消化器について、臓器の組織学的構造等を示し、基本的な理解を図る。 ひとのからだ1～4を受講することで、ひとのからだの構造と機能の基礎的なことが理解でき、説明可能になることを目的とする。	
		ひとのからだ2	本授業では、ひとのからだの構造と機能を広く浅く講義し、理解と興味を持ってもらう。 特に呼吸器、泌尿器、生殖器について、臓器の組織学的構造等を示し、基本的な理解を図る。 ひとのからだ1～4を受講することで、ひとのからだの構造と機能の基礎的なことが理解でき、説明可能になることを目的とする。	
		ひとのからだ3	本授業では、ひとのからだの構造と機能を広く浅く講義し、理解と興味を持ってもらう。 特に骨、筋について、臓器の組織学的構造等を示し、基本的な理解を図る。 ひとのからだ1～4を受講することで、ひとのからだの構造と機能の基礎的なことが理解でき、説明可能になることを目的とする。	
		ひとのからだ4	本授業では、ひとのからだの構造と機能を広く浅く講義し、理解と興味を持ってもらう。 特に神経、視覚、聴覚について、臓器の組織学的構造等を示し、基本的な理解を図る。 ひとのからだ1～4を受講することで、ひとのからだの構造と機能の基礎的なことが理解でき、説明可能になることを目的とする。	
		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	本授業では、日本の「特別の教科 道徳」、イングランドおよびデンマークでの「宗教」科目を対象として、各国の教育過程での位置づけ、教育内容、評価方法を紹介し、類似点、相違点を中心に討論を行うことで、学生の道徳教育、宗教教育の世界におけるあり方についての知識・理解を深め、そのことについて考えるきっかけを与えることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢の歴史と文化	金沢市内にはその歴史と文化を伝えるさまざまな石川県や金沢市の施設が存在し、観光施設としてだけではなくさまざまな役割を担っている。 本授業では、そうした施設を訪ねてその担当者から直接に施設の概要・役割や職員の仕事内容等を聞き、また各施設やその所蔵品などを見たり、触れたり、体験したりすることで、金沢の歴史と文化を多面的に理解するとともに、こうした文化施設の有効性や今後の文化行政のあるべき姿等を考えることを目的とする。	
	日本の伝統芸能 1	本授業では、日本の伝統芸能の一つである能を通して、日本の伝統文化、特に、三味線や篠笛等、伝統楽器を体験を通して学ぶことにより、日本文化への理解を深めることを目的とする。	
	日本の伝統芸能 2	本授業では、日本の伝統芸能である能や狂言の歴史的背景を学び、さらに体験を通して、その理解を深めることを目的とする。	
	多民族・多文化共生の未来を探る	グローバル化した現代社会の中では、「自己」とは異なる文化・歴史・宗教を背景に持つ「他者」の理解とコミュニケーションが欠かせない。 本授業では、「他者」との共生・共栄の在り方をヨーロッパ中世末期と近代初期の民族史・宗教史を手がかりとして、現代のグローバル社会における自己と他者の関係性について、理解を深めることを目的とする。	
	地域創造学特別講義 C	労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、適正な労働時間や、行政から見た労働、ブラック企業等について講義する。	
	地域創造学特別講義 D	本授業では、労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、男女共同参画や労働組合の基礎知識等について講義する。	
	日本国憲法概説	本授業では、人としての基本的な権利や民主政治の講義を通して、日本国憲法の基本的な解釈・考え方を学ぶことにより、憲法の目的や人権、統治機構の基礎を理解することを目的とする。	
	日本史要説	本授業では、日本の歴史を古代から近現代に至るまで、政治・経済・社会・文化・宗教のみならず、民衆史、女性史などを含めて、相互の関連性に基づいて通観し、その過程において、周辺民族の歴史および関連性、東アジアおよび世界各地との関係性についても講義することで、日本の古代から近現代に至る、政治・社会・文化の変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいか。また、世界史、特に東アジアとの関係における歴史的意義をどのように捉えればよいであろうかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。	
	東洋史要説	本授業では、中国を中心にして東アジア文化圏の歴史を古代から現代までを通観し、東アジア文化圏の歴史的特質を明らかにすることにより、「東アジア、とりわけ中国や朝鮮半島における政治・社会・文化の特徴は何処に見いだせるであろうか」や「世界史のなかでの東アジアの歴史的特質と歴史的意義をどのように捉えればよいであろうか」といった課題に対し、本授業を通して理解を深めることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	本授業では、Skypeによるビデオ会議を通して、海外の大学で日本語を学ぶ大学生と、両国の社会、文化などのテーマについて日本語で深く話し合うことで、互いの国や文化を理解し、自己と自国と世界に関する見識を深めることを目的とする。	
	行政学の基礎	本授業では、行政とは何かや行政の範囲、国や地方の行政の違い等の講義を通じ、行政のしくみやはたらきについて学び、行政現象に関する基本的な事柄を、受講者に認識させ考えさせることを目的とする。	
	ガラスとクリスタルⅠ	地球物質ならびに人工物質の主要な固体物質である、結晶およびガラスはその中で重要な位置を占める固体物質であるが、結晶については基礎的事項として物理や化学の授業でよく取り上げられるものの、重要な特性である周期性についての詳しい説明はすくなく、ガラスについては教養的な授業のレベルでは詳しく触れられることが少なく、よく理解されているとは言い難い。 本授業では、結晶物質としての鉱物を取り上げ、クリスタルの本質についての知識を教授することで、地球物質ならびに人工物質の主要な固体物質である、結晶についてその特徴を理解するとともに、様々な結晶について、そのマクロ・ミクロスケールの性質や構造を理解したうえで、地球や我々の生活のなかでどのような役割を果たしているかを知ることを目的とする。	
	ガラスとクリスタルⅡ	地球物質ならびに人工物質の主要な固体物質である、結晶およびガラスはその中で重要な位置を占める固体物質であるが、結晶については基礎的事項として物理や化学の授業でよく取り上げられるものの、重要な特性である周期性についての詳しい説明はすくなく、ガラスについては教養的な授業のレベルでは詳しく触れられることが少なく、よく理解されているとは言い難い。 本授業では、結晶物質として代表的なガラスを取り上げ、ガラスの本質についての知識を教授することで、地球物質ならびに人工物質の主要な固体物質である、ガラスについてその特徴を理解するとともに、ガラスについて、そのマクロ・ミクロスケールの性質や構造を理解したうえで、地球や我々の生活のなかでどのような役割を果たしているかを知ることを目的とする。	
	ゼミ／角間の里山づくり春編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、春の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
	ゼミ／角間の里山づくり秋編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、秋の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
	コーヒーと社会	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、SDGsや社会・文化とのかかわり等について講義する、	
	コーヒーと科学	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、コーヒーにかかる抽出や焙煎、化学や健康等について講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	地学実験	<p>わが国日本海側のほぼ中央に位置する金沢には、約2000万年前に始まる日本海の形成から現在にいたるまでの自然環境のうつりかわりが地層の中に記録として閉じこめられている。</p> <p>本授業では、金沢の恵まれた地質資産を存分に活かし、これらの地層が分布する場所を実際に野外実習で訪れたり、自分で採集してきた岩石や化石を、実験室の中で顕微鏡を用いてさらに細かく観察したり、分析用試料を作成したりすることで、金沢の自然環境の地質学的なうつりかわりを理解するとともにいまの自然環境について考えることを目的とする。</p>	
	生物学実験	<p>本授業では、現在、生物がどのように分類されているか、それはどのような基準に基づいて行われているか等、細胞や動物・植物などの個体や組織・器官の観察、細胞が行う化学反応の観察、生態系や共生・寄生といった生物間の相互作用などを通して、生物の構造と機能の関係、生物集団の特性等を理解するとともに、さまざまな進化段階にいる生物を材料にすることで、授業で観察している材料が全生物界の中で、どのような進化的位置にいるのかを理解することを目的とする。</p>	
	海洋生化学演習	<p>生化学実験では、既存の操作方法を重視し、原理をあまり理解しないで実験を行う学生が多い。しかし卒業論文実験では、既存の方法だけでは成功しない例が多い。</p> <p>本授業では、海藻、海産魚及び海産無脊椎動物を用いて、タンパク質及び遺伝子レベルの両面から実験を行うとともに、特に原理を重視した教育・指導を行い、実験の原理を理解し、実験を進めるといった姿勢を習得させることを目的とする。</p>	
	英国諸島の地史Ⅰ	<p>英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的な基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。</p> <p>本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習をおとし、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>「英国諸島の地史Ⅰ」では地球の誕生から古生代までをおもに取り扱う。</p>	
	英国諸島の地史Ⅱ	<p>英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的な基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。</p> <p>本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習をおとし、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>「英国諸島の地史Ⅱ」では、中生代から現代にかけてを取り扱う。</p>	
	環境動態学概説Ⅰ	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスとそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれともなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学Ⅰ」ではプレートテクトニクスとそれともなう自然災害問題を主に扱う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目  自由履修科目	環境動態学概説Ⅱ	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれにともなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をとおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学Ⅱ」では地下資源とヒトの問題を主に取り扱う。</p>	
	Pythonデータ分析入門	<p>近年の情報化社会において、人工頭脳の発展もあり、一般社会においてもデータを分析する機会が増えている。日常生活にも、様々なシステムが利用されており、様々な多くのデータが蓄積されている。データ分析を行うことで、集まったデータをもとに推測したり予測を行い、物事の因果関係を分析したり、シミュレーションを行うことが可能になる。</p> <p>解析した内容から、アイデアを生み出したり、ある仮説を立てたり、マーケティング等に利用することで、企業のビジネスに活かせることも多い。それに伴い、多くのデータから何かを導こうとするデータサイエンスの存在感が増してきている。</p> <p>本授業では、プログラム言語としてPython言語を利用して、サンプルデータを用いて、データ分析の実習を行い、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることで、Python言語の基礎的な知識を理解し、データ分析を行うことが可能となり、ビッグデータの扱い方、データ分析手法、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p>	
	プレゼンテーション演習A	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となることを目的とする。</p>	
	プレゼンテーション演習B	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となるとともに、PowerPoint等を使用したプレゼンテーション用資料の作成スキルの獲得や様々なシチュエーションに合わせたプレゼンテーションを準備・実践ができることを目的とする。</p>	
	コンピュータグラフィックス演習Ⅰ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィックス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィックスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>コンピュータグラフィックスの基礎やアピラランス、文字とフォント等について講義する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	コンピュータグラフィクス 演習Ⅱ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィクス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィクスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作して試みることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>演習Ⅰで学んだ基礎を基に練習課題を行うほか、3DCADによる作画等を学ぶ。</p>	
	動画配信サービスを用いた 情報発信演習 A	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。</p>	
	動画配信サービスを用いた 情報発信演習 B	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。さらに、「単に動画を作れば良い」と言うのではなく、作業毎のアウトカム作成に重点をおき、社会・企業の中で求められている（であろう）、プロジェクト立案・推進の方法も学ぶ。</p>	
	プログラミング演習Ⅰ	<p>本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。</p> <p>HTMLやCSS、PerlによるCGIの基本、インタラクティブ処理等について学ぶ。</p>	
	プログラミング演習Ⅱ	<p>本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。</p> <p>サブルーチンや正規表現、JavaScript等について学ぶ。</p>	
	Society5.0 概論	<p>日本政府が謳っているSociety5.0がどのようなものかを理解し、Society5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを考える。</p> <p>授業はSociety5.0に向けた人材に必要とされる、さまざまな知識や技能について、紹介していく。</p>	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	英語セミナー	<p>この授業は、英語の文法や語彙をよく理解し、実生活の中で英語を学ぶことに関心のある学生を対象とし、一般的なトピックについて英語で意見を交換できるようになることと目標とする。</p> <p>授業では、意見を伝えるためだけでなく、他者と同意したり反対したりするためのフレーズや表現を学び、学んだ表現等のテクニックを用いて、導入したトピックについて、ディスカッションする。</p> <p>題材には、配布物、記事、TEDプレゼンテーションを使用し、様々なトピック、例えば、幸せについて、環境、本、映画、健康とフィットネス、社会問題を取り上げる。</p> <p>ディスカッションは少人数のグループで行い、全て英語で進行する。</p>	
	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を主に、特にワールドミュージックとは何かから始め、カリブ海の歴史・現状とその音楽等の視点から、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を、特にコンゴとリンガラ・ポップやアフリカと日本の世界音楽について、世界音楽の問題等に主点を置き、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
	ドイツ語A（充実クラスI-1）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、以下のような文法事項等を学習する。</p> <p>初級文法の確認、再帰代名詞、zu不定詞、形容詞の格変化、受動態、関係代名詞等</p>	
	ドイツ語A（充実クラスI-2）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>文法事項の確認・練習、ドイツ語テキストの講読・読解</p>	
	ドイツ語A（充実クラスII-1）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（趣味、家族、職業、買い物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	
	ドイツ語A（充実クラスII-2）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（ほしい物、自分の部屋、家事、好きな食べ物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	フランス語A（充実クラス I－1）	<p>フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。</p> <p>フランス語を習得するために、初級での学習項目のうちの最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。</li> <li>基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。</li> <li>基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。</li> </ul> <p>本授業では、以下の文法事項等について学習する。</p> <p>フランス語の文字と発音、基本語彙、冠詞、etreとavoir、第一群規則助動詞とfaire、文型SVAとSVO、形容詞、prendre等</p>	
	フランス語A（充実クラス I－2）	<p>フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。</p> <p>フランス語を習得するために、初級での学習項目のうちの最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。</li> <li>基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。</li> <li>基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。</li> </ul> <p>本授業では、以下の文法事項等について学習する。</p> <p>第二群規則動詞、direと文型SVOO、代名詞、rendreと文型SVOA、直接他動詞と間接他動詞、複合過去等</p>	
	フランス語A（充実クラス II－1）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、職業・身分・国籍について、住んでいる所、アルバイト、交通手段、ペット、科目や教科等についてトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。</li> <li>基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。</li> <li>授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	
	フランス語A（充実クラス II－2）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、家事・余暇・習慣・週末/休暇の予定、地理について、過去について等をトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。</li> <li>基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。</li> <li>授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	中国語A（充実クラスⅡ－1）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。また、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める</p> <p>身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。</li> <li>・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。</li> <li>・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。</li> <li>・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。</li> </ul> <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り。 中国語の発音、キャンパス・学食での会話、コンビニや喫茶店での会話等</p>	
	中国語A（充実クラスⅡ－2）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙を定着させ、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める</p> <p>身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。</li> <li>・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。</li> <li>・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。</li> <li>・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。</li> </ul> <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り。 居酒屋・中華料理屋での会話、タクシー乗り場、電車の中での会話、電話をかける、温泉旅行について等</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学域GS科目	医薬保健学基礎Ⅰ	<p>医薬科学類に求められる社会的ニーズおよび責務を、医薬分野にて活躍する社会人講義等を通じて理解し、今後学習することが、どのように自らのキャリアに将来繋がっていくかを理解する。</p> <p>具体的には、将来就く、または関わり合う可能性のある職業の内容を、大学・研究所・企業の研究者等から具体的に説明を受け、学生が早い時期から将来の進路を考えることができる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)  (3 松尾 淳一／2回)  「ガイダンス」「まとめ・総合討論」  (38 松下 良, 1 田嶋 敦／6回) (共同) : ゲストスピーカー  「キャリアパス紹介」</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		医薬保健学基礎Ⅱ	<p>医薬科学類に求められる社会的ニーズおよび責務を、医薬研究・臨床施設見学や医薬保健分野を代表する大学教員等による講義を通じて理解し、今後学習することが、どのように自らのキャリアに将来繋がっていくかを理解する。</p> <p>具体的には、医薬保健領域を代表する研究者等から講義を受け、医療に携わる責任および心構えを学ぶ。また、大学および病院施設見学を通して、医療・研究に関する幅広い素養および実体験を獲得するとともに、学生が早い時期から将来の進路を考えることができる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)  (3 松尾 淳一, 1 田嶋 敦／3回) (共同)  「施設訪問・見学」  (38 松下 良, 40 谷口巧／1回) (共同)  「早期医療体験(救急救命講習)」  (38 松下 良／1回)  「薬害被害者の講演」  (17 中村 裕之／1回)  「医薬保健学域授業「人の健康」」  (23 山本 靖彦／1回)  「医学系授業「愛情のサイエンス」」  (99 松原 孝祐／1回)  「保健学系授業「放射線の性質」」</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
専門教育科目	学域GS言語科目	医薬科学英語Ⅰ	<p>医薬科学を英語で理解する能力を高める。とりわけ医薬科学の研究の実践に必要とされる英語読解能力の向上を目標とする。医学系、薬学系、生命科学系、化学系など様々な分野の英語で書かれた学術論文を読み、要約した上でディスカッションを行う。これを通して、学術論文読解に必要な語彙、文法、表現等を学び、学術論文読解力を身につける。</p>	共同・クラス分け
		医薬科学英語Ⅱ	<p>医薬科学を英語で理解する能力を高める。とりわけ医薬科学の研究の実践に必要とされる英語リスニング能力の向上を目標とする。医学系、薬学系、生命科学系、化学系など様々な分野の外国人によるセミナー等の動画等を見て、要約した上でディスカッションを行う。これを通して、外国語によるセミナーを理解するのに必要な語彙、文法、表現等を学び、英語リスニング能力を身につける。</p>	共同・クラス分け

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目	基礎人体解剖学	<p>人体の構造を理解する最も基本的な手段は、人体や動物体を解剖してその形態を肉眼や顕微鏡で観察することである。            医薬科学研究に必要な人体構造の概略を説明できることを到達目標とする。</p> <p>肉眼解剖学：肉眼レベルの人体構造およびその研究法について概説する。            顕微解剖学：顕微鏡レベルの人体構造（組織・臓器の構成、機能分化など）およびその研究法について概説する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)            (13 尾崎 紀之／2回)            「泌尿器系, 生殖器系, 内分泌系, 外皮, 感覚器系の肉眼的構造」            (81 奥田 洋明／1回)            「循環器系, 血液, 造血器, リンパ系の肉眼的構造」            (156 石川 達也／1回)            「消化器系, 呼吸器系の肉眼的構造」            (167 堀 紀代美／1回)            「筋・骨格系の肉眼的構造」            (18 西山 正章／3回)            「細胞集団としての組織・臓器の構成, 機能分化, 循環器系, 造血器系, 消化器系の正常構造と機能」</p>	オムニバス方式
	基礎人体構造学	<p>人体の構造を理解する最も基本的な手段は、人体や動物体を解剖してその形態を肉眼や顕微鏡で観察することである。            医薬科学研究に必要な人体構造の概略を説明できることを到達目標とする。</p> <p>顕微解剖学：顕微鏡レベルの人体構造（呼吸器系・内分泌系の正常構造と機能など）およびその研究法について概説する。            神経解剖学：神経系の構造およびその研究法について概説する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)            (18 西山 正章／2回)            「呼吸器系, 内分泌系, 泌尿器系, 生殖器系の正常構造と機能」            (21 堀 修／3回)            「神経系の構造(区分)及び特徴, 終脳の構造及び機能」            (88 服部 剛志／1回)            「脳幹, 小脳, 脊髄の構造及び機能」            (162 賽田 美佳／1回)            「自律神経の構造及び機能」            (9 石井 宏史／1回)            「脊髄神経と脳神経の構造及び機能」</p>	オムニバス方式
	基礎人体機能学	<p>人体の生命現象を担う心臓, 肺, 消化器, 中枢神経系などの器官の働きとその調節, 各臓器間の相互作用, 疾病との関連における基礎知識を概説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>細胞生理, 循環器, 呼吸器, 消化器, 内分泌, 腎, 血液</li> <li>神経細胞の分子生理学, 感覚機能, 運動制御, 脳の高次機能・統合機能</li> </ul> <p>(オムニバス方式／全8回)            (22 三枝 理博／2回)            「感覚機能, 運動制御, 統合機能」            (91 前島 隆司／1回)            「神経細胞の分子生理学」            (85 杉本 直俊／1回)            「消化器, 腎」            (148 吉岡 和晃／2回)            「細胞生理, 呼吸器, 内分泌」            (154 安藝 翔／1回)            「循環器, 血液」            (163 津野 祐輔／1回)            「高次機能」</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	基礎分子細胞生物学	<p>医学・薬学を学ぶ上で生命科学の基礎知識を身につけることが必須である。本科目は、高校で生物を履修しなかった学生を想定し、基礎生物化学（専門基礎科目）、細胞・分子生物学（共通教育GS科目）と合わせて、コース分け後に開講される高度な専門科目への橋渡しの役割を担う。まず、遺伝学の基礎、ゲノムの構造と進化やその解析法について学び、ゲノム情報が子孫に受け継がれていく仕組みとその進化について理解する。次に、細胞が生きて活動していくためにはエネルギーが必要であるが、それを生産する仕組みの基礎を学んで概略を理解する。さらに、我々の体に備わっている病原体から身を守る免疫システムの基本概念を理解し、疾病との関わりについても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)            (4 松永 司／4回)            「遺伝学の基礎、ゲノムの構造と進化やその解析法」            (39 吉田 栄人／2回)            「代謝とエネルギー生産」            (101 伊従 光洋／2回)            「免疫システム」</p>	オムニバス方式
	基礎生物化学	<p>生命現象とは、細胞を構成するさまざまな低分子化合物や高分子化合物による化学反応の総体である。したがって、生命を理解するためには生体内化合物の構造と性質を理解することが重要である。本科目では、生体内高分子化合物のうち主にタンパク質、糖質及び脂質に焦点を当てて基本的な知識を習得することを目的とする。本科目の前半部分では、タンパク質の構造の基礎を理解し、タンパク質の働き の例として酵素の基本的な性質を学ぶ。後半部分では、糖質及び脂質の構造を理解し、脂質やタンパク質から構成される生体膜の基本構造と働きを学ぶ。以上により、生体内分子の構造と機能に基づいて生命の恒常性が維持される本質的な仕組みを理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)            (103 倉石 貴透／5回)            「タンパク質の構造と機能、酵素」            (11 棟居 聖一／3回)            「糖質、脂質、生体膜」</p>	オムニバス方式
	物理有機化学	<p>有機化学の基礎となる分子の成り立ちや性質について物理的及び化学的側面から理解する。具体的には、原子軌道と分子軌道の概念や性質、エネルギー、あるいは原子と原子の結合の様式とその特徴や強さについて学ぶ。また、医薬品の合成に関する様々な反応を学ぶために必要な、反応論の基本的考え方や酸塩基理論を修得する。さらに、医薬品に多くみられ、その活性に直接関わる分子の立体化学について、不斉の概念とそれに基づく立体配置と立体異性体について理解する。</p>	
	基礎医薬化学	<p>医薬化学の基礎となる知識を習得するために、医薬品の骨格を成す炭化水素のなかで最も基本的なアルカン類について、その種類、構造、物性、簡単な反応を学ぶ。また、医薬品に多くみられ、その活性に直接関わる分子の立体化学について、単結合の回転などの分子運動とそれによってもたらされる分子の空間的な構造変化について、アルカン類の代表的な立体配座などを通して理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)            (34 國嶋 崇隆／5回)            「構造と反応性・立体化学」            (3 松尾 淳一／3回)            「アルカンの反応」</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎有機反応学	<p>ハロアルカンの物理的性質，求核置換反応，極性官能基の関与する反応（矢印を用いた電子移動），求核置換反応の速度論的考察，SN2反応の立体化学，SN2反応の生成物，SN2反応性と脱離能，SN2反応における求核性の影響，SN2反応におけるアルキル基の影響，第三級ならびに第二級ハロアルカンの加溶媒分解，SN1反応，SN1反応の立体化学，SN1反応に対する溶媒，脱離基，求核剤の影響，SN1反応に対するアルキル基の影響，E1反応，E2反応，置換反応と脱離反応の競争，アルコールの命名，アルコールの構造と物理的性質，酸，塩基としてのアルコール，アルコールの工業原料について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）            (30 大宮 寛久／6回)            「ハロアルカンの性質，ハロアルカンの反応」            (182 長尾 一哲／1回)            「ヒドロキシ官能基」            (179 隅田 有人／1回)            「E2反応」</p>	オムニバス方式
	基礎医薬合成学	<p>医薬品に多く見られるアルコール，エーテル類の合成法を理解するために，それぞれの化学反応性，分光法を学ぶ。また，医薬品を合成する基本的な考え方（逆合成解析）をアルコールとエーテルの合成法を通じて学ぶ。</p> <p>求核置換反応によるアルコールの合成，カルボニル化合物からアルコールの合成，アルコール合成用炭素供給源としての有機金属反応剤，複雑なアルコールの合成を例に合成戦略（入門編），アルコールと塩基の反応，アルコールと強酸の反応，カルボカチオンの転位反応，アルコールの酸エステル，エーテルの名称と物理的性質，Williamson エーテル合成法，アルコールと無機酸によるエーテル合成，オキサシクロプロパンの反応，アルコールおよびエーテルの硫黄類縁体について理解する。</p> <p>分光法の定義，<sup>1</sup>H NMR，水素の化学シフト，NMRにおける化学的等価性，積分，スピンスピン分裂について理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）            (30 大宮 寛久／2回)            「アルコールの合成」            (182 長尾 一哲／1回)            「アルコールの反応」            (179 隅田 有人／2回)            「エーテルの化学」            (6 後藤 享子／3回)            「NMR分光法による構造決定」</p>	オムニバス方式
	基礎分析化学	<p>分析化学は，創薬科学，生命科学，衛生化学などのあらゆる分野で不可欠な基礎知識および基礎技術となっている。分析化学の基礎である化学物質の性質に基づいた物質の定性分析，定量分析を行うことについて，容量分析を中心に分析法の基礎・概念・手法を学び，水と試薬，単位と濃度，定量分析，容量分析，酸塩基平衡，中和滴定，非水滴定，錯体・キレート生成平衡，キレート滴定，沈殿平衡，沈殿滴定，酸化還元反応，酸化還元滴定などに関して理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）            (31 小川 数馬／4回)            「序論，定量分析概論，錯体・キレート生成平衡，キレート滴定，沈殿平衡，沈殿滴定」            (176 黄檗 達人／3回)            「容量分析概論，酸塩基平衡，中和滴定，非水滴定」            (10 福吉 修一／1回)            「酸化還元反応，酸化還元滴定」</p>	オムニバス方式
専門共通科目	国際医薬科学 I	<p>医薬科学研究を世界に発信するために必要とされるプレゼンテーション能力の向上を目的とする。とりわけ，学会等での英語によるプレゼンテーションの基礎・応用について身につけることを到達目標とする。英語を母国語とする教員を中心に授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画や資料を見て，プレゼンテーションの構成について学習する。</li> <li>・英語での発表に必要な技術（専門用語の発音など）を習得する。</li> <li>・英語での研究発表を行う。</li> </ul>	共同・クラス分け

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門 共通科目	国際医薬科学Ⅱ	<p>医薬科学研究を世界に発信するために必要とされるライティング能力の向上を目的とする。英語論文作成の基礎・応用について身につけることを到達目標とする。英語を母国語とする教員を中心に授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で書かれた学術論文を見て、論文の基本構成等について学習する。</li> <li>・学術英語ライティングに必要な技術（論文の組み立て方など）を習得する。</li> <li>・医薬科学に関する小論文を英語で書く。</li> </ul>	共同・クラス分け
		医薬科学イノベーション概論	<p>イノベーションとは単なるインベンションでなく、社会変革をおこすことと理解し、医療分野での社会的ニーズを探り、医薬品、医療機器開発歴史や現在の先端医療テクノロジーの応用の取り組み例から、その過程で必要とされる基礎的な知識などを概説する。メディカル・イノベーションとは何かを学び、医療における社会課題から、先端医療テクノロジーを用いたイノベーションアイデアを創出、実効性を検討する。</p> <p>第1回：イノベーションとは？ 第2回：医療分野のニーズ。 第3回：医薬品、医療機器の開発歴史と先端医療テクノロジーの応用の取り組み。 第4回：医療経済と医療分野マーケティング 第5回：医療分野の知財・特許 第6回：医療分野の統計解析概論 第7回：レギュラトリーサイエンス 第8回：医療分野におけるイノベーション案の創出と検討</p>	共同
		医薬科学研究者入門	<p>将来、自立した科学者／研究者となる道を歩み始めるにあたり、本授業では、科学者／研究者とはどのような職業か、研究とはどのような活動かなどまず解説した上で、基礎研究の使命、科学や科学者／研究者がもつ社会的責任、研究に必要な倫理・行動規範等について共に考えさせ、理解させる。また、各コースの詳細について紹介し、コース選択に必要な情報を提供する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (1 田嶋 敦／1回) 「科学者／研究者とは、基礎研究の使命、科学や科学者／研究者がもつ社会的責任」 (3 松尾 淳一／1回) 「研究(者)倫理」 (1 田嶋 敦／1回) 「研究者のフィロソフィー①」 (2 華山 力成／1回) 「研究者のフィロソフィー②」 (34 國嶋 崇隆／1回) 「研究者のフィロソフィー③」 (36 玉井 郁巳／1回) 「研究者のフィロソフィー④」 (2 華山 力成／1回) 「生命医科学コースの説明」 (4 松永 司／1回) 「創薬科学コースの説明」</p>	オムニバス方式
		医薬科学研究者養成Ⅰ	<p>様々な学問領域で活躍する学内の研究者のセミナーを聴講し、サロン等で討論することを通じて、論理的な質疑応答の方法等を習得する。また、自分の具体的なキャリアプランをイメージすることによって、研究者としてのキャリアパスを考える。</p>	共同(一部)・クラス分け
		医薬科学研究者養成Ⅱ	<p>様々な学問領域で活躍する学外の研究者のセミナーを聴講し、サロン等で討論することを通じて、研究を立案・展開するのに必要な素養を身につける。また、他者の意見等も考慮して、研究者としての自身のキャリアプランを具体化することを目標とする。</p>	共同(一部)・クラス分け
		医薬科学先端領域特論	<p>学外の先端研究者の英語セミナーを聴講し、サロン等で討論することを通じて、自立した研究者に必要とされる素養・態度(英語での論理的な質疑応答や研究成果発信の方法等)を身につける。</p>	共同(一部)・クラス分け



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門共通科目	医薬科学基礎実習	両コースの「医薬科学基礎ローテーション実習」が始まる前に、生命医科学研究及び創薬科学研究における実験を行う際の一般的注意や心構えについて学んだ後、危険物や劇物試薬や実験器具の取り扱い、廃棄物の処理等、今後必要となる知識や技能を簡単な実験を通じて身につける。さらに、実験記録のとり方、実験データの整理・解析の仕方、論理的な考察をもとにレポートを書く方法について習得する。	共同
		医薬科学基礎ローテーション実習（生命医科学コース）I	生命医科学研究全般において共通して使用される器具・機器等の扱いに習熟し、種々の実験（生化学実験、生理学実験、組織学実験、病理学実験、動物実験、細胞実験等）における各種分析法・検定法等を習得することを目的とする。	共同
		医薬科学基礎ローテーション実習（生命医科学コース）II	各研究室で行われている最先端の研究に触れ、研究活動への関心や理解を深めるとともに、様々な研究領域を直接体験することで学問的視野を広げる。これにより、個々人の学問的興味の指向性を明確にし、3年次第2クォーターから4年次の卒業研究や大学院進学後の研究活動に積極的に取り組むモチベーションと姿勢を涵養する。この科目は、自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。	共同
		医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース）I	化学実験に使用される器具・機器の扱いに習熟し、化合物の定性・定量で使われる分析法について理解を深めるため、各種分析法（容量分析・分離分析・放射線分析・吸光度分析）について習得する。化学現象・生命現象を解明するために必要な測定法とデータの解析法について学習する。種々の測定を行い、データを解析することによって、物理化学における法則や重要概念を学ぶ。 本実習は学生の自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成する。実験を通して代表的な分子分光学や化学反応の解析法を理解説明できることを目標とする。 なお、本実習は延べ10日間にわたり実施する。  (オムニバス方式/全10回) (31 小川 数馬, 176 黄檗 達人/6回) (共同) 「実習の導入, HPLCによる定量, RIの取扱, 中和滴定, メチルレッドの吸収スペクトルからのpKaの算出, 酸化還元滴定」 (106 高橋 広夫, 10 福吉 修一/4回) (共同) 「吸着現象, 反応速度, 吸光測定」	オムニバス方式・共同
		医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース）II	「食品衛生試験」, 「水質環境試験」, 「大気環境試験」, 「室内環境試験」など、衛生試験法に準じた主要試験法について学習する。本実習を通して、国民保健の維持向上の観点から、食品管理、公衆衛生に加えて、環境問題も含めた衛生学全般の知識を学習すると同時に、各試験法の測定原理や測定装置の取り扱い方など基本的技能と態度を小グループ制の参加型実習により習得する。 なお、本実習は延べ7日間にわたり実施する。	共同
		医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース）III	有機化学実験の基本操作を、脱水縮合剤の合成とアミド化反応を通じて習得する。続いて、基本的な有機反応実験を行い、分子の反応性について理解を深める。その後、低分子医薬品の合成を行うことで、多段階合成について学修する。また、天然物の抽出、単離、構造決定を行い、化合物の精製法及びスペクトル解析を含む同定法を学修する。この実習は、自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。 なお、本実習は延べ25日間にわたり実施する。  (オムニバス方式/全25回) (34 國嶋 崇隆, 188 三代 憲司/7回) (共同) 「基本操作」 (30大宮 寛久, 182 長尾 一哲, 179 隅田 有人/7回) (共同) 「基本的な有機反応」 (3 松尾 淳一, 111 吉村 智之, 102 内山 正彦/7回) (共同) 「医薬品の合成」 (6 後藤 享子, 178 齋藤 洋平/4回) (共同) 「天然物」	オムニバス方式・共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門共通科目	医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース） IV	<p>伝統医学・漢方治療の拡大とともに生薬の重要性は高まっている。加えて中国産生薬から国産への切り換えなど、鑑別および品質評価する能力が要求されるようになっている。本実習では代表的な漢方生薬について生産、基源、特色および含有成分などに関する基本的事項を修得する。また薬用植物園にて実際に薬草苗の定植、収穫を体験し、加工調製を行い製品化までの工程を学ぶ。</p> <p>日本で使用されている代表的な生薬を正しく鑑別し、また調剤するための基礎技術を身につける。薬用植物園で生薬原植物の観察、栽培実習、実習室での実験を通じて、代表的な生薬の基源、鑑別法、内部形態、確認試験を実際に行なえるようになる。この科目は、自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <p>なお、本実習は延べ8日間にわたり実施する。</p>	共同
	医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース） V	<p>本実習では、これまでに学習し蓄積してきた生化学や分子生物学、細胞生物学に関する知識をもとにして、実際にモデル実験を行うことにより、生物材料の扱い方を学び、生物系実験で用いる解析技術や器具・機器・試薬等の取り扱い方法を身につける。具体的には、以下の3つのシリーズ（各7日間）の実験を行い、上記のほか、生物系実験の記録のとり方、データ整理の方法、実験データの解釈・考察の道筋等についても学ぶ。この科目は、自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体試料から細胞構成成分を分離する。基礎的な実験手法を習得する。講義で学んだ生体成分の化学的性質や働きを実験で確認することにより、知識を有機的に結びつけて考える力を養う。</li> <li>2. 動物由来培養細胞を用いた基礎的な実験手法を習得し、実験材料として用いる有利さを理解する。</li> <li>3. 細菌の取り扱いと遺伝子工学の基礎を習得するとともに、それを利用した組み換えタンパク質の発現技術および解析法を学ぶ。また、微生物取り扱いの基礎であるグラム染色法を習得する。さらに、免疫学的手法による特異的なタンパク質の検出法を学ぶ。</li> </ol> <p>なお、本実習は延べ21日間にわたり実施する。</p> <p>（オムニバス方式／全21回）            （103 倉石 貴透, 186 堀 亜紀／7回）（共同）            上記1のシリーズの実験を担当する。            （4 松永 司, 113 若杉 光生／7回）（共同）            上記2のシリーズの実験を担当する。            （39 吉田 栄人, 180 田村 隆彦, 101 伊従 光洋／7回）（共同）            上記3のシリーズの実験を担当する。</p>	オムニバス方式・共同
	医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース） VI	<p>まるごとの動物に対する薬の作用を確かめることは薬学研究の基本操作であり、薬学部生にとって実験動物を直接に触れ、解剖し臓器を摘出するといった作業は不可避の重要な経験である。また薬の作用を定性的に評価し観察記録すること、定量的に測定し解析すること等の実験を通し、薬物の生体に及ぼす作用の本質を考え、生命倫理の涵養と薬理学的思考を身につける機会とする。</p> <p>実験動物に直接触れることができるのは本実習のみなので、薬物投与方法の練習を通じて、必ず一度は動物に触れるとともに、薬理作用出現の不思議さを体感することを目標とする。さらに、実験動物の解剖実習を通じて、生命に対する畏敬の念の涵養と、ヒト各臓器の構造と機能との相同性と相違性を理解することを期待したい。本科目は自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <p>なお、本実習は延べ6日間にわたり実施する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース） VII	<p>薬効や副作用を体内の薬物動態から定量的に理解できるようになるために、薬物動態の理論的解析に関する基本的知識と技能を修得する。また、製剤化の方法と意義を理解するために、医薬品への加工に関する技能ならびに製剤の物理化学的特性に関する基本的知識を修得する。</p> <p>薬物の生体内運命を理解するために、吸収、分布、代謝、排泄の過程に関する基本的知識とそれらを解析するための基本的技能を修得する。また、薬物(薬理活性化合物)と製剤添加物の性質を理解し、それらの特性を応用するための製剤化に関する基本的知識および技能を修得する。自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <p>なお、本実習は延べ13日間にわたり実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全13回) (37 中嶋 美紀, 110 深見 達基, 184 中野 正隆, 36 玉井 郁巳, 177 小森 久和/1回) (共同) 「実習の内容, 準備, 注意点など」 (37 中嶋 美紀, 110 深見 達基, 184 中野 正隆/6回) (共同) 「薬物代謝酵素の誘導と阻害, 速度論的解析, 遺伝子多型解析」 (36 玉井 郁巳, 177 小森 久和/6回) (共同) 「製剤試験, トランスポーター活性解析, 薬物動態パラメータ解析」</p>	オムニバス方式・共同
	医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース） VIII	<p>各研究室で行われている最先端の研究に触れ、研究活動への関心や理解を深めるとともに、様々な研究領域を直接体験することで学問的視野を広げる。これにより、個々人の学問的興味の指向性を明確にし、4年次の卒業研究や大学院進学後の研究活動に積極的に取り組むモチベーションと姿勢を涵養する。この科目は、自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <p>各研究室で行なわれている専門的な研究内容について、研究の意義、目的、アプローチの手段、その他を学び、基礎薬学・創薬科学領域における研究とは何かを会得し、自身に適した研究分野を見つけ、今後の進路決定に役立つ経験を身につけることを目標とする。</p> <p>なお、本実習は延べ8日間にわたり実施する。</p>	共同
	医薬科学特別演習	<p>他者の発表を理解し、また自ら発表することにより、自己の研究能力を深める。</p> <p>本科目は、3年次に履修する実践的な科目に該当する。すなわち、卒業論文発表会へ出席し、他者の発表に対する理解と質疑を行う。また、その結果をレポートにまとめる。他者の発表を理解し、質疑をすることにより、情報収集能力、研究方法の改善、類似研究の学習、問題解決能力の向上等を期待する。</p>	
	医薬科学試問	<p>本履修者が他の履修者の前で自己の研究内容を提示し、その質疑応答に対応できる情報収集・発信能力と問題解決能力を習得するとともに、類似研究の内容も理解できるようにする。</p> <p>本科目は、4年次に履修する実践的な科目に該当する。すなわち、卒業論文発表の資料作成および卒業論文発表である。自己の研究内容を相手に明確・端的にわかりやすく伝えることおよび質疑に回答することにより、自身の研究への理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力を養う。</p>	
コース専門科目	人体解剖学 I	<p>ヒトの生理的機能やその異常としての疾病・傷害における病態生理を理解するために、その基盤となる人体の正常構造を系統的に理解し修得する。ヒトの正常構造を、それが作られる過程・しくみ(発生学)、他の生物との違い(比較解剖学)、ヒトの進化の過程(系統発生学)を踏まえたうえで、どうしてそのような構造をしているのか説明できることを目標とする。人体解剖学 I では人体の基本構造や人体を構成する器官系の構造に加え、内臓を中心として個々の臓器の構造について概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 尾崎 紀之/11回) 「解剖学総論・骨学・解剖学各論」 (81 奥田 洋明/2回) 「循環系・脈管系・消化器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・造血器リンパ系総論」 (167 堀 紀代美/1回) 「筋系・呼吸器系総論」 (156 石川 達也/1回) 「末梢神経系・感覚器系総論」</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	人体解剖学Ⅱ	<p>ヒトの生理的機能やその異常としての疾病・傷害における病態生理を理解するために、その基盤となる人体の正常構造を系統的に理解し修得する。ヒトの正常構造を、それが作られる過程・しくみ（発生学）、他の生物との違い（比較解剖学）、ヒトの進化の過程（系統発生学）を踏まえたうえで、どうしてそのような構造をしているのか説明できることを目標とする。人体解剖学Ⅱでは、器官系を構成する個々の器官・臓器の構造について概説する。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）            （13 尾崎 紀之／26回）            「解剖学各論」            （81 奥田 洋明／2回）            「解剖学各論」            （167 堀 紀代美／1回）            「解剖学各論」            （156 石川 達也／1回）            「解剖学各論」</p>	オムニバス方式
	組織学Ⅰ	<p>医学の最も基本となるものは人体構造の理解である。ヒトおよび高等哺乳動物の体は、分子、小器官、細胞、組織、器官、器官系、個体という階層的構造からなる。構造のあるところに機能が生まれる。</p> <p>細胞学および組織学総論として開講される以下の講義を通じて、人体を構成する細胞・組織の基本的構造を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 総論</li> <li>2) 上皮</li> <li>3) 腺</li> <li>4) 結合組織</li> <li>5) 筋組織</li> <li>6) 神経組織</li> </ol>	
	組織学Ⅱ	<p>組織学各論として、次の項目について講義を行う。全身の器官の微細構造を学んでその機能の理解を助ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 循環器系</li> <li>2) リンパ系</li> <li>3) 外皮系</li> <li>4) 消化器系</li> <li>5) 呼吸器系</li> <li>6) 泌尿器系</li> <li>7) 感覚器系</li> <li>8) 内分泌系</li> <li>9) 生殖器系</li> </ol>	
	神経解剖学Ⅰ	<p>脳及び脊髄の基本的な構造及び機能を理解すると共に、主な神経路についての知識を習得する。本授業では、特に脳各部位（終脳、間脳、脳幹、小脳）及び脊髄の構造について講述する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大脳皮質</li> <li>2. 大脳基底核</li> <li>3. 間脳</li> <li>4. 脳幹</li> <li>5. 小脳</li> <li>6. 脊髄</li> </ol> <p>（オムニバス方式／全12回）            （21 堀 修／10回）            「神経系の構成、終脳、大脳基底核、脊髄、脳幹、小脳、脳神経の構造と機能」            （162 寶田 美佳／1回）            「間脳（視床）の構造と機能」            （9 石井 宏史／1回）            「間脳（視床下部）の構造と機能」</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	神経解剖学Ⅱ	<p>脳及び脊髄の基本的な構造及び機能を理解すると共に、主な神経路についての知識を習得する。本授業では、特に錐体路、錐体外路、感覚路、自律神経、および高次神経に関して、その神経路の構成を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 反射</li> <li>2. 錐体路</li> <li>3. 錐体外路</li> <li>4. 体性感覚路</li> <li>5. 自律神経系</li> <li>6. 大脳辺縁系</li> <li>7. 脳血管</li> </ol> <p>(オムニバス方式／全12回) (21 堀 修／9回) 「大脳辺縁系、反射、錐体路、錐体外路、体性感覚路の構造と機能」 (162 寶田 美佳／2回) 「自律神経系の構造と機能」 (9 石井 宏史／1回) 「脳血管の構造と機能」</p>	オムニバス方式
	発生学Ⅰ	<p>人の発生過程で起こるダイナミックな変化と、その異常に関連する疾患について学ぶ。本授業では、総論として、受精、胚盤期、胚子期、胎児期で起こる変化について概説する。</p> <p>人体発生学総論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生殖形成</li> <li>2. 発生第1週から第3週</li> <li>3. 発生第3週から第8週</li> <li>4. 発生第3ヶ月から出生</li> </ol>	
	発生学Ⅱ	<p>人の発生過程で起こるダイナミックな変化と、その異常に関連する疾患について学ぶ。本授業では、各論として、胚子期、胎児期でおこる各器官の形成、成熟について具体的に説明し、それらの異常により引き起こされる疾患についても講述する。</p> <p>人体発生学各論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化器系の発生</li> <li>2. 呼吸器、感覚器（視覚・聴覚器）の発生</li> <li>3. 神経系の発生</li> <li>4. 泌尿器・生殖器の発生とその異常</li> <li>5. 循環器系の発生とその異常</li> <li>6. 筋・骨格系の発生とその異常</li> </ol> <p>(オムニバス方式／全15回) (21 堀 修／10回) 「消化器系、呼吸器、感覚器（視覚・聴覚器）、泌尿器・生殖器、循環器系の発生とその異常」 (162 寶田 美佳／1回) 「筋骨格系の発生とその異常」 (88 服部 剛志／4回) 「神経系の発生とその異常」</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	器官生理学Ⅰ	<p>正常な人体機能の基本的知識の習得。人体の生命現象を担う、中枢神経系を除くすべての器官の働きとその調節、各臓器間の相互作用、疾病との関連における基礎知識を習得する。生命にかかわりを持つ職業人としての基礎を涵養すると同時に、将来基礎医学を専攻するに際しても、生命科学者としての豊かなコモン・センスを習得する。</p> <p>1. 総論 1 体液・細胞膜            2. 総論 2 生体膜輸送            3. 総論 3 細胞内情報伝達            4. 循環器：心臓1            5. 循環器：心臓2            6. 循環器：血管1            7. 循環器：血管2            8. 循環器まとめ            9. 呼吸器 1            10. 呼吸器 2            11. 呼吸器 3            12. 血液ガスと酸塩基平衡            13. 消化器 1            14. 消化器 2            15. 消化器 3</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (85 杉本 直俊／7回)            「総論、循環器、呼吸器、ガスと酸塩基、消化器」            (148 吉岡 和晃／7回)            「総論、循環器、呼吸器、消化器」            (154 安藝 翔／1回)            「循環器」</p>	オムニバス方式
	器官生理学Ⅱ	<p>正常な人体機能の基本的知識の習得。人体の生命現象を担う、中枢神経系を除くすべての器官の働きとその調節、各臓器間の相互作用、疾病との関連における基礎知識を習得する。生命にかかわりを持つ職業人としての基礎を涵養すると同時に、将来基礎医学を専攻するに際しても、生命科学者としての豊かなコモン・センスを習得する。</p> <p>筋肉 1：骨格筋            筋肉 2：平滑筋            腎・尿路 1            腎・尿路 2            腎・尿路 3            体温            内分泌1総論            内分泌2視床下部・下垂体            内分泌3甲状腺・副甲状腺            内分泌4副腎            内分泌5膵島 生殖            血液 1：血液総論・造血            血液 2：赤血球            血液 3：白血球            血液 4：止血            病態生理</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (85 杉本 直俊／7回)            「腎、体温、内分泌」            (148 吉岡 和晃／7回)            「筋肉、血液」            (154 安藝 翔／1回)            「病態生理」</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	神経生理学Ⅰ	<p>動物は感覚機能、運動機能、自律機能、高次脳機能などにより、外界の状況に応じ適切に反応・行動する。神経系によるこれらの機能の制御メカニズムを理解することが本授業の主題である。神経細胞の生理学的性質、感覚機能、運動機能、自律機能、高次脳機能などの神経系の機能のメカニズムを、分子、細胞、生体レベルで説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞の興奮と情報伝達 ニューロンとグリア、静止膜電位、活動電位、興奮伝導、神経伝達物質、神経伝達物質受容体、シナプス伝達、神経細胞内情報伝達系</li> <li>2. 感覚機能 感覚機能総論、体性感覚、聴覚と平衡感覚</li> <li>3. 運動機能 脊髄、脳幹、大脳皮質運動野</li> </ol> <p>(オムニバス方式／全15回) (22 三枝 理博／4回) 「神経生理学序論、ニューロンとグリア、脳幹、大脳皮質運動野」 (14 河崎 洋志／2回) 「感覚機能総論、体性感覚」 (26 佐藤 純／2回) 「神経伝達物質、神経細胞内情報伝達」 (91 前島 隆司／5回) 「静止膜電位、活動電位、興奮伝導、神経伝達物質受容体、脊髄」 (84 新明 洋平／1回) 「聴覚・平衡感覚」 (163 津野 祐輔／1回) 「シナプス伝達」</p>	オムニバス方式
	神経生理学Ⅱ	<p>動物は感覚機能、運動機能、自律機能、高次脳機能などにより、外界の状況に応じ適切に反応・行動する。神経系によるこれらの機能の制御メカニズムを理解することが本授業の主題である。神経細胞の生理学的性質、感覚機能、運動機能、自律機能、高次脳機能などの神経系の機能のメカニズムを、分子、細胞、生体レベルで説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感覚機能 視覚、嗅覚と味覚、痛覚と温度覚、感覚系の応用</li> <li>2. 運動機能 大脳基底核、小脳</li> <li>3. 自律機能 自律神経系、視床下部、動機づけ行動、概日リズム</li> <li>4. 高次機能 情動、報酬系、大脳皮質連合野、学習と記憶、睡眠と覚醒</li> </ol> <p>(オムニバス方式／全15回) (22 三枝 理博／8回) 「痛覚と温度覚、大脳基底核、視床下部、動機づけ行動、概日リズム、情動と報酬系、大脳皮質連合野、睡眠と覚醒」 (14 河崎 洋志／2回) 「感覚系の応用、自律神経系」 (91 前島 隆司／1回) 「小脳」 (84 新明 洋平／2回) 「視覚」 (168 松本 直之／1回) 「嗅覚と味覚」 (163 津野 祐輔／1回) 「学習と記憶」</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	生化学Ⅰ	<p>細胞や生体内の各種の分子の構造と機能及びそれらが織りなす生化学反応を学び、細胞から個体レベルにわたる各種の生命現象を理解・考察するのに必要な基礎知識を身につける。</p> <p>今日、生化学・分子生物学は、あらゆる生命科学領域の共通言語となっており、これらの基礎知識を身につける事は医薬科学類学生にとって極めて重要である。またサイエンスは日々進化するので医薬科学類学生もその進歩に合わせて知識を更新する必要がある。講義では教科書に記載されている事項はもちろん、最新の医学研究トピックについても触れる。</p> <p>(1) ゲノム・染色体の構造と機能 (2) 蛋白質の化学、構造と機能 (3) 酵素総論、酵素反応論 (4) アミノ酸代謝 (5) 遺伝子の複製・修復・組換え (6)ヌクレオチド代謝 (7) 転写 (8) 遺伝子の発現とその調節機構</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (15 倉知 慎／8回)            「ゲノム・染色体の構造と機能」「遺伝子の複製・修復・組換え」「転写」「遺伝子の発現とその調節機構」            (80 榎並 正芳／7回)            「タンパク質の化学、構造と機能」「酵素」「アミノ酸代謝」「ヌクレオチド代謝」</p>	オムニバス方式
	生化学Ⅱ	<p>細胞や生体内の各種の分子の構造と機能及びそれらが織りなす生化学反応を学び、細胞から個体レベルにわたる各種の生命現象（健康と病的な状態を問わず）を理解・考察する基礎を身につける。今日、生化学・分子生物学は、あらゆる生命科学領域の共通言語となっており、これらの基礎を重点的に学ぶとともに、最近の新しい解析技術や分子メカニズム、分子間ネットワークなどの生命科学や医学の発展についても学ぶ。</p> <p>(1) 核酸の化学、構造と機能 (2) 糖、脂質、ヌクレオチドの生化学 (3) 糖代謝 (4) 遺伝子の複製・修復・組換え (5) 脂質代謝 (6) 遺伝子の発現とその調節機構 (7) 細胞内情報伝達 (8) 酸化ストレス (9) 進化</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (23 山本 靖彦／7回)            「核酸の化学、構造と機能。糖の生化学、糖代謝。遺伝子の複製・修復・組換え、発現調節」            (11 棟居 聖一／4回)            「脂質、ヌクレオチドの生化学」            (165 原島 愛／2回)            「脂質代謝および細胞内情報伝達」            (159 木村 久美／2回)            「酸化ストレスと進化」</p>	オムニバス方式
	生化学Ⅲ	<p>細胞や生体内の各種の分子の構造と機能及びそれらが織りなす生化学反応を学び、細胞から個体レベルにわたる各種の生命現象を理解・考察するのに必要な基礎知識を身につける。</p> <p>今日、生化学・分子生物学は、あらゆる生命科学領域の共通言語となっており、これらの基礎知識を身につける事は医薬科学類学生にとって極めて重要である。またサイエンスは日々進化するので医薬科学類学生もその進歩に合わせて知識を更新する必要がある。講義では教科書に記載されている事項はもちろん、最新の医科学研究トピックについても触れる。</p> <p>(1) 細胞内輸送（細胞内の各区画や細胞小器官へ生体高分子が輸送される機構） (2) 細胞内情報伝達（外界からの種々の刺激に対する細胞の応答機構） (3) 多様性創出機構 (4) DNA修復 (5) 抗原受容体遺伝子 (6) 分子生物学方法論</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (15 倉知 慎／8回)            「多様性創出機構」「DNA修復」「抗原受容体遺伝子」            (80 榎並 正芳／7回)            「細胞内輸送」「細胞内情報伝達」「分子生物学方法論」</p>	オムニバス方式



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	生化学Ⅳ	<p>細胞や生体内の各種の分子の構造と機能及びそれらが織りなす生化学反応を学び、細胞から個体レベルにわたる各種の生命現象（健康と病的な状態を問わず）を理解・考察する基礎を身につける。今日、生化学・分子生物学は、あらゆる生命科学領域の共通言語となっており、これらの基礎を重点的に学ぶとともに、最近の新しい解析技術や分子メカニズム、細胞ネットワーク、臓器間ネットワークなどの生命科学や医学の発展についても学ぶ。そして15回の授業のうち、12回は反転授業を行い、最新の生命科学や医学領域におけるノーベル賞級の発見とその応用について、学生によるプレゼンテーション形式で実施する。</p> <p>(1) 老化およびがん (2) 細胞外マトリックス (3) 薬物代謝 (4) 反転授業 (学生によるプレゼンテーション)</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (23 山本 靖彦／2回)            「老化, がん, 薬物代謝」            (11 棟居 聖一／1回)            「細胞外マトリックス」            (23 山本 靖彦, 11 棟居 聖一, 165 原島 愛, 159 木村 久美／12回) (共同)            「12回の反転授業」</p>	オムニバス方式・共同
	薬理学Ⅰ	<p>薬物・くすりと言え、病気の治療や副作用ということがすぐに連想される。薬物とは生体に働きかけるものだが、“No drug has a single action”といわれるように両刃の剣である。生体は蛋白質、核酸、脂質や糖質といった分子の集合体であり、ほとんどの場合、薬物の作用点（ターゲット）はこれらの生体分子である。薬物はこれらの分子に特異的に結合することによって、細胞の生理機能を制御する。一方、薬物は生体により制御を受ける（代謝や排泄）。このような生体と薬物との相互作用を科学的に理解することは、生命医科学を修得するうえで不可欠である。</p> <p>本科目では、主に総論として、薬理学の概念や歴史、薬物の作用様式や薬物動態など基本的な概念を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)            (12 安藤 仁／5回)            「適切な薬物療法とは」            「くすりの作用とは」            「薬物の分子標的」            「薬物の体内動態」            (8 長田 直人／3回)            「自律神経・末梢神経作用薬」            (169 盛重 純一／4回)            「感染症治療薬・抗腫瘍薬」</p>	オムニバス方式
	薬理学Ⅱ	<p>薬理学Ⅰで習得した薬理学の知識および理解をさらに深めるために、各論として、薬物が主に作用する組織や病態によって分類し、各項目について代表的な薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、他の薬物との相互作用や臨床適応について学ぶ。</p> <p>これにより、課題研究科目の履修や卒業後の研究に必要な薬理学の基盤的知識と応用力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)            (12 安藤 仁／6回)            「利尿薬・降圧薬」            「抗不整脈薬・心不全治療薬」            「糖尿病治療薬」            「脂質異常症治療薬」            (8 長田 直人／4回)            「中枢神経作用薬」            (169 盛重 純一／2回)            「生物製剤」</p>	オムニバス方式
	薬理学実習	<p>講義や教科書で得た概念的な知識をもとにして、動物を用いた実験やシミュレーションを行い、薬物によって起こる生体の反応を、実際に組織や全身レベルで観察する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	動物実験と再生医学	<p>医学研究の重要な研究手段である動物実験の基本的な考え方とその方法論の概略を紹介し、科学的にも倫理的にも正しい動物実験が行える知識と心構えを修得させる。また、遺伝子機能解析や疾患モデル動物作出における発生工学として急速に普及した遺伝子改変動物の基本的原理と最新の方法論を紹介することで、将来、疾患研究に携わる際に必要な土台の構築を目指す。昨今の各種疾病に対する再生医療実現の期待が高まる中、その基盤となる組織幹細胞や多能性幹細胞（胚性幹細胞（ES細胞）やiPS細胞）の分子生物学的性質を、分化・増殖・がん化・エピジェネティクスといった観点と併せ基礎から紹介する。また、幹細胞を利用した再生医療の具体例や、再生分子医学とその関連領域における最先端の研究成果を紹介する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）            （24 渡会 浩志／2回）            「免疫・幹細胞システムと再生・細胞医療」            （27 大黒 多希子／2回）            「モデル動物の作製と応用、実験動物の遺伝的制御」            （93 堀家 慎一／2回）            「エピジェネティクスの概念と応用」            （92 橋本 憲佳／1回）            「動物実験の倫理と法規制」            （157 上田 篤／1回）            「幹細胞研究と再生医療」</p>	オムニバス方式
	遺伝学Ⅰ	<p>遺伝継承と多様性の科学としての遺伝学の原理を理解する。また、ヒト疾病や形質の遺伝要因を理解するための基礎となる知識を体系的に習得する。遺伝情報の継承、多様性等の観点から、遺伝情報の総体である「ヒトゲノム」についての基礎的知識を習得し、ヒト疾病や形質の成因や発生機序等を理解することの重要性を理解することを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）            （1 田嶋 敦／3回）            「ヒトゲノム多様性」「エピゲノム」「単一遺伝性疾患」            （90 細道 一善／3回）            「ゲノム・遺伝子解析技術」「多因子疾患」            （161 佐藤 丈寛／2回）            「集団遺伝学」</p>	オムニバス方式
	遺伝学Ⅱ	<p>遺伝継承と多様性の科学としての遺伝学の原理を理解する。最新のヒトゲノム・遺伝子解析研究に必要な統計遺伝学、集団遺伝学等の知識を体系的に習得する。加えて、人類遺伝学やゲノム医科学全般に対する主体的・自主的学習への動機付けを行い、ヒトゲノム・遺伝子解析研究者に必要なとされる能力を涵養することを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）            （1 田嶋 敦／3回）            「疾患遺伝子マッピング」「遺伝子疾患の予防・治療」「腫瘍ゲノム学」            （90 細道 一善／2回）            「遺伝学的検査・診断」「ゲノム薬理学」            （161 佐藤 丈寛／3回）            「正常形質の遺伝」「分子人類遺伝学」</p>	オムニバス方式
	ゲノム解析演習	<p>最新のヒトゲノム・遺伝子解析研究に必要な統計遺伝学、集団遺伝学等に関連した情報解析手法やゲノム実験手法などを演習を通じて習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）            （1 田嶋 敦／2回）            「データベースに基づく解析」            （90 細道 一善／3回）            「ゲノム・遺伝子データ処理」「ゲノム解析」            （161 佐藤 丈寛／3回）            「ゲノム集団遺伝学解析」「ゲノムコホート解析」</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	分子細胞病理学Ⅰ	<p>病理学の基礎知識を学ぶ。本授業では、総論として、主な疾患について、その原因、病理形態像、経過を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (164 中村 律子／8回)            「腫瘍5」「腫瘍6」「腫瘍7」「遺伝性疾患1」「遺伝性疾患2」「遺伝性疾患3」「消化管4」「消化管5」            (158 尾山 武／7回)            「腫瘍1」「腫瘍2」「腫瘍3」「腫瘍4」「消化器1」「消化器2」「消化器3」</p>	オムニバス方式
	分子細胞病理学Ⅱ	<p>病理学の基礎知識を学ぶ。本授業では、各論として、マクロからミクロ、超微形態、分子レベルでの理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (164 中村 律子／7回)            「造血器1」「造血器2」「造血器3」「骨関節・軟部組織1」「骨関節・軟部組織2」「骨関節・軟部組織3」「骨関節・軟部組織4」            (158 尾山 武／8回)            「循環器1」「循環器2」「循環器3」「循環器4」「神経系1」「神経系2」「神経系3」「神経系4」</p>	オムニバス方式
	人体病理学Ⅰ	<p>本授業では、総論として、病態生理学を中心に病理学一般について学ぶ。疾患を病因、病態形成、形態形成を中心に学び、疾患の発生のプロセスを総合的に理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (19 原田 憲一／11回)            「炎症・免疫病理」            (82 佐々木 素子／4回)            「細胞障害・免疫不全」</p>	オムニバス方式
	人体病理学Ⅱ	<p>本授業では、各論として、主として消化器、内分泌、生殖器の疾患について学ぶ。疾患を病因、病態形成、形態形成を中心に学び、疾患の発生のプロセスを総合的に理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (82 佐々木 素子／4回)            「肝・胆・膵」            (83 佐藤 保則／2回)            「膀胱・前立腺・腎泌尿(糸球体以外)」            (208 車谷 宏／2回)            「生殖器」            (209 湊 宏／2回)            「上気道・肺」            (95 池田 博子／1回)            「乳腺」            (94 坂井 宣彦／2回)            「腎泌尿」            (207 北村 星子／2回)            「内分泌」</p>	オムニバス方式
	ウイルス感染学	<p>病原微生物の一つであるウイルスの性質、増殖機構、宿主との相互作用、さらにウイルスが引き起こす疾患とその予防・治療についての基礎知識を習得する。ウイルスは固有の遺伝子を持ち、タンパク質で包まれた微小な感染性粒子である。ウイルスはヒトに多くの病気を引き起こす。本講義では、ウイルスの性質、増殖機構を理解し、ウイルス感染症の発症病理、診断法、治療法、そして感染予防対策について理解する。</p>	
	ウイルス感染学実習	<p>各種ウイルス感染細胞の変化の観察、血清学的診断法〔ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)に対する抗体検査法〕、HIV-1の分子系統解析をグループに別れて行い、講義内容の理解を深める。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	細菌感染学Ⅰ	<p>細菌、真菌による感染症は、日常頻繁に遭遇する疾患であり、臨床上重要な位置を占めている。本科目の主題は、ヒトに感染する細菌・真菌の生物学的特性およびそれらによる疾病の基本的病態および病態形成メカニズムの理解である。本授業では、総論として、微生物概論、滅菌・消毒法、無菌操作、抗菌薬、ワクチンなどについてそれぞれの病原体ごとに理解し、医学細菌学・医学真菌学の基礎を習得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)            (20 藤永 由佳子／8回)            「微生物概論、滅菌・消毒法、無菌操作、抗菌薬、ワクチンなど」            (147 松村 拓大／2回)            「分子遺伝学」            (171 油谷 雅広／1回)            「増殖・代謝」            (160 小林 伸英／1回)            「滅菌・消毒」</p>	オムニバス方式
	細菌感染学Ⅱ	<p>細菌、真菌による感染症は、日常頻繁に遭遇する疾患であり、臨床上重要な位置を占めている。本科目の主題は、ヒトに感染する細菌・真菌の生物学的特性およびそれらによる疾病の基本的病態および病態形成メカニズムの理解である。本授業では、各論として、グラム陽性菌、陰性菌、抗酸菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌などについてそれぞれの病原体ごとに理解し、医学細菌学・医学真菌学の基礎を習得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)            (20 藤永 由佳子／10回)            「グラム陽性菌、陰性菌、抗酸菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌など」            (147 松村 拓大／2回)            「クロストリジウム属菌」</p>	オムニバス方式
	細菌感染学実習	<p>細菌の培養・染色と形態観察、無菌的操作、薬剤感受性試験等に係る実習を行い、ヒトに感染する細菌・真菌の生物学的特性やそれらによる疾病の基本的病態および病態形成メカニズムについて、正確な知識を身につけることを目標とする。</p>	共同
	寄生虫学	<p>回虫、鉤虫などの土壌伝播線虫を含む蠕虫やマラリアなどの原虫を原因とする寄生虫感染症とウイルス疾患などを媒介する蚊やダニ等の衛生動物は、途上国ばかりでなく先進国においても未だに公衆衛生上の重要な課題である。本授業では、寄生虫病学と衛生動物学を概観し、多様な病原体の分類、感染環、病態、診断、治療および予防に関する講義を行う。媒介動物や食品・水・土壌などを介して伝播し、医師が念頭に置き適切に対応することでその蔓延を阻止しうる感染症を取り上げる。そこで本講義においては、具体的な事例の学習を通じて、寄生虫・衛生動物による感染症に関する基本的な知識と、そのベースとなる感染症制御の方法論を学生自らが深く考察し習得することを旨とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)            (87 所 正治／4回)            「寄生虫学総論」「原虫感染症」「臨床寄生虫学」「国際協力研究」            (210 岡澤 孝雄／2回)            「外部寄生虫」「医動物学」            (206 及川 陽三郎／2回)            「線虫感染症」「吸虫・条虫感染症」</p>	オムニバス方式
	寄生虫学実習	<p>寄生虫各種および媒介動物の形態観察、寄生虫症の病理標本観察や診断検査法に係わる実習を行い、診断・治療・予防法について、正確な知識を身につけることを目標とする。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	コース専門科目	免疫学	<p>免疫システムについての基礎的概念，生体防御における免疫系の生理的役割，アレルギー，自己炎症性疾患などにおける免疫系の病理的役割などについて学ぶ。免疫システムの概略の講義を通して，臨床免疫学の理解に必要な，免疫学の基礎的概念を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)  (2 華山 力成／5回)  「免疫学序論・自然免疫と自己炎症」  (170 山野 友義／5回)  「T細胞性免疫，免疫寛容と自己免疫」  (96 平安 恒幸／5回)  「液性免疫，過敏症と免疫不全」</p>	オムニバス方式
		免疫学実習	<p>免疫システム全般に係る実習を行い，生体防御における免疫系の生理的役割や病理的役割等について，正確な知識を身につけることを目標とする。</p>	
		衛生学Ⅰ	<p>社会医学はヒトの健康の保持・増進を目的とする学問であるが，その中で衛生学では環境と生体の関わりに重点をおいた講義を行う。本授業では，総論として，衛生学・疫学の基礎及び健康状態の把握や衛生統計学等について講義する。</p> <p>1) 衛生学総論  2) 環境衛生学1：環境保全  3) 環境衛生学2：中毒学総論  4) 環境衛生学3：気圏・水圏  5) 環境衛生学4：中毒各論  6) 環境衛生学5：有益な物質  7) 物理的環境  8) 生物学的環境への対策・施策1：感染症1  9) 生物学的環境への対策・施策2：感染症2  10) 生物学的環境への対策3：感染症3  11) 衛生統計学1：基礎統計  12) 衛生統計学2：応用統計</p>	
		衛生学Ⅱ	<p>社会医学はヒトの健康の保持・増進を目的とする学問であるが，その中で衛生学では環境と生体の関わりに重点をおいた講義を行う。本授業では，各論として，環境を定義し，それぞれの環境とヒトの生活が如何に相互関係を保っているか総合的に理解し，健康の保持・増進を疾病予防よりもさらに重要であることを学ぶことを目標とする。</p> <p>1) 衛生学総論  2) 精神1：精神性疾患  3) 精神2：嗜癖  4) 精神3：飲酒・喫煙  5) 生活習慣病  6) 環境への適応とエピジェネティクス  7) 遺伝的環境  8) 生物学的環境：感染症1  9) 生物学的環境2：感染症2  10) 生物学的環境3：感染症3，  11) 食中毒  12) 旅行医学</p>	
		衛生学実習	<p>マイナーグループディスカッションを重視した環境と生体の関わりに関する実習で，環境と生体の反応に関係するデータについて，実験，調査を行い，学会形式での発表を行う。計画立案には自主性を重視するが，衛生学講義にもりこまれた内容の実践であることに留意する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	コース専門科目	公衆衛生学Ⅰ	人間をとりまく環境要因，社会要因と健康との関連を考究し，健康増進のために必要な基礎的知識を習得する。また，疫学や臨床研究に基づくエビデンスを理解するための方法論を習得する。  (オムニバス方式／全8回) (17 中村 裕之／6回) 1. 疫学(総論)，2. 疫学(I)，3. 疫学(II)，4. 疫学(III)，5. 産業保健総論，6. 産業保健各論 (89 原 章規／2回) 1. 生活習慣病の疫学(I)，2. 生活習慣病の疫学	オムニバス方式
		公衆衛生学Ⅱ	社会医学への基礎的理解に必要な，疫学，我が国の人口統計と医療経済，予防医学など幅広いトピックを概説する。  1. 精神保健・福祉，2. 感染症の疫学と対策，3. 地域医療，4. 母子保健，5. 少子化対策	
		公衆衛生学実習	EBM (evidence-based public health)について理解し，疫学データ等を評価するための基礎を身に付ける。老人保健施設，金沢市のすこやか筋力トレーニング教室，製造工場，福祉施設(シェア金沢)を見学する。公衆衛生的観点から現場の業務内容や抱える問題点を理解し，レポートにまとめる。	
		法医学Ⅰ	医薬科学類における社会的ニーズは広い。一方で，医学・医療は自然科学であると同時に，その探求は社会的行為といえる。故にすべての医行為が本来，社会医学的な本質を有し，さらに問題を含んでいる。それらのことを念頭に置いて，医と法との間の無数の接点において生じる多様な問題を解決するために，最も基本となる法医学的見識を涵養することを目標とする。  (オムニバス方式／全8回) (16 塚 正彦／7回) 「序論(法医学の概念，歴史など)」 「死の判定と死因(死とは，死の判定，生活反応，死亡原因及び種類)」 「死体現象(一般の死後変化，屍ろう，ミイラ，死後経過時間の推定)」 「損傷論 総論，各論Ⅰ・Ⅱ」 「窒息論 総論，各論」 「法医中毒学」 (155 阿松 翔／1回) 「生物毒の研究から分子生物学へ」	オムニバス方式
		法医学Ⅱ	法医学の基本知識習得し，法医学的思考法の基礎が養われたという前提で論じる。社会実装が求められる実践的法医学に重点が置かれる。死亡診断書と死体検案書がどういったもので，どのような考えの下で作成され発行されるのかにゴールを設定する。  (オムニバス方式／全15回) (16 塚 正彦／14回) 「熱傷死，焼死」 「凍死，感電死，雷撃死」 「法医学におけるアルコール問題」 「胎・嬰兒に関する法医学」 「老人虐待・性に関する法医学」 「血液型検査法」 「物体検査」 「硬組織と個人識別」 「内因性急死Ⅰ・Ⅱ」 「医事法制と生命倫理」 「死因論Ⅰ・Ⅱ」 (155 阿松 翔／1回) 「ボツリヌス中毒と乳幼児突発症候群(SIDS)」	オムニバス方式
法医学実習	赤血球表面抗原検査，損傷検査，一般薬毒物スクリーニング検査等に係る実習を行い，法医学における実践的な検査に係る知識を身につけることを目標とする。	共同		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	臨床法医学特論	<p>医薬科学類における社会的ニーズは多岐にわたる事が想像されるが、医と法の接点にある法医学という学問により、一見雑多に見える諸々の事象が、整理されることが決して少なくない。特に死体に学び生体に応用する法医学的知識、いわゆる臨床法医学(含フォレンジック看護学)を中心に、臨床薬理中毒学、向精神薬・三環系抗うつ薬の臨床法医学、嗜癖行動の薬理学、医事・薬事法制における薬毒物の扱い等を各々系統付けて概説する。前半と中盤の6回を臨床法医学、後の2回を法学-法医学融合に分けて論じる。</p> <p>臨床法医学 (6回)            「アルコール (エタノール) の医薬科学」            「医薬品中毒」            「一酸化炭素・硫化物・青酸中毒 (上, 下)」            「農薬・化学兵器・ダイオキシン等の環境毒物中毒 (上, 下)」</p> <p>法学-法医学融合 (2回)            「医事・薬事法制概論」            「医事・薬事法制各論」 ・違法薬物と危険ドラッグ            ・虐待の周辺にある薬物・嗜好品</p>	
	国際保健学	<p>地球環境の保全, 人口の増加, エイズを始めとする新興・再興感染症の蔓延, 難民問題の一層の深刻化といった地球規模での対応を必要とする難問が数多く出現している。地球規模で保健医療問題を理解し, 我が国としてどのような貢献ができるかを一緒に考える。</p>	
	脳神経医学	<p>脳は記憶, 学習や感情の中心となる重要な臓器である。また脳に関してアルツハイマー認知症や自閉症など様々な病気があり, これらの病気の理解も重要である。この講義では身の回りの親しみやすい題材を使って, 脳とその病気の不思議を考察する。さらに, 脳の仕組みの解明, 病気の診断技術や治療法の開発に関する最新の研究トピックも紹介する。脳についてのイメージをつかみ, その最先端研究の面白さを共有する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)            (14 河崎 洋志/6回)            「脳研究のおもしろさ」            (84 新明 洋平/2回)            「脳の研究技術」</p>	オムニバス方式
	生命医科学海外AL実習 I	<p>海外の研究機関または医療機関等における見学ならびに体験実習を通じて, 研究や医療の実践に必要とされるコミュニケーション能力や協調性を養成するとともに, 今後のキャリアパスを考える機会を与える。</p>	
	生命医科学海外AL実習 II	<p>海外の研究機関または医療機関等を訪問研修し, 研究や医療の現場でのアクティブラーニングを体験することで, 課題解決に向けたアプローチ (計画の立案・実行, 結果の評価等) についての理解を深め, 研究者に必要とされる素養を醸成する。</p>	
	生命医科学国内AL実習 I	<p>国内研究機関または医療機関等における見学ならびに体験実習を通じて, 研究や医療の実践に必要とされるコミュニケーション能力や協調性を養成するとともに, 今後のキャリアパスを考える機会を与える。</p>	
	生命医科学国内AL実習 II	<p>国内研究機関等を訪問研修し, 研究や医療の現場でのアクティブラーニングを体験することで, 課題解決に向けたアプローチ (計画の立案・実行, 結果の評価等) についての理解を深め, 研究者に必要とされる素養を醸成する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	生物化学Ⅰ	<p>私たちの体がうまく機能するためには、有機物から効率よく取り出された自由エネルギーを使って作られた生体エネルギーが、体内で適切に使用されなければならない。この全体の過程は「代謝」と呼ばれ、体を構成する数十兆個にも及ぶすべての細胞の中で行われる。代謝が十分に行われないと、体の機能が損なわれて病気になる場合もある。本講義では、この代謝の仕組みと意義を学ぶ。</p> <p>生体において、個々の酵素反応は経路pathwayと呼ばれる多段階の連続反応に組織化されて起こる。経路においては1つの反応の生成物は次の反応の基質となる。異なる経路が交差し、統合された目的のある化学反応ネットワークを形成する。これらをまとめて代謝metabolismと呼び、細胞、組織、体のなかで起きるすべての化学反応の総和である。代謝を理解することは薬の開発、薬効解析を勉強する薬学生にとって最も重要なことの1つである。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (39 吉田 栄人／9回)            「糖代謝とATP合成」            (180 田村 隆彦／6回)            「脂質、アミノ酸、核酸代謝」</p>	オムニバス方式
	生物化学Ⅱ	<p>遺伝子の本体であるDNAの構造と性質、またそれが正確に複製され、安定に維持される仕組みについて学ぶ。また、DNAからRNAを介してタンパク質の発現に至る基本反応とその調節メカニズムについて学ぶ。</p> <p>特に、そこに関わる様々な分子の構造や機能を意識して、生命科学のセントラルドグマ「DNA→RNA→タンパク質」で起きる諸反応を理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (4 松永 司／12回)            「核酸の構造、DNA複製・修復・組換え、転写とRNAプロセッシング、翻訳」            (113 若杉 光生／3回)            「遺伝子発現の調節」</p>	オムニバス方式
	衛生薬学Ⅰ	<p>人とその集団の健康の維持、向上に貢献できるようになるために、栄養と健康、現代社会における疾病とその予防について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々(集団)の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、保健統計と疫学に関する基本的事項を修得する。</li> <li>・健康を理解し疾病の予防に貢献できるようになるために、感染症、生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的事項を修得する。</li> <li>・食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項を修得する。</li> </ul> <p>(オムニバス方式／全15回)            (35 鈴木 亮／10回)            「栄養と食品機能、食品衛生、健康と疾病の影響要因、保健統計と疫学」            (109 鳥羽 陽／4回)            「感染症、生活習慣病、職業病の現状と予防」            (183 長田 夕佳／1回)            「栄養素」</p>	オムニバス方式
	衛生薬学Ⅱ	<p>人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、化学物質などのヒトへの影響、適正な使用、および地球生態系や生活環境と健康との関わりについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有害な化学物質などの生体への影響を回避できるようになるために、化学物質の毒性などに関する基礎知識を習得する。</li> <li>・生態系や生活環境を保全、維持するために、それらに影響を及ぼす自然現象、人為的活動を理解し、環境汚染物質などの成因、人体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基礎的知識を習得する。</li> </ul> <p>(オムニバス方式／全15回)            (35 鈴木 亮／4回)            「有害な化学物質などの生体影響及び化学物質の毒性」            (109 鳥羽 陽／10回)            「生態系や生活環境を保全、維持、環境汚染物質などの成因と人体影響、汚染防止・除去」            (183 長田 夕佳／1回)            「化学物質の毒性評価と法規制」</p>	オムニバス方式



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目  コース専門科目	生体防御学	<p>免疫機能は我々の体にとって、良い面と悪い面をもっており、とてもダイナミックに変化する。免疫機能が正常に働けば、ウイルス感染やがん細胞に対する免疫応答が強くなることで抵抗性を保ち、恒常性を維持できる。しかし、誤って自己に対する免疫応答が過剰になると、自己の細胞を破壊して自己免疫疾患になる。自己と非自己に対する反応性のバランスについての免疫応答を把握する。</p> <p>免疫の基本的な体系はもとより、アレルギー全般に関する知識、種々の感染症に対する免疫応答、ワクチンに関する知識、免疫がかわる病気（成因と機序を含めて）、免疫療法を十分に理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (39 吉田 栄人／4回)            「総論, 感染免疫」            (101 伊従 光洋／2回)            「移植免疫・腫瘍免疫」            (180 田村 隆彦／4回)            「獲得免疫(液性・細胞性免疫)」            (35 鈴木 亮／5回)            「アレルギー, 自然免疫」</p>	オムニバス方式
	微生物学	<p>微生物が定着し、増殖し、生体を傷害することによって生じる疾患を感染症という。ヒトに感染症を引き起こす微生物には一般細菌、真菌、マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、ウイルス、寄生虫があげられる。これらの微生物にはどのような特徴があるのかを把握し、微生物とヒトおよび感染を媒介する動物との関わりあい、微生物の感染様式とそれによって生じる病気の発症メカニズム、ならびに、治療法と予防法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)            (39 吉田 栄人／2回)            「寄生虫学, ワクチン」            (101 伊従 光洋／6回)            「細菌学, ウイルス学, 真菌とその他の微生物」</p>	オムニバス方式
	薬品作用学Ⅰ	<p>薬と生体との相互作用の結果生じる現象を研究する科学である薬理学の概念を薬物の作用するターゲット(受容体・イオンチャネル・トランスポーターなど)と、それを介した生体内・細胞内情報伝達機構を交えて理解するとともに、自律神経系、呼吸器系、消化器系に作用する薬物と、炎症・アレルギーに対する薬物の作用機序を、生物学、生化学、生理学、細胞生物学、分子生物学及び病態生理学等の知見を踏まえながら理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (33 金田 勝幸／10回)            「薬理学の定義, 薬物の作用様式, 受容体。生体内情報伝達機構, 細胞内情報伝達機構。イオンチャネル・トランスポーター。各種神経伝達物質とその受容体, 機能的役割(1)。梢神経系の構造。交感神経作用薬。副交感神経作用薬。神経節・神経筋接合部作用薬・局所麻酔薬。呼吸器系治療薬。消化器系治療薬。」            (181 出山 諭司／5回)            「各種神経伝達物質とその受容体, 機能的役割(2)(3)。抗炎症薬。免疫系薬・抗アレルギー薬。」</p>	オムニバス方式
	薬品作用学Ⅱ	<p>薬品作用学Ⅰで学んだ基礎的内容を基盤として、中枢神経系、循環器系、造血器系及び内分泌系に作用する薬物の作用機序を、生物学、生化学、生理学、細胞生物学、分子生物学及び病態生理学等の知見を踏まえながら理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (33 金田 勝幸／8回)            「全身麻酔薬・催眠薬。抗てんかん薬。パーキンソン病治療薬。統合失調症治療薬。認知症, 脳血管疾患治療薬。脂質異常症治療薬。内分泌疾患治療薬(1)(2)。」            (181 出山 諭司／7回)            「麻薬性鎮痛薬・中枢興奮薬。抗うつ薬, 気分安定薬, 抗不安薬。抗不整脈薬。心不全, 虚血性心疾患治療薬。高血圧, 低血圧治療薬, 血管拡張薬。血液・造血器疾患治療薬。利尿薬, 排尿障害治療薬。」</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	コース 専門 科目	物理化学Ⅰ 微視的な（ミクロな）現象を扱うために必要な量子論について導入し、その原子・分子への応用である量子化学を主に扱う。量子論は一見奇妙なことを表しているように見えるが、それが現実の物質の性質をどのように表現するかを学ぶ。特に分子を考慮する際に必要な化学結合の概念や、分子間に働く相互作用について説明する。量子論の基本的な考え方を習得し、量子数やスピンなどの概念を理解する。量子化学に必要な様々な近似について学習して原子・分子を量子論的に取り扱う方法を身につける。また、何が近似で何が近似ではないかを的確に判断し、近似の指し示す内容を理解する。	
		物理化学Ⅱ 主として反応速度論について学習する。単に反応が進むか否かではなく、どのくらいの速さで反応が進むかといった定量性に注目する。多くの数式を扱うことになるが、計算問題を効率的に解くことよりも、時間の経過に応じて濃度が変化する様子を正しくイメージできるかどうかが重要である。反応速度論の基本概念を理解し、いくつかの代表例を用いて実際の計算手法についても習得する。反応速度を扱う際に必要となる様々な近似についても学習し、酵素反応など複雑な反応を理解するための方策を学ぶ。	
		物理化学Ⅲ 熱力学は熱に関する現象を巨視的な観点から取り扱う学問である。熱力学には物質の性質や変化を理解する際に有用な概念が多く含まれており、化学や生物学を学ぶ上で重要な役割を果たす。この科目では熱力学諸量とそれらの関係式など熱力学の基礎知識の解説と、実際の系に対する応用の紹介を行う。また、化学や生物学との関連を明確にするため、必要に応じて微視的な現象との関連についても説明する。熱力学の学習に必要な事前知識の習得を行い、熱力学の三つの法則を理解する。それに際してエンタルピー、エントロピー、自由エネルギーなどの熱力学諸量の定義および概念を理解し、さらにはそれらの間に成立する関係を導く。また溶液や多相系などの複雑な系に対する熱力学の取り扱いを修得する。実際の熱力学の応用として、いくつかの物理平衡や電気化学についても理解する。 （オムニバス方式／全15回） （106 高橋 広夫／7回） 「熱力学諸量の定義および概念」 （10 福吉 修一／8回） 「熱力学の応用および物理平衡や電気化学」	オムニバス方式
		分析化学 医薬品開発研究あるいは医療の現場で汎用されている機器分析を理解するために、化合物の定性・定量分析に用いられている紫外可視分光法、蛍光分光法、赤外分光法、ラマン分光法、旋光度・旋光分散(ORD)・円二色(CD)測定法、質量分析法、原子吸光光度法、誘導結合プラズマ(ICP)発光分析・質量分析法、電子スピン共鳴法(ESR)、蛍光X線分析法、X線結晶構造解析、液体クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー、電気泳動などについて学び、その測定原理やアプリケーションを理解する。	
		応用有機化学Ⅰ アルキンやアルケンなどの不飽和脂肪族化合物および $\pi$ 共役系、ベンゼンを代表とする環状セクステット電子系、およびカルボニル化合物に関する基本的知識を修得する。アルケン、アルキン、ベンゼンとその誘導体、非局在化した $\pi$ 電子系、アルデヒドとケトン、およびエノールとエノンの基本構造、物理的性質、合成法、および化学的反応性、例えば不飽和脂肪族化合物の求電子付加反応、非局在化した $\pi$ 電子系のペリ環状反応、芳香族求電子反応、カルボニル基への付加反応等を理解する。	
		応用有機化学Ⅱ カルボン酸、カルボン酸誘導体、アミンおよびその誘導体、ベンゼンの置換基、炭水化物、ヘテロ環化合物、アミノ酸、ペプチド、タンパク質、核酸の命名法、基本構造、物理的性質、化学反応性、合成法に関する基本的事項を修得する。これまでに習得した有機化学の知識や考え方を基に、カルボン酸誘導体、アミン、ベンゼンの置換基、糖、ヘテロ環化合物、アミノ酸、ペプチド、タンパク質、核酸の構造、性質、反応性、合成法の基礎を理解することが授業の目標である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	薬剤学 I	<p>医薬品を投与した時の吸収，組織移行，代謝および排泄（ADME）に関する生体メカニズムについて学び，それが薬物動態全体にどのように影響するかを理解する。さらにその知識に基づいて薬物療法を最適化するための個別化医療など医薬品の投与方法について学ぶ。</p> <p>医薬品の作用や副作用は，薬効発現機構はもちろんのこと，体内の医薬品の濃度（量）によって左右される。したがって薬剤学 I では，投与された医薬品が体内でどのような運命をたどるか（薬物動態）を学び，それによって体内薬物濃度（通常は血漿中濃度で評価する）への影響因子を理解することを目的とする。具体的には，医薬品を投与後の吸収，分布，代謝，排泄各過程の特徴を学ぶとともにそれらを決める生体側因子であるトランスポーターや薬物代謝酵素の種類ならびに役割を理解する。さらに，その理解によって薬物動態の個人差や相互作用などによる変動原因に関する理解を深める。また，このような薬物動態情報をどのように創薬に活かすかについても理解を深める。</p>	
	薬剤学 II	<p>薬物が体内で量的および時間的にどのように変化していくかを理解するために，薬物の体内動態を解析する方法と薬物治療の個別化への応用について学ぶ。</p> <p>医薬品の効果や副作用は，薬物の作用のみならず薬物の体内での動き（薬物動態）により決まる。したがって，適切な薬物治療の実施には，体内へ投与された薬物の時間推移を定量的に捉えること，すなわち生体が薬物によってどの程度曝露されるかを理解することが必要である。本授業では，薬物の体内動態を定量的に記述するための学問である薬物速度論に基づき，薬効や副作用を薬物動態から理解することを目的に，薬物動態の理論的解析に関する基本的事項を修得する。さらに，薬物治療において，特に治療域の狭い医薬品を患者に投与する際に，個々の患者特性が薬物動態に与える影響を考慮した上で最適な投与計画を立案できるようになるために，薬物治療の個別化に必要な基本的知識を修得する。本授業においては，トランスポーターや薬物代謝酵素を介した薬物相互作用についても，薬物動態変動との関係から概説する。</p>	
	臨床薬物代謝化学	<p>薬物代謝学は薬物治療に密接しており，臨床現場に必要な知識である。本講義では，薬物代謝酵素の基礎的知識の習得から，遺伝子多型や発現調節機構などを学び，個人差に基づく病態・副作用および様々なフェノタイプとの関連を学ぶ。</p> <p>生体内における薬物代謝反応について，薬物動態学的，薬理学的および毒性学的意義を理解する。創薬および臨床薬物療法における薬物代謝の重要性を学ぶ。具体的には，薬物代謝酵素の基礎，異物に対する解毒および代謝的活性化に果たす役割，酵素阻害や酵素誘導を介した薬物間相互作用メカニズム，薬物代謝酵素の発現調節機構，遺伝子多型による個人差を学び，生体内における薬物代謝の役割を体系的に理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）            （37 中嶋 美紀／8回）            「薬物代謝概論，薬物相互作用，病態や栄養による影響，薬物代謝酵素の遺伝的多型，個人差，年齢差，性差，種差」            （110 深見 達基／7回）            「薬物代謝酵素とその反応機構，生体内における薬物代謝の包括的把握，薬物代謝と毒性発現，医薬品開発における薬物代謝研究の役割」</p>	オムニバス方式
	薬物治療学 I	<p>薬物治療学とは疾病そのものに対する薬理学である。対象は人間であり，患者の疾患の病態を正しく把握し，有効性と安全性が最も高いと考えられる薬物療法を行うための学問である。</p> <p>本授業では疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの患者情報を取得し，患者個々に応じた薬の選択，用法・用量の設定および各々の医薬品の使用上の注意を考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために，以下に示す代表的疾患の病態生理と薬物治療に関する基本的知識を修得する。</p> <p>心臓・血管系の疾患（不整脈，心不全，虚血性心疾患，高血圧），消化器系疾患（消化性潰瘍，炎症性腸疾患，肝炎，膵炎），呼吸器の疾患（気管支喘息，閉塞性肺疾患），代謝性疾患（糖尿病，脂質異常症，高尿酸血症），神経・筋の疾患（脳卒中，てんかん，パーキンソン病，アルツハイマー病，頭痛），アレルギー・免疫疾患（アナフィラキシー，全身性エリテマトーデス），腎臓・尿路の疾患（腎障害，ネフローゼ症候群），血液・造血系の疾患（白血病，貧血）など。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	薬物治療学Ⅱ	<p>疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定、各々の医薬品の使用上の注意を考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、以下に示す代表的疾患の病態生理と薬物治療に関する基本的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (32 加藤 将夫/9回) 「殖器疾患(前立腺肥大症, 下部尿路機能障害), 内分泌系疾患(甲状腺機能異常症, 副腎機能異常症, 尿崩症), 精神疾患(統合失調症, 気分障害, 神経症, 心身症, 睡眠障害), 耳鼻咽喉の疾患(めまい, 副鼻腔炎), 眼疾患(緑内障, 白内障), 皮膚疾患(じん麻疹, アトピー性皮膚炎, 皮膚真菌症), 悪性腫瘍と耐性・副作用, 酸-塩基平衡異常」 (187 増尾 友佑/6回) 「骨・関節の疾患(骨粗鬆症, 関節リウマチ, 変形性関節症, 骨軟化症), 移植医療, 緩和ケアと長期療養(臓器移植, がん性疼痛), 感染症(感染症, 抗菌薬の構造, 抗菌スペクトル, 抗菌薬の副作用, 抗寄生虫薬, 抗真菌薬, 抗ウイルス薬, 抗菌薬の耐性)など」。</p>	オムニバス方式
	応用有機化学演習Ⅰ	<p>応用有機化学Ⅰで培った基礎知識, 基礎反応, 基礎概念, つまり, アルケン, アルキン, ベンゼンとその誘導体, 非局在化した<math>\pi</math>電子系, アルデヒドとケトン, およびエノールとエノンの基本構造, 物理的性質, 合成法, および化学的反応性, 例えば不飽和脂肪族化合物の求電子付加反応, 非局在化した<math>\pi</math>電子系のペリ環状反応, 芳香族求電子反応, カルボニル基への付加反応等を確実に身につけるために, 多くの具体的反応例に触れ理解を深める。この科目は, 自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <p>学生自身が予習段階にて演習問題を解答し, その解答を授業にて発表することによって, 応用有機化学Ⅰで学習した基礎知識を学生に身につけさせることが本授業の目標である。</p>	
	応用有機化学演習Ⅱ	<p>応用有機化学Ⅱで培った基礎知識, 基礎反応, 基礎概念を確実に身につけるために, 多くの具体的反応例に触れ理解を深める。</p> <p>応用有機化学Ⅱで学習した各種有機化合物(カルボン酸, カルボン酸誘導体, アミン, フェノール, <math>\beta</math>-ジカルボニル化合物, 炭水化物, ヘテロ環化合物, アミノ酸, ペプチド, タンパク質, 核酸)に関する基礎的な問題を確実に解く能力を培うことが授業の目標である。</p>	
	生命・医療倫理	<p>将来, 生命に関わる医療人・職業人となるために, 人の生命の大切さ, および, 患者や患者と関わる医療提供者の立場や環境を理解し, 身につけるべき倫理観を修得する。</p> <p>国民の健康管理や医療安全における薬の役割を理解し, 薬の開発者・提供者としての使命感を身につける。倫理的問題に配慮して主体的に行動するために, 生命・医療に係る倫理観を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (41 長瀬 啓介/2回) 「医療倫理」「患者の権利」 (192 東 朋美/1回) 「生命倫理」 (42 村山 敏典/1回) 「研究倫理」 (29 石崎 純子/1回) 「薬剤師倫理」 (86 出村 昌史/1回) 「医療人として”内科医としての終末期医療への関わり”」 (100 山田 圭輔/1回) 「医療人として”麻酔科医としてのがん医療への関わり”」 (190 金田 礼三/1回) 「医療人として”精神科医としてのがん医療への関わり”」</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	生薬学	<p>生薬は天然に由来するという性格上、その品質にはバラツキが存在する。すなわち生薬の品質に影響を与える要因および評価法の理解が重要である。このような生薬を理解するために各生薬の歴史のおよび地理的背景と合わせて基源、薬効、含有成分などに関する知識を習得する。</p> <p>人類の歴史において医療に使用されてきた薬用植物・生薬の中から代表的なものについて種類、基源、薬効、含有成分、資源調査、生産、加工、流通、品質評価など基本的事項を修得する。生薬とは、ハーブやスパイスなど食用にされるもの、民間薬・漢方生薬に使用されるもの、医薬品原料になるものや毒草について学ぶ。品質に影響を与える要因として生育時の環境や加工法を学び、品質を評価する方法として定性・定量試験法、分離分析法について学ぶ。さらに日本薬局方収載生薬については性状、指標成分、確認試験法などについても理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (104 佐々木 陽平／12回)</p> <p>「世界の伝統医学、漢方と日本の民間薬、薬用植物学、植物分類学と学名、日本薬局方、生薬の品質評価法と異物同名生薬、生薬の加工・流通、外国産生薬「鑑定試験」、毒草と快楽植物、西洋生薬、現代医療に役立つ生薬、動物類、鉱物類生薬漢方薬と構成生薬」            (173 安藤 広和／3回)</p> <p>「代表的な生薬、日本産生薬、食薬区分：ハーブとスパイス」</p>	オムニバス方式
	無機薬化学	<p>原子の構造、化学結合の性質、錯体構造と物性、酸・塩基、酸化・還元、電子軌道など、無機化学に関する基本知識を修得し、生体中での生体金属錯体の合目的性を理解するために生体金属錯体の性質・役割、金属が生体に与える影響、金属の欠乏・過剰により生じる疾患、白金抗がん剤をはじめとする金属を含む医薬品、磁気共鳴画像法 (Magnetic Resonance Imaging: MRI) の原理・応用、MRI造影剤などについて学ぶ。</p>	
	病態生理学	<p>代表的疾患の病理生理を学ぶ。            患者個々に応じた適正な薬物治療に参画できるようになるために、代表的疾患の病態生理に関する基本的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)            (107 坪井 宏仁／4回)</p> <p>「神経・筋疾患、心臓・血管系疾患、呼吸器疾患、内分泌疾患、代謝疾患、アレルギー・自己免疫疾患、精神疾患」            (189 吉田 直子／4回)</p> <p>「消化器疾患、腎・泌尿器・生殖器疾患、血液・造血器疾患、骨・関節疾患、産科・婦人科疾患/眼疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患、悪性腫瘍、緩和ケアと長期医療、感染症」</p>	オムニバス方式
	細胞生物学	<p>本科目では、生物の基本単位である細胞の構造と機能に関して、生命科学を学ぶ上で必要な事項の理解を目標とする。まず、細胞内で合成されたタンパク質の成熟、輸送、分解のしくみを理解する。次に、細胞周期の基本機構、体細胞と生殖細胞の細胞分裂、生理的細胞死の基礎的事項について理解する。そして、多細胞生物の構成を理解するため、細胞間の接着構造や細胞外マトリックスについての知識を講義する。最後に、上記のメカニズムが破綻した状態である「がん」の基礎的事項について学び、がん遺伝子とがん抑制遺伝子の構造と働きについて理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)            (103 倉石 貴透／4回)</p> <p>「タンパク質の翻訳後修飾、細胞接着、細胞死」            (113 若杉 光生／4回)</p> <p>「細胞周期・細胞分裂、がん」</p>	オムニバス方式
	生命工学 I	<p>生命工学は生物の行う化学反応やその機能を産業や医療などに応用する技術であるが、その中の中心的な技術である遺伝子工学の基礎的かつ重要な項目について講義する。本科目では、遺伝子工学について、薬学を学ぶ上で必要な事項の理解を目標とし、遺伝子組換えを扱い、遺伝子組換え体の作製と発現ならびに遺伝子改変動物の作製と利用について、基礎的な知識を理解する。また、遺伝子工学を利用する上でも重要な技術となる塩基配列の検出と解読法、遺伝子発現や遺伝子産物の解析法について学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	生命工学Ⅱ	<p>本科目では、これまで学んできた生化学や分子生物学、細胞生物学などの知識を基礎として、生命工学Ⅰよりアドバンスの遺伝子組換え法、遺伝子産物の解析法などについて知識を深める。真核細胞、特に哺乳動物細胞における遺伝子導入法、遺伝子機能抑制法、発現遺伝子産物（タンパク質）解析法を理解する。そして、個体を用いた遺伝子の機能解析、再生医療の原理と現状等の基礎的知識を身につけ、これらの生命工学的技術の医療への応用、特に分子標的薬や抗体医薬品などの医薬品開発への応用について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)            (103 倉石 貴透/4回)            「培養細胞を用いた遺伝子機能解析」            (35 鈴木 亮/2回)            「個体を用いた遺伝子の機能解析、再生医療」            (113 若杉 光生/2回)            「生命工学的手法の医療へ応用」</p>	オムニバス方式
	天然物化学	<p>天然物とは生物の第2代謝産物である有機化合物であり、その構造は多様性に富むことから様々な生理活性を示すことが知られている。本授業では、天然物の化学構造による分類と生合成、ならびに薬理学的な特徴を理解することを主題とする。さらに、医薬品開発等における天然物の重要性とその活用法などを学ぶ。</p> <p>天然に存在する有機化合物(天然物)は、糖類、テルペノイド、脂肪酸ポリケチド、フェニルプロパノイド、フラボノイド、アミノ酸ペプチド、アルカロイドというように化学構造別に分類され、それぞれ特徴ある生合成経路を経て生物によって合成されることを理解する。また、天然物の構造と生理活性の多様性ならびに医薬品を始めとして様々な用途へ応用されていることを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)            (6 後藤 享子/13回)            「総論(1)、脂肪酸とポリケチド(2)、芳香族化合物(2)、テルペノイド(3)、アルカロイド(3)、天然物由来医薬品(2)」            (178 齋藤 洋平/2回)            「糖質(2)」</p>	オムニバス方式
	生物有機化学	<p>生命活動を担う生体分子(タンパク質、糖質、脂質等)の構造と機能を有機化学的観点から捉えるとともに、現代の生命科学における有機化学の役割や応用について学ぶ。</p> <p>タンパク質、糖質、脂質などの生体分子の機能や性質について、化学構造や立体構造の観点から理解する。ペプチド合成や糖鎖合成を例に、代表的な保護基や縮合反応などについて学ぶ。固相合成の概念や利点とその応用として創薬研究に重要なコンビナトリアル合成についてライブラリー構築の意義とともに理解する。また、生命活動に関わる主な生体反応として酵素反応における化学的過程の原理、反応機構、さらに、脂質の代謝や生合成について、有機化学的な理論や考察を通して学び、理解を深める。蛍光や発光の原理と生命科学における応用について学ぶ。</p>	
	有機反応化学	<p>有機反応を「置換反応、付加反応、脱離反応、転位反応」および「極性反応、ラジカル反応、ペリ環状反応」に大きく分類し、これまでの有機化学に関する科目で培った知識を整理することにより、理解を深める。新たに重要な反応(人名反応)も学習する。ペリ環状反応をフロンティア軌道に基づいて理解する。</p> <p>これまでの有機化学関連科目で培った知識を定着させるとともに、反応機構についての関心を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)            (30 大宮 寛久/12回)            「化学反応の電子的効果、有機化合物の酸・塩基、反応機構の方法論、飽和炭素原子上での求核置換反応、芳香族化合物の置換反応、アルケン、アルキンへの求電子付加反応、カルボニル化合物への求核付加反応、脱離反応、転位反応」            (182 長尾 一哲/2回)            「ペリ環状反応」            (179 隅田 有人/1回)            「酸化、還元反応」</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	製剤学	<p>医薬品製剤の性質に関する諸問題の解析法を理解するために、医薬品製剤化のための応用理論と製剤工程での単位操作、製剤の品質保証のための製剤試験法、および従来の剤形の特徴と新しい投与剤形としてのドラッグデリバリーシステムについて学ぶ。</p> <p>医薬品は、薬理効果を最大限に発揮できるとともに毒性を最小限にできるような工夫が求められる一方、形態として安定に保たれる必要がある。そこで製剤学においては、このような最終医薬品製品に求められる製剤技術とそれを支える基盤となる物理薬剤学、製造法、および製品の品質を保証する規制について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (36 玉井 郁巳／9回)            「溶解現象、固体の溶解度、溶解速度、界面、界面張力、界面活性剤、分散系、安定性と化学反応速度論、反応に影響を与える因子、製剤の安定化、粉体の特性、レオロジー、DDSの概念と機能、プロドラッグ、製薬企業での製剤化研究」            (38 松下 良／6回)            「日本薬局方の概要と通則、各種製剤の定義・規定・製法・製剤例、経口投与する製剤、口腔内に適用する製剤、注射による投与する製剤、透析に用いる製剤、気管支・肺に適用する製剤、目・耳・鼻に投与する製剤、直腸・膣に適用する製剤、皮膚に適用する製剤、生薬関連製剤、製剤の品質管理と製剤試験、製剤の包装と容器および包装材料と包装設計」</p>	オムニバス方式
	有機金属化学	<p>有機金属化合物の結合、構造、反応性等の基本的性質を理解し、主に炭素-炭素結合形成反応における有機金属化合物の活用法を学ぶ。</p> <p>有機金属の定義、量子論、原子軌道(特にd軌道)、結合様式(d軌道の関わるσ結合、π結合)、構造(配位子種とそのハプト数、形式電荷、供与電子数)、d軌道を含む混成軌道とその形状、錯体の命名法、18電子則(金属の形式酸化数、d電子数、錯体の電子数)、錯体の素反応(配位子置換反応)、錯体の素反応(酸化的付加)、錯体の素反応(還元脱離)、錯体の素反応(挿入反応、脱離反応、トランスメタリ化)など有機金属化合物の基礎反応を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (30 大宮 寛久／13回)            「有機金属化合物の基礎反応」            (182 長尾 一哲／1回)            「有機典型金属化学 (Cu)」            (179 隅田 有人／1回)            「有機典型金属化学 (Al, B)」</p>	オムニバス方式
	有機機器分析	<p>有機化合物の構造解析に用いる機器分析法のうち、代表的なものの原理や測定法などの基本的知識とデータ解析のための基本的技能について学ぶ。</p> <p>基本的な有機化合物の構造決定ができるようになるために、紫外可視吸収(UV-VIS)スペクトル、核磁気共鳴(NMR)スペクトル、赤外吸収(IR)スペクトル、マススペクトル、旋光度、旋光分散スペクトル、円二色性スペクトルなどの代表的な機器分析法の原理や測定法と、データ解析のための基本的技能を身につけることが授業の目標である。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コース専門科目	臨床検査学	<p>臨床化学検査が各種疾患の診断や病態解析等に対してどのように活かされているかを知ると共に、その基礎となる種々の分析法の原理や得失、応用等について学ぶ。また、患者の状態を理解するために、それぞれの検査から得られるデータと疾患との関連（検査値のよみ方、評価の仕方、注意点、統計学）について学ぶ。</p> <p>臨床化学検査が各種疾患の診断や病態解析等に対してどのように活かされているかを知ると共に、その基礎となる種々の分析法の原理や得失、応用等について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)            (31 小川 数馬／9回)            「イムノアッセイ、画像診断（核医学、X線、超音波、内視鏡）、酵素的測定、ドライケミストリー、生物統計」            (43 和田 隆志／1回)            「尿検査と腎疾患」            (98 酒井 佳夫／1回)            「消化器疾患と関連する検査、肝機能検査」            (97 朝倉 英策／1回)            「血液・凝固検査」            (191 林 研至／1回)            「循環器生理検査」            (149 竹本 賢一／2回)            「染色体、遺伝子検査、血液検査、細胞表面マーカー」</p>	オムニバス方式
	東洋医学	<p>近年、我が国では医療機関において漢方薬が積極的に使用されるようになり、その効果および実績から医療において必要不可欠になっている。漢方について正しい知識を得るために、中医学、インド医学（アーユルヴェーダ）をも含めた東洋医学の歴史、診断治療における理論、生薬の薬能や品質に関する考え方等を学ぶ。そのうえで漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する。</p> <p>漢方をはじめとする東洋の伝統医学の恩恵を正しく受けることができるよう、概念、疾患概念、代表的な処方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得し、これらの正しい知識を得ることを目標とする。また薬学的見地から古典・本草書解説の方法を修得し、生薬の品質評価法を学ぶ。</p>	
	医薬品化学	<p>創薬科学を学ぶ上で必要となる基本的な知識（生体内分子と医薬品との相互作用および医薬品に適した化学構造）を学び、代表的な薬物の化学構造と薬効の関連性を学ぶ。</p> <p>生体内分子と医薬品の相互作用、医薬品に適した化学構造について説明できる。代表的医薬品を列挙し、その化学構造に基づく性質について説明できる。代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)            (111 吉村 智之／6回)            「医薬品の物理的・化学的性質を化学構造を基に理解し、分子レベルでの生体分子と医薬品の相互作用について学修する。」            (110 深見 達基／2回)            「医薬品の化学構造から生体内における薬物動態や薬理活性を予測し、これらを基にした効率的な創薬について学修する。」</p>	オムニバス方式
	放射薬品学	<p>核医学に使われる放射性医薬品に関する基本知識を修得するために、放射性核種の物理的性質、画像化の原理、各放射性医薬品のド薬剤設計コンセプト、標的組織への集積機序を理解し、脳血流診断薬、受容体（トランスポーター）マッピング剤、アルツハイマー病診断薬、心筋血流機能診断薬、心筋脂肪酸代謝診断薬、骨代謝異常疾患診断薬、腫瘍診断薬、腎機能診断薬、肺機能診断薬、肝機能診断薬、核医学治療薬などについて学ぶ。</p>	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース専門科目	毒性学	<p>医薬品の安全性確保について、医療現場および医薬品開発に必要な幅広い知識を習得する。薬物および化学物質はどのように体内へ進入し、どのような代謝・解毒特性を示すか、どのような条件が成立するときどのような機構で毒性を発現するのか理解する。各臓器で認められる毒性の特性および各薬物における毒性発現のメカニズムを習得する。毒性発現をいかに予測し、薬害防止や創薬に役立てることができるかを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (37 中嶋 美紀／4回) 「毒性学序論(毒性学の歴史的背景、毒性学の概念、薬害の変遷と問題点)、非臨床試験(一般毒性試験、遺伝毒性、生殖発生毒性)とトキシコキネティクス、非臨床試験(癌原性、依存性、免疫毒性、局所刺激性など)、臨床試験における安全性評価、医薬品の安全性情報」 (110 深見 達基／4回) 「医薬品による有害作用の分子機構、毒性発現に影響する因子、個別化医療の現状と展開、副作用の種類、急性薬毒物中毒とその処置、臓器障害」</p>	オムニバス方式
	創薬科学海外AL実習I	<p>2年次コース決定後、なるべく早い段階での海外留学を促し、外国語による国際コミュニケーション能力、外国人留学生と共に学ぶ協調性を養成するとともに、海外医療研究機関の実体験を通して今後のキャリアパスを考える機会を作る。本実習は、2年次第2クォーターでの履修を推奨する。</p> <p>2～3週間の海外留学期間中に、ネイティブスピーカーによる英語研修授業の受講、他国留学生との交流、海外医療機関または研究機関の訪問等を行う。</p>	
	創薬科学海外AL実習II	<p>海外留学によって、外国語による国際コミュニケーション能力、外国人留学生と共に学ぶ協調性を養成するとともに、海外医療研究機関の実体験等を通して今後のキャリアパスを考える機会を作る。</p> <p>創薬科学コース海外AL実習Iを履修した上で、学生自らが参加する海外における英語研修・他国留学生との交流や、研究室配属後の海外学会や研究機関への訪問等を行う。</p>	
課題研究科目	医薬科学研究 I	<p>3年次において、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。またその過程において、問題点を見つけ、科学的根拠に基づいて解決する能力を修得する。この科目は、自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <p>課題研究として与えられたテーマの背景を学び、その課題の目指すゴールとその目的を十分に理解した上で、以下に示す研究の進展に必要な基礎能力を身につけることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を理解し、その到達に向けて積極的に取り組む。</li> <li>・課題に関連する文献を調査し、必要なものを選別できる。</li> <li>・実験系を組み、実験を実施できる。</li> <li>・実験結果について考察でき、他者と討論できる。</li> <li>・課題研究を通じて論理的思考や問題発見能力を養う。</li> </ul>	
	医薬科学研究 II	<p>4年次Q1, Q2において、研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。またその過程において、問題点を見つけ、科学的根拠に基づいて解決する能力を修得する。この科目は、自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <p>以下に示す研究の進展に必要な基礎能力を身につけることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を理解し、その到達に向けて積極的に取り組む。</li> <li>・課題に関連する文献を調査し、必要なものを選別できる。</li> <li>・実験計画を立案できる。</li> <li>・実験系を組み、実験を実施できる。</li> <li>・実験結果について考察でき、他者と討論できる。</li> <li>・課題研究を通じて論理的思考や問題発見能力を養う。</li> </ul>	

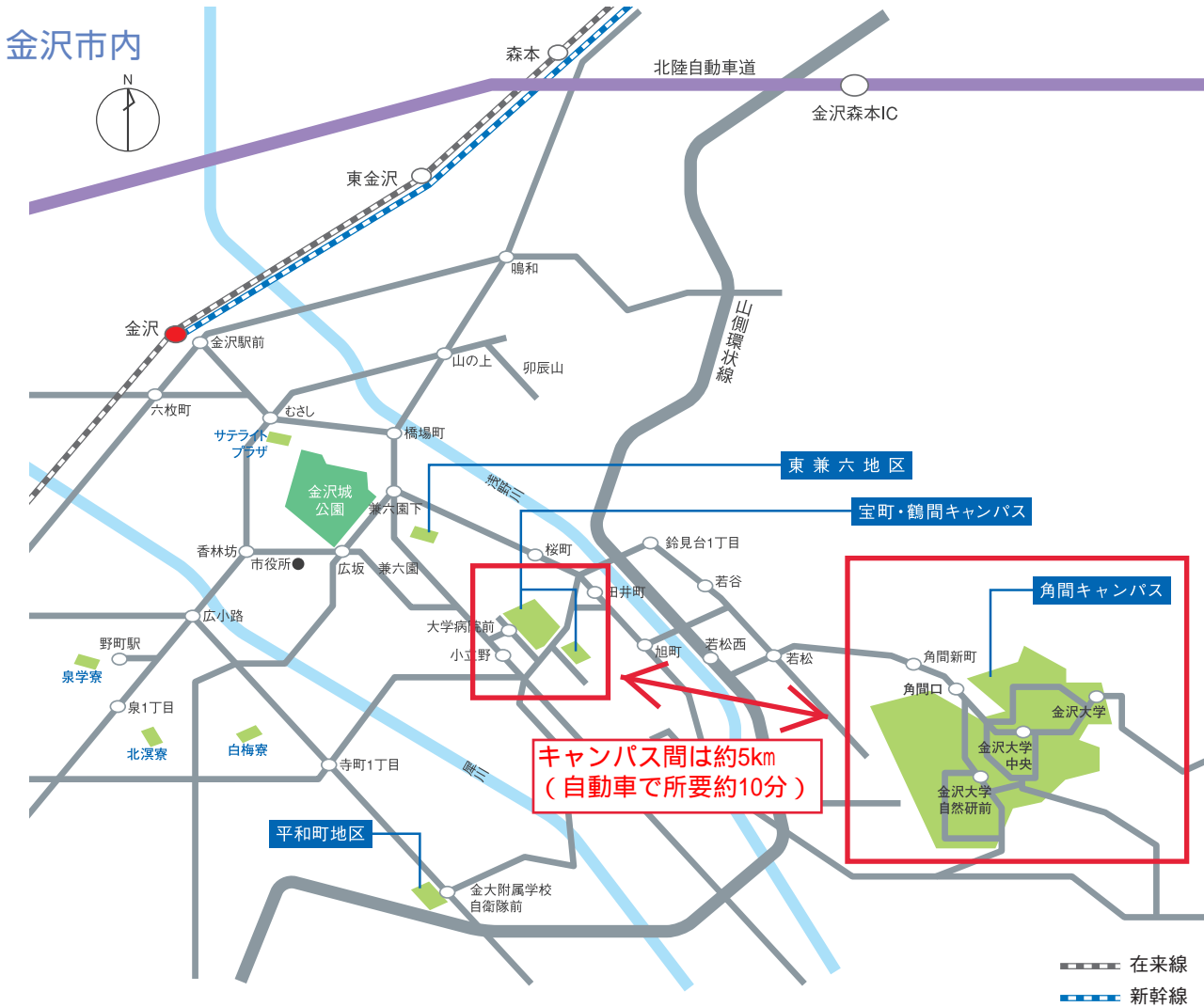
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	課題研究科目	医薬科学研究Ⅲ	<p>4年次Q3, Q4において、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な知識、技能、態度を修得する。またその過程において、問題点を見つけ、科学的根拠に基づいて解決する能力を修得する。この科目は、自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <p>以下に示す研究の進展と達成に必要な基礎能力を身につけることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。</li> <li>・課題に関連する文献を調査し、必要なものを選別できる。</li> <li>・実験計画を立案できる。</li> <li>・実験系を組み、実験を実施できる。</li> <li>・実験結果について考察でき、他者と討論できる。</li> <li>・課題研究を通じて論理的思考や問題発見能力を養う。</li> </ul>	
		医薬科学演習Ⅰ	<p>3年次において、文献や研究成果の発表と質疑応答、他者の発表内容に対する理解と質問、研究成果の報告など、研究活動に必要なこれらのスキルや能力を修得する。この科目は、自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <p>研究において他の研究者とのディスカッションは極めて重要であり、発表する側、発表を聞く側の両方において、それを有効にする能力は必須である。セミナー等への参加や実施を通してその基本的能力を身につけ、またそれを自分自身の研究課題の進展にも活用できるように実践することを目標とする。</p>	
		医薬科学演習Ⅱ	<p>4年次Q1, Q2において、文献や研究成果の発表と質疑応答、他者の発表内容に対する理解と質問、研究成果の報告など、研究活動に必要なこれらのスキルや能力を修得する。この科目は、自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <p>研究において他の研究者とのディスカッションは極めて重要であり、発表する側、発表を聞く側の両方において、それを有効にする能力は必須である。セミナー等への参加や実施を通して、3年次に獲得した基本的能力をさらに進展させ、またそれを自分自身の研究課題の発展にも活用できるように実践することを目標とする。</p>	
		医薬科学演習Ⅲ	<p>4年次Q3, Q4において、文献や研究成果の発表と質疑応答、他者の発表内容に対する理解と質問、研究成果の報告など、研究活動に必要なこれらのスキルや能力を修得する。この科目は、自己研鑽・参加型の学習により学習目標を達成できる。</p> <p>研究において他の研究者とのディスカッションは極めて重要であり、発表する側、発表を聞く側の両方において、それを有効にする能力は必須である。セミナー等への参加や実施を通してこれまでに獲得した能力を確固たるものとし、またそれを自分自身の研究課題の達成にも活用できるように実践することを目標とする。</p>	

# キャンパス位置図

## 石川県・金沢市の位置 Location of Ishikawa Pref. and Kanazawa



# キャンパス位置図



## 東京方面から金沢へのアクセス

- 航空機利用  
羽田空港→小松空港 所要約1時間  
(小松空港→金沢駅は北陸鉄道バスで約1時間)

- JR利用  
東京→金沢 新幹線かがやき 所要約2時間30分  
新幹線はくたか 所要約3時間

## 名古屋方面から金沢へのアクセス

- JR利用  
名古屋→金沢 新幹線,特急しらさぎ 所要約2時間40分

## 大阪・京都方面から金沢へのアクセス

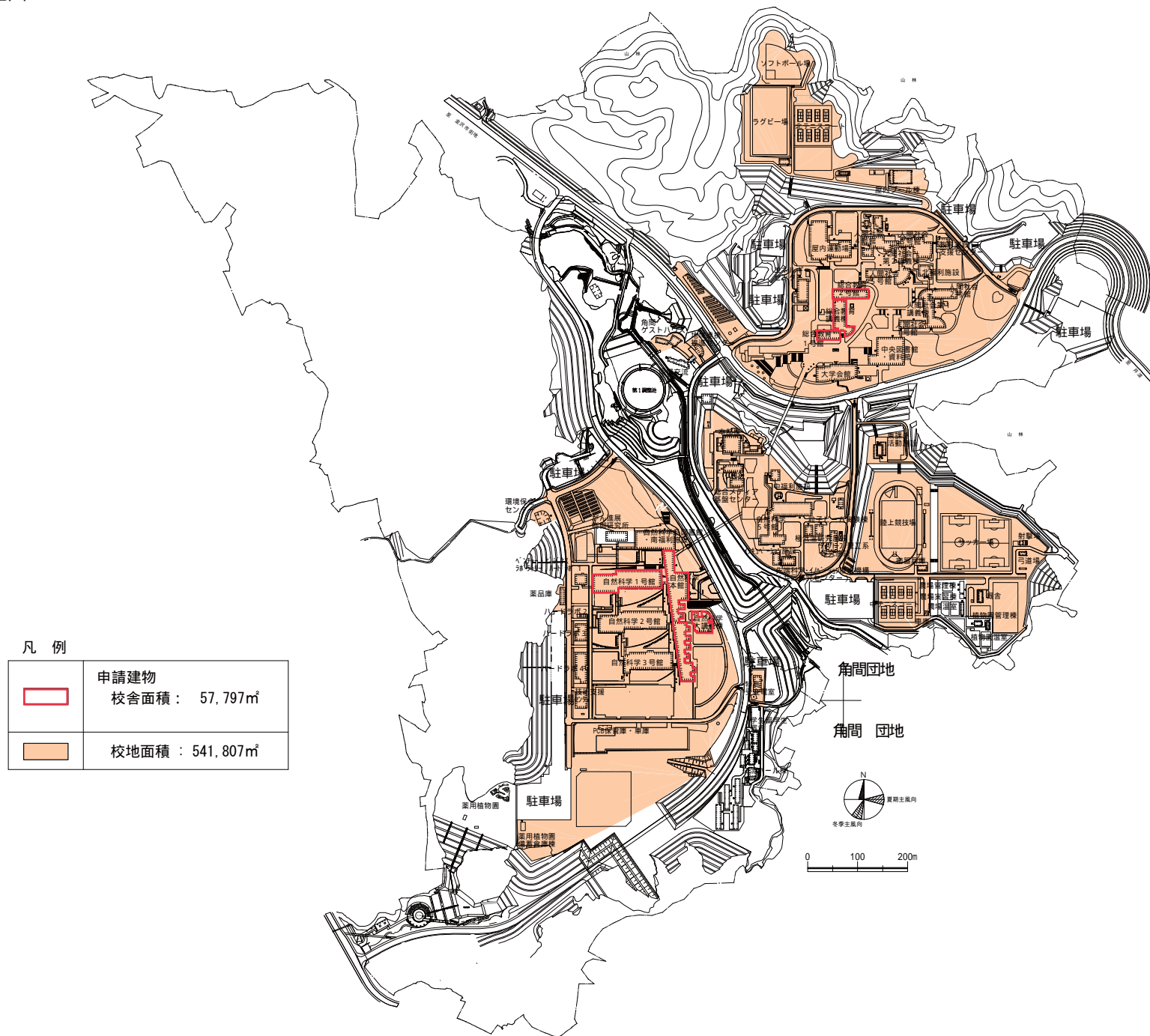
- JR利用  
大阪→京都→金沢 特急サンダーバード 所要約2時間40分

## 金沢駅から主要キャンパスへのアクセス(北陸鉄道バス利用の場合)

- 角間キャンパス  
<「金沢大学自然研前」,「金沢大学中央」,「金沢大学(角間)」まで 所要約35分  
金沢駅兼六園口(東口)⑥乗場→91939497「金沢大学(角間)」行
- 宝町・鶴間キャンパス<「小立野」バス停下車>まで 所要約20分  
金沢駅兼六園口(東口)⑦乗場→11「東部車庫」行など  
金沢駅兼六園口(東口)⑥乗場→13「湯谷原・医王山」行など  
金沢駅金沢港口(西口)⑤乗場→10「東部車庫」行など



金沢大学角間キャンパス配置図







目次

第1章 総則(第1条－第4条)

第2章 組織

第1節 教育研究組織(第5条－第18条)

第2節 職員等(第19条－第26条)

第3節 教授会等(第27条－第34条)

第4節 事務組織(第35条)

第5節 技術支援組織(第35条の2)

第3章 学生

第1節 学年等及び休業日(第36条・第37条)

第2節 修業年限及び在学年限(第38条－第40条)

第3節 入学(第41条－第47条)

第4節 教育課程，履修方法等(第48条－第58条)

第5節 卒業要件及び学位授与(第59条－第61条)

第6節 休学，復学，転学，留学，退学及び除籍(第62条－第68条)

第7節 賞罰(第69条・第70条)

第8節 検定料，入学料及び授業料(第71条－第82条)

第4章 研究生，科目等履修生，特別聴講学生及び外国人留学生(第83条－第87条)

第5章 学生寄宿舍(第88条)

第6章 特別の課程(第89条)

第7章 公開講座(第90条)

附則

第1章 総則

(目的)

第1条 金沢大学(以下「本学」という。)は，教育，研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため，総合大学として教育研究活動等を行い，学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この学則において「学域」とは，学校教育法第85条ただし書の規定に基づく，教育上の目的を達成するための組織をいう。

2 この学則において「学類」とは，学域において学生の受入れと専門教育実施の基本的な単位をいう。

- 3 この学則において「コース」とは、学類において個別の学問領域に基礎を置く専門教育に係るカリキュラムの基本単位及びその履修の体系をいう。
- 4 この学則において「研究域」とは、研究上の目的を達成するための組織をいう。
- 5 この学則において「系」とは、研究域及び第6条の2に定める国際基幹教育院に所属する教員の専門領域に基づいて分類した所属の単位をいう。
- 6 この学則において「附属教育研究施設」とは、特定の学類の教育及び当該分野の研究に必要な施設をいう。
- 7 この学則において「学内共同教育研究施設」とは、教員その他の者が共同して教育若しくは研究を行う施設又は教育若しくは研究のため共用する施設をいう。
- 8 この学則において「学内共同利用施設」とは、教員その他の者が共同して利用する施設をいう。
- 9 この学則において「部局」とは、教員が所属又は関与し、教育、研究、診療その他の大学運営に重要な事項を実施するための組織をいう。

(自己点検評価及び研修等)

第3条 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価(以下「自己点検評価」という。)並びに授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行うものとする。

- 2 自己点検評価及び研修等については、別に定める。

(情報の積極的な提供)

第4条 本学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他によって、積極的に情報を提供するものとする。

## 第2章 組織

### 第1節 教育研究組織

(学域、学類並びにコース及び専攻)

第5条 本学に、次に掲げる学域、学類並びにコース及び専攻を置く。

人間社会学域

人文学類

法学類 公共法政策コース、企業関係法コース、総合法学コース

経済学類 エコノミクスコース、グローバル・マネジメントコース

学校教育学類 教育科学コース、教科教育学コース

地域創造学類 福祉マネジメントコース、環境共生コース、地域プランニングコース、観光学・文化継承コース

国際学類 国際社会コース、日本・日本語教育コース、アジアコース、米英コース、ヨーロッパコース

理工学域



数物科学類 数学コース, 物理学コース, 計算科学コース

物質化学類 化学コース, 応用化学コース

機械工学類 機械創造コース, 機械数理コース, エネルギー機械コース

フロンティア工学類

電子情報通信学類 電気電子コース, 情報通信コース

地球社会基盤学類 地球惑星科学コース, 土木防災コース, 環境都市コース

生命理工学類 生命システムコース, 海洋生物資源コース, バイオ工学コース

医薬保健学域

医学類

薬学類

医薬科学類 生命医科学コース, 創薬科学コース

保健学類 看護学専攻, 放射線技術科学専攻, 検査技術科学専攻, 理学療法学専攻, 作業療法学専攻

- 2 各学域の入学定員及び収容定員は, 別表第一のとおりとする。
- 3 学域及び学類の人材の養成に関する目的その他の教育上の目的並びに運営に必要な事項は, 別に定める。
- 4 次の学類に, 次に掲げる附属教育研究施設を置く。

人間社会学域学校教育学類

附属幼稚園, 附属小学校, 附属中学校, 附属高等学校及び附属特別支援学校(以下「附属学校」という。)並びに附属教育実践支援センター

医薬保健学域薬学類及び医薬科学類

附属薬用植物園

- 5 附属特別支援学校は, 知的障害者に対する教育を行うことを目的とする。
- 6 附属教育研究施設に関し必要な事項は, 別に定める。

(大学院)

第6条 本学に, 大学院を置く。

- 2 大学院に, 次に掲げる研究科及び専攻を置く。

人間社会環境研究科

(前期2年の博士課程)

人文学専攻, 経済学専攻, 地域創造学専攻, 国際学専攻

(後期3年の博士課程)

人間社会環境学専攻

自然科学研究科

(前期2年の博士課程)

数物科学専攻, 物質化学専攻, 機械科学専攻, 電子情報科学専攻, 環境デザイン学専攻, 自然システム学専攻

(後期3年の博士課程)

数物科学専攻，物質化学専攻，機械科学専攻，電子情報科学専攻，環境デザイン学専攻，自然システム学専攻

医薬保健学総合研究科

(修士課程)

医科学専攻

(博士課程)

医学専攻，薬学専攻

(前期2年の博士課程)

創薬科学専攻，保健学専攻

(後期3年の博士課程)

創薬科学専攻，保健学専攻

先進予防医学研究科

(博士課程)

先進予防医学共同専攻

新学術創成研究科

(前期2年の博士課程)

融合科学共同専攻，ナノ生命科学専攻

(後期3年の博士課程)

融合科学共同専攻，ナノ生命科学専攻

法学研究科

(修士課程)

法学・政治学専攻

(専門職学位課程)

法務専攻

教職実践研究科

(専門職学位課程)

教職実践高度化専攻

3 大学院(連合大学院を含む。)に関し必要な事項は，別に定める。

(国際基幹教育院)

第6条の2 本学に，国際基幹教育院を置く。

2 国際基幹教育院に，次に掲げる部及び系を置く。

総合教育部

GS教育系，外国語教育系，高等教育開発・支援系

3 第5条第2項の規定にかかわらず，前項の総合教育部に，文系又は理系の区分のみを定めて行う本学の入学者を選抜するための試験により入学した者を学類へ移行するまでの間，所属させる。

4 国際基幹教育院に関し必要な事項は，別に定める。

(別科)

第7条 本学に、養護教諭特別別科を置く。

2 別科に関し必要な事項は、別に定める。

(研究域及び系)

第8条 本学に、次に掲げる研究域及び系を置く。

融合研究域

融合科学系

人間社会研究域

人間科学系、歴史言語文化学系、法学系、経済学経営学系、学校教育系

理工研究域

数物科学系、物質化学系、機械工学系、フロンティア工学系、電子情報通信学系、地球社会基盤学系、生命理工学系

医薬保健研究域

医学系、薬学系、保健学系

2 研究域に附属研究センターを置くことができる。

3 研究域、研究域に置く系及び附属研究センターに関し必要な事項は、別に定める。

(附属病院)

第9条 本学に、附属病院を置く。

2 附属病院は、医薬保健学域のための教育研究施設とする。

3 附属病院に関し必要な事項は、別に定める。

(附置研究所等)

第10条 本学に、次に掲げる附置研究所等を置く。

がん進展制御研究所

ナノ生命科学研究所

ナノマテリアル研究所

設計製造技術研究所

2 附置研究所等に関し必要な事項は、別に定める。ただし、ナノ生命科学研究所については、自主独立した拠点形成の推進を図るため、その運営に関して特例措置を適用することができるものとする。

(附属図書館)

第11条 本学に、附属図書館を置く。

2 附属図書館に、中央図書館(自然科学系図書館を含む。)及び医学系分館を置く。

3 附属図書館に関し必要な事項は、別に定める。

(学内共同教育研究施設)

第12条 本学に、次に掲げる学内共同教育研究施設を置く。

総合メディア基盤センター

環日本海域環境研究センター  
学際科学実験センター  
子どものこころの発達研究センター  
先進予防医学研究センター  
環境保全センター

2 学内共同教育研究施設に関し必要な事項は、別に定める。

(保健管理センター)

第13条 本学に、保健管理センターを置く。

2 保健管理センターに関し必要な事項は、別に定める。

(グローバル人材育成推進機構、新学術創成研究機構、先端科学・社会共創推進機構及び国際機構)

第14条 本学に、グローバル人材育成推進機構、新学術創成研究機構、先端科学・社会共創推進機構及び国際機構を置く。

2 グローバル人材育成推進機構、新学術創成研究機構、先端科学・社会共創推進機構及び国際機構に関し必要な事項は、別に定める。

(学内共同利用施設)

第15条 本学に、次に掲げる学内共同利用施設を置く。

極低温研究室

資料館

埋蔵文化財調査センター

技術支援センター

2 学内共同利用施設に関し必要な事項は、別に定める。

(その他の組織)

第16条 本学に、前条までに定めるもののほか、別に定めるところによりその他の組織を置くことができる。

(研究プログラム等)

第17条 がん進展制御研究所に、研究プログラムを置く。

2 ナノ生命科学研究所、ナノマテリアル研究所、設計製造技術研究所、学内共同教育研究施設、保健管理センター及び先端科学・社会共創推進機構に、研究部門を置くことができる。

3 研究プログラム及び研究部門に関し必要な事項は、別に定める。

(連携講座等)

第18条 大学院に、連携講座、寄附講座及び共同研究講座を置くことができる。

2 国際基幹教育院、附置研究所等、学内共同教育研究施設、保健管理センター、新学術創成研究機構、先端科学・社会共創推進機構及び国際機構に、寄附研究部門を置くことができる。

- 3 国際基幹教育院，附属病院，附置研究所等，学内共同教育研究施設，保健管理センター，新学術創成研究機構，先端科学・社会共創推進機構及び国際機構に，共同研究部門を置くことができる。
- 4 連携講座，寄附講座及び寄附研究部門並びに共同研究講座及び共同研究部門に関し必要な事項は，別に定める。

## 第2節 職員等

(学長及び副学長)

第19条 本学に，学長を置く。

- 2 本学に，別に定めるところにより副学長を置く。

(教授，准教授等)

第20条 本学に，教授，准教授，講師，助教及び助手(以下「教員」という。)を置く。

- 2 本学に，事務職員，技術職員，医療職員その他の職員を置く。
- 3 附属学校に，校長，園長，教頭，教諭，養護教諭，栄養教諭その他の職員を置く。
- 4 附属学校に，副校長，副園長，主幹教諭及び指導教諭を置くことができる。
- 5 職員に関し必要な事項は，別に定める。

(顧問，学長特別補佐及び学長補佐)

第21条 本学に，本学の業務の運営に関する事項について，学長の諮問に応じて意見を述べ，又は助言を行うため，別に定めるところにより顧問を若干人置くことができる。

- 2 本学に，学長の職務のうち特に必要と認める事項に関し，学長を補佐するため，別に定めるところにより学長補佐及び学長特別補佐を若干人置くことができる。

(部局及び部局長等)

第22条 学域，研究科，国際基幹教育院，研究域，附属病院，附置研究所等，附属図書館，学内共同教育研究施設，保健管理センター，グローバル人材育成推進機構，新学術創成研究機構，先端科学・社会共創推進機構及び国際機構を部局とし，それぞれ学域長，研究科長，国際基幹教育院長，研究域長，附属病院長，附置研究所等の長，附属図書館長，学内共同教育研究施設の長，保健管理センター長，グローバル人材育成推進機構長，新学術創成研究機構長，先端科学・社会共創推進機構長及び国際機構長(以下「部局長」という。)を置く。

- 2 研究域長は対応する学域の学域長を兼ねるものとする。
- 3 学域に置く学類及び研究域に置く系に，それぞれ学類長及び系長を置き，国際基幹教育院に置く系に系長を置く。ただし，研究域長は学類長又は系長を，国際基幹教育院長は系長を兼ねることができない。
- 4 附属教育実践支援センター及び附属薬用植物園に，それぞれ附属教育実践支援センター長及び附属薬用植物園長を置く。
- 5 附属図書館に置かれる医学系分館に，分館長を置く。

- 6 学内共同利用施設に、学内共同利用施設の長を置く。
- 7 人間社会環境研究科，自然科学研究科，医薬保健学総合研究科，新学術創成研究科及び法学研究科の各専攻に，専攻長を置く。
- 8 第1項に定める部局に，部局長を補佐するため，副部局長を置くことができる。
- 9 第1項から前項までに定める部局長等(以下「部局長等」という。)の任期は，2年とする。ただし，補欠の部局長等の任期は，前任者の残任期間とする。
- 10 部局長等は，再任されることができる。
- 11 部局長等は，教授(常勤の特任教授を含む。以下この項において同じ。)をもって充てる。ただし，グローバル人材育成推進機構長は学長を，ナノマテリアル研究所長，設計製造技術研究所長，附属図書館長，環日本海域環境研究センター長，保健管理センター長，先端科学・社会共創推進機構長及び国際機構長は副学長を，学長が別に定める学内共同利用施設の長は准教授(常勤の特任准教授を含む。)を，副部局長は教授以外の職員をもって充てることができる。
- 12 部局長等の選考に関し必要な事項は，学長又は部局長が別に定める。

(部局長の解任)

第23条 学長は，部局長(学類長及び系長を含み，附属図書館長を除く。以下この条において同じ。)が，次の各号のいずれかに該当するときは，解任することができる。この場合において，学長は，第27条に定める会議(第31条の4に定めるナノマテリアル研究所会議，第31条の5に定める設計製造技術研究所会議，第32条第1項に定める教員会議及び第33条に定めるセンター会議等を含む。)の申出に基づき行うものとする。

- (1) 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
  - (2) 職務上の義務違反があるとき。
  - (3) その他部局長たるに適しないと認められるとき。
- 2 前項に定めるもののほか，学長は，部局長の職務の執行が適当でないため当該部局の業務の実績が悪化した場合であって，当該部局長に引き続き職務を行わせることが適当でないとき，解任することができる。
  - 3 前項の規定により，研究科長，国際基幹教育院長，研究域長，附属病院長，がん進展制御研究所長，学類長及び系長を解任するときは，第27条に定める会議の申出に基づき行うものとする。

(附属学校統括長)

第24条 本学に，附属学校の運営及び改革を統括するため，附属学校統括長を置く。

- 2 附属学校統括長は，学長が指名する者をもって充てる。
- 3 附属学校統括長の任期は2年とする。ただし，補欠の附属学校統括長の任期は，前任者の残任期間とする。
- 4 附属学校統括長は，再任されることができる。

(名誉教授，客員教授等)

第25条 本学の学長、副学長又は教授として勤務した者に、名誉教授の称号を付与することができる。

2 本学の常時勤務の教員以外の職員に、客員教授又は客員准教授の称号を付与することができる。

3 名誉教授、客員教授等に関し必要な事項は、別に定める。

第26条 削除

### 第3節 教授会等

(教育研究会議、学類会議、研究科会議及び系会議並びに教授会議)

第27条 教授会として、融合研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、融合系教育研究会議を置き、その下に、系会議を置く。

2 教授会として、人間社会学域、人間社会環境研究科、法学研究科、教職実践研究科及び人間社会研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、人間社会系教育研究会議を置き、その下に、学類会議、研究科会議、系会議を置く。

3 教授会として、理工学域、自然科学研究科及び理工研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、理工系教育研究会議を置き、その下に、学類会議、研究科会議、系会議を置く。

4 教授会として、医薬保健学域、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科及び医薬保健研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、医薬保健系教育研究会議を置き、その下に、学類会議、研究科会議、系会議を置く。

5 教授会として、国際基幹教育院の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、国際基幹教育院教授会議を置き、その下に系会議を置く。

6 教授会として、がん進展制御研究所の研究に関する重要事項を審議するため、がん進展制御研究所教授会議を置く。

7 教授会として、ナノ生命科学研究所の研究に関する重要事項を審議するため、ナノ生命科学研究所教授会議を置く。

(組織)

第28条 教育研究会議、国際基幹教育院教授会議、がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議は、当該研究域、国際基幹教育院、がん進展制御研究所及びナノ生命科学研究所の教授をもって組織する。

2 教育研究会議、国際基幹教育院教授会議、がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議には、当該研究域、国際基幹教育院、がん進展制御研究所及びナノ生命科学研究所の准教授、講師(常時勤務の者に限る。)及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。

3 医薬保健系教育研究会議には、附属病院長(第1項に該当しない者に限る。)、附属病院の教授、准教授、講師(常時勤務の者に限る。)及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。

- 4 ナノ生命科学研究所教授会議には、ナノ生命科学研究所リサーチプロフェッサー(極めて顕著な研究業績を有する国内外の教育機関から招へいする教員に限る。)を加えることができる。ただし、学長が特に必要と認めた場合、ナノ生命科学研究所以外の教授を加えることができる。

(議長)

第 29 条 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議に議長を置き，当該研究域，国際基幹教育院，がん進展制御研究所及びナノ生命科学研究所の長をもって充てる。

2 議長は，会議を主宰する。

3 議長に事故があるときは，議長があらかじめ指名する者が，議長の職務を行う。

(審議事項)

第 30 条 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議は，学校教育法第 93 条第 2 項及び第 3 項に基づき，次に掲げる事項を審議し，学長又は教授会を置く組織の長に意見を述べるものとする。

(1) 当該研究域長，国際基幹教育院長，がん進展制御研究所長及びナノ生命科学研究所長の候補者の選考に関する事項

(2) 教員の人事及び選考に関する事項

(3) 中期目標・中期計画及び年度計画(法人の経営に関するものを除く。)に関する事項

(4) 規程(法人の経営に関する部分を除く。)その他の教育及び研究に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項

(5) 教育及び研究に係る予算の執行に関する事項

(6) 教育課程の編成に関する事項

(7) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言，指導その他の援助に関する事項

(8) 学生の入学，卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項

(9) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項

(10) 授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事項

(11) その他当該部局の教育及び研究に関する重要事項

2 学類会議，研究科会議及び系会議は，前項の事項のうち，教育研究会議が付託した事項を審議する。

3 教育研究会議は，学類会議，研究科会議及び系会議の議決をもって，教育研究会議の議決とすることができる。

(代議員会等)



第31条 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議は，構成員のうちの一部の者をもって組織する代議員会，専門委員会等(以下「代議員会等」という。)を置くことができる。

2 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議は，代議員会等の議決をもって，教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議の議決とすることができる。

(基幹教育管理運営委員会)

第31条の2 本学に，「金沢大学<グローバル>スタンダード」を基軸とした，全学的な基幹教育(学士課程，修士課程及び博士課程それぞれの教育の基盤をなす教養的教育をいう。)について，基本的な方針を審議し決定するため，基幹教育管理運営委員会を置く。

(附属学校運営協議会)

第31条の3 本学に，附属学校の将来構想，学校教育学類及び大学院教職実践研究科との連携について，基本的な方針を審議し決定するため，附属学校運営協議会を置く。

(新学術創成研究科会議)

第31条の4 新学術創成研究科の教育に関する重要事項を審議するため，新学術創成研究科会議を置く。

2 新学術創成研究科会議は，学校教育法第93条第2項及び第3項に基づき，教育研究会議に準じて，別に定める事項を審議し，学長に意見を述べるものとする。

(ナノマテリアル研究所会議)

第31条の5 ナノマテリアル研究所に，ナノマテリアル研究所会議を置く。

(設計製造技術研究所会議)

第31条の6 設計製造技術研究所に，設計製造技術研究所会議を置く。

(教員会議等)

第32条 総合メディア基盤センター，環日本海域環境研究センター，学際科学実験センター，子どものこころの発達研究センター，保健管理センター及び新学術創成研究機構に，教員会議を置く。

2 前項に定めるもののほか，新学術創成研究機構に運営委員会を置く。

(センター会議等)

第33条 先進予防医学研究センター，環境保全センター，グローバル人材育成推進機構，先端科学・社会共創推進機構及び国際機構に，必要に応じて，センター会議(グローバル人材育成推進機構，先端科学・社会共創推進機構及び国際機構にあつては機構運営会議，以下「センター会議等」という。)を置く。

(組織及び運営等)

第34条 第28条から前条までに定めるもののほか、教育研究会議、国際基幹教育院教授会議、がん進展制御研究所教授会議、ナノ生命科学研究所教授会議、学類会議、研究科会議、系会議、基幹教育管理運営委員会、附属学校運営協議会、新学術創成研究科会議、ナノマテリアル研究所会議、設計製造技術研究所会議、教員会議、運営委員会及びセンター会議等の組織及び運営等に関し必要な事項は別に定める。

#### 第4節 事務組織

(事務局)

第35条 本学に、事務局を置き、その事務を分掌させるため、次に掲げる部を置く。

- (1) 総務部
- (2) 財務部
- (3) 施設部
- (4) 研究・社会共創推進部
- (5) 学務部
- (6) 国際部
- (7) 情報部
- (8) 人間社会系事務部
- (9) 理工系事務部
- (10) 医薬保健系事務部
- (11) 病院部

2 事務局に関し必要な事項は、別に定める。

#### 第5節 技術支援組織

(総合技術部)

第35条の2 本学に、総合技術部を置く。

2 総合技術部に関し必要な事項は、別に定める。

### 第3章 学生

#### 第1節 学年等及び休業日

(学年等)

第36条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を次の2学期4クォーターに分ける。

学期	クォーター	期 間
前期	第1クォーター	4月1日から9月30日までの間で別に定める。
	第2クォーター	
後期	第3クォーター	10月1日から翌年3月31日までの間で別に定める。
	第4クォーター	

3 各学期の授業実施日等は、別に定める。

(休業日)

第 37 条 休業日は、次のとおりとする。ただし、休業日にも登学を課することができる。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に定める休日
- (3) 別に定める夏季休業、冬季休業及び春季休業

2 前項に定めるもののほか、臨時に休業日を定めることができる。

#### 第 2 節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第 38 条 修業年限は、4 年とする。ただし、医薬保健学域の医学類及び薬学類にあつては、6 年とする。

(修業年限の通算)

第 39 条 第 84 条に定める科目等履修生として、本学において一定の単位(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 90 条の規定により入学資格を有した後、修得したものに限り)を修得した者が、本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、修得した単位数その他の事項を勘案して、修業年限の 2 分の 1 を超えない範囲内の期間を修業年限に通算することができる。

(在学年限)

第 40 条 在学年限は、8 年とする。ただし、医薬保健学域の医学類及び薬学類にあつては、12 年の範囲内で医薬保健学域において別に定める。

#### 第 3 節 入学

(入学時期)

第 41 条 入学の時期は、学年又は学期の始めとする。

(入学資格)

第 42 条 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修学年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(8) 学校教育法第90条第2項の規定により他の大学に入学した者であつて、その後、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

(9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学の出願)

第43条 本学に入学を志願する者は、所定の出願書類に別表第二に定める検定料及び別に定める書類を添えて、願い出なければならない。

(入学者の選抜)

第44条 前条の入学を志願する者については、別に定めるところにより選抜を行う。

(入学手続及び入学許可)

第45条 前条の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、所定の書類を提出するとともに、別表第二に定める入学料を納付しなければならない。ただし、入学料の免除又は徴収猶予を受けようとする者は、入学料に代えてその免除又は徴収猶予の申請書を提出しなければならない。

2 学長は、入学の手続を完了した者(入学料に関しては、その免除又は徴収猶予の申請書を受理された者を含む。)に、入学を許可する。

(再入学、転入学及び編入学)

第46条 次の各号のいずれかに該当する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(1) 本学を退学した者(第70条に定める退学者を除く。)又は除籍された者で、再び同一の学域又は国際基幹教育院総合教育部へ再入学を志願するもの

(2) 他大学に在学している者で、本学(国際基幹教育院総合教育部を除く。以下第3号から第7号において同じ。)へ転入学を志願するもの

(3) 他大学を卒業した者又は退学した者で、本学へ編入学を志願するもの

(4) 短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者で、本学へ編入学を志願するもの

(5) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)を修了した者(学校教育法第90条第1項に定めるものに限る。)で、本学へ編入学を志願するもの

(6) 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科の課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第90条第1項に定めるものに限る。)で、本学へ編入学を志願するもの

(7) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し、又は卒業した者で、本学へ編入学を志願するもの

- 2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び修得した単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教育研究会議又は国際基幹教育院教授会議の議を経て、学域長又は国際基幹教育院長が決定する。
- 3 第1項の規定により入学した者の在学年限は、その者が属する年次に対応する残余の修業年限の2倍の年数を超えることができない。
- 4 前3条の規定は、第1項の規定により入学する場合に準用する。
- 5 再入学、転入学及び編入学に関し必要な事項は、学域及び国際基幹教育院において別に定める。

(宣誓)

第47条 入学を許可された者は、別に定めるところにより、宣誓をしなければならない。

#### 第4節 教育課程、履修方法等

(教育課程の編成方針等)

第48条 教育課程は、本学、学域、学類並びにコース及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

- 2 教育課程の編成に当たっては、学域、学類並びにコース及び専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。
- 3 授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画を学生に対してあらかじめ明示するものとする。
- 4 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育課程の編成及び履修方法等)

第49条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 教育課程については、金沢大学共通教育科目に関する規程及び各学域において別に定める。
- 3 授業科目の履修に関する事項については、金沢大学履修規程において別に定める。

(単位の計算方法)

第50条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準によるものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

- (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して学域が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を与えることが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

(授業の方法)

- 第51条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 4 第1項の授業の一部は、文部科学大臣が別に定めるところにより、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

(単位の授与)

- 第52条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。ただし、第50条第2項に定める授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

(成績の評価)

- 第53条 成績の評価については、金沢大学履修規程において別に定める。

(履修科目の登録の上限)

- 第54条 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1学期又は1クォーターに履修科目として登録することができる単位数の上限を学域及び国際基幹教育院において定めるものとする。

(大学院授業科目の履修)

- 第54条の2 学生は、本学大学院へ入学を希望するときは、所属の学域長及び希望する大学院の研究科長の許可を得て、当該研究科の授業科目を履修することができる。

- 2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

- 第55条 学生は、学域長又は国際基幹教育院長の許可を得て、本学が定める他の大学又は短期大学において、当該大学又は短期大学の所定の授業科目を履修することができる。

2 前項の規定により履修した授業科目についての修得した単位は、学域又は国際基幹教育院の定めるところに基づき、合計 60 単位を超えない範囲で、これを本学の単位として認定する。

3 前項の規定は、第 66 条の規定による留学及び外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 56 条 本学が教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学域又は国際基幹教育院の定めるところに基づき、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条第 2 項及び第 3 項により本学の単位として認定する単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(休学期間中の他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学における学修)

第 56 条の 2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に他の大学若しくは短期大学(以下「大学等」という。)又は外国の大学等において学修した成果について、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、学域又は国際基幹教育院の定めるところに基づき、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、第 55 条第 2 項及び第 3 項並びに前条第 1 項により本学の単位として認定する単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 57 条 本学が教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に大学等又は外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学が教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に行った前条第 1 項に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学域又は国際基幹教育院の定めるところに基づき、単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、再入学、転入学及び編入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 55 条第 2 項及び第 3 項、第 56 条第 1 項並びに前条第 1 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第 58 条 学生が職業を有している等の事情により、当該学生に係る修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、教育研究会議の議を経て、学長は、その計画的な履修を許可することができる。

- 2 前項に定めるもののほか、長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

#### 第5節 卒業要件及び学位授与

##### (卒業要件)

第59条 本学に4年以上(医薬保健学域の医学類及び薬学類にあつては6年以上)在学し、学域ごとに定める授業科目を履修し、124単位以上(医薬保健学域の医学類にあつては188単位以上、薬学類にあつては186単位以上)で学域の定める単位数を修得した者については、当該教育研究会議の議を経て、学長が卒業を認定する。

- 2 前項の規定により卒業要件として修得すべき単位のうち、第51条第2項に定める授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

##### (早期卒業)

第60条 前条の規定にかかわらず、本学に3年以上在学し、卒業要件として修得すべき単位数を優秀な成績で修得した学生が、学校教育法第89条に定める卒業を希望する場合は、前条の規定にかかわらず、学長はこれを認定することができる。

- 2 早期卒業に関し必要な事項は、別に定める。

##### (学位の授与)

第61条 本学を卒業した者には、金沢大学学位規程の定めるところにより学士の学位を授与する。

#### 第6節 休学、復学、転学、留学、退学及び除籍

##### (休学等)

第62条 疾病又はその他の事由により、1月以上修学を中止しようとする者は、学域長又は国際基幹教育院長に届け出て、休学することができる。

- 2 前項に定める休学のほか、学域長又は国際基幹教育院長は、疾病のため修学に適しないと認められる者に対しては、学長の承認を得て、休学を命じ、又は登学を停止させることができる。

- 3 休学の期間は、休学の開始日から、その年次の各クォーター、各学期又は学年の終わりまでとする。ただし、前項の休学の期間は、この限りでない。

- 4 休学期間は、在学年限に算入しない。

- 5 休学期間は、通算4年(国際基幹教育院総合教育部に所属する期間においては通算2年とする。)を超えることができない。ただし、第2項の休学の期間は、この限りでない。

##### (復学)

第63条 休学期間中に復学しようとする者(前条第2項により休学を命じられた者を除く。)は、事由を記し、学域長又は国際基幹教育院長に届け出るものとする。

- 2 復学の時期は、クォーター又は学期の始めとする。

##### (転学類)



第64条 転学類(学生が所属する学域以外への転学類も含む。)を志願する者があるときは、別に定めるところにより選考の上、転学類を許可することができる。

2 転学類を志願する者は、所定の出願書類に志望の学類(保健学類にあつては専攻も含む。)及び志望の事由を記し、所属の学域長に願い出なければならない。

(転学)

第65条 他の大学へ転学を志願する者(懲戒対象行為を行った者は除く。)は、所定の願書に志望の大学、学部、学科及び志望の事由を記し、学域長又は国際基幹教育院長を経て、学長に届け出るものとする。

(留学)

第66条 学生は、外国の大学等で学修するため、学長に届け出て、留学することができる。

2 前項の留学期間は、修業年限に含まれるものとする。

(退学)

第67条 退学しようとする者は、事由を記し、学域長又は国際基幹教育院長を経て、学長に届け出るものとする。

2 前項の規定にかかわらず、懲戒対象行為を行った者が当該処分の決定前に退学を届け出た場合等、特別の事由がある場合については、別に定めるところにより学長、学域長又は国際基幹教育院長は当該届出を受理しないことがある。

(除籍)

第68条 学生が次の各号のいずれかに該当するときは、学長は、これを除籍する。

(1) 入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は減免若しくは徴収猶予を許可された者(入学料の全額を免除された者を除く。)であつて、納付すべき入学料を納付しない者

(2) 所定の年限に達して、なお卒業の認定を得られない者

(3) 授業料納付の義務を怠り督促を受けてもなお納付しない者

(4) 疾病その他の事由により、成業の見込がないと認められる者

#### 第7節 賞罰

(表彰)

第69条 学長は、本学在学中の学業の成績、課外活動等の成績に優れた者又は本学の名誉を著しく高めたと認められる者に対して、卒業時又はその都度、表彰を行うことができる。

2 表彰については、別に定める。

(懲戒)

第70条 学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した行為をなしたときは、学長は、教育研究評議会の議を経て懲戒する。

2 懲戒は、学長の命を受け、学域長又は国際基幹教育院長が行う。

3 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

#### 第8節 検定料、入学料及び授業料

(検定料等)

第71条 検定料、入学料及び授業料(以下「検定料等」という。)の額は、別表第二のとおりとする。

(入学料の免除又は徴収猶予)

第72条 学長は、特別の事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者に対しては、別に定めるところにより、入学料を免除し、又は徴収猶予することができる。

2 前項に定めるもののほか、学長が特に必要があると認める者に対しては、別に定めるところにより、入学料を免除することができる。

(入学料及び検定料の不返付)

第73条 既納の入学料及び検定料は、返付しない。ただし、大学等における修学の支援に関する法律(令和元年法律第8号。以下「修学支援法」という。)及び関係法令に基づき、別に定めるところにより入学料の全額及び一部を返付することがある。

2 前項の規定にかかわらず、検定料について、次の各号のいずれかに該当する者があるときは、その者の申出により次項に定める額を返付する。

(1) 入学者選抜における第2次の学力検査等を2段階の選抜方法で実施する場合において、第1段階目の選抜に合格しなかった者(推薦入学及びAO入試等において第1次選考として書類選考を行う場合における不合格者を含む。)

(2) 個別学力検査出願受付後に大学入試センター試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者

3 前項の規定により返付する額は、前項第1号の場合における第2段階目の選抜に係る額に相当する額とする。

(授業料の徴収方法等)

第74条 授業料の徴収は、各年度に係る授業料について、第1クォーター、第2クォーター、第3クォーター及び第4クォーターの4クォーターに区分して行うものとし、それぞれのクォーターにおいて徴収する額は、年額の4分の1に相当する額とする。

2 前項の授業料は、第1クォーター及び第2クォーターにあつては5月、第3クォーター及び第4クォーターにあつては11月に徴収するものとし、納付期限はそれぞれ当該月末日とする。

3 前2項の規定にかかわらず、学生から申し出があつたときは、第1クォーター及び第2クォーターに係る授業料を徴収するときに、当該年度の第3クォーター及び第4クォーターに係る授業料を併せて徴収するものとする。

4 第2項の納期後に入学した者は、入学の日の属する月に、そのクォーターに属する授業料を納付しなければならない。

(既納の授業料)

第 75 条 既納の授業料は返付しない。

- 2 前項の規定にかかわらず、既納の授業料のうち、休学又は退学したクォーターに係るもの並びに修学支援法及び関係法令に基づき減免されたものは、別に定めるところにより、当該授業料の全額又は一部を返付することがある。

(授業料の免除、月割分納及び徴収猶予)

第 76 条 学長は、学費の支弁が困難な学生に対しては、別に定めるところにより授業料を免除し、又は月割分納若しくは徴収猶予を認めることができる。

- 2 前項に定めるもののほか、学長が特に必要があると認める学生に対しては、別に定めるところにより、授業料を免除することができる。
- 3 授業料の免除又は月割分納若しくは徴収猶予(以下「免除等」という。)は、各期ごとにこれを認める。
- 4 免除等を認められた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、別に定めるところにより免除等を取り消すことができる。

- (1) 申請に係る事由が消滅したと認められるとき。
- (2) 申請について虚偽の事実が判明したとき。
- (3) 第 70 条の規定により懲戒を受けたとき。

(休学中及び復学の場合の授業料)

第 77 条 休学の場合には、別に定めるところにより、休学中の授業料は、これを徴収しない(第 75 条第 2 項に定める既納の授業料の全額又は一部の返付を含む。)ことがある。

- 2 復学したときは、復学した日の属するクォーターから授業料を徴収する。この場合において、第 2 クォーター又は第 4 クォーターから復学したときは、復学日の属する月に当該クォーターに係る授業料を、第 3 クォーターから復学したときは、11 月に第 3 クォーター及び第 4 クォーターに係る授業料を、それぞれ徴収する。

(免除等の取消しの場合の授業料)

第 78 条 第 76 条第 4 項第 1 号の規定に該当し授業料の免除を取り消されたとき、その期の授業料は、その月分から月割額(年額の 12 分の 1)により、免除を取り消された日の属する月に徴収する。

- 2 第 76 条第 4 項第 2 号及び第 3 号の規定に該当し免除等を取り消されたときは、免除等に係る授業料の金額をその月に徴収する。

(再入学等の場合の授業料)

第 79 条 学期の途中において、再入学、転入学又は編入学した場合には、再入学、転入学又は編入学した日の属するクォーターから次の徴収の時期前までの期間に応じた額を本学の指定する月に徴収する。

(退学等の場合の授業料)

第80条 クォーターの途中において、退学又は他大学へ転学した場合には、当該クォーターの授業料はこれを徴収する。

2 停学中の授業料は徴収する。

(死亡等の場合の授業料)

第81条 死亡又は行方不明により除籍した場合には、未納の授業料の全額を免除することができる。

(学年中途の卒業等の場合の授業料)

第82条 学年の中途において、卒業又は修了する場合には、月割計算により在学予定期間に応じた額を徴収する。

第4章 研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

(研究生)

第83条 本学の学生以外の者で、特定の研究課題について研究することを志願する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生の入学資格、選考方法等については、学域において別に定める。

3 研究生の研究期間は、1年以内とする。ただし、必要があると認められるときは、その期間を更新することができる。

4 第37条、第41条、第43条、第44条、第45条、第67条、第68条、第70条、第73条、第74条、第75条、第80条及び第81条の規定は、研究生に準用する。

(科目等履修生)

第84条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目を選んで履修することを志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生の入学資格、選考方法等については、学域及び国際基幹教育院において別に定める。

3 授業科目を履修し、その試験に合格した科目等履修生に対し単位を与える。

4 第36条、第37条、第41条、第43条、第44条、第45条、第49条第2項、第68条、第70条、第73条、第74条、第75条及び第81条の規定は、科目等履修生に準用する。

(特別聴講学生)

第85条 本学において、特定の授業科目を履修することを希望する他の大学等又は外国の大学等の学生があるときは、学域又は国際基幹教育院の定めるところにより、当該他の大学等又は外国の大学等との協議に基づき、所定の手続を経て特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 授業科目を履修し、その試験に合格した特別聴講学生に対し単位を与える。

3 第36条、第37条、第44条、第68条、第70条、第74条、第75条及び第81条の規定は、特別聴講学生に準用する。

4 特別聴講学生の入学の時期は、学期の始めとする。ただし、学域又は国際基幹教育院の定めるところにより、特別の事情があると判断される場合は、この限りでない。

(外国人留学生)

第86条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、特別に選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

(授業料等)

第87条 研究生、科目等履修生及び特別聴講学生に係る授業料等の額は、別表第二のとおりとする。

2 前項の規定にかかわらず、特別聴講学生が、国立大学の学生、単位互換協定に基づく公立若しくは私立の大学の学生、交流協定に基づく外国人留学生又は教育研究評議会の議を経て学長が特に必要と認める学生であるときは、授業料を徴収しない。

3 科目等履修生の授業料等の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

#### 第5章 学生寄宿舍

(学生寄宿舍)

第88条 本学に、学生寄宿舍として泉学寮、白梅寮、国際交流会館及び学生留学生宿舍を置く。

2 学生寄宿舍に関し必要な事項は、別に定める。

#### 第6章 特別の課程

(特別の課程)

第89条 本学の学生以外の者を対象として、学校教育法第105条に規定する特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

2 前項の実施に関し、必要な事項は、別に定める。

#### 第7章 公開講座

(公開講座)

第90条 本学に、公開講座を設ける。

2 公開講座の受講料の額は、別表第三のとおりとする。

3 公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この学則の施行の際現に旧国立学校設置法第3条第1項の表に掲げる金沢大学の学生である者は、この学則の施行の日に国立大学法人金沢大学が設置する金沢大学の学生の身分を取得するものとする。

- 3 第4条第1項の規定にかかわらず、旧金沢大学通則による法学部法学科及び公共システム学科、薬学部薬学科及び製薬化学科並びに工学部電気・情報工学科は、平成16年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 4 別表第一の規定にかかわらず、法学部、理学部、薬学部及び工学部並びに合計欄の収容定員については、平成16年度から平成18年度までは、次の表のとおりとする。

学部	学科等		平成16年度	平成17年度	平成18年度
			収容定員(人)	収容定員(人)	収容定員(人)
法学部	法政学科		180	360	540
	従前の学科	法学科	480	320	160
		公共システム学科	165	110	55
	(学科共通)		20	20	20
	計		845	810	775
理学部	数学科		99	98	97
	物理学科		131	130	129
	化学科		154	152	150
	生物学科		98	96	94
	地球学科		110	108	106
	計算科学科		118	116	114
	(学科共通)		20	20	20
	計		730	720	710
薬学部	総合薬学科		235	310	305
	従前の学科	薬学科	40	—	—
		製薬化学科	40	—	—
	計		315	310	305
工学部	土木建設工学科		331	318	313
	機能機械工学科		304	296	292
	物質化学工学科		382	372	366
	電気電子システム工学科		197	194	191
	人間・機械工学科		304	296	292
	情報システム工学科		256	252	248
	(学科共通)		60	60	60
	計		1,834	1,788	1,762
合計			7,454	7,358	7,282

- 5 この規程の施行の日の前日に部局長である者のうち、施行の日以後において任期を有するものは、施行の日に部局長に選任されたものとみなし、その任期については、第2

0 条第 7 項の規定にかかわらず、施行の日以後において当該部局長の有する任期と同一の期間とする。

6 前項に規定する者の次期部局長に係る任期については、第 20 条第 7 項の規定にかかわらず、当該部局の定めるところによる。

7 平成 10 年度以前の入学者に係る授業料の額については、第 71 条の規定にかかわらず、なお、従前の額とする。

附 則

この学則は、平成 17 年 2 月 3 日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 10 年度以前の入学者に係る授業料の額については、改正後の別表第二の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則

この規則は、平成 17 年 7 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 17 年 12 月 1 日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

2 第 5 条第 1 項の規定にかかわらず、薬学部総合薬学科は、平成 18 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3 別表第一の規定にかかわらず、薬学部の合計欄の収容定員については、平成 18 年度から平成 23 年度までは、次の表のとおりとする。

学部	学科等	平成 18 年 度	平成 19 年 度	平成 20 年 度	平成 21 年 度	平成 22 年 度	平成 23 年 度
		収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)
薬学 部	薬学科	35	70	105	140	175	210
	創薬科学科	40	80	120	160	160	160
	従前の 学科	230	150	75			
	計	305	300	300	300	335	370

附 則

この学則は、平成 18 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 19 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 5 条第 1 項の規定にかかわらず、次の表に記載する学部、学科等は、平成 20 年 3 月 31 日に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 学域・学類の収容定員、存続する学部及び学科等に係る第 30 条に規定する事項を審議する教授会並びにその収容定員については、第 27 条及び別表第一の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。
- 4 存続する学部及び学科(法学部及び経済学部を除く。)の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 平成 20 年 3 月 31 日に在学する者(平成 20 年 4 月 1 日以降に従前の学部、学科等編入学する者を含む。)については、別表第二の規定を除き、なお、従前の例による。
- 6 前項に規定する者については、別表第二中「学域」とあるのは「学部」とする。

学域・学類の収容定員

学域	学類	平成 20 年 度	平成 21 年 度	平成 22 年 度	平成 23 年 度	平成 24 年 度
		収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)
人間社会 学域	人文学類	145	290	435	580	580
	法学類	170	340	510	680	680
	(編入学定員 10)			10	20	20
	経済学類	185	370	555	740	740
	学校教育学類	100	200	300	400	400
	地域創造学類	80	160	240	320	320
	国際学類	70	140	210	280	280
	計	750	1500	2260	3020	3020
理工学域	数物科学類	84	168	252	336	336
	物質化学類	81	162	243	324	324
	機械工学類	140	280	420	560	560



	電子情報学類	108	216	324	432	432	
	環境デザイン学類	74	148	222	296	296	
	自然システム学類	102	204	306	408	408	
	(学域共通編入学定員 40)			40	80	80	
	計	589	1178	1807	2436	2436	
医薬保健 学域	医学類	95	190	285	380	475	
	(編入学定員 5)			5	10	15	
	薬学類	35	70	105	140	175	
	創薬科学類	40	80	120	160	160	
	保健学 類	看護学専攻	80	160	240	320	320
		(編入学定員 1 0)			10	20	20
		放射線技術科 学専攻	40	80	120	160	160
		(編入学定員 5)			5	10	10
		検査技術科学 専攻	40	80	120	160	160
		(編入学定員 5)			5	10	10
		理学療法学専 攻	20	40	60	80	80
		(編入学定員 5)			5	10	10
		作業療法学専 攻	20	40	60	80	80
(編入学定員 5)				5	10	10	
小計	200	400	630	860	860		
計	370	740	1145	1550	1685		
合計		1709	3418	5212	7006	7141	

存続する学部・学科等の収容定員

学部	学科等	教授会	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24
			年度	年度	年度	年度	年度
			収容定員	収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
			(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
文学 部	人間学科	人間社会系教 育研究会議	165	110	55		
	史学科		150	100	50		
	文学科		195	130	65		
	計		510	340	170		

教育学部	学校教育教員養成課程		240	160	80			
	障害児教育教員養成課程		60	40	20			
	人間環境課程		180	120	60			
	スポーツ科学課程		105	70	35			
	計		585	390	195			
法学部	法政学科		540	360	180			
	(編入学定員 10)		20	20	10			
	計		560	380	190			
経済学部	経済学科		615	410	205			
	計		615	410	205			
理学部	数学科		72	48	24			
	物理学科		96	64	32			
	化学科		111	74	37			
	生物学科		69	46	23			
	地球学科		78	52	26			
	計算科学科		84	56	28			
	(学科共通編入学定員 10)		20	20	10			
	計		530	360	180			
医学部	医学科		475	380	285	190	95	
	(編入学定員 5)		20	20	15	10	5	
	(小計)		495	400	300	200	100	
	保健学科	看護学専攻		240	160	80		
		(編入学定員 10)		20	20	10		
		放射線技術科学専攻		120	80	40		
		(編入学定員 5)		10	10	5		
		検査技術科学専攻		120	80	40		
		(編入学定員 5)		10	10	5		
理学療法学専攻		60	40	20				
理工系教育研究会議								
医薬保健系教育研究会議								

		(編入学定員 5)		10	10	5		
		作業療法学専攻		60	40	20		
		(編入学定員 5)		10	10	5		
		(小計)		660	460	230		
	計			1155	860	530	200	100
薬学部	薬学科		理工系教育研究会議	70	70	70	70	35
	創薬科学科			80	80	40		
	従前の	総合薬学		75				
	学科	学科						
	計			225	150	110	70	35
工学部	土木建設工学科		理工系教育研究会議	231	154	77		
	機能機械工学科			216	144	72		
	物質化学工学科			270	180	90		
	電気電子システム工学科			141	94	47		
	人間・機械工学科			216	144	72		
	情報システム工学科			183	122	61		
	(学科共通編入学定員 30)			60	60	30		
	計			1317	898	449		
合計				5497	3788	2029	270	135

### 附 則

- この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 別表第一の規定にかかわらず、医薬保健学域医学類における、平成 21 年度から平成 29 年度の入学定員については 105 人とし、その収容定員については、平成 21 年度から平成 34 年度までは、次の表のとおりとする。

学域	学類	平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
医薬	医学類	105	200	105	305	105	410	105	515	105	620	105	630	105	630

保健 学域	(編 入学 定員 5)	—	—	—	5	—	10	—	15	—	20	—	20	—	20
	計	380	750	380	1165	380	1580	380	1725	380	1870	380	1880	380	1880
	大学 合計	1719	3428	1719	5232	1719	7036	1719	7181	1719	7326	1719	7336	1719	7336

学域	学類	平成 28 年 度		平成 29 年 度		平成 30 年 度		平成 31 年 度		平成 32 年 度		平成 33 年 度		平成 34 年 度	
		入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)
医薬 保健 学域	医学類	105	630	105	630	100	625	100	620	100	615	100	610	100	605
	(編 入学 定員 5)	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20
	計	380	1880	380	1880	375	1875	375	1870	375	1865	375	1860	375	1855
	大学 合計	1719	7336	1719	7336	1714	7331	1714	7326	1714	7321	1714	7316	1714	7311

附 則

この学則は、平成 21 年 11 月 20 日から施行する。

附 則

- この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 別表第一の規定にかかわらず、医薬保健学域医学類における、平成 22 年度から平成 36 年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類	平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
		入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)
医薬 保健 学域	医学類	112	312	112	424	112	536	112	648	112	665
	(編入 学定員 5)	—	5	—	10	—	15	—	20	—	20
	計	387	1172	387	1594	387	1746	387	1898	387	1915

	大学合 計	1726	5239	1726	7050	1726	7202	1726	7354	1726	7371
--	----------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

学域	学類	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
		入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)
医薬 保健 学域	医学類	112	672	112	672	112	672	107	667	107	662
	(編入 学定員 5)	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20
	計	387	1922	387	1922	387	1922	382	1917	382	1912
	大学合 計	1726	7378	1726	7378	1726	7378	1721	7373	1721	7368

学域	学類	平成 32 年度		平成 33 年度		平成 34 年度		平成 35 年度		平成 36 年度	
		入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)	入学定 員(人)	収容定 員(人)
医薬 保健 学域	医学類	100	650	100	638	100	626	100	614	100	607
	(編入 学定員 5)	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20
	計	375	1900	375	1888	375	1876	375	1864	375	1857
	大学合 計	1714	7356	1714	7344	1714	7332	1714	7320	1714	7313

附 則

この学則は、平成 22 年 7 月 16 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 22 年 10 月 1 日から施行する。
- 2 平成 23 年 4 月 1 日に選任される自然科学研究科長及び自然科学研究科副研究科長の任期は、第 22 条第 9 項の規定にかかわらず、平成 24 年 3 月 31 日までとする。

附 則

この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第一の規定にかかわらず、平成23年度における医薬保健学域医学類の編入学定員は、第2年次編入学5人、第3年次編入学5人とし、平成23年度から令和8年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	112	424	112	536	112	648	112	665	112	672
	(編入学)	—	15	—	20	—	25	—	25	—	25
	計	387	1599	387	1751	387	1903	387	1920	387	1927
	大学合計	1726	7055	1726	7207	1726	7359	1726	7376	1726	7383

学域	学類	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	112	672	112	672	112	672	112	672	112	672
	(編入学)	—	25	—	25	—	25	—	25	—	25
	計	387	1927	387	1927	387	1927	387	1927	387	1927
	大学合計	1726	7383	1726	7383	1726	7383	1726	7383	1726	7383

学域	学類	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	112	672	100	660	100	648	100	636
	(編入学)	—	25	—	25	—	25	—	25
	計	387	1927	375	1915	375	1903	375	1891
	大学合計	1726	7383	1714	7371	1714	7359	1714	7347

学域	学類	令和7年度		令和8年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
医薬保健学 域	医学類	100	624	100	612
	(編入 学)	—	25	—	25
	計	375	1879	375	1867
	大学合計	1714	7335	1714	7323

#### 附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 第6条第2項の規定にかかわらず、人間社会環境研究科人間文化専攻、社会システム専攻及び公共経営政策専攻、自然科学研究科電子情報工学専攻、機能機械科学専攻、人間・機械科学専攻、物質工学専攻、地球環境学専攻、社会基盤工学専攻、及び生物科学専攻並びに医学系研究科医科学専攻、脳医科学専攻、がん医科学専攻、循環医科学専攻、環境医科学専攻、創薬科学専攻及び保健学専攻は、平成24年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 存続する研究科及び専攻に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については、第27条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 4 存続する研究科及び専攻の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 平成24年3月31日に在学する者については、別表第二の規定を除き、なお、従前の例による。

#### 附 則

この学則は、平成24年10月1日から施行する。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日に国際交流会館に入居している者の寄宿料については、別表第三の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

この学則は、平成25年7月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 6 条第 2 項の規定にかかわらず、自然科学研究科システム創成科学専攻、物質科学専攻、環境科学専攻及び生命科学専攻は、平成 26 年 3 月 31 日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 存続する専攻に係る第 30 条に規定する事項を審議する教授会については、第 27 条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 4 存続する専攻の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 平成 26 年 3 月 31 日に在学する者については、別表第二の規定を除き、なお、従前の例による。

附 則

この学則は、平成 26 年 9 月 25 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 27 年 11 月 20 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 6 条第 2 項の規定にかかわらず、教育学研究科教育実践高度化専攻並びに医薬保健学総合研究科脳医科学専攻、がん医科学専攻、循環医科学専攻及び環境医科学専攻は、平成 28 年 3 月 31 日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 存続する専攻に係る第 30 条に規定する事項を審議する教授会については、第 27 条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 4 存続する専攻の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 平成 28 年 3 月 31 日に在学する者については、第 63 条第 1 項、第 74 条第 2 項に規定する納付期限及び別表第二の規定を除き、なお、従前の例による。

附 則

この学則は、平成 28 年 8 月 9 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 28 年 11 月 29 日から施行する。



附 則

この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 29 年 6 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 29 年 10 月 6 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 5 条第 1 項の規定にかかわらず、人間社会学域経済学類経済理論・経済政策コース、経営・情報コース及び比較社会経済コース並びに地域創造学類健康スポーツコース並びに理工学域電子情報学類、環境デザイン学類及び自然システム学類は、平成 30 年 3 月 31 日に当該学類に在学する者が当該学類に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 別表第一の規定にかかわらず、人間社会学域及び理工学域における平成 30 年度から令和 2 年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
人間 社会 学域	経済学類	135	690	135	640	135	590
	地域創造学類	90	330	90	340	90	350
	国際学類	85	295	85	310	85	325
	計	725	2995	725	2970	725	2945
理工 学域	数物科学類	84	336	84	336	84	336
	(編入学定員 5)	-		-		-	5
	物質化学類	81	324	81	324	81	324
	(編入学定員 4)	-		-		-	4
	機械工学類	100	100	100	200	100	300
(編入学定員 10)	-		-		-	10	

	フロンティア工学類	110	110	110	220	110	330
	(編入学定員5)	-		-		-	5
	電子情報通信学類	80	80	80	160	80	240
	(編入学定員7)	-		-		-	7
	地球社会基盤学類	100	100	100	200	100	300
	(編入学定員7)	-		-		-	7
	生命理工学類	59	59	59	118	59	177
	(編入学定員2)	-		-		-	2
従前の学類	機械工学類		420		280		140
	電子情報学類		324		216		108
	環境デザイン学類		222		148		74
	自然システム学類		306		204		102
	(学域共通編入学定員40)	-	80	-	80	-	40
	計	614	2461	614	2486	614	2511

- 4 存続する学類に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については、第27条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 5 存続する学類の長については、前項に規定する教授会が別に定める。
- 6 平成30年3月31日に在学する者(平成30年4月1日以降に従前の学類に編入学する者を含む。)については、なお、従前の例による。

附 則

この学則は、平成30年7月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年8月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成31年2月1日から施行する。ただし、第12条及び第33条の地域連携推進センターに係る改正規定は、平成31年4月1日から施行する。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 この学則の施行の際、現に附属学校統括長である者の任期については、第24条第3項の規定にかかわらず、2020年3月31日までとする。

#### 附 則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

#### 附 則

この学則は、令和元年6月1日から施行する。

#### 附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 第6条第2項の規定にかかわらず、人間社会環境研究科法学・政治学専攻は、令和2年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 存続する専攻に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については、第27条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 4 存続する専攻の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 令和2年3月31日に在学する者については、なお、従前の例による。この場合において、「法務研究科」とあるのは「法学研究科」と読み替えるものとする。
- 6 第22条の規定にかかわらず、当分の間、融合研究域長については、学長が指名する理事をもって充て、融合科学系長については、当該系に所属する教授のうち、学長が指名する者をもって充てるものとする。
- 7 第27条から第31条までの規定にかかわらず、当分の間、融合学域設置検討委員会委員長裁定をもって融合系教育研究会議の議決とすることができるものとし、また、融合学域組織体制・教育課程専門部会の議決をもって融合科学系会議の議決とすることができるものとする。
- 8 前2項に定めるもののほか、融合研究域に係る特例については、別に定める。

#### 附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。

- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、医薬保健学域創薬科学類は、令和3年3月31日に当該学類に在学する者が当該学類に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 別表第一の規定にかかわらず、医薬保健学域における令和3年度から令和8年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
医薬 保健 学域	薬学類		65	240	65	270	65	300
	医薬科学類		18	18	18	36	18	54
	保健学 類	理学療法 学専攻	15	75	15	70	15	65
		(編入学 定員5)	-	10	-	10	-	10
		作業療法 学専攻	15	75	15	70	15	65
		(編入学 定員5)	-	10	-	10	-	10
	従前の 学類	創薬科学 類		120		80		40
	計		385	1925	373	1911	373	1897

学域	学類		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
			入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
医薬 保健 学域	薬学類		65	330	65	360	65	390
	医薬科学類		18	72	18	72	18	72
	保健学 類	理学療法 学専攻	15	60	15	60	15	60
		(編入学 定員5)	-	10	-	10	-	10
		作業療法 学専攻	15	60	15	60	15	60
		(編入学 定員5)	-	10	-	10	-	10
	従前の 学類	創薬科学 類						
	計		373	1883	373	1901	373	1919

- 4 存続する学類に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については、第27条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 5 存続する学類の長については、前項に規定する教授会が別に定める。
- 6 令和3年3月31日に在学する者(令和3年4月1日以降に従前の学類に編入学する者を含む。)については、なお、従前の例による。

別表第一

入学定員及び収容定員

学域	学類	入学定員 (人)	第2年次編入学 定員(人)	第3年次編入学 定員(人)	収容定員 (人)	
人間社会 学域	人文学類	145			580	
	法学類	170		10	700	
	経済学類	135			540	
	学校教育学類	100			400	
	地域創造学類	90			360	
	国際学類	85			340	
	計	725		10	2920	
理工学域	数物科学類	84		5	346	
	物質化学類	81		4	332	
	機械工学類	100		10	420	
	フロンティア工学類	110		5	450	
	電子情報通信学類	80		7	334	
	地球社会基盤学類	100		7	414	
	生命理工学類	59		2	240	
	計	614		40	2536	
医薬保健 学域	医学類	100	5		625	
	薬学類	65			390	
	医薬科学類	18			72	
	保健 学類	看護学専攻	80		10	340
		放射線技術科学専攻	40		5	170
		検査技術科学専攻	40		5	170
		理学療法学専攻	15		5	70

	作業療法学専攻	15		5	70
	小計	190		30	820
	計	373	5	30	1907
	合計	1712	5	80	7363

## 別表第二

### 検定料等の額

区分	検定料(円)	入学料(円)	授業料(円)
学域・国際基幹教育院総合教育部	17,000	282,000	年額 535,800
	再入学, 転入学, 編入学に係るもの 30,000		
研究生	9,800	84,600	月額 29,700
科目等履修生	9,800	28,200	1単位 14,800
特別聴講学生	/	/	1単位 14,800

備考 第73条第3項に規定する第1段階目の選抜及び第2段階目の選抜に係る検定料の額は、第1段階目の選抜にあつては4,000円、第2段階目の選抜にあつては13,000円とする。

## 別表第三

### 公開講座受講料の額

区分	受講料(円)
一般	1時間 500
高校生以下	1時間 200
別に定める公開講座の受講料については、別に定める額とする。	

○金沢大学教育研究会議規程（案）

（平成 20 年 4 月 1 日規程第 1089 号）

（趣旨）

第 1 条 この規程は、金沢大学学則(以下「学則」という。)第 34 条の規定に基づき、教育研究会議(以下「会議」という。)の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

（組織）

第 2 条 会議は、別表に掲げる各研究域に所属する教授をもって組織する。

2 会議には、当該研究域に所属する准教授、講師(常時勤務の者に限る。以下同じ。)及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。

3 医薬保健系教育研究会議には、附属病院長(第 1 項に該当しない者に限る。)、附属病院に所属する教授、准教授、講師及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。

（審議事項）

第 3 条 会議は、学則第 30 条第 1 項に基づき、次の事項について審議し、学長又は研究域長に意見を述べるものとする。

(1) 研究域長の候補者の選考に関する事項

(2) 教授、准教授、講師、助教及び助手(以下「教員」という。)の人事及び選考に関する事項

(3) 中期目標・中期計画及び年度計画(法人の経営に関するものを除く。)に関する事項

(4) 規程(法人の経営に関する部分を除く。)その他の教育及び研究に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項

(5) 教育及び研究に係る予算の執行に関する事項

(6) 教育課程の編成に関する事項

(7) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項

(8) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項

(9) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項

(10) 授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事項

(11) 医薬保健系教育研究会議においては、附属病院長の候補者の選考に関する事項

(12) その他学域、研究科及び研究域の教育及び研究に関する重要事項

（議長）

第 4 条 会議に議長を置き、研究域長をもって充てる。

2 議長は、会議を主宰する。

3 議長に事故又は特別な事由があるときは、議長があらかじめ指名する者が、議長の職務を行う。

（議事及び議決）

第 5 条 会議は、構成員(海外渡航者及び休職者を除く。)の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の出席を必要とすることができる。

2 議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の多数をもって議決することができる。

(構成員以外の者の出席)

第6条 会議は、必要があると認めるときは、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(代議員会)

第7条 会議に、第3条第2号から第12号に掲げる事項を審議するため、教育研究会議代議員会(以下「代議員会」という。)を置く。

2 代議員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 研究域長
- (2) 各学類長
- (3) 各研究科長
- (4) 各系長
- (5) その他会議が必要と認められた者

3 会議は、代議員会の議決をもって、会議の議決とすることができる。

4 第4条、第5条及び第6条の規定は、代議員会に準用する。

(学類会議)

第8条 会議の下に、会議が付託した事項その他学類に関する事項について審議するため、別表に掲げる学類にそれぞれ学類会議を置く。

2 学類会議に関し必要な事項は、別に定める。

(研究科会議)

第9条 会議の下に、会議が付託した事項その他研究科に関する事項について審議するため、別表に掲げる研究科にそれぞれ研究科会議を置く。

2 研究科会議に関し必要な事項は、別に定める。

(系会議)

第10条 会議の下に、会議が付託した事項その他系に関する事項について審議するため、別表に掲げる系にそれぞれ系会議を置く。

2 系会議に関し必要な事項は、別に定める。

(学類会議、研究科会議及び系会議の議決)

第11条 会議は、次に掲げる事項を除き、学類会議、研究科会議及び系会議の議決をもって、会議の議決とすることができる。

- (1) 学士課程の入学選抜に関する事項
- (2) 学生の懲戒に関する事項
- (3) 教員の人事に関する事項
- (4) その他会議が必要と認められた事項



- 2 議決は、電子的書面によりできるものとする。
- 3 学類会議、研究科会議及び系会議は、会議から付託された事項、その他当該学類、研究科及び系に関する重要事項についての議決結果を、会議に報告するものとする。

(委員会)

第12条 会議の下に、専門的事項を審議するため、委員会を置くことができる。

- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第13条 会議に関する事務は、融合系教育研究会議は学務部、人間社会系教育研究会議は人間社会系事務部、理工系教育研究会議は理工系事務部、医薬保健系教育研究会議は医薬保健系事務部において処理する。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年11月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年11月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

別表

会議名	学域・学類名	研究科名	研究域・系名
融合系教育研究会議			融合研究域 融合科学系
人間社会系教育研究会議	人間社会学域 人文学類 法学類 経済学類 学校教育学類 地域創造学類 国際学類	人間社会環境研究科 法学研究科 教職実践研究科	人間社会研究域 人間科学系 歴史言語文化学系 法学系 経済学経営学系 学校教育系
理工系教育研究会議	理工学域 数物科学類 物質化学類 機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類 地球社会基盤学類 生命理工学類	自然科学研究科	理工研究域 数物科学系 物質化学系 機械工学系 フロンティア工学系 電子情報通信学系 地球社会基盤学系 生命理工学系
医薬保健系教育研究会議	医薬保健学域 医学類 薬学類 医薬科学類 保健学類	医薬保健学総合研究科 先進予防医学研究科	医薬保健研究域 医学系 薬学系 保健学系

○金沢大学学類会議規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1096 号)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、金沢大学学則第 34 条及び金沢大学教育研究会議規程第 8 条第 2 項の規定に基づき、学類会議(以下「会議」という。)の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 会議は、当該学類を担当する教授、准教授、講師(常時勤務の者に限る。以下同じ。)及び助教並びに常勤の特任教員をもって組織する。

2 会議には、前項に掲げる者のほか、他の学類、研究科等を担当する教授、准教授、講師若しくは助教又は常勤の特任教員で、兼ねて当該学類の教育を担当する者を加えることができる。

3 医薬保健学域に置かれている学類の学類会議には、附属病院長(第 1 項に該当しない者に限る。)を加えることができる。

(審議事項)

第 3 条 会議は、教育研究会議から付託された当該学類に係る次の事項について審議する。

(1) 中期目標・中期計画及び年度計画に関する事項

(2) 規程その他の教育に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項

(3) 教育に係る予算の執行に関する事項

(4) 教育課程の編成に関する事項

(5) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項

(6) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項

(7) 教育の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項

(8) 授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事項

(9) その他教育に関する重要事項

2 会議は、前項に定めるほか、次の事項について審議する。

(1) 学類長の候補者の選考に関する事項

(2) その他当該学類に関する重要事項

(議長)

第 4 条 会議に議長を置き、当該学類長をもって充てる。

2 議長は、会議を主宰する。

3 議長に事故又は特別な事由があるときは、議長があらかじめ指名する者が、議長の職務を行う。

(議事及び議決)

第5条 会議は、構成員(海外渡航者及び休職者を除く。)の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の出席を必要とすることができる。

2 議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の多数をもって議決することができる。

(付託及び専決)

第6条 会議は、第3条に定める審議事項のうち、別に定める事項を除き、その議長に付託することができる。

2 議長は、会議から付託された事項については、専決することができる。

(構成員以外の者の出席)

第7条 会議は、必要があると認めたときは、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(代議員会)

第8条 会議に、特定の事項を審議するため、学類会議代議員会(以下「代議員会」という。)を置くことができる。

2 会議は、代議員会の議決をもって、会議の議決とすることができる。

3 代議員会に関し必要な事項は、別に定める。

(委員会)

第9条 会議の下に、専門的事項を審議するため、委員会を置くことができる。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年11月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年11月20日から施行する。

金沢大学 医薬保健学域

医薬科学類  
設置の趣旨等を記載した書類

国立大学法人 金沢大学

# 目 次

① 設置の趣旨及び必要性	1
② 学部・学科等の特色	7
③ 学部・学科等の名称及び学位の名称	9
④ 教育課程の編成の考え方及び特色	10
⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色	16
⑥ 教育方法，履修指導の方法及び卒業要件	17
⑦ 施設，設備等の整備計画	24
⑧ 入学者選抜の概要	26
⑨ 取得可能な資格	28
⑩ 企業実習（インターシップを含む）や海外語学研修等の学外実習 を実施する場合の具体的計画	29
⑪ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	32
⑫ 管理運営	33
⑬ 自己点検・評価	34
⑭ 情報の公表	35
⑮ 教育内容等の改善のための組織的な研修等	36
⑯ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	37
⑰ 医薬科学類創薬科学コースと薬学類のカリキュラムの差異	39
添付資料目次	40

## ① 設置の趣旨及び必要性

### ① - 1 社会的な背景

世界に先駆けて超高齢社会を迎えた我が国においては、世界保健機関が2000年に提唱した健康寿命（Healthy life expectancy）という概念を受け、いかに健康的に長生きをするかという課題を設定し、課題解決先進国として、健康長寿社会の形成に向けた取り組みが精力的に進められている（「健康・医療戦略（平成26年7月22日閣議決定，平成29年2月17日一部変更）」）。策定された医療分野研究開発推進計画（平成26年7月22日健康・医療戦略推進本部決定，平成29年2月17日一部変更）では、実現可能な将来像として、①国民に対し、世界をリードする医療提供を実現する国（国民の健康寿命の延伸，国民・社会の期待に応える医療の実現ならびに我が国の技術力を最大限いかした医療の実現），②医薬品，医療機器関連分野における産業競争力の向上，③医療の国際連携，国際貢献を進める国，の3項目が提示されている。この実現に向けて必要とされる具体的な取り組みのひとつに「人材の育成」が挙げられ、医療分野全体の研究開発ポテンシャルの向上のためには、大学において、世界の最先端医療や医薬品の研究・開発等をリードし、将来的にその成果を国内外に普及できる実行力を備えたメディカルイノベーション推進人材の養成が重要であると提言されている。

また、世界的な研究動向として、次世代の先進的医療の実現や医薬品開発に向け医学分野・薬学分野の双方向からのアプローチが求められており、さらに、基礎研究の成果を医療技術開発へと展開する研究（トランスレーショナル・リサーチ）のみではなく、医療現場で得られた知見・情報に基づく新たな課題をフィードバックし、基礎研究により解決を図る研究（リバース・トランスレーショナル・リサーチ）の両者が必要とされている。これに加えて、近年では、Society 5.0やIndustry 4.0等に見られるように、科学技術が大きく進展しており、基礎医学・薬学分野においても研究内容が多様化・高度化・複雑化し、①次世代の先進的医療を実現するための根拠となる科学的知見の取得や、背景にある生物学的・物理化学的な機序・機構等の解明，②次世代の医療やそれに付随する研究を支える新規技術（新たな計測技術や大規模医療情報データ解析技術など）や新規材料（新たな治療・診断に用いる材料・薬剤など）等の開発等がこれまで以上に必要となっている。このような科学技術や研究の進展等，社会の変化に応じ，これらの研究基盤を担う高度人材の育成が大学に強く求められている。

医学・薬学研究の主たる担い手が、研究医や研究薬剤師（医師，薬剤師の資格を持った研究者）であることは論を待たない。しかしながら、全国的に医学系大学院への入学者数（特に医学部卒業者）は減少傾向にある。中でも大学院の基礎医学系分野に入学する医学部卒業者（基礎系MD）は非常に少なく、基礎医学研究者の枯渇による研究力低下が深刻化している（文部科学省「基礎研究医養成活性化プログラム」ほか）。日本学術会議基礎医学委員会「基礎医学分野の展望」（平成22年4月5日）において、「大学の臨床部門が人材不足になるに伴い，基礎部門への派遣は激減し，現在基礎医学研究を行っているほとんどの講座では医学部出身者は皆無に近い状態に陥っている。（中略）現在の医学知識および

医療技術が過去の基礎医学研究の成果の上に成立しているのと同様に、今後の医療の進歩は現在の医学研究に依存していることは明白である。基礎医学分野の人材の育成は喫緊の課題である。」と提言されており、以前より基礎医学研究の凋落が課題として指摘されている。また、国立大学医学部長会議「国立大学医学部における医学教育の指針－国立大学医学部長会議からの提言－」（平成29年3月）においても、「国立大学の法人化後、（中略）基礎医学系教員ポストの数が減少するとともに研究や教育に関するアクティビティが明らかに低下している。（中略）今後はさらに基礎医学志望の学部学生、若手医師が減少し、将来の医学部での教育指導者が不足し、医学の進歩が停滞することが懸念される。

（中略）今後は教育体制が崩壊するなど、危機的状況になる可能性がある」と懸念される。」と指摘されており、基礎医学分野における人材不足及び研究力低下が長期的に解消されていない状況である。一方、薬学系においては、平成18年度より薬剤師養成を目的とする6年制学部・学科と、薬学の専門知識をもって社会の様々な分野で活躍する人材の養成を目的とする4年制学部・学科とを併設する教育制度が開始され、平成28年度に6年制学部・学科に接続する4年制博士課程の完成年度を迎えたばかりではあるが、博士課程の修了者が少なく、将来、大学での薬学教育・研究を担う人材の枯渇といった課題が顕在し始めている。日本学術会議基礎医学委員会「薬学分野の展望」（平成22年4月5日）においても、「近年薬学の学部教育の重心が、より高い職能を有する薬剤師養成を目的とする6年制の臨床薬学に移ったために、逆に基礎薬学の教育・研究が急速に衰退する可能性が危惧されている。創薬科学、基礎薬学の分野の人材育成や研究成果を通じた社会貢献が不十分にならないように、歴史と実績のある本分野についても維持・発展させる必要がある。」と示されているところであるが、平成22年度に薬学系分野の大学院への入学者数が大幅に減少してから現在に至るまで、入学者数が従前の約半数のままの状態が継続しており、我が国における今後の、創薬科学、基礎薬学の分野の発展が危惧される。

このような国の提言や社会状況に鑑み、将来の人々の健康寿命の延伸のためには、基礎医学・薬学領域全般における基礎研究力低下の脱却に向けた方策が必要であり、その方策として、次世代の医療や新たな技術・材料の開発等に向けた医学分野と薬学分野、双方の基礎的な知見を醸成する早い段階からの教育プログラムを構築し、将来の医学・薬学領域を担う基礎研究者を養成することが急務となっている。



## ① - 2 設置する理由・必要性

基礎医学・薬学研究の先進化・高度化・多様化に対応した上で、世界をリードし、医学・薬学領域の様々な分野で活躍する研究者を学士課程から養成するには、従来の6年制の医学・薬学教育とは異なる教育プログラムにおいて、医薬双方の基礎知識を身につけ、学士課程の早期から研究マインド・能力を育んだ上で、深い専門性を醸成することに特化する必要がある。このようなプログラムに基づく教育により、理学・農学分野等における従来のライフサイエンス教育とは異なり、人間科学や有機・材料科学等の医学・薬学分野における幅広い視点を併せ持つ医薬科学研究人材（基礎医学研究・生命医科学研究人材ならびに基礎薬学研究・創薬科学研究人材）の養成が可能となる。しかしながら、現時点では、日本国内には、そのような医薬科学研究者を養成する明確な母体はない。

金沢大学においては、医薬保健学域（学域は学部に対応する組織）の教育を担う教員組織として、医薬保健研究域を設けており、医学分野、薬学分野、保健学分野の教員が所属している。特に、医学分野及び薬学分野においては、伝統的に卓越した研究業績をそれぞれ残しており、とりわけ生化学、解剖学、病理学、内科学、神経科学、腫瘍学、毒性学、薬物動態学等の分野を中心とし、多様で高度な研究・教育力を有する。また、平成18年度に、基礎薬学、創薬科学分野における教育・研究者の養成に特化した「創薬科学科」を創設（平成20年度に「創薬科学類」に改組）し、同分野における基礎研究者を養成してきた。このような組織構造や実績を基に、戦略的な学内資源再配分による“学類再編”を断行し、医薬保健学域に、基礎医学と基礎薬学の両分野の基礎的知見を有した世界をリードする研究者を学士課程から養成する「医薬科学類」（以下「本学類」と表記。）を創設する。医学分野と薬学分野の基礎系の教員が、本学類の教育・研究を主体的に担い、それに加え、臨床系の教員が複層的に関与することで、本学類の学生に対して、基礎医学・薬学両分野の広域にわたる基礎的知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する。また、この仕組みにより、本学類生は基礎医学・薬学に共通して必要となる知見を得た上で、多様な研究分野の中から専門化する分野を選択することが可能となるため、医薬科学研究における基礎的な真理の探究から将来の医療を支える最先端技術の開発研究まで、多様な研究人材の育成が可能となる。（【資料1】参照）

### ① - 3 教育上の目的及び養成する人材像

医薬保健学域は、創設する本学類のほか、医学類、薬学類、保健学類を有しており、本学域においては「高齢化・少子化や疾病構造の変化を背景に、日常生活の質 [Quality of Life(QOL)] を重視した患者本位の全人的医療の提供のため、関連する医学、保健学及び薬学の分野が相互に協力して、統合的な医療教育を行い、人間性を重視し、総合的な能力を有する高度医療人及び研究者を養成すること」を人材の養成及び教育上の目的としている。(金沢大学医薬保健学域規程)

本学類では、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材を養成する。

この人材養成のため、本学類では、全国的に見ても極めて稀有な、医学分野と薬学分野、双方の基礎的な知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ教育プログラムを構築する。

具体的には、1年次に、医薬科学研究の基礎的な知識(人体の構造と機能、生命科学の基礎、有機化学の基礎、分析化学の基礎)を学ぶカリキュラムを構築した上で、2年次のコース配属先として、専門化した分野の大枠となる「生命医科学コース」と「創薬科学コース」の2コースを設ける。

生命医科学コースにおいては、これまでの医薬保健学域における医学分野の6年制教育プログラム(医師養成)とは異なる、基礎医学・生命医科学を専門とした上で薬学の基礎的な知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。また、創薬科学コースにおいては、既存の創薬科学類のカリキュラムを踏襲しつつ、基礎薬学・創薬科学領域を専門とした上で医学の基礎的な知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。これら両コースにおいて、基礎医学・薬学両分野の広域にわたる基礎的な知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供することにより、基礎医学・薬学研究の多様化・高度化・複雑化に対応しながら医学・薬学領域の様々な分野で活躍する基礎研究者を養成する。

以上の理念の下、本学類において養成する人材像を踏まえ、以下のとおりディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを設定する。(【資料2】参照)

#### ○ ディプロマ・ポリシー

本学類では、養成する人材像(次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材)を踏まえ、所定の卒業要件を満たし、以下に掲げる生命医科学コースの学修成果を達成した者に学士(生命医科学)の学位を、創薬科学コースの学修成果を達成した者に、学士(創薬科学)の学位をそれぞれ授与する。

#### 【学修成果(生命医科学コース)】

##### (1) 医学と薬学の基礎的な知識

- ・医学と薬学の各分野の根幹となる基礎的な知識を身につける。

- ・医薬科学研究に取り組む上で必要な基礎的知識を身につける。
- (2) 基礎医学・生命医科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル
  - ・基礎医学の専門的知識を身につける。
  - ・生命医科学各分野の基礎的な知識・スキルを身につける。
  - ・基礎医学・生命医科学の特定領域の深い専門性を身につける。
  - ・主体的な自己研鑽により，身につけた専門的知識・スキルを実践レベルまで発展させることができる。
- (3) 世界をリードする研究者に求められる研究マインド，倫理観，国際性
  - ・専門分野の未解決な問題を抽出して解決する意欲と基礎的な能力を身につける。
  - ・論理的な思考力と表現力を身につけ，他者と論理的に議論できる。
  - ・生命倫理と研究倫理の基礎的知識を身につける。
  - ・国際的視野を有し，英語でコミュニケーションする基礎を身につける。

#### 【学修成果（創薬科学コース）】

- (1) 医学と薬学の基礎的知識
  - ・医学と薬学の各分野の根幹となる基礎的知識を身につける。
  - ・医薬科学研究に取り組む上で必要な基礎的知識を身につける。
- (2) 基礎薬学・創薬科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル
  - ・基礎薬学の専門的知識を身につける。
  - ・創薬科学各分野の基礎的な知識・スキルを身につける。
  - ・基礎薬学・創薬科学の特定領域の深い専門性を身につける。
  - ・主体的な自己研鑽により，身につけた専門的知識・スキルを実践レベルまで発展させることができる。
- (3) 世界をリードする研究者に求められる研究マインド，倫理観，国際性
  - ・専門分野の未解決な問題を抽出して解決する意欲と基礎的な能力を身につける。
  - ・論理的な思考力と表現力を身につけ，他者と論理的に議論できる。
  - ・生命倫理と研究倫理の基礎的知識を身につける。
  - ・国際的視野を有し，英語でコミュニケーションする基礎を身につける。

#### ○ カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため，医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する方針の下，ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果に応じ，科目群や科目単位で階層化した教育課程を編成する。

専門科目における主な科目群の概要は以下のとおり。

#### 【生命医科学コース・創薬科学コース 共通】

- ・学域 GS 科目 学域に共通した学びの核となる基礎科目
- ・学域 GS 言語科目 学域に共通した学びの核となる基礎的な言語科目

- ・ 専門基礎科目 医学と薬学の基礎的知識を修得させるための科目
- ・ 専門共通科目 世界をリードする研究者に求められる研究マインド，倫理観，国際性を修得させるための科目

【生命医科学コース】

- ・ コース専門科目 基礎医学・生命医科学領域で研究を遂行するために必要な専門的知識を修得させるための科目
- ・ 課題研究科目 基礎医学・生命医科学領域で研究を遂行するために必要なスキルを修得させるための科目

【創薬科学コース】

- ・ コース専門科目 基礎薬学・創薬科学領域で研究を遂行するために必要な専門的知識を修得させるための科目
- ・ 課題研究科目 基礎薬学・創薬科学領域で研究を遂行するために必要なスキルを修得させるための科目

○ アドミッション・ポリシー

以下のすべてを満たす者を求める。

- (1) 十分な基礎学力を備えている者
- (2) 基礎医学及び基礎薬学を広く学び，生命医科学や創薬科学の発展に興味をもつ研究心旺盛な者
- (3) 将来，次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる研究成果を挙げて社会に貢献したい者

## ② 学部・学科等の特色

金沢大学においては、2008年に従来の学部学科制を見直し、全国に先駆けて学問分野を大きな括りで包括する学域学類制を導入した。学域は、従来の学士課程の学部を学問領域ごとに共通する部分に着目し大きく束ねた包括的教育組織であり、この学域の下に、これまでの学科を束ねた教育組織として学類を設けている。

医薬保健学域は、一つの学部相当の教育組織に医学分野、薬学分野、保健学分野の学類（学科に相当する組織）を有し、高齢化や疾病構造の変化を背景に、日常生活の質（Quality of Life）を重視した患者本位の全人的医療の提供のため、関連する医学、保健学及び薬学の分野が相互に協力して、統合的な医療教育を行い、「人間性を重視し、総合的な能力を有する高度医療人及び研究者の養成」を目的としている。

新たに創設する本学類においては、学域の教育目的に応じ、“医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する”というカリキュラム・ポリシーに沿って、医学分野と薬学分野における基礎系分野を一体化し、双方の基礎的な部分をベースに、基礎医学又は基礎薬学いずれかの専門分野を深化させる階層的な教育プログラムを構築しており、全国的に見てもこのような教育プログラムは稀有であり、大きな特徴と言える。創薬科学コースを例に挙げると、既存の創薬科学類においては、臨床薬学を学ぶ機会はあるものの、医学分野の基礎的な知見を学ぶ機会はないが、同コースでは、基礎薬学研究者の育成過程において基礎医学を学ぶ機会も設けており、この点が他大学を含めこれまでの基礎薬学分野における研究者養成と大きく異なり、医学・薬学の両分野における幅広い視点を併せ持つ基礎薬学・創薬科学研究人材の養成が可能となる。

このような教育プログラムは、専門分野の深化に加え、医学分野、薬学分野の壁を越え、両分野の学びを往還することができて初めて実質化できるものであり、既に大きな括りで包括する医薬保健学域という教育組織を有し、その組織内で、これまで各分野間での有機的に連携が行われ、その実績を積み上げてきたからこそ実施可能な教育システムである。

この教育システムの特徴は、後述の「教育課程の編成の考え方及び特色」で記載しているとおりであるが、特に、“医学分野と薬学分野に共通する基礎教育の実施”“コース配属後における各コースの専門的な学修とコースを横断する学修の複層的な教育の実施”“両コース合同の課題研究発表会における多面的・多角的討論”等が挙げられる。また、金沢大学においては、学域学類制の導入と併せ、教育組織と教員組織の分離も行っており、この仕組みにより、新たに創設する本学類における教員配置についても、必要な専門分野に応じた柔軟な教員配置が可能となっている。

特に、これらの教育を担う医学系と薬学系は、金沢大学が選択した「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する取組等を中核とする」国立大学の一翼として、多岐にわたる医学分野・薬学分野において卓越した研究成果を発信し、医療や創薬の進展等、社会の進展に大きく貢献してきた。このような医学系と薬学系の基礎研究分野において秀でた実績を有する教員が、本学類の教

育・研究を主体的に担い、早い時期から学生の研究マインド・能力を育んだ上で、医薬双方の基礎知識を身につけ、深い専門性を醸成する階層的な教育プログラムを構築・提供することにより、“次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材”を養成することが可能となる。

これにより、次世代の先進的医療を実現するために必要とされる基礎医学・基礎薬学研究者の養成・輩出に大きく貢献することが期待され、基礎医学・基礎薬学に係わる学問領域において、より一層の研究力強化をもたらすとともに、日本の基礎研究力の強化に貢献する。

なお、本構想に関連し、本学類に接続する大学院組織の改組・新設を計画している。具体的には、本学類の学年進行に応じ、令和7年度に既存の医薬保健学総合研究科医科学専攻（修士課程）及び創薬科学専攻（博士前期課程）の教育カリキュラムを見直すとともに、令和9年度に医薬保健学総合研究科医科学専攻（修士課程）を博士前期課程に変更した上で博士後期課程の新設を構想しており、さらに、医薬保健学総合研究科創薬科学専攻（博士後期課程）の教育カリキュラムも見直しを行う予定である。また、令和7年度、9年度にそれぞれ医薬保健学総合研究科創薬科学専攻の博士前期課程及び後期課程の定員見直しも予定している。

### ③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

#### ③ - 1 学類の名称及び理由

学類の名称並びに英語名称は以下のとおりとする。

学類名：医薬科学類 / School of Medical and Pharmaceutical Sciences

当該名称は、生命医科学と創薬科学の高度人材を育成するという理念を適切に表すものとして単純明快であり、国内外において十分な通用性を有する。特に本学類では、基礎医学と基礎薬学の両分野の基礎的知見を有する卓越研究者を養成するため、医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供するとともに、早期からマンツーマンに近い形で研究マインド・能力を醸成する少数精鋭の先進的医薬科学教育を実施することとしており、以上のことから学類の名称は妥当と考える。

#### ③ - 2 学位の名称及び理由

学位の名称並びにそれぞれの英語名称は、次のとおりとする。

学位名称：学士（生命医科学） / Bachelor of Biomedical Science

または 学士（創薬科学） / Bachelor of Pharmaceutical Sciences

当該名称は教育内容を適切に表すものとして一般的であり、既に数多くの大学が使用していることから、十分な通用性がある。

学士（生命医科学）については、例えば、九州大学においては、本学と同様に学士（生命医科学）を使用している。また、英語名称の“Bachelor of Biomedical Science”については、上記の九州大学のほか、モナシュ大学（オーストラリア）等、海外の諸大学においても広く使用されている。

学士（創薬科学）については、本学の既存の創薬科学類に加え、東北大学、岡山大学、九州大学及び熊本大学で使用している。また、英語名称の“Bachelor of Pharmaceutical Sciences”については、本学に加え、上記の東北大学及び熊本大学のほか、ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）やロイヤルメルボルン工科大学（オーストラリア）等、海外の諸大学においても広く使用されている。

なお、“学士（創薬科学） / Bachelor of Pharmaceutical Sciences”を使用している既存の創薬科学類は、高度な知識と技術、国際的競争力を備えた創薬科学分野における教育・研究者を養成する学類である。本学類の創薬科学コースは、この既存の創薬科学類のカリキュラムを核に基礎医学の科目を加えるとともに研究者養成の内容を充実し、より創薬研究志向を強めているものの、主たる学問分野は既存の創薬科学類と同様に創薬科学分野であることから、既存の学位名称を使用することが最も適切である。

学生は本学類に入学後、2年次のコース選択時に生命医科学または創薬科学のいずれの学位を取得するかを選択する。ゆえに、本学類に共通する単一の学位名称ではなく、学修カリキュラムに沿った学位名称とすることで、卒業生の専門性を明確化する。

## ④ 教育課程の編成の考え方及び特色

### ④ - 1 教育課程の編成の考え方

本学類では、上述のとおり、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材の養成を目指している。

このような人材には、医学・薬学双方の基礎的知識を身につけ、医薬科学の基盤を形成した上で、“基礎医学・生命医科学”または“基礎薬学・創薬科学”に分化させ、当該分野の高度な専門性と最先端の知識・スキルを身につけることが重要と考えた。また、“先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開する”ために、入学後の早い時期から研究マインド・倫理観を醸成するとともに、国際的な感性・素養や語学力を涵養することも不可欠である。

このような理念の下、“医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する”というカリキュラム・ポリシーを設定し、専門基礎科目等により医薬の基盤となる知見を醸成した上で、基礎医学・生命医科学の専門的知識を修得した者には「学士（生命医科学）」を、基礎薬学・創薬科学の専門的知識を修得した者には「学士（創薬科学）」の学位を授与することを念頭に置き、基礎医学・生命医科学を主体とした「生命医科学コース」と、基礎薬学・創薬科学を主体とした「創薬科学コース」を選択する教育課程を編成した。さらに、研究マインド・倫理観・国際性の醸成のために、1年次から4年次まで連続的、かつ段階的にステップアップする形で専門共通科目群を配置した。

具体的には、まず1年次に専門基礎科目を10科目配置して医薬の基盤を形成するとともに、共通教育科目「初学者ゼミⅠ」・「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」、学域GS科目「医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ」、専門共通科目「医薬科学研究者入門」「医薬科学イノベーション概論」を通して研究マインドや倫理観の醸成をスタートする。2年次以降は、コース分け後に基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学のコース専門科目を履修して専門性を深めながら、専門共通科目の「医薬科学研究者養成Ⅰ・Ⅱ」「医薬科学先端領域特論」で研究マインドをステップアップし、「国際医薬科学Ⅰ・Ⅱ」において英語でのコミュニケーション力を鍛えて国際性を醸成する。

研究力の養成に関しては、2年次の各コース配属後のQ1に、「医薬科学基礎ローテーション実習」の前段階として、二つのコースの学生全員が一堂に受講する「医薬科学基礎実習」により、生命医科学研究、創薬科学研究双方の実験・実習に際して一般的な注意事項や実験データの整理・解析の仕方等を理解した上で、「医薬科学基礎ローテーション実習」を開始し、基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学分野の基礎実験を体験して基本的実験技術を身につけつつ、各研究分野の特徴を理解する機会を提供する。3年次のQ2からは、研究室に配属して課題研究に取り組み、研究活動に必要な様々なスキルを身につけ、各研究分野での研究力を高めていくことになる。



一方、多様化・複雑化する基礎医学・薬学研究分野における課題解決に向け、自身の専門分野の知見の深化に応じ、他分野の知見を付加することが効果的であることから、コース分け後も、他コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）の中から2単位以上を選択必修とし、それ以外の他コース専門科目も選択履修することを可能とする。なお、各コースにおける選択必修科目は、以下のとおりである。

**【生命医科学コース選択必修科目（2単位以上）】**

「生物化学Ⅰ」（2年Q1・2単位），「生物化学Ⅱ」（2年Q3～Q4・2単位），「衛生薬学Ⅰ」（2年Q1・2単位），「衛生薬学Ⅱ」（2年Q3～Q4・2単位），「生体防御学」（2年Q3～Q4・2単位），「微生物学」（2年Q2・1単位），「薬品作用学Ⅰ」（2年Q1・2単位），「薬品作用学Ⅱ」（2年Q3～Q4・2単位），「物理化学Ⅰ」（2年Q1・1単位），「物理化学Ⅱ」（2年Q2・1単位），「物理化学Ⅲ」（2年Q3～Q4・2単位），「分析化学」（2年Q1・2単位），「応用有機化学Ⅰ」（2年Q1・2単位），「応用有機化学Ⅱ」（2年Q3～Q4・2単位），「薬剤学Ⅰ」（2年Q3～Q4・2単位），「薬剤学Ⅱ」（3年Q1～Q2・2単位），「臨床薬物代謝化学」（3年Q1～Q2・2単位），「薬物治療学Ⅰ」（3年Q1～Q2・2単位）

**【創薬科学コース選択必修科目（2単位以上）】**

「人体解剖学Ⅰ」（2年Q1～Q2・2単位），「組織学Ⅰ」（2年Q1～Q2・2単位），「神経解剖学Ⅰ」（2年Q1・1.5単位），「発生学Ⅰ」（2年Q1・1単位），「器官生理学Ⅰ」（2年Q3・2単位），「神経生理学Ⅰ」（2年Q3・2単位），「生化学Ⅰ」（2年Q1～Q2・2単位），「生化学Ⅱ」（2年Q1～Q2・2単位），「薬理学Ⅰ」（2年Q3～Q4・1.5単位），「動物実験と再生医学」（2年Q3・1単位），「遺伝学Ⅰ」（2年Q3・1単位），「分子細胞病理学Ⅰ」（2年Q4～3年Q1・2単位），「人体病理学Ⅰ」（2年Q4～3年Q1・2単位），「ウイルス感染学」（2年Q4・2単位），「細菌感染学Ⅰ」（2年Q3～Q4・1.5単位），「寄生虫学」（2年Q4・1単位），「免疫学」（2年Q3～Q4・2単位），「衛生学Ⅰ」（3年Q1～Q2・1.5単位），「公衆衛生学Ⅰ」（3年Q1～Q2・1単位），「法医学Ⅰ」（2年Q4・1単位），「脳神経医学」（2年Q1・1単位）

また、同一学年全員による「医薬科学基礎実習」（2年次）「医薬科学特別演習」（3年次）「医薬科学試問」（4年次）も配置することで、両コースの学生が交流し、知的好奇心や視野を拡大できる環境を提供する。

以上により、入学者18名に対して、少数精鋭の濃密な医薬科学教育を実践する。

#### ④ - 2 教育課程の特色

教育課程における特色は、1) 1年次における医薬基礎教育、2) コース配属後の各コース専門科目とコース横断選択科目、3) 両コース合同の課題研究発表会における多面的・多角的討論、4) 早期から段階的に研究マインド・倫理観や国際性を醸成する科目の配当、5) 階層化した教育課程の編成、が挙げられる。

## 1) 1年次における医薬基礎教育

一括入試により入学した18名は、共通教育科目の他に、医学と薬学の両分野の基礎的学識を修得するための「専門基礎科目」として、「基礎人体解剖学」「基礎人体構造学」「基礎人体機能学」「基礎分子細胞生物学」「基礎生物化学」「物理有機化学」「基礎医薬化学」「基礎有機反応学」「基礎医薬合成学」「基礎分析化学」の10科目（各1単位）を履修し、両コース共通の医薬科学の基盤を築く。

特に、将来、基礎薬学・創薬科学を専門とする学生が基礎医学・生命医科学分野の科目である「基礎人体解剖学」「基礎人体構造学」等を、また、将来、基礎医学・生命医科学を専門とする学生が基礎薬学・創薬科学分野の科目である「物理有機化学」「基礎有機反応学」等を学ぶ教育カリキュラムは、コース選択に至るまでの1年次において必修科目とすることにより、将来、他分野となる基礎的知見も醸成できる、医学と薬学の専門分野の壁を越えた特徴的な履修システムとなっている。

また、上記の医薬科学研究における基礎的知見の醸成のほか、学域GS科目として開講される「医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ」では、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材が具体的にどのような者であるかを、医学・薬学の両分野の実例に基づき理解することにより、早い時期から将来の進路選択の一助とする。具体的には、医薬科学分野において活躍している大学、研究所、企業の研究者によるキャリアパス教育や、医学系・薬学系研究施設の見学のほか、病院等診療施設、検査・治療設備、薬剤部等の見学を通じた早期医療福祉現場体験を実施する。

## 2) コース配属後の各コース専門科目とコース横断選択科目

1年次に医薬科学の基礎的知識を身につけた後、本人の希望等によりコース分けを行い、基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学の専門性を高めるコース専門科目（必修・選択）を履修する。初期は、医学と薬学に共通する分野（生化学、衛生学、微生物学、薬理学など）を各コースの視点から学ぶことで分岐を始め、次第にコース独自の専門性の高い科目を増やしていくことでシームレスに深い専門性を修得する編成になっている。これらの科目は、生命医科学コースは医学類と、創薬科学コースは薬学類の学生とともに受講し、相互の交流により刺激し合うことが期待される。

また、国家試験受験を前提とする医学類・薬学類とは異なり、本学類では両コースとも必修科目をコアとなるものだけに絞り込み、将来の専門分野に応じて推奨される履修モデル（後述）に沿って選択科目を履修・修得し、基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学それぞれの専門性を深化させていく。一方で、多様化・複雑化する基礎医学・薬学研究の課題解決に向けた他分野の知見の付加を目的として、コース分け後も、他コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）の中から2単位以上を選択必修とした上で、それ以外の他コース専門科目の履修を可能としている。これらにより修得した単位

は4単位（選択必修で修得した単位を含む）を上限として卒業に必要な選択科目の単位として認め、専門性の深化に応じた学生の知的好奇心や視野の拡大を奨励する。さらに、余力のある優秀な学生には、進学予定専攻の大学院科目の先取り履修を10単位まで認める。

### 3) 両コース合同の課題研究発表会における多面的・多角的討論

コース選択した学生は、コース専門科目の履修（2年Q1から）により専門性を深化させ、課題研究科目（3年Q2から）の履修によって専門研究領域の様々な知識とスキルを修得していくことになるが、一定程度の専門性を身に付けた3年Q4の段階で上級生の課題研究発表会（両コース合同）に参加し、それぞれの専門性を基盤とした質問を行うことにより、多面的・多角的な討論を行う機会を設ける（「医薬科学特別演習」）。

また、4年次には、自身の研究成果を課題研究発表会（両コース合同）で発表し、逆の立場から多面的・多角的な討論を行い、大学院進学前の課題研究への取り組みを総括する（「医薬科学試問」）。

これらの課題研究発表会には、専任教員の他に、関係する兼任教員も参加し、討論に加わることにより、研究テーマに係る多面的・多角的な理解を深める機会を確保する。

### 4) 早期から段階的に研究マインド・倫理観や国際性を醸成する科目の配当

世界をリードする医薬科学研究者を養成するために、両コースに共通の理念に沿って研究マインド・スキルや国際性を醸成する科目を「専門共通科目」として早期から配当する。

研究マインドの醸成に関しては、1年次に「医薬科学研究者入門」を配当し、研究者や研究活動について理解させるとともに研究倫理に関する教育も行う。また、共通教育科目の「初学者ゼミⅠ」・「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」で複数の医学系及び薬学系の両分野の研究室を訪問して教員や大学院生にインタビューし、内容をまとめて発表させることで、早期の段階から基礎医学・生命医科学分野及び基礎薬学・創薬科学分野の両方の各研究室の研究課題に触れる機会を設け、将来、自身が行う基礎医学・生命医科学分野又は基礎薬学・創薬科学分野の研究への深い理解を獲得させる。

2年次のコース分け以降は、「医薬科学研究者養成Ⅰ・Ⅱ」「医薬科学先端領域特論」で学内外の一線級の研究者の講演を聴き、終了後に講師を囲んで討論する機会を設ける。

また、2年次のコース分け直後のQ1に、両コースの全学生が「医薬科学基礎実習」により、生命医科学研究、創薬科学研究双方の実験・実習に際して一般的な注意事項や実験データの整理・解析の仕方等を理解した上、「医薬科学基礎ローテーション実習」も始まり、3年Q1期終了時の研究室配属までローテーションしながら、様々な研究分野の基礎実験を体験して基本的実験技術を身につけるとともに、自分の興味に合う研究分野とのマッチングを図る機会とする。創薬科学コースを選択する学生を例に挙げると、容量分析等の各種分析法、データ解析法の学習等の実習（延べ10日間）、衛生試験法に準じた主要試験法の実習（延べ7日間）、基本的な有機反応実験・低分子医薬品の合成・化合物の精製法

及びスペクトル解析を含む同定法等の実習（延べ25日間），代表的な漢方生薬の調剤基礎技術・薬用植物園で生薬原植物の観察，栽培，実験，確認試験等の実習（延べ8日間），組み換えタンパク質の発現技術と解析・グラム染色法等，生物系実験で用いる解析技術実習（延べ21日間），実験動物の薬の評価・実験動物の解剖，臓器摘出等の実験実習（延べ6日間），薬物動態の理論的解析に関する基本的技能・薬理活性化化合物と製剤添加物の特性応用に係る製剤化技能等の修得に係る実習（延べ13日間）を行った上で，各研究室で行なわれている専門的な研究内容について，意義，目的，アプローチの手段等を学び（延べ8日間），基礎薬学・創薬科学領域における自身に適した研究分野を再確認するとともに，研究者としての基礎的な知見・技術を醸成する。

研究室配属後は，コース専門科目を履修しながら課題研究をスタートし，研究活動に必要な様々なスキルを身につける。

一方，国際性の涵養に関しては，1年次に共通教育科目として開講される8単位のGS言語科目（英語）を履修・修得した上で，学域GS言語科目として開講される「医薬科学英語Ⅰ・Ⅱ」でサイエンスを英語で理解するスキル（読む・聴く）を学び，その後に専門共通科目の「国際医薬科学Ⅰ・Ⅱ」で研究成果を英語で発信するためのスキル（話す・書く）の基礎を身につける。また，海外留学を奨励し，4年間の間に少なくとも1回は海外医療研究機関での実体験を強く推奨する（「海外AL実習Ⅰ・Ⅱ」）。

#### 5) 階層化した教育課程の編成

医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学び，併せて研究マインド・倫理観および国際性を醸成する機会を提供するために，教育課程を科目群単位で階層化して編成している。

まず，基礎から専門性へのシームレスな学びについて，「専門基礎科目」→「コース専門科目」と階層化されており，具体例として，生命医科学コースでは「基礎人体解剖学」「基礎人体構造学」（専門基礎科目）→「人体解剖学Ⅰ」「組織学Ⅰ」（コース専門科目・必修）→「人体解剖学Ⅱ」「組織学Ⅱ」（コース専門科目・選択）など，また，創薬科学コースでは「基礎分子細胞生物学」「基礎生物化学」（専門基礎科目）→「生物化学Ⅰ」「生物化学Ⅱ」（コース専門科目・必修）→「細胞生物学」（コース専門科目・選択）などが挙げられる。このように，専門基礎科目から各コースの必修科目で基礎を学び，専門領域に応じて選択科目で応用を学ぶという段階的な学修ができる体系となっている。

研究マインド・倫理観の醸成に関しては，「学域GS科目」（1年次）→「専門共通科目」（1～4年次）が階層的にその役割（キャリア形成も含む）を担っている。国際性の醸成については，1年次の「学域GS言語科目」から「専門共通科目」の「国際医薬科学Ⅰ」（2年次），「国際医薬科学Ⅱ」（3年次）で階層化され，各コースでは「海外AL実習Ⅰ・Ⅱ」として海外留学の機会も用意されている。

これらに並行する形で、将来の研究活動に必要な実験技術の基礎を身につけるため、全員が「医薬科学基礎実習」を履修した上で、「医薬科学基礎ローテーション実習」が、各コースの専門分野に応じたシリーズとして開講され、終了後の研究室配属を控えて、各専門分野を広く実感する機会としても位置づけられる。

上記のカリキュラムに沿って必要な知見を学び、3年次・Q2で研究室配属を行い、各専門分野における「課題研究科目」がスタートし、「医薬科学研究Ⅰ～Ⅲ」と「医薬科学演習Ⅰ～Ⅲ」で研究力を段階的にレベルアップする。また、「専門共通科目」の「医薬科学特別演習」（3年次Q3・Q4）と「医薬科学特別諮問」（4年次Q3・Q4）における両コース合同の発表会を通して学生のレベルのチェックや研究内容・手法等の補正等も実施する。

（【資料3】参照）

## ⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

### ⑤ - 1 教員組織の編成と基本的考え方及び特色

本学類の教員組織は，“医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する”というカリキュラム・ポリシーの下，基礎医学及び創薬科学の各分野を専門とする11名の専任教員を，それぞれ医学系・薬学系教員をもって編成する。本学の医学系には，脳神経，がん，循環，社会環境医学領域の基礎医学研究において，薬学系には，創薬合成，毒性・薬物動態，生体防御，神経薬理，放射性薬剤領域の創薬科学研究において，それぞれの分野をリードする教員が数多く在籍している。

専任教員組織の編成に当たっては，各教員を「生命医科学コース」及び「創薬科学コース」の2コースに分け，早期からマンツーマンに近い形で研究マインド・能力を醸成する少数精鋭の先進的医薬科学教育を実践する体制を整える。

「生命医科学コース」は，生体情報機能医科学，システム統御医科学領域の基礎医学分野にそれぞれの専門を持つ専任教員6名を配置する。

「創薬科学コース」は，主に有機化学系，生物薬学系，薬物動態学系，物理分析化学系の創薬科学の基礎となる4つの専門領域に分類され，それぞれの分野を専門とする専任教員5名を配置する。

教育上主要と認める科目群としては，養成する人材像に鑑み，専門基礎科目，専門共通科目及び課題研究科目がこれに当たる。専門基礎科目，専門共通科目においては，全ての科目を必修としており，大半を専任の教授または准教授が担当する。さらに，専門性を深化させた上で知見をまとめる課題研究科目においても，全ての専任教員が研究指導を担うこととしている。これらに加え，教育組織と教員組織を分離している本学の特性等を基盤に医薬保健研究域等に所属する教員が講義に加わることで，多様な分野にわたる科目を開講する。

一方，校地が宝町・鶴間キャンパスと角間キャンパスの2か所となるが，約5kmの距離にある両キャンパス間にはシャトルバスが運行しており，約15分で移動が可能であることから，教員や学生の往来に不都合は生じない。

### ⑤ - 2 教員の年齢構成

本学類の教育課程を担当する専任教員11名の内訳は，令和3年4月の開設時において「生命医科学コース」で教授2名，准教授1名，講師1名，助教2名，「創薬科学コース」は教授2名，准教授2名，助教1名であり，全員の最終学位は博士である。年齢構成については，学年進行完成年度末時点で30歳代1名，40歳代7名，50歳代2名，60歳代1名であり，教育研究水準の維持向上及び活性化に相応しく，バランスのとれた構成となっている。

なお，本学における教員の定年年齢は，国立大学法人金沢大学職員就業規則において65歳と規定されているが，専任教員のうち，完成年度末までに定年退職する者はいない。（【資料4】参照）

## ⑥ 教育方法，履修指導の方法及び卒業要件

上述のとおり，本学類は「生命医科学コース」と「創薬科学コース」の2コース制とし，① - 3に示した各コースが養成する人材像等に基づき，以下の教育方法，履修指導，研究指導方法等を設定する。（【資料5】参照）

### ⑥ - 1 教育方法・履修指導に関する基本的な考え方

○共通教育科目（計34単位以上）

○専門教育科目（計96単位以上）

#### 【生命医科学コース・創薬科学コース共通】

・学域GS科目（計2単位）

「医薬保健学基礎Ⅰ」（1年Q1・1単位），「医薬保健学基礎Ⅱ」（1年Q2・1単位）

学域GS科目は，医薬保健学域のグローバルスタンダード科目として開講され，教員や外部講師による講義のほか，医療現場の見学・体験学習も実施して，学生たちに本学類で学ぶ意味を理解させ，将来のキャリアパスを考えさせる機会とする。

・学域GS言語科目（計2単位）

「医薬科学英語Ⅰ」（2年Q1・1単位），「医薬科学英語Ⅱ」（2年Q2・1単位）

1年次における共通教育・言語（英語）科目（TOEIC準備コース4単位・EAPコース4単位）終了後の2年次に開講され，サイエンスを英語で理解するスキルを身につけさせる。「医薬科学英語Ⅰ」では医薬科学領域の英語学術論文の読解力を，「医薬科学英語Ⅱ」では外国人セミナーのリスニング能力を鍛える。

・専門基礎科目（計10単位）

「基礎人体解剖学」（1年Q1・1単位），「基礎人体構造学」（1年Q2・1単位），

「基礎人体機能学」（1年Q4・1単位），「基礎分子細胞生物学」（1年Q2・1単位），

「基礎生物化学」（1年Q1・1単位），「物理有機化学」（1年Q1・1単位），

「基礎医薬化学」（1年Q2・1単位），「基礎有機反応学」（1年Q3・1単位），

「基礎医薬合成学」（1年Q4・1単位），「基礎分析化学」（1年Q3・1単位）

専門基礎科目は，医薬科学研究の基盤となる科目群で構成され（人体の構造と機能，生命科学の基礎，有機化学の基礎，分析化学の基礎），コース選択前に両コース共通の基礎を築くとともに，1年終了時のコース選択に向けたマッチングを図る機会ともなる。

・専門共通科目（計23単位）

「医薬科学研究者入門」（1年Q4・1単位），「医薬科学研究者養成Ⅰ」（2年通年・1単位），

「医薬科学研究者養成Ⅱ」（3年通年・1単位），「医薬科学先端領域特論」（3年Q2～4年Q4・1単位），

「国際医薬科学Ⅰ」（2年Q3・1単位），「国際医薬科学Ⅱ」（3年Q1・1単位），

「医薬科学イノベーション概論」（1年Q3・1単位）

位), 「医薬科学基礎実習」(2年 Q1・1単位), 「医薬科学基礎ローテーション実習」(2年 Q1～3年 Q1・14単位), 「医薬科学特別演習」(3年 Q3～Q4・0.5単位), 「医薬科学試問」(4年 Q3～Q4・0.5単位)

専門共通科目は、本学類両コース共通の理念である「次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開できる人材の養成」に重要な科目群となる。1年次の「医薬科学研究者入門」から4年次の「医薬科学先端領域特論」まで、連続的に研究マインドの醸成科目を配当し、各コース配属後、「医薬科学基礎実習」を履修した上で、「医薬科学基礎ローテーション実習」において、基礎医学・生命医科学分野又は基礎薬学・創薬科学分野の実験の基礎技能を習得させながら、多様な研究の体験により将来の専門とする研究分野を定めていく機会を与える。「医薬科学基礎ローテーション実習」の例として、創薬科学コースにおいては合計8科目を必修とし、容量分析等の各種分析法や、食品衛生試験等の主要試験法、有機化学実験、薬物動態の理論的解析等の実習を通して、基礎薬学・創薬科学研究の深化を図る。

また、「国際医薬科学Ⅰ・Ⅱ」では研究成果を英語で世界に発信するスキルの基礎を身につけさせ、「医薬科学イノベーション概論」ではバイオ・医療イノベーション等の現状と将来について学ぶ。

さらに、「医薬科学特別演習」では、3年次に上級生の課題研究発表会(両コース合同)に参加し、これまでに学んだ医薬双方の知見をベースにそれぞれの専門性を加えた視点から多面的・多角的に討論する機会を設ける。また「医薬科学試問」では、4年次に課題研究発表会(両コース合同)で自身の研究成果を発表して質疑応答を行うもので、培ってきたプレゼンテーション能力や討論力を表現するとともに、自身の研究への理解を深める機会とする。

#### 【生命医科学コース】

・コース専門科目(必修34単位・選択15単位以上、計49単位以上)

※ 選択科目のうち、創薬科学コースにおいて必修とするコース専門科目(授業形態:講義)2単位以上を、選択必修とする。

〈必修科目〉「人体解剖学Ⅰ」(2年 Q1～Q2・2単位), 「組織学Ⅰ」(2年 Q1～Q2・2単位), 「神経解剖学Ⅰ」(2年 Q1・1.5単位), 「発生学Ⅰ」(2年 Q1・1単位), 「器官生理学Ⅰ」(2年 Q3・2単位), 「神経生理学Ⅰ」(2年 Q3・2単位), 「生化学Ⅰ」(2年 Q1～Q2・2単位), 「生化学Ⅱ」(2年 Q1～Q2・2単位), 「薬理学Ⅰ」(2年 Q3～Q4・1.5単位), 「動物実験と再生医学」(2年 Q3・1単位), 「遺伝学Ⅰ」(2年 Q3・1単位), 「ゲノム解析演習」(3年 Q1・1単位), 「分子細胞病理学Ⅰ」(2年 Q4～3年 Q1・2単位), 「人体病理学Ⅰ」(2年 Q4～3年 Q1・2単位), 「ウイルス感染学」(2年 Q4・2単位), 「細菌感染



学Ⅰ」(2年 Q3~Q4・1.5 単位), 「寄生虫学」(2年 Q4・1 単位), 「免疫学」(2年 Q3~Q4・2 単位), 「衛生学Ⅰ」(3年 Q1~Q2・1.5 単位), 「公衆衛生学Ⅰ」(3年 Q1~Q2・1 単位), 「法医学Ⅰ」(2年 Q4・1 単位), 「脳神経医学」(2年 Q1・1 単位)

(選択科目) 「人体解剖学Ⅱ」(2年 Q1~Q2・3 単位), 「組織学Ⅱ」(2年 Q3・1 単位), 「神経解剖学Ⅱ」(2年 Q2・1.5 単位), 「発生学Ⅱ」(2年 Q2・2 単位), 「器官生理学Ⅱ」(2年 Q4・2 単位), 「神経生理学Ⅱ」(2年 Q4・2 単位), 「生化学Ⅲ」(2年 Q3・2 単位), 「生化学Ⅳ」(2年 Q3・2 単位), 「薬理学Ⅱ」(3年 Q1・1.5 単位), 「薬理学実習」(3年 Q1・0.5 単位), 「遺伝学Ⅱ」(2年 Q4・1 単位), 「分子細胞病理学Ⅱ」(3年 Q2・2 単位), 「人体病理学Ⅱ」(3年 Q2・2 単位), 「ウイルス感染学実習」(3年 Q1・0.5 単位), 「細菌感染学Ⅱ」(3年 Q1・1.5 単位), 「細菌感染学実習」(3年 Q1・0.5 単位), 「寄生虫学実習」(3年 Q1・0.5 単位), 「免疫学実習」(3年 Q1・0.5 単位), 「衛生学Ⅱ」(3年 Q3・1.5 単位), 「衛生学実習」(3年 Q1~Q2・0.5 単位), 「公衆衛生学Ⅱ」(3年 Q3・0.5 単位), 「公衆衛生学実習」(3年 Q1~Q2・1 単位), 「法医学Ⅱ」(3年 Q1~Q3・2 単位), 「法医学実習」(3年 Q2~Q3・0.5 単位), 「臨床法医学特論」(3年 Q4・1 単位), 「国際保健学」(3年 Q1~Q2・0.5 単位), 「生命医科学海外 AL 実習Ⅰ」(2年 Q1~4年 Q4・0.5 単位), 「生命医科学海外 AL 実習Ⅱ」(2年 Q1~4年 Q4・0.5 単位), 「生命医科学国内 AL 実習Ⅰ」(2年 Q1~4年 Q4・0.5 単位), 「生命医科学国内 AL 実習Ⅱ」(2年 Q1~4年 Q4・0.5 単位)

・課題研究科目 (計 10 単位)

「医薬科学研究Ⅰ」(3年 Q2~Q4・2.5 単位), 「医薬科学研究Ⅱ」(4年 Q1~Q2・3 単位), 「医薬科学研究Ⅲ」(4年 Q3~Q4・3 単位), 「医薬科学演習Ⅰ」(3年 Q2~Q4・0.5 単位), 「医薬科学演習Ⅱ」(4年 Q1~Q2・0.5 単位), 「医薬科学演習Ⅲ」(4年 Q3~Q4・0.5 単位)

課題研究科目は, 「医薬科学基礎ローテーション実習」終了後の研究室配属(3年 Q2 から)に伴ってスタートする科目群で, 各研究室の専門分野における課題研究とそれに付随する活動に対してマンツーマンの指導が行われる。「医薬科学研究Ⅰ~Ⅲ」では, 与えられた課題研究テーマに取り組みながら, 基礎医学・生命医科学領域における研究プロセスに必要なスキルを基礎レベルから段階的にレベルアップさせるとともに, 問題発見・解決能力を醸成する。

また, 「医薬科学演習Ⅰ~Ⅲ」では, 文献や研究成果の発表・質疑応答, 他者の発表に対する理解や質問を通して, プレゼンテーション力ならびにディスカッション力を鍛える。

## 【創薬科学コース】

- ・コース専門科目（必修 34 単位・選択 15 単位以上，計 49 単位以上）

※ 選択科目のうち，生命医科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）2 単位以上を，選択必修とする。

〈必修科目〉「生物化学Ⅰ」（2 年 Q1・2 単位），「生物化学Ⅱ」（2 年 Q3～Q4・2 単位），「衛生薬学Ⅰ」（2 年 Q1・2 単位），「衛生薬学Ⅱ」（2 年 Q3～Q4・2 単位），「生体防御学」（2 年 Q3～Q4・2 単位），「微生物学」（2 年 Q2・1 単位），「薬品作用学Ⅰ」（2 年 Q1・2 単位），「薬品作用学Ⅱ」（2 年 Q3～Q4・2 単位），「物理化学Ⅰ」（2 年 Q1・1 単位），「物理化学Ⅱ」（2 年 Q2・1 単位），「物理化学Ⅲ」（2 年 Q3～Q4・2 単位），「分析化学」（2 年 Q1・2 単位），「応用有機化学Ⅰ」（2 年 Q1・2 単位），「応用有機化学Ⅱ」（2 年 Q3～Q4・2 単位），「薬剤学Ⅰ」（2 年 Q3～Q4・2 単位），「薬剤学Ⅱ」（3 年 Q1～Q2・2 単位），「臨床薬物代謝化学」（3 年 Q1～Q2・2 単位），「薬物治療学Ⅰ」（3 年 Q1～Q2・2 単位），「応用有機化学演習Ⅰ」（2 年 Q2・0.5 単位），「応用有機化学演習Ⅱ」（2 年 Q4・0.5 単位）

〈選択科目〉「薬物治療学Ⅱ」（3 年 Q3～Q4・2 単位），「生命・医療倫理」（2 年 Q3・1 単位），「生薬学」（2 年 Q3～Q4・2 単位），「無機薬化学」（2 年 Q2・1 単位），「病態生理学」（2 年 Q4・1 単位），「細胞生物学」（3 年 Q1・1 単位），「生命工学Ⅰ」（3 年 Q1・1 単位），「生命工学Ⅱ」（3 年 Q2・1 単位），「天然物化学」（3 年 Q1～Q2・2 単位），「生物有機化学」（3 年 Q1～Q2・2 単位），「有機反応化学」（3 年 Q1～Q2・2 単位），「製剤学」（3 年 Q1～Q2・2 単位），「有機金属化学」（3 年 Q3～Q4・2 単位），「有機機器分析」（3 年 Q3～Q4・2 単位），「臨床検査学」（3 年 Q3～Q4・2 単位），「東洋医学」（3 年 Q4・1 単位），「医薬品化学」（3 年 Q4・1 単位），「放射薬品学」（3 年 Q4・1 単位），「毒性学」（3 年 Q4・1 単位），「創薬科学海外 AL 実習Ⅰ」（2 年 Q1～4 年 Q4・0.5 単位），「創薬科学海外 AL 実習Ⅱ」（2 年 Q1～4 年 Q4・0.5 単位）

- ・課題研究科目（計 10 単位）

「医薬科学研究Ⅰ」（3 年 Q2～Q4・2.5 単位），「医薬科学研究Ⅱ」（4 年 Q1～Q2・3 単位），「医薬科学研究Ⅲ」（4 年 Q3～Q4・3 単位），「医薬科学演習Ⅰ」（3 年 Q2～Q4・0.5 単位），「医薬科学演習Ⅱ」（4 年 Q1～Q2・0.5 単位），「医薬科学演習Ⅲ」（4 年 Q3～Q4・0.5 単位）

課題研究科目は，「医薬科学基礎ローテーション実習」終了後の研究室配属（3 年 Q2 から）に伴ってスタートする科目群で，各研究室の専門分野における課題研究とそれに付随する活動に対してマンツーマンの指導が行われる。「医薬

科学研究Ⅰ～Ⅲ」では、与えられた課題研究テーマに取り組みながら、基礎薬学・創薬科学領域における研究プロセスに必要なスキルを基礎レベルから段階的にレベルアップさせるとともに、問題発見・解決能力を醸成する。

また、「医薬科学演習Ⅰ～Ⅲ」では、文献や研究成果の発表・質疑応答、他者の発表に対する理解や質問を通して、プレゼンテーション力ならびにディスカッション力を鍛える。

コース専門科目は、「学士（生命医科学）」又は「学士（創薬科学）」の学位の質を担保するための各コースのより専門的な科目から成り、生命医科学コースは医学類と、創薬科学コースは薬学類の学生とともに受講し、専門性を高める。ここにも医学と薬学に共通する科目が含まれているが（生化学、衛生学、微生物学、薬理学など）、医学と薬学では立ち位置が異なるためウエートの置き方やカバーされる範囲等も異なり、各コースの当該分野を専門とする教員が授業を担当する。上述のとおり、必修科目はコアの34単位に厳選し、多様な選択科目の中から、専門性に合った履修モデルを提供するとともに、多様化・複雑化する基礎医学・薬学研究分野における課題解決に向け、自身の専門分野の知見の深化に応じ、他分野の知見を付加することが効果的であることから、学生の興味に応じて他コース開講科目を含む自由な履修も可能にし、計15単位以上の選択科目の修得を求めものとする。

なお、他コース専門科目の履修上限は設定しないが、他コースにおいて必修とする科目（授業形態：講義）の中から2単位以上を選択必修とした上で、修得した単位を卒業に必要な選択科目の計15単位以上に含める場合は4単位を上限とする。

これらの選択科目については、学生の興味・関心に応じ選択することとなるが、単なる興味関心だけで科目を選択しても、研究者として必要不可欠な知見を醸成するに至らないことは当然のことであり、また、学位の質を担保する上でも、これらの科目選択は重要なものである。このため、想定する将来像に応じた履修モデルを提供し、生命医科学コースは「生体情報機能医科学領域」「システム統御医科学領域」、創薬科学コースは「有機化学領域」「生物薬学領域」「薬物動態額領域」「物理分析化学領域」に分けて、推奨する選択科目を設定している。

学生に対する履修指導は、オリエンテーション等により全体説明を十分に行った上で、1学年18名の小規模である特徴を活かして、各学生に割り当てるアドバイス教員が、定期的な個人面談等を行って、学生の履修状況や単位修得状況、思い描く将来像等を踏まえながら、きめ細かく指導する。また、本学類では、コース配属（2年次）及び研究室配属（3年次）という将来を左右する重要な選択が2回あるため、前者は各専門基礎科目および「医薬科学研究者入門」において、後者は「医薬科学基礎ローテーション実習」において各コース・研究分野の情報を十分に提供し、アドバイス教員も適切な助言を行うことで、情報不足によるミスマッチが起こらないよう慎重に配慮する。

特にコース配属（2年次）においては、各コース9名を想定しているが、最終的に偏りが生じることを可能な限り防ぐため、入学時からコース選択時までに数回の希望調査を行い、教員と学生の間、また学生間で相互にコース希望の動向を認識させる。また、各コースの魅力を十分に説明する機会を設け、学生が随時コース選択に関わる相談をできる体制を準備し、学生の適正や希望を踏まえながら綿密かつ適切に指導を行う。

学生の希望により各コースの配属人数に偏りが生じた場合、学生の将来像や意向を踏まえ、一定の補正を慎重に行うこととしているが、多少の偏りがあっても、18名の学生に対し、創薬科学コースには5名、生命医科学コースには6名の専任教員を配置しているため、問題なくきめ細やかな教育を実施することができる。さらに、コース配属後に変更希望が生じた場合、関連する教員と学生が密に情報共有を行い、その学生の将来像に応じた履修指導を行う。

## ⑥ - 2 研究指導

課題研究のテーマは、学生が修得してきた専門的知識・スキル、醸成してきた研究マインド・倫理観等を有機的に関連させつつ、専任教員が関連分野の兼任教員と相談しながら設定し、研究指導も当該兼任教員と連携して体系的に実施する。

1年次に医薬科学の基礎的知識を身につけた後、本人の希望等によりコース分けを行い、基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学の専門性を高めるコース専門科目（必修・選択）を履修する。初期は、医学と薬学に共通する分野（生化学、衛生学、微生物学、薬理学など）を各コースの視点から学ぶことで分岐を始め、次第にコース独自の専門性の高い科目を増やしていくことでシームレスに深い専門性を修得する編成になっている。これらの科目は、生命医科学コースは医学類と、創薬科学コースは薬学類の学生とともに受講し、相互の交流により刺激し合うことが期待される。

さらに、「医薬科学研究者養成Ⅱ」及び「医薬科学先端領域特論」を通じて国内外の先進的研究者と頻繁に交流させるとともに、自身の研究成果も学会等で積極的に発表させる。

このほか、意欲と能力のある学生には海外研究機関への短期留学も奨励する（「海外AL実習Ⅱ」）。

4年次最後には、両コース合同の課題研究発表会を開催し、医薬双方の専任教員、兼任教員も参加して多面的・多角的視点から質疑応答を行い、大学院進学後の研究活動も見据え、知見の深化を図る（「医薬科学試問」）。

## ⑥ - 3 卒業要件

4年以上在学し、以下の合計130単位以上を修得した者

○共通教育科目から所定の34単位以上（導入科目4単位、GS科目（5群）の各群から3単位（計15単位）、GS言語科目8単位、自由履修科目3単位、基礎科目4単位）

※自由履修科目は、自由履修科目に加え、GS 科目及び基礎科目の最低修得要件を超えて修得した科目並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS 言語科目を除く。）を含む。

○専門教育科目 96 単位以上（必修科目 81 単位・選択科目 15 単位以上）

※ 専門科目における各コースの単位数は次のとおり。

**【生命医科学コース・創薬科学コース共通】**

- ・学域 GS 科目（必修科目 2 単位）
- ・学域 GS 言語科目（必修科目 2 単位）
- ・専門基礎科目（必修科目 10 単位）
- ・専門共通科目（必修科目 23 単位）

**【生命医科学コース】**

- ・コース専門科目（必修科目 34 単位，選択科目 15 単位以上）
  - ※ 選択科目のうち，創薬科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）2 単位以上を，選択必修とする。
- ・課題研究科目（必修科目 10 単位）

**【創薬科学コース】**

- ・コース専門科目（必修科目 34 単位，選択科目 15 単位以上）
  - ※ 選択科目のうち，生命医科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）2 単位以上を，選択必修とする。
- ・課題研究科目（必修科目 10 単位）

○履修科目の年間登録上限は、1 年次は 56 単位，2～4 年次は 48 単位とする。

## ⑦ 施設、設備等の整備計画

### ⑦ - 1 校地、運動場の整備計画

本学類の学生は、1年次は主に共通教育科目を受講することになり、その教育は角間キャンパスで実施される。2年次以降のコース配属後は、生命医科学コースが宝町・鶴間キャンパスに、創薬科学コースが角間キャンパスにおいて教育研究が行われる。それぞれのキャンパスにおける教育研究については、既設の総合教育棟（1年次の共通教育）並びに医学類棟及び自然科学棟（2年次以降のコース配属後）の施設設備を共用して実施することになるが、1学年当たりの学生定員が18名であり、各コースの学生定員が1学年当たり9名と小規模であるため、既設の学類等の教育研究に支障はない。

また、学生が休息するためのスペースとして、それぞれのキャンパスには食堂、カフェ、購買等の福利厚生施設や課外活動施設が設置されるとともに、各棟にはラウンジ等のフリースペースが設置されている。

運動施設については、基本計画書の「校地等」、「体育館」、「体育館以外のスポーツ施設の概要」欄に記載されているとおり十分な施設設備や面積を有している。

### ⑦ - 2 校舎等施設の整備計画

#### ア 教室等

本学類の設置に伴い、医薬保健学域として学生定員の増加はないことから、授業等に必要な講義室や演習室を新たに整備する計画はなく、下記のとおり既設の施設設備を活用することとしている。なお、建物内には有線、無線のLAN環境を整備しており、常時インターネットに接続することができる。

また、本学類は1学年18名の小規模体制であるため、医学類や薬学類とのカリキュラム連携と施設設備の共用を効果的に実現することで適切な時間割を構築することが十分可能である。

#### 1) 講義室

自然科学本館の講義棟に30室及び大講義棟に4室を備えている。加えて、自然科学1号館のプレゼンテーション室1室及びゼミ室7室のほか、自然科学図書館棟の会議室や総合メディア基盤センターの演習室等も講義室として利用することが可能となっている。また、医学類教育棟に2室及びG棟に2室を備えている。

#### 2) 演習室

上記1)及び下記3)に掲げる講義室や実習室を演習室として利用することが可能となっている。また、医学類教育棟に7室及びF棟に6室を備えている。そのほか医学図書館や医学部記念館の自習室等も演習室として利用することが可能である。

#### 3) 実習室

自然科学1号館に実習室及び実習準備室として、それぞれ3室ずつ備えている。また、医学類の教育棟に2室、G棟に1室及びF棟に1室を備えている。

#### 4) 研究室

自然科学1号館に薬学類及び大学院の学生と共用の研究室25室を備えている。また、医学類E棟及びF棟に大学院の学生と共用の研究室61室を備えている。

#### イ 教員研究室

専任教員は全て自らの研究室(約24㎡)を有し、学生の研究指導を行うには十分なスペースを確保している。

### ⑦-2 図書等の資料及び図書館の整備計画

#### ア 図書等の資料

金沢大学の全蔵書数については、図書約192万冊、雑誌等約36,000種、視聴覚資料約8,200点を数え、その内、図書については、角間キャンパスにある、中央図書館に約120万冊、自然科学系図書館に約42万冊、宝町・鶴間キャンパスにある、医学図書館に約24万冊、保健学類図書館に約4万冊を所蔵している。そのほかにも、ネットワーク対応のデータベース20種や約9,900タイトルの電子ジャーナルを提供しており、これらの電子媒体を含めた所有の蔵書を一括で検索できるよう、検索システムについても整備している(附属図書館蔵書検索 OPAC plus)。

なお、附属図書館では、金沢大学の教職員が教育・研究活動の結果として生み出した学術的な情報(コンテンツ)を電子的な形態で保存し、インターネット上で公開するシステムである金沢大学学術情報リポジトリ(KURA: Kanazawa University Repository for Academic Resources)を構築し、教育・研究成果の公開や学術情報の発信に努めている。

#### イ 図書館の整備

金沢大学には、角間キャンパスに中央図書館、自然科学系図書館、宝町・鶴間キャンパスに医学図書館、保健学類図書館と合計4つの附属図書館を設置している。

各図書館の総建物面積は19,794㎡、総閲覧席数は2,191席を有しており、加えて中央図書館には、利用者へ知識を「伝達」することから、利用者の自律的な学習によって知識の「創造」を目指すラーニングコモنزのコンセプトを導入し、ブックラウンジ(飲食も可能なコミュニケーションスペース)、インフォスクエア(PCを設置し、図書館の各種情報へのアクセスポイントとなるスペース)、コラボスタジオ(グループ討議、学習のためのスペース)をゾーニングすることにより、多様な学修形態を支援している。

## ⑧ 入学者選抜の概要

### ⑧ - 1 学生受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本学類においては、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材を養成するため、その方針に沿ったアドミッション・ポリシーを次のとおり定める。

#### ○ アドミッション・ポリシー

以下のすべてを満たすものを求める。

- (1) 十分な基礎学力を備えている者
- (2) 基礎医学及び基礎薬学を広く学び、生命医科学や創薬科学の発展に興味をもつ研究心旺盛な者
- (3) 将来、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる研究成果を挙げて社会に貢献したい者

### ⑧ - 2 選抜の方法・体制・基準

本学類では、上記のアドミッション・ポリシーに沿って、質を担保しつつ多様な能力を持つ入学者を確保するため、下記のとおり複数の方法で選抜を実施する。

なお、入学定員は18名、収容定員は72名である。

選抜の種類		募集人員	入試時期	入学時期
一般選抜	前期日程	18名	2月	4月
特別選抜	超然特別入試（A-lympiad選抜）	若干名	12月	4月
	帰国子女入試	若干名	2月	4月
	国際 <sup>ハ</sup> カ <sup>レ</sup> 入試	若干名	12月	4月
	私費外国人留学生入試	若干名	2月	4月

#### 【一般選抜（前期日程）】

高等学校での高いレベルの基礎学力と、特に理数英科目での秀でた学力を身につけた人材を選抜する。

選抜は、大学入学共通テストと個別学力検査（前期日程）の配点比率を40：60とし、その結果を総合して合否判定を行う。調査書は点数化し、ボーダー領域の志願者には、主体性等評価として、大学入学共通テストと個別学力検査（前期日程）の学力試験総得点の2パーセント程度を加点した上で合否判定を行う。ボーダー領域外の志願者に関しては、履修状況・学業成績等を確認するための資料として用いる。

#### 【特別選抜】

##### ア 超然特別入試（A-lympiad選抜）

授業を理解するための高い学力を金沢大学主催「日本数学A-lympiad」における受賞および調査書により評価する。



選抜は、大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、提出書類等及び口述試験の結果により総合して行う。

#### イ 帰国子女入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力を面接により評価する。

選抜は、大学入学共通テストを免除し、個別学力検査（前期日程）、口述試験の結果及び成績証明書（調査書）等提出された書類により総合して行う。

#### ウ 国際バカロレア入試

素質・適性・高いレベルの基礎学力、特に理数科目での秀でた学力ならびに日本語能力を口述試験により評価する。

選抜は、大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、提出書類等及び面接・口述試験の結果により総合して行う。

#### エ 私費外国人留学生入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力ならびに日本語能力を口述試験により評価する。

選抜は、大学入学共通テストを免除し、入学の前々年度又は前年度の日本留学試験、学力検査、面接、TOEFLの結果を総合して選抜する。

### ⑧ - 3 出願資格

出願資格については、学校教育法（昭和22年法律第26号）、学校教育法施行規則（昭和22年5月23日文部省令第11号）、その他関係する法令等及び告示等に基づき、定めるものとする。

なお、関係法令等が改正された場合には、速やかに修正を行う。

### ⑨ 取得可能な資格

創薬科学コースの教育課程を履修することで取得可能な資格は次のとおりである。

また、本コースではこれらの資格取得を卒業要件としておらず、追加科目を取得する必要はない。

なお、取得可能な資格について、入学時に配布する「学生便覧」に掲載し、学生に周知することとしている。

名称	国家・民間の別	資格・受験の別	資格要件
毒物劇物取扱責任者	国家	資格	大学で応用化学に関する学課（薬学部（4年制又は6年制））を修了した者
医薬部外品及び化粧品の総括製造販売責任者	国家	資格	大学で薬学に関する専門課程を修了者
医薬部外品，化粧品，医療機器の責任技術者	国家	資格	大学で薬学に関する専門の課程を修了した者
医療機器の総括製造販売責任者	国家	資格	大学で薬学に関する専門課程を修了した者で品質管理及び製造販売後安全管理業務に3年以上従事した者
食品衛生管理者	国家	資格	大学で薬学に関する専門課程修了者

## ⑩ 企業実習（インターシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

### ⑩ - 1 海外実習等の概要（実習の目的・内容、派遣先、所在地、派遣期間、対象学生、派遣人数等）

#### 【生命医科学コース】

本コースでは、国内外の研究機関または医療機関等における実体験を通じて、研究や医療の実践に必要とされるコミュニケーション能力や協調性を養成するとともに、今後のキャリアパスを考える機会を与える。研究や医療の現場での現状や諸課題、その課題解決に向けたアプローチ法を体験することで、世界をリードする研究者に必要とされる素養を醸成することを目的とする。コース専門の選択科目として、「生命医科学海外 AL 実習Ⅰ」、「生命医科学海外 AL 実習Ⅱ」、「生命医科学国内 AL 実習Ⅰ」、「生命医科学国内 AL 実習Ⅱ」を配置する。

- ・派遣先：海外機関はハーバード大学（アメリカ・マサチューセッツ州）、世界保健機関本部（スイス・ジュネーブ）ほか、国内機関は理化学研究所ほか。
- ・派遣期間：2年次第1クォーターから4年次の期間内で、各機関2～3週間程度。
- ・対象学生・派遣人数：コース在籍生全員（各学年定員9名）
- ・実習内容：「生命医科学海外 AL 実習Ⅰ」、「生命医科学海外 AL 実習Ⅱ」、「生命医科学国内 AL 実習Ⅰ」、「生命医科学国内 AL 実習Ⅱ」のいずれにおいても、派遣施設において実施されている研究・医療活動等の見学ならびに参加実習を通じて、課題解決に向けたアプローチ（計画の立案・実行、結果の評価等）についての理解を深め、視野を広げる。加えて、派遣施設のメンバーとの討論等を通じて、コミュニケーション能力や協調性を養成する。
- ・指導体制：「生命医科学海外 AL 実習Ⅰ」、「生命医科学海外 AL 実習Ⅱ」、「生命医科学国内 AL 実習Ⅰ」、「生命医科学国内 AL 実習Ⅱ」のいずれにおいても、科目担当教員が派遣施設まで同行し、円滑な研修開始を支援するほか、全期間を通して電子メール等で相談等に対応する。加えて、「生命医科学海外 AL 実習Ⅰ」、「生命医科学海外 AL 実習Ⅱ」においては、「医薬科学英語Ⅰ」におけるアクティブ・ラーニングによる英語学習を含め、直前セミナー等の事前学習を行う。

#### 【創薬科学コース】

本コースでは、「世界で活躍できる卓越した基礎薬学研究者」の養成を目的としている。そのために、外国語による国際コミュニケーション能力、国際的な環境における主体的行動力・自己表現力を身に付けることをねらいとした「医薬科学英語Ⅰ」、「医薬科学英語Ⅱ」、「国際医薬科学Ⅰ」、「国際医薬科学Ⅱ」の4科目を配置している。

また、2年次のコース決定後、なるべく早い段階での海外留学を促し、外国語による国際コミュニケーション能力、外国人留学生と共に学ぶ協調性を養成するとともに、海外医療研究機関の実体験を通して今後のキャリアパスを考える機会を作るため、選択科目「創薬科学

海外 AL 実習 I」として以下の海外研修を設置し、2年次第2クォーターでの履修を推奨する。

- ・派遣先：サンパシフィック大学（オーストラリア ケアンズ）  
（※ ジョンクック大学附属地域医療訓練センター 等の医療系施設も訪問する。）
- ・派遣期間：第2クォーター後半（7月中旬～8月上旬頃） 3週間
- ・対象学生：コース2年次（定員9名）
- ・実習内容： 世界各国からの留学生と大学敷地内の寮で英語を使って共同生活を送りながら、英語習熟度別のクラスに分かれ、プレゼンテーションに重点を置いて英語を学ぶ。放課後や週末にはコースが企画した大学研究室、病院及び地元薬局の見学等を通して、グローバルな視点から創薬・薬学への理解を深めるとともに、将来へのモチベーションを高める。
- ・指導体制： 「医薬科学英語 I」におけるアクティブ・ラーニングによる英語学習を含め、直前セミナー等の事前学習を行う。また、行きは科目担当教員が派遣施設まで同行し、1週間は近郊に滞在して、円滑な研修開始を支援するほか、全期間を通して電子メール等で相談等に対応する。

さらに、「創薬科学コース海外 AL 実習 II」は、「創薬科学コース海外 AL 実習 I」を履修した上で、学生自らが参加するネイティブスピーカーによる英語研修授業の受講や他国留学生との交流、また研究室配属後の海外学会や研究機関への訪問等を認定して単位化する。

#### ⑩ - 2 実習先との連携体制、危機管理体制等

本学類においては、前述した海外研修において正課の授業として海外研修を行うことに鑑み、学生の経済的負担を軽減するため、本学の「スタディアブロード奨学金」の申請・活用を促す。

渡航するにあたり、必要となるビザ及び電子渡航認証の申請については、学生が主体的に行うことを基本とするが、必要に応じて、科目担当教員がサポートを行う。渡航及び滞在先に係る手続きについては、学生の申請を科目担当教員がとりまとめて完了させる。派遣中は学生と科目担当教員との密な連絡指導を通じ、学生の状況について学業面だけでなく安全・健康状況についても把握し、問題を未然に防ぐ。なお、万が一問題が発生した場合、科目担当教員は、必要に応じて派遣先大学の日本人スタッフと連携して迅速に対応する。

また、科目担当教員のみならず、大学として学生の安全管理体制を確立するため、国際機構が事前指導として、派遣先の国情理解、情報収集の徹底、予防接種等の案内、健康管理の方法、危機発生時の連絡体制と基本的対処・対応等について情報提供を行い、指示・指導を徹底する。更に学生は、本学が指定する海外危機管理サービスへの登録や海外旅行保険への登録等を遺漏なく行うとともに、海外渡航届を提出させ、研修中の連絡体制を構築する。また、有事の際は、本学における規程やマニュアル等に従い、即時に危機管理対応を図り、併せて、学生の受入機関、在外公館、その他関係機関等の協力を得ながら必要な対応を図る。

⑩ - 3 成績評価体制及び単位認定方法

単位認定は、「合」「否」判定により行う。

・単位認定方法

下記の評価項目とその評価比率で算出し、学修達成度 60%以上を「合」とする。

レポート 20%

出席 80%（下級生への体験発表を含む）

## ⑪ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

本学類は、生命医科学コースと創薬科学コースの2コースで構成し、それぞれの主たる校地は宝町・鶴間キャンパスと角間キャンパスとなる。ただし、1年次は主に共通教育科目を受講することになり、その教育は角間キャンパスで実施される。宝町・鶴間キャンパス及び角間キャンパスには、2年次から配属されることになり、それぞれの収容定員は27名ずつとなる。

両キャンパス間の距離は、幹線道路等を経由し約5kmであり、移動に係る所要時間は、自動車では約10分である。また、本学では、両キャンパス間の交通手段として、1日4往復半のシャトルバスを整備しており、所要時間は約15分である。さらに、公共交通機関を利用して移動する場合は、角間キャンパスから北陸鉄道バスにより宝町地区キャンパス移動することとなり、所要時間は約20分である。

教員は、生命医科学コースは宝町・鶴間キャンパスに6名、創薬科学コースは角間キャンパスに5名が所属しており、それぞれが所属キャンパスにおいて授業や研究指導を行うこととなる。

学生は2年次以降、上述のとおりそれぞれのコースに配属されることになり、教育研究に支障はないが、1年次や他コースの授業の受講等キャンパス間を移動する場合でも、シャトルバスや路線バスを利用して容易に移動が可能である。

以上のことから、教員及び学生ともに負担は生じない。

## ⑫ 管理運営

教授会として、医薬保健学域の教育及び管理運営に関する重要事項を審議するために医薬保健系教育研究会議が設置されており、その下に医薬科学類会議を置き、同教育研究会議から付託された次の事項を審議することとしている。なお、医薬科学類会議は、本学類を担当する教員をもって組織し、月1回以上開催することとしている。

### 【金沢大学学類規程（抜粋）】

（審議事項）

第3条 会議は、教育研究会議から付託された当該学類に係る次の事項について審議する。

- (1) 中期目標・中期計画及び年度計画に関する事項
- (2) 規程その他の教育に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項
- (3) 教育に係る予算の執行に関する事項
- (4) 教育課程の編成に関する事項
- (5) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
- (6) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
- (7) 教育の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
- (8) 授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事項
- (9) その他教育に関する重要事項

2 会議は、前項に定めるほか、次の事項について審議する。

- (1) 学類長の候補者の選考に関する事項
- (2) その他当該学類に関する重要事項

また、医薬科学類会議の下に、学類における教育全般に関する事項を審議するため、教務学生生活委員会（仮称）を置くこととしている。同委員会は、各コースから選出した委員をもって構成し、月1回以上開催し、専門教育に係る教育課程、履修等の必要な事項について審議することとしている。

## ⑬ 自己点検・評価

### ⑬-1 全学的実施体制

本学では、学校教育法第109条第1項の規定に基づく自己点検・評価について、「国立大学法人金沢大学自己点検評価規程」及び「国立大学法人金沢大学における全学の自己点検評価実施要項」を定めている。

また、この自己点検評価及び認証評価並びに中期目標・中期計画等の企画立案及びそれらの目標・計画に係る評価を担当する組織として、全ての理事及び研究域長並びに各センター長の代表者等から構成する企画評価会議を設置している。

更に、自己点検評価等の任務を円滑かつ効率的に行うため、同会議の下に企画部会、評価部会及び認証評価部会を設置している。

本学類においても、医薬科学類会議が主体となり、本学における自己点検・評価の実施体制に基づき、継続的に自己点検・評価を実施する体制を整えていくこととしている。

### ⑬-2. 実施方法、結果の活用、公表及び評価項目等

本学では、「国立大学法人金沢大学における全学の自己点検評価実施要項」に基づき、「基本データ分析による自己点検評価」及び「年度計画の実施状況に係る自己点検評価」を毎年実施するとともに、平成26年度においては、「機関別認証評価基準による自己点検評価」を実施した。

これらの自己点検評価については、企画評価会議において、自己点検評価書（案）を作成し、教育研究評議会の議を経て、Webサイトで公表している。

また、自己点検評価の結果、改善すべき事項が認められる場合、企画評価会議議長から当該事項を所掌する理事、部局長に改善計画の提出を求めるとともに、企画評価会議において、次年度にその進捗状況を確認している。

評価の結果、改善すべき事項が認められる場合は、学長から当該事項を所掌する理事、副学長又は部局長に対し改善点等を指示するとともに、改善報告を求めることにより教育研究の水準及び質の向上に努めている。

本学類における自己点検・評価については、大学に設置する自己点検・評価に係る組織とも連携して実施し、組織活動や教育研究活動の点検と改善に取り組むこととしている。



#### ⑭ 情報の公表

金沢大学公式 Web サイトにおいて、大学の理念と中期目標・中期計画等の大学が目指している方向性を発信するとともに、カリキュラム、シラバス等の教育情報、学則等の各種規程や定員、学生数、教員数等の大学の基本情報を公表している。具体的には以下のとおりである。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること。
- ② 教育研究上の基本組織に関すること。
- ③ 教員組織及び教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- ⑦ 校地、校舎等の施設及びその他の学生の教育研究環境に関すること。
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

(①～⑨に関する Web サイト)

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/kyoiku>

#### ⑩ その他

金沢大学学則等

(<https://www.kanazawa-u.ac.jp/kiteishu/aggregate/catalog/index.htm>)

設置計画書・設置計画履行状況報告書等

(<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/disclosure/secchi>)

自己点検・評価等

(<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/management/evaluation>)

## ⑮ 教育内容等の改善のための組織的な研修等

本学では、教育企画会議（議長：教育担当理事）の下に、FD活動教育の質的向上を図るために、全学のFD委員会を置き、授業の内容、方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を組織的に行えるよう体制を整備している。また、FD委員会をサポートし、全学のFD活動を支援・牽引する組織として国際基幹教育院高等教育開発・支援部門を設置し、FD委員会と連携を図りながら、企画・立案に当たっている。なお、FD委員会は上記の全学におけるFD活動について、年度ごとに報告書を作成・公開し情報の共有にも取り組んでいる。このほか、教員評価委員会において教員評価大綱を策定し、毎年、教員の業績評価を実施し、教員が自ら点検・評価を行うとともに、ピアレビュー形式での評価や、部局長・学長等による階層化された評価を行い、教員資質の維持向上を図っている。

職員研修においては、コンプライアンス研修（情報セキュリティ、研究の不正防止を含む。）や職員ビジネス英語研修、職員パソコン研修、ハラスメント防止研修、民間派遣研修、海外派遣研修等のほか、役職に応じて必要な識見を得るための階層別職員研修や、担当職務を円滑に遂行するための実務研修を実施している。また、東海・北陸・近畿地区学生指導研修会や、国立六大学事務職員研修会等に職員が参加する機会を設け、積極的な参加を奨励している。

## ⑩ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### ⑩ - 1 教育課程内の取組

本学は金沢大学憲章において「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を理念とし、教育面においては「多様な資質と能力を持った意欲的な学生を受け入れ、学部とそれに接続する大学院において、明確な目標をもった実質的な教育を実施」及び「学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本」とし、「専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成」することを掲げている。

こうした教育目標の実現に向け、平成 28 年度には「学士課程〈グローバル〉スタンダード (KUGS)」を策定し、本学が育成する人材像として「人類の一員として自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備えた人材」を掲げ、5つのスタンダードとして整理した。

共通教育科目においては「GS 科目」及び「GS 言語科目」を、専門教育科目においては「学域 GS 科目」及び「学域 GS 言語科目」を配置しており、共通教育から専門教育までの一連の学修の中で KUGS を修得していくこととしている。

1. 自己の立ち位置を知る
2. 自己を知り、自己を鍛える
3. 考え・価値観を表現する
4. 世界とつながる
5. 未来の課題に取り組む

本学類では、「次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材」を養成することとしており、主に学術研究機関において研究者となることを想定している。学術研究機関の研究者にとっては、特に研究マインド・スキルや国際性が重要であり、それらを醸成する科目を、専門教育科目において、「専門共通科目」として早期から配当する。

研究マインドの醸成に関しては、1年次に「医薬科学研究者入門」を配当し、研究者や研究活動について理解させるとともに研究倫理に関する教育も行う。また、共通教育科目の「初学者ゼミⅠ」・「プレゼン・ディベート論(初学者ゼミⅡ)」で複数の医学系及び薬学系の両分野の研究室を訪問して教員や大学院生にインタビューし、内容をまとめて発表させることで、早期の段階から基礎医学・生命医学分野及び基礎薬学・創薬科学分野の両方の各研究室の研究課題に触れる機会を設け、将来、自身が行う基礎医学・生命医学分野又は基礎薬学・創薬科学分野の研究への深い理解を獲得させる。2年次のコース分け以降は、「医薬科学研究者養成Ⅰ・Ⅱ」「医薬科学先端領域特論」で学内外の一線研究者の講演を聴き、終了後に講師を囲んで討論する機会を設ける。また、2年次からは「医薬科学基礎実習」や「医薬科学基礎ローテーション実習」も始まり、3年Q1期終了時の研究室配属までローテーションしながら、様々な研究分野の基礎実験を体験して基本的実験技術を身につけるとともに、自分の興味に合う研究分野とのマッチングを図る機会とする。研究室配属後は、コース専門科目を履修しながら課題研究をスタートし、研究活動に必要な様々なスキルを身につける。

一方、国際性の涵養に関しては、1年次に共通教育科目として開講される8単位のGS言語科目（英語）を履修・修得した上で、学域GS科目として開講される「医薬科学英語Ⅰ・Ⅱ」でサイエンスを英語で理解するスキル（読む・聴く）を学び、その後に専門共通科目の「国際医薬科学Ⅰ・Ⅱ」で研究成果を英語で発信するためのスキル（話す・書く）の基礎を身につける。

また、「医薬科学イノベーション概論」ではバイオ・医療イノベーション等の現状と将来について学ぶ。

さらに、「医薬科学特別演習」では、3年次に上級生の課題研究発表会（両コース合同）に参加し、これまでに学んだ医薬双方の知見をベースにそれぞれの専門性を加えた視点から多面的・多角的に討論する機会を設ける。また「医薬科学試問」では、4年次に課題研究発表会（両コース合同）で自身の研究成果を発表して質疑応答を行うもので、培ってきたプレゼンテーション能力や討論力を表現するとともに、自身の研究への理解を深める機会とする。

#### ⑩ - 2 教育課程外の取組

本学では、学士課程から大学院課程の全学生が自律的な就職活動を行うため、就職担当教員及び指導教員と連携し、徹底的に学生の就職活動を支援する組織として、学務部に「就職支援室」を設置している。同室では、就職活動にタイムリーに対応した就職ガイダンス等の開催をはじめ、求人情報やOB・OG情報の提供等を行っている。また、キャリア・産業カウンセラー及び企業人事経験者による就職相談、エントリーシートの添削、面接練習により、学生が就職活動に意欲的に取り組めるよう指導を行っている。

具体的な就職支援プログラムとして、全学生を対象とする「共通プログラム」において、「進路ガイダンス」、「インターンシップガイダンス」、「OB・OG交流会」及び「キャリア支援イベント」を実施している。さらに、「民間企業志望者向けプログラム」、「公務員志望者対象プログラム」及び「教員志望者対象プログラム」において、各種ガイダンスや面接練習会を実施し、学生の進路選択に応じた支援体制を整えている。

これら大学全体の就職指導と連動しつつ、本学類の養成する人材像を踏まえ、1年次のオリエンテーション等から一貫して大学院進学に向けての研究マインドを醸成する履修指導・研究指導をマンツーマンに近い形で行い、更に大学院進学後の研究活動を見据え、海外研究機関への短期留学を奨励する指導を行う。

#### ⑩ - 3 適切な体制の整備

本学では就職支援室を中心とした就職支援体制を構築し、キャリア・産業カウンセラーによる指導を行っている。

本学類では上述したとおり、早期から大学院進学に向けた指導を研究指導教員、アドバイザー教員を中心に、専任教員及び関係する事務部門が一体となって行うこととし、学生個人にあわせた進学支援を行うものである。

## ⑰ 医薬科学類創薬科学コースと薬学類のカリキュラムの差異

医薬保健学域には、薬学に関する学類として、今回設置する医薬科学類創薬科学コース（4年制）の他に、薬学類（6年制）を設置している。薬学に関する各学類間のカリキュラムの差異を、【資料6】に記載する。なお、創薬科学コースにおける卒業までに必要な選択科目単位数は15単位で、薬学類における卒業までに必要な4年次までの標準選択科目数は14単位である。

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料目次

資料 1	医薬保健学域医薬科学類設置構想	4 1
資料 2	医薬科学類カリキュラムマップ	4 2
資料 3	医薬科学類 階層化した教育課程の編成 (概要)	4 3
資料 4	国立大学法人金沢大学職員就業規則	4 4
資料 5-1	履修モデル (生命医科学コース【生体情報機能医科学領域】)	6 7
資料 5-2	履修モデル (生命医科学コース【システム統御医科学領域】)	6 8
資料 5-3	履修モデル (創薬科学コース【有機化学領域】)	6 9
資料 5-4	履修モデル (創薬科学コース【生物薬学領域】)	7 0
資料 5-5	履修モデル (創薬科学コース【薬物動態学領域】)	7 1
資料 5-6	履修モデル (創薬科学コース【物理分析化学領域】)	7 2
資料 6	医薬科学類創薬科学コースと薬学類のカリキュラムの差異	7 3

### 社会的背景

#### 国の動向

健康寿命社会の形成に向け、医薬品・医療機器関連分野における産業競争力の向上や、医療の国際連携・国際貢献等の実現を推進。

「健康・医療戦略」(H26.7.22閣議決定, H29.2.17一部変更)  
 「医療分野研究開発推進計画」(H26.7.22健康・医療戦略推進本部決定, H29.2.17一部変更)

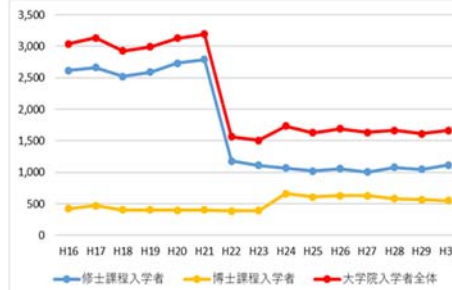
#### 課題

生命医科学系・薬学系の大学院への入学者が少なく、基礎医学・薬学領域全般における研究を担う人材の不足による研究力低下が深刻化。



医学系大学院における基礎系、臨床系入学者数 (出典：文部科学省)

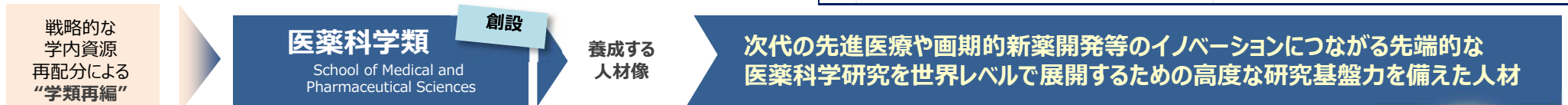
基礎医学研究を行っているほとんどの講座では医学部出身者は皆無に近い



薬学系大学院における入学者数 (出典：学校基本調査)

平成22年度に大幅に減少して以降、入学者数が従来の約半数のまま推移

早い段階から、次世代の医療や新たな技術・材料の開発等に向けた**医学分野と薬学分野、双方の基礎的な知見**を醸成する教育プログラムを構築

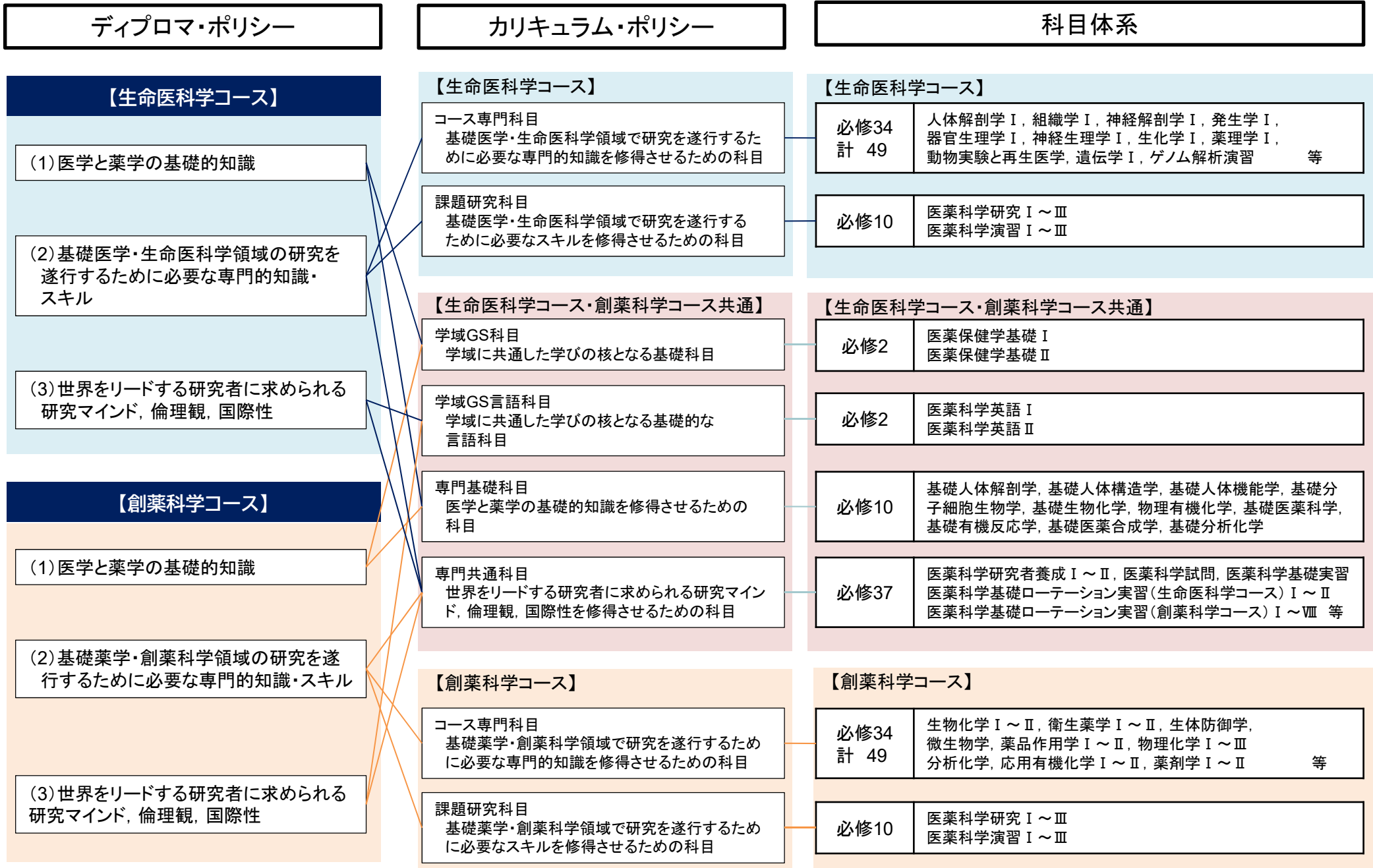


### カリキュラムの特色

“**医薬共通の基礎**”から“**各コースの深い専門性**”へとシームレスに学ぶ機会を提供

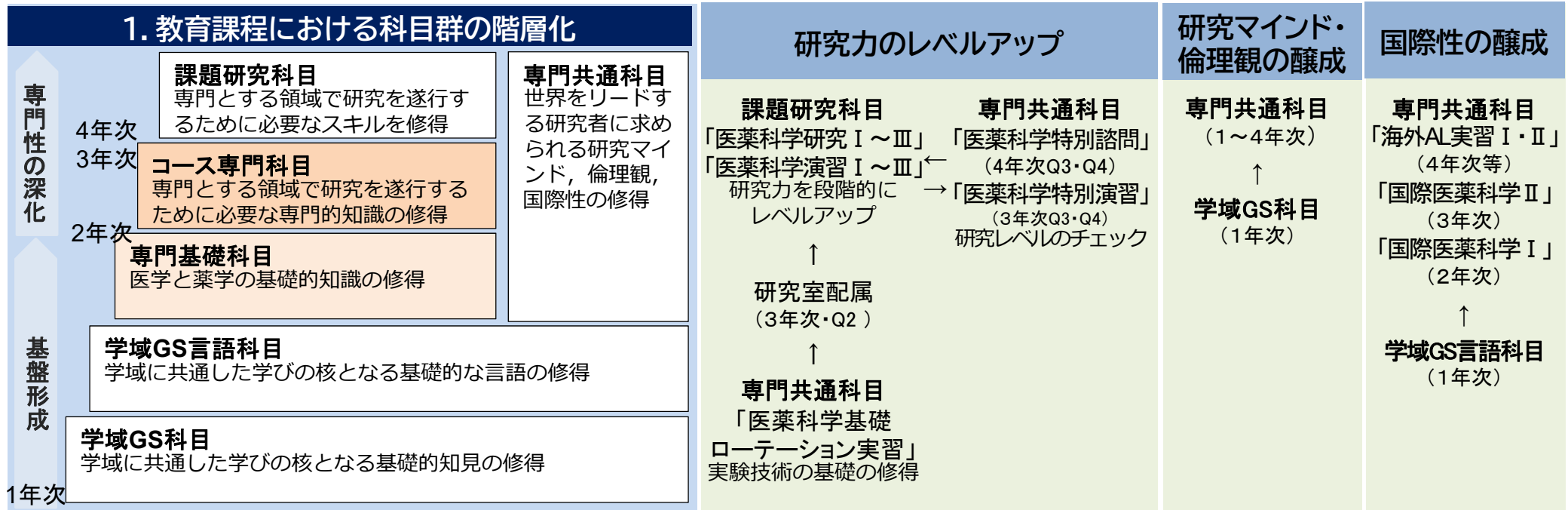
- 1) 1年次における医薬基礎教育
- 2) 専門性を高める各コース専門科目とコース横断科目
- 3) 両コース合同の課題研究発表会における多面的・多角的討論
- 4) 早期から段階的に研究マインド・倫理観や国際性を醸成する科目を配置

基礎医学及び創薬科学の各分野を専門とする専任教員を配置





医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶため **教育課程を科目群単位で階層化**



基礎から専門性へのシームレスな学び		生命医科学コース	創薬科学コース	
例	コース専門科目 専門領域応用	人体解剖学Ⅱ 各論として、器官系を構成する個々の器官・臓器の構造を修得	細胞生物学 タンパク質の翻訳後修飾、細胞死・細胞周期・細胞分裂等の理解	
		組織学Ⅱ 全身の器官の微細構造の理解		
	専門基礎科目 基礎	人体解剖学Ⅰ 総論として、人体の基本構造、器官系や臓器の構造の理解		生物化学Ⅱ 生命科学のセントラルドグマで起きる諸反応の理解
		組織学Ⅰ 細胞・組織の基本構造の理解		生物化学Ⅰ 代謝の仕組みと意義の理解
	基礎人体解剖学 顕微鏡レベルの組織・臓器の構成、機能分化等の理解	基礎生物化学 生体のタンパク質、糖質、脂質の基本的な知識を修得		
	基礎人体構造学 呼吸器系、内分泌系、神経系の構造等の理解	基礎分子細胞生物学 遺伝学の基礎、ゲノム構造、免疫システム等の基本概念の理解		

## ○国立大学法人金沢大学職員就業規則

(平成16年4月1日規則第4号)  
改正

## 目次

- 第1章 総則(第1条－第3条)
- 第2章 人事
  - 第1節 教育職員の人事(第4条)
  - 第2節 採用(第5条－第7条)
  - 第3節 昇任・降任(第8条・第9条)
  - 第4節 人事異動(第10条・第11条)
  - 第5節 休職(第12条－第15条)
  - 第6節 退職及び解雇(第16条－第24条)
- 第3章 服務
  - 第1節 職員の責務・遵守事項(第25条－第28条)
  - 第2節 兼業(第29条－第32条)
- 第4章 給与
  - 第1節 給与(第33条－第42条)
  - 第2節 退職手当(第43条－第45条)
- 第5章 勤務時間、休日・休暇、休業等
  - 第1節 勤務時間(第46条－第58条)
  - 第2節 休暇等(第59条－第64条)
  - 第3節 休業(第65条－第66条の2)
- 第6章 研修・出張、知的財産権(第67条－第70条)
- 第7章 表彰及び懲戒(第71条－第74条)
- 第8章 安全衛生及び災害補償等(第75条－第78条)
- 第9章 雑則(第79条－第81条)
- 附則

## 第1章 総則

## (目的)

第1条 この規則は、金沢大学(以下「本学」という。)の自主・自律的な運営を旨として職員の人事、労働条件、服務等について定め、もって本学における学術研究、教育、医療及び大学経営の諸活動が秩序をもって、闊達に展開されることを目的とする。

## (定義)

第2条 この規則において「職員」とは、試験又は選考により採用された者をいい、日給又は時間給で雇用された職員を除く。

2 この規則において「教育職員」とは、職員のうち、教授、准教授、講師(常時勤務する者に限る。)、助教、助手、校長、園長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭及び外国人研究員の職にある者をいう。

3 任期を付して雇用する職員について、別段の定めを置くときは、それによる。  
(適用範囲)

第3条 この規則は、前条の職員を適用対象とする。

## 第2章 人事

### 第1節 教育職員の人事

第4条 教育職員の人事に関し必要な事項は、この規則に定めるもののほか、国立  
大学法人金沢大学教育職員人事規程による。

### 第2節 採用

(職員の採用)

第5条 職員の採用は、試験又は選考による。

2 職員の採用について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員採用規程に定め  
る。

(労働条件の通知)

第6条 学長は、職員の採用に際して、採用をしようとする職員に対し、あらかじめ  
次の事項を記載した文書を交付する。

- (1) 給与に関する事項
- (2) 就業の場所及び従事する業務に関する事項
- (3) 労働契約の期間に関する事項
- (4) 始業及び終業の時刻、所定労働時間を超える労働の有無、休憩時間、休日  
及び休暇に関する事項
- (5) 交替制勤務をさせる場合は、就業時転換に関する事項
- (6) 退職及び解雇に関する事項

(試用期間)

第7条 職員として採用された者は、採用の日から6か月の試用期間(外国人研究員  
を除く。)を設ける。ただし、国、地方自治体又はこれに準ずる関係機関の職員  
から引き続き本学の職員となった者については、この限りでない。

2 試用期間中又は試用期間満了時に職員として不適格と学長が認めたときは、解  
雇する。

3 試用期間は、勤続年数に通算する。

### 第3節 昇任・降任

(昇任)

第8条 職員の昇任は、選考による。

2 前項の選考は、職員の勤務成績等に基づいて行う。

(降任)

第9条 職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、降任することがある。

- (1) 勤務実績がよくない場合
- (2) 心身の故障のため職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えられない場合
- (3) その他必要な適格性を欠く場合

### 第4節 人事異動

(配置換)

第10条 職員は、業務上の都合により職場の異動又は職務の変更等の配置換を命ぜ  
られることがある。

2 前項の配置換は、原則として発令日の7日前までに内示し、本人事情等を十分勘

案して実施する。

(出向)

第11条 学長は、業務上必要な場合、職員に対して他の国立大学法人等において、一定の期間、勤務させることができる。

2 出向する職員は、発令の日から、次に掲げる期間内に出向先に赴任しなければならない。ただし、やむを得ない理由により定められた期間内に出向先に赴任できないときは、出向先の承認を得なければならない。

(1) 住居移転を伴わない赴任の場合 発令日

(2) 住居移転を伴う赴任の場合 7日以内

3 職員の出向について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員出向規程に定める。

#### 第5節 休職

(休職)

第12条 職員(試用期間中の職員を除く。)が次の各号のいずれかに該当する場合は、休職とする。

(1) 傷病により、病気休暇の期間が引き続き90日を超える場合

(2) 刑事事件に関し起訴された場合

(3) 他の国立大学法人等に出向する場合

(4) 学校、研究所、病院その他本学が指定する公共的施設において、職員の職務に関連があると認められる学術に関する事項の調査、研究若しくは指導に従事し、又は本学が指定する国際事情の調査等の業務に従事する場合

(5) 科学技術に関する、国(独立行政法人を含む。以下同じ。)と共同して行われる研究又は国の委託を受けて行われる研究に係る業務であって、その職員の職務に関連があると認められるものに、前号に掲げる施設又は本学が当該研究に関し指定する施設において従事する場合

(6) 研究成果活用企業の役員(監査役を除く。)、顧問又は評議員(以下「役員等」という。)の職を兼ねる場合において、主として当該役員等の職務に従事する必要があり、本学の職務に従事することができない場合

(7) 日本が加盟している国際機関、外国政府の機関等からの要請に基づいて職員を派遣する場合

(8) 労働組合業務に専従する場合

(9) 水難、火災その他の災害により、生死不明又は所在不明となった場合

(10) その他特別の事由により休職にすることが適当と認められる場合

2 前項第4号から第10号の休職は、職員(第9号の場合はその家族)の申出により行うものとする。

3 第1項第1号に定める病気休暇の期間は、職員の事情等を考慮し、特に必要があると認める場合は延長することができる。

4 国立大学法人金沢大学安全衛生管理規程(以下「安全衛生管理規程」という。)第28条の規定により同規程別表第3に定める生活規制の面の区分においてBの指導区分の決定を受けた場合に、当該指導区分に応じた事後措置の基準で、休暇(日単位のものを除く。)の方法により勤務を軽減する期間が6か月を超える場合は、休職とすることができる。

(休職期間)

第13条 休職の期間は、休職事由に応じて別表第1に定める期間の範囲内とする。

2 前条第1項第1号の規定により休職となった職員が、第15条の規定により復職し、復職可能となった日から起算して1年に達するまでの間に、当該休職の原因となった傷病と同一若しくは類似の傷病（産業医が同一又は類似の傷病と認めるものに限る。）又は同一若しくは類似の傷病に起因すると認められる傷病（産業医が同一又は類似の傷病に起因すると認めるものに限る。）（以下「同一傷病」という。）により再度休職するときは、当該傷病に係る休職の期間は通算するものとする。

3 前項に規定する「1年」の計算においては、次の各号に掲げる期間を除くものとする。

(1) 安全衛生管理規程第28条の規定により同規程別表第3に定める生活規制の面の区分においてAの指導区分の決定を受けた期間及びBの指導区分の決定を受け、当該指導区分に応じた事後措置の基準で、休暇(日単位のものを除く。)の方法により勤務を軽減された期間

(2) 第59条による休暇及び第50条から第52条による休日等により、連続30日以上勤務実績がない期間

(3) 前条第1項第1号（同一傷病によるものを除く。）から第10号までの規定による休職期間

(休職中の給与等)

第14条 休職中の給与、在職期間調整等については、第12条第1項各号の事由に応じて別表第1及び国立大学法人金沢大学職員給与規程の定めるところによる。

2 休職者は、職員としての身分を保有し、職員として遵守すべき事項を守らなければならない。

(復職)

第15条 学長は、休職期間が満了するまでの間に休職事由が消滅したと認めた場合には、復職を命じる。この場合において、病気を理由とした休職については、職員が復職を申し出て、産業医が休職事由の消滅を認めた場合に限るものとする。

2 前項の場合において、学長は、原則として休職前の職務に復帰させる。ただし、心身の条件その他を考慮し、他の職務に就かせることがある。

#### 第6節 退職及び解雇

(退職)

第16条 職員は、次の各号のいずれかに該当する場合は、退職となり、職員としての身分を失う。

(1) 自己都合により期日を定めて退職を申し出た場合

(2) 定年に達した場合

(3) 期間を定めて雇用されている場合は、その期間が満了したとき。

(4) 休職期間が満了した後も、休職事由がなお消滅しない場合

(5) 死亡した場合

2 職員は、自己都合により退職する場合は、退職予定日の30日前までに、学長に退職届を提出しなければならない。やむを得ない事由により30日前までに退職届を提出できない場合は、14日前までにこれを提出しなければならない。

3 職員は、退職届を提出しても、退職するまでは、職務に従事しなければならない。

(定年)

第17条 職員は、定年に達した日以後における最初の3月31日(以下「定年退職日」という。)に退職する。

2 定年は、年齢60年とする。ただし、教育職員(校長、園長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭及び栄養教諭を除く。)は、年齢65年とする。

3 労働契約法(平成19年法律第128号)第18条の規定に基づき、期間の定めのある労働契約から期間の定めのない労働契約に転換した職員については、前2項の規定を適用する。

(特例による定年の延長)

第18条 学長は、定年に達した職員(教育職員のうち、教授、准教授、講師(常時勤務の者に限る。)、助教及び助手を除く。)の職務の遂行上の特別の事情がある場合で、かつ、その退職により業務の運営に著しい支障が生ずると認められる十分な理由がある場合は、当該職員の意向を尊重の上、1年を超えない範囲で定年退職日を延長することができる。

2 前項による定年退職日の延長は、当初の定年退職日から3年を超えない範囲で更新することができる。

(再雇用)

第19条 定年退職者又は定年延長後退職した者が再雇用を希望するときは、高年齢者等の雇用の安定等に関する法律(昭和46年法律第68号)第9条の規定に基づき、選考により雇用期間を定め採用することがある。

2 前項の規定による雇用期間の末日は、その者が年齢65年に達する日以後における最初の3月31日以前とする。

3 非常勤職員としての再雇用を希望する者は、国立大学法人金沢大学非常勤職員採用規程の定めるところによる。

(解雇)

第20条 職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、解雇する。

(1) 勤務実績が著しくよくない場合

(2) 心身の故障のため職務の遂行に著しい支障がある場合、又はこれに堪えられない場合

(3) 前2号に規定する場合のほか、その職務に必要な適格性を欠く場合

(4) 試用期間中の者について、職員として不適格と認めた場合

(5) 禁錮以上の刑に処せられた場合

(6) 業務上の災害により、職場復帰できない場合で、傷病補償年金の給付を受けるに至り、療養開始3年以上を経過した場合

(7) その他前各号に準ずる事由が生じた場合

2 天災事変その他やむを得ない事由により本学の事業継続が困難となった場合には、解雇する。

(解雇制限)

第21条 次の各号のいずれかに該当する期間及び事由では解雇しない。ただし、労働基準法(以下「労基法」という。)第81条の規定により打切補償を支払う場合は、この限りでない。

(1) 業務上負傷し、又は疾病にかかり療養のため休業する期間及びその後30日間

(2) 産前産後の女性職員が、その特別休暇の期間及びその後30日間  
(解雇予告)

第22条 職員を解雇する場合は、少なくとも30日前に本人に予告をするか、平均賃金の30日分以上の解雇予告手当を支払う。ただし、所轄労働基準監督署の認定を受けて第72条第2項第5号に定める懲戒解雇をする場合は、この限りでない。

2 予告日数は、平均賃金を支払った日数だけ短縮する。

3 次に該当する者は、前二項の規定は適用しない。

(1) 2か月以内の期間を定めて雇用する者

(2) 試用期間中の者で14日以内の者

(退職後の守秘義務)

第23条 退職又は解雇された者は、在職中に知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

(退職証明書)

第24条 学長は、退職又は解雇された者が、退職証明書の交付を請求した場合は、遅滞なくこれを交付する。

2 前項の証明書に記載する事項は、次のとおりとする。

(1) 雇用期間

(2) 業務の種類

(3) その事業における地位

(4) 給与

(5) 退職の事由(解雇の場合は、その理由)

3 証明書には前項の事項のうち、退職又は解雇された者が請求した事項のみを証明するものとする。

### 第3章 服務

#### 第1節 職員の責務・遵守事項

(職員の責務)

第25条 職員は、職務上の責任を自覚して、勤務中は職務に専念し、本学がなすべき責を有する職務を誠実に遂行するとともに、職場の秩序の維持に努めなければならない。

2 役職者は、職員がその能力を十分に発揮して本学の教育・研究・医療等に専念できるよう、良好な職場環境の形成に努めなければならない。

(遵守事項)

第26条 職員は、次の事項を遵守しなければならない。

(1) 上司の指示に従い、職場の秩序を保持し、互いに協力してその職務を遂行すること。

(2) 職場の内外を問わず、本学の信用を傷つけ、その利益を害し、又は職員全体の不名誉となるような行為をしないこと。

(3) 職務上知ることのできた秘密を他に漏らさないこと。

(4) その職権を濫用して、専らその職務の用以外の用に供する目的で個人の秘密に属する事項が記録された文書等を収集しないこと。

(5) 常に公私の別を明らかにし、その職務や地位を私的に利用しないこと。

(6) 本学の敷地及び施設内(以下「大学内」という。)で、喧騒その他の秩序及び風紀を乱す行為をしないこと。

(7) 学長の許可なく、大学内で営利を目的とする金品の貸借をし、又は物品等の売買を行わないこと。

(倫理)

第27条 職員の倫理について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員倫理規程に定める。

(ハラスメント防止)

第28条 ハラスメントの防止等について必要な事項は、国立大学法人金沢大学ハラスメント防止等に関する規程及び国立大学法人金沢大学ハラスメントの防止・対策に関する指針に定める。

## 第2節 兼業

(兼業の許可)

第29条 職員は、学長の許可を受けた場合でなければ、報酬を得て本学以外の法人又は団体の役職員の職を兼ねること、及び営利事業を営むことはできない。

2 無報酬であっても営利事業の役員を兼ねる場合は、同様とする。

(時間内兼業)

第30条 学長は、職員の本務と密接な関係があり、社会貢献上有益と判断される場合は、本学が委託された業務を遂行するため、職員をその勤務時間中に他の事業主の下で委託業務に従事させることがある。

2 職員が当該業務に従事したことに対する報酬は、本学に帰属するものとし、従事した職員に対してはその一定割合を手当、研究費等として還元する。

(時間外兼業)

第31条 学長は、本学の事業と競合することなく、かつ本務に支障がない場合は、職員が勤務時間外に本学以外の法人又は団体の役職員として業務に従事することを認める。

2 前項の業務に従事する場合における勤務時間の割振り変更の手続等は、申請者自らの負担において行うものとする。

(規程への委任)

第32条 職員の兼業について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員兼業規程に定める。

## 第4章 給与

### 第1節 給与

(給与の種類)

第33条 職員の給与は、本給及び諸手当とする。

2 諸手当は、扶養手当、管理職手当、地域手当、広域異動手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、特殊勤務手当、時間外・休日労働手当、夜間勤務手当、宿日直手当、診療待機手当、管理職特別勤務手当、本給の調整額、初任給調整手当、義務教育等教員特別手当、教職調整額、期末手当及び勤勉手当とする。

(給与の支給)

第34条 本給、扶養手当、管理職手当、地域手当、広域異動手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、初任給調整手当及び義務教育等教員特別手当は、その月の月額的全額が原則として毎月17日に、特殊勤務手当、時間外・休日労働手当、夜間勤務手当、宿日直手当、診療待機手当及び管理職特別勤務手当は、その月の分が原則として翌月17日に支給する。



- 2 期末手当及び勤勉手当の支給日は、原則として6月30日及び12月10日とする。
- 3 前2項における支給日が、休業日等に当たる場合については、別に定める。

(給与の決定)

第35条 本給は、所定の勤務時間による勤務に対する報酬として、職務の複雑、困難及び責任の度に基づき、かつ、勤労の強度、勤務時間、勤務環境その他の勤務条件を考慮して決定する。

(本給表の種類)

第36条 本給表の種類は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 一般職本給表(一)(二)
- (2) 教育職本給表(一)(二)(三)
- (3) 医療職本給表(一)(二)

2 各本給表の適用範囲は、別に定める。

3 本給表において定める職務の級の分類の基準となるべき標準的な職務の内容及びその級別の資格基準等については、別に定める。

(初任給)

第37条 新たに採用された職員の初任給は、その者の学歴、免許、資格、職務経験等を考慮して決定する。

(昇給)

第38条 職員の昇給は、昇給日前1年間におけるその者の勤務成績（教育職本給表(一)の適用を受ける者にあつては、原則として直近の教員評価の結果）に応じて、行うものとする。

(特別の場合の昇給)

第39条 勤務成績が良好である職員が生命をとして職務を遂行し、そのため危篤となり、又は著しい障害の状態となった場合その他特に必要があると認められる場合には、別に定めるところにより昇給させることがある。

(昇給の時期)

第40条 前条に定めるものを除き、昇給の時期は、毎年1月1日とする。

(給与の一部控除)

第41条 労基法第24条第1項ただし書に定める労使協定が締結された事業場においては、給与の一部を控除して支給する。

(規程への委任)

第42条 職員の給与について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員給与規程に定める。

## 第2節 退職手当

(退職手当の支給)

第43条 職員が退職し、又は解雇された場合は、職員の勤続年数、退職事由及び解雇事由に応じて、退職手当を支給する。

2 勤続年数が6か月未満の職員及び第19条に基づき再雇用された職員には退職手当は支給しない。

(退職手当の減額・不支給)

第44条 職員が懲戒解雇された場合は、退職手当は支給しない。ただし、勤続年数が長期に及ぶ職員については、その懲戒事由によっては減額支給する場合がある。

(規程への委任)

第45条 職員の退職手当について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員退職手当規程に定める。

## 第5章 勤務時間、休日・休暇、休業等

### 第1節 勤務時間

(1週間の勤務時間)

第46条 勤務時間は、休憩時間を除き、1週間当たり38時間45分とする。

(勤務時間の割振り)

第47条 勤務時間は、原則として、月曜日から金曜日までの5日間において、1日につき7時間45分を割り振るものとする。

(始業、終業)

第48条 始業時刻及び終業時刻は、次のとおりとする。

(1) 始業時刻 午前8時30分 終業時刻 午後5時00分

(2) 始業時刻 午前9時30分 終業時刻 午後6時00分

2 前項に定める始業時刻及び終業時刻は、勤務条件の特殊性、季節的事情等により変更することがある。

3 職員は、育児・介護等の家族的事情により第1項に定める始業時刻及び終業時刻の変更を請求することができる。

4 勤務を要する日に、通常の勤務場所を離れて勤務する場合で、勤務時間を算定しがたいときは、割り振られた勤務時間を勤務したものとみなす。

(休憩)

第49条 休憩時間は、次のとおりとする。

(1) 前条第1項第1号の時間帯に勤務する者 正午から午後0時45分まで

(2) 前条第1項第2号の時間帯に勤務する者 午後1時15分から午後2時00分まで

2 業務のため必要なときは、休憩時間の時間帯を変更することがある。

(休日)

第50条 次の各号に掲げる日は、休日とし、勤務時間を割り振らない日とする。

(1) 土曜日及び日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3) 12月29日から翌年の1月3日までの日(前号の休日は除く。)

(休日の振替)

第51条 休日とされた日において、職員に、業務の都合上勤務することを命ずる必要がある場合には、当該勤務を行う日を起算日とする4週間前の日から当該勤務を行う日を起算日とする8週間後の日までの期間内にある勤務時間が割り振られた日(以下「勤務日」という。)を休日として割り振ることがある。

2 前項によるもののほか、当該期間内にある勤務日の勤務時間のうち、4時間を当該勤務日に割り振ることをやめて当該4時間の勤務時間を当該勤務命令日に割り振ることがある。

(代休日)

第52条 職員に休日に勤務することを命じ、前条第1項の規定による振替を行うことができない場合には、事後に当該休日に代わる日(以下「代休日」という。)として、当該休日後の勤務日等(休日を除く。)を指定することがある。

(専門業務型裁量労働制)

第53条 労基法第38条の3の規定に基づく協定が締結された場合、教育職員(附属学校に勤務する者を除く。)のうち主として研究に従事する者は、労使協定に基づき、職務の遂行の手段及び労働時間の配分等を本人の裁量により行うことができる。

2 前項の規定の実施につき対象となる職員の範囲、みなし労働時間など必要な事項は、前項に規定する協定において定める。

3 前項の規定にかかわらず、金沢大学学則第22条に規定する研究域長及び附属病院長については、これを適用しない。

(フレックスタイム制勤務)

第54条 労基法第32条の3の規定に基づく協定が締結された場合、職員は、第46条に規定する勤務時間について、1日7時間45分を標準として、当番日を除き、本人の選択する時間帯において勤務することができる。ただし、始業時間については午前8時00分から午前11時00分までの間に、終業時間は午後4時00分から午後8時00分までの間に設定するものとする。

2 前項の規定の実施につき対象となる職員の範囲、コアタイム、当番日の設定など必要な事項は、前項に規定する協定において定める。

(特別の形態による勤務・変形労働時間制度)

第54条の2 附属病院その他事業運営上の必要から、交替制勤務、変形労働時間制等特別の形態によって勤務する必要がある部局等における職員の休日及び勤務時間の割振りについては、別に定める。

(災害等臨時の必要がある場合の時間外・休日の勤務)

第55条 職員は、災害その他避けることのできない事由によって、臨時の必要がある場合においては、労基法第33条第1項の規定に基づきその必要の限度において、時間外又は休日に勤務することを命じられることがある。

(時間外、休日労働)

第56条 労基法第36条の規定に基づく協定が締結された場合において、本学は、業務上必要があるときは、関係する職員に対してその勤務時間を延長し、又は休日において職務に従事させることがある。

(妊産婦である職員の特例)

第57条 学長は、妊娠中及び産後1年を経過しない職員(以下「妊産婦」という。)が請求したときは、午後10時から翌日の午前5時までの間における勤務(以下「深夜勤務」という。)又は勤務時間外若しくは休日に勤務をさせてはならない。

(育児・介護を行う職員の特例)

第58条 学長は、3歳に満たない子を養育する職員又は負傷、疾病若しくは身体上若しくは精神上の障害により2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする家族を介護する職員から請求があったときは、当該職員の業務を処理するための措置を講ずることが著しく困難である場合を除き、勤務時間外に勤務をさせてはならない。

2 学長は、小学校就学の始期に達するまでの子を養育する職員又は負傷、疾病若しくは身体上若しくは精神上の障害により2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする家族を介護する職員が請求したときは、本学の運営に支障がある場合を除き、深夜勤務をさせてはならない。

3 学長は、前項に掲げる職員から請求があったときは、当該職員の業務を処理す

るための措置を講ずることが著しく困難である場合を除き、1か月について24時間、1年について150時間を超えて勤務時間外に勤務をさせてはならない。

## 第2節 休暇等

(有給休暇)

第59条 有給休暇は、年次有給休暇、病気休暇及び特別休暇とする。

(年次有給休暇)

第60条 職員は、一の年ごとに20日の年次有給休暇を取得することができる。ただし、当該年の中途において新たに職員となった者(第3項から第5項までで定める者を除く。)又は任期が満了することにより退職する者については、別表第2の左欄に掲げる在職期間に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる日数(以下この条において「基本日数」という。)とする。

- 2 年次有給休暇は、40日を限度として当該年の翌年に繰り越すことができる。
- 3 国家公務員、地方公務員等(以下「国家公務員等」という。)から引き続き本学の職員となった者(次項に掲げる者を除く。)については、20日に当該前年の年次有給休暇の残り(当該日数が40日を超える場合は40日)を加えた日数から、職員となった日の前日までに使用した年次有給休暇に相当する休暇の日数を減じた日数とする。ただし、当該日数が基本日数に満たない場合にあっては、基本日数とする。
- 4 当該年の中途において国家公務員等となり、その後引き続き本学の職員となった者については、国家公務員等となった日において新たに職員となったものとみなした場合におけるその者の在職期間に応じた基本日数から、引き続き職員となった日の前日までに使用した年次有給休暇に相当する休暇の日数を減じて得た日数とする。
- 5 非常勤職員(国立大学法人金沢大学非常勤就業規則の適用を受けていた者に限る。)から引き続き職員となった者の非常勤職員として付与された年次有給休暇の取扱いについては別に定める。
- 6 第65条第2項の育児短時間勤務の適用を受ける職員の年次有給休暇については一の年ごとに、当該年の在職期間及び1週間の勤務日数に応じ、別表第2の2に掲げる日数とする。
- 7 年次有給休暇は、原則として、日を単位として付与する。職員は、法定付与日数を超える年次有給休暇及び繰越分については、時間を単位として取得することができる。
- 8 第1項及び第3項から第6項までの規定に基づき、年次有給休暇が10日以上与えられた職員に対しては、付与日から1年以内に、当該職員の有する年次有給休暇日数のうち5日について、あらかじめ時季を指定して取得させるものとする。ただし、職員自らが日を単位として年次有給休暇を取得した場合においては、当該取得した日数分を時季を指定して取得させる年次有給休暇(以下「時季指定対象年次有給休暇」という。)の5日から控除するものとする。
- 9 当該年の中途において新たに職員となった者又は任期が満了することにより退職する者に係る時季指定対象年次有給休暇の日数等については、別に定める。

(病気休暇)

第61条 職員は、傷病のため療養する必要がある、勤務しないことがやむを得ないと認められる場合には、病気休暇を請求することができる。

- 2 病気休暇の期間は、療養のため勤務しないことがやむを得ないと認められる必要最小限度の期間とし、1日、1時間又は1分を単位として取り扱う。
- 3 病気休暇は、あらかじめ学長の承認を受けなければならない。ただし、やむを得ない事由によりあらかじめ請求できなかつた場合には、その事由を付して事後において承認を求めることができる。
- 4 連続する8日以上（当該期間における休日、代休日以外の日数が4日以上である期間に限る。）の病気休暇（次の各号に掲げる事由による病気休暇を除く。以下「特定病気休暇」という。）を取得した職員が通常勤務可能となり、可能となった日から起算して6か月に達するまでの間（以下「同一通算期間」という。）に、同一傷病により再度特定病気休暇を取得した場合は、当該傷病に係る特定病気休暇の期間は連続しているものとみなす。
  - (1) 第63条の定めによるもの
  - (2) 業務上負傷し若しくは疾病にかかり又は通勤により負傷し若しくは疾病にかかったことによるもの
  - (3) 安全衛生管理規程第28条の規定により同規程別表第3に定める生活規制の面の区分におけるA又はBの指導区分の決定に応じた事後措置によるもの
- 5 前項に規定する「6か月」の計算においては、次の各号に掲げる期間を除くものとする。
  - (1) 安全衛生管理規程第28条の規定により同規程別表第3に定める生活規制の面の区分においてAの指導区分の決定を受けた期間及びBの指導区分の決定を受け、当該指導区分に応じた事後措置の基準で、休暇(日単位のものを除く。)の方法により勤務を軽減された期間
  - (2) 第59条による休暇及び第50条から第52条による休日等により、連続30日以上勤務実績がない期間
  - (3) 第12条第1項第1号から第10号までの規定による休職期間
- 6 第4項に規定する同一通算期間に再度特定病気休暇を取得した場合は、当該再度の特定病気休暇から通常勤務可能となった日を当該特定病気休暇に係る同一通算期間の新たな起算日とする。
- 7 療養期間中の休日等（第50条から第52条に定める休日等をいう。）及びその他の病気休暇の日以外の勤務しない日は、第4項及び前項の規定の適用については、特定病気休暇を使用した日とみなす。
- 8 第4項から前項までの規定は、試用期間中の職員には適用しない。  
(特別休暇)

第62条 職員は、別表第3の左欄に掲げる項目に該当する特別の事由により、勤務しないことが相当であると認められるときは、それぞれ同表右欄に掲げる期間を特別休暇として請求することができる。

- 2 特別休暇は、必要に応じて1日、1時間又は1分を単位とする。
- 3 特別休暇(別表第3第11号、第12号、第15号及び第16号に掲げるものを除く。)は、あらかじめ学長の承認を受けなければならない。ただし、やむを得ない事由によりあらかじめ請求できなかつた場合には、その事由を付して事後において承認を求めることができる。
- 4 特別休暇(別表第3第11号、第12号、第15号及び第16号に掲げるものに限る。)の請求手続は別に定める。

(生理日の就業が著しく困難な場合)

第63条 生理日の就業が著しく困難な職員が休暇を請求した場合は、学長は、その者を勤務させない。

2 前項の休暇は、病気休暇とする。

(規程への委任)

第64条 勤務時間及び休暇等について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員勤務時間規程に定める。

### 第3節 休業

(育児休業)

第65条 職員のうち、3歳に満たない子の養育を必要とする者は、学長に申し出て育児休業の適用を受けることができる。

2 職員のうち、小学校就学の始期に達するまでの子の養育を必要とする者は、学長に申し出て育児短時間勤務又は部分休業の適用を受けることができる。

3 前2項に規定する休業等について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員の育児休業等に関する規程に定める。

(介護休業)

第66条 傷病のため介護を要する家族を有する職員は、学長に申し出て介護休業又は介護部分休業(以下「介護休業等」という。)の適用を受けることができる。

2 介護休業等について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員の介護休業等に関する規程に定める。

(自己啓発等休業)

第66条の2 職員のうち、自発的な大学等における修学又は国際貢献活動のための休業を希望する者は、学長に申し出て自己啓発等休業をすることができる。

2 自己啓発等休業について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員の自己啓発等休業に関する規程に定める。

## 第6章 研修・出張、知的財産権

(研修)

第67条 職員は、その職責を遂行するため、絶えず研究と修養に努めなければならない。

2 職員には、業務に関する必要な知識及び技能を向上させるため、研修を受ける機会が与えられなければならない。

3 学長は、職員の研修について、研修を奨励するための方策その他研修に関する計画を樹立し、その実施に努めなければならない。

4 教育職員は、本務に支障のない限り、所属長の承認を得て、勤務場所を離れて研修を行うことができる。

5 教育職員以外の職員は、業務に関連し、国・学協会等の主催する講習会等に参加する場合、本務に支障がない限り、所属長の承認を得て、勤務場所を離れて研修を行うことができる。

6 職員の研修について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員研修規程に定める。

(出張と研修)

第68条 職員は、業務上必要がある場合は、出張を命ぜられる。出張を命ぜられた職員が帰任したときは、速やかに、復命しなければならない。

- 2 旅費に関する必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員旅費規程に定める。
- 3 前条第4項の研修にあって、旅費が支給されない旅行は、研修出張として扱う。
- 4 前条第5項の研修にあって、旅費が支給されない旅行は、自己啓発研修として扱う。

(サバティカル研修)

第68条の2 教育職員は、学長の承認を得て、研究専念期間(以下「サバティカル研修」という。)を取得することができる。

- 2 サバティカル研修中に、研修場所を離れて調査研究をする場合は、必要に応じて出張又は研修の手続きを経るものとする。
- 3 サバティカル研修に関し必要な事項は、国立大学法人金沢大学サバティカル研修規程に定める。

(知的財産権)

第69条 本学は、職員がその性質上本学の業務範囲に属し、かつ、その発明をするに至った行為が本学における職員の現在又は過去の職務に属する発明について、特許を受ける権利を職員(以下「発明者」という。)から承継する。

- 2 本学は、前項の発明者の貢献を評価するとともに、利益を得たときは、発明者に対し相当の補償を行う。
- 3 その他知的財産権について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職務発明取扱規程に定める。

(研究成果有体物)

第70条 職員によって本学において職務上得られた研究成果有体物は、別段の定めがない限り、本学に帰属する。

- 2 本学は、前項の研究成果有体物について、有償で譲渡がなされた場合、開発した職員の貢献を評価するとともに、当該職員に対し相当の補償を行う。
- 3 その他研究成果有体物について必要な事項は、金沢大学研究成果有体物取扱規程に定める。

## 第7章 表彰及び懲戒

(表彰)

第71条 職員が、本学の業務等に関し特に功労があつて他の模範とするに足りると認められる場合又はこれに相当すると認められる場合は、表彰する。

- 2 表彰について必要な事項は、国立大学法人金沢大学表彰規程に定める。

(懲戒)

第72条 職員が、次の各号のいずれかに該当する場合は、所定の手続きの上、懲戒処分を行う。

- (1) この規則その他本学の定める諸規程に違反した場合
- (2) 職務上の義務に違反した場合
- (3) 故意又は重大な過失により本学に損害を与えた場合
- (4) 承認を受けずに遅刻、早退、欠勤する等勤務を怠った場合
- (5) 刑法上の犯罪に該当する行為があつた場合
- (6) 重大な経歴詐称をした場合
- (7) 本学の信用を失墜する行為を行つた場合
- (8) 職務上の地位を利用して、外部の者から金品等のもてなしを受けた場合
- (9) 前各号に準ずる行為があつた場合

- 2 懲戒の種類及び内容は、次のとおりとする。
  - (1) 譴(けん)責 始末書を提出させ、将来を戒める。
  - (2) 減給 始末書を提出させるほか、一定の期間給与を減額する。この場合において、減額は、1回の額が平均賃金の1日分の2分の1以内を、処分が2回以上にわたる場合においても、その総額が一給与支払期における10分の1以内で行う。
  - (3) 出勤停止 始末書を提出させるほか、一定の期間を定めて出勤を停止し、職務に従事させず、その間の給与は支給しない。
  - (4) 諭旨解雇 退職を勧告して解雇する。勧告に応じない場合は、懲戒解雇する。
  - (5) 懲戒解雇 即時に解雇する。この場合、所轄労働基準監督署の認定を受けたときは労基法第20条に規定する手当を支給しない。
- 3 管理監督下にある職員が懲戒に該当する行為があったときは、当該管理監督者は、監督責任により懲戒を受けることがある。
- 4 職員の懲戒について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員懲戒規程に定める。

(訓告等)

第73条 懲戒処分の必要がない職員についても、服務を厳正にし、規律を保持する必要があるときは、訓告、嚴重注意又は注意を文書等により行う。

(損害賠償)

第74条 職員が故意又は重大な過失によって本学に損害を与えたときは、本学は、懲戒処分等を行うほか、その損害の全部又は一部を賠償させる。

#### 第8章 安全衛生及び災害補償等

(安全衛生)

第75条 職員は、安全、衛生及び健康確保について、労働安全衛生法及びその他の関係法令のほか、学長の指示を守るとともに、本学が行う安全、衛生に関する措置に協力しなければならない。

2 学長は、職員の健康増進と危険防止のために必要な措置をとらなければならない。

3 角間地区事業場、宝町・鶴間地区事業場、宝町地区事業場(附属病院)、平和町地区事業場に安全衛生委員会を設置する。

4 職員の安全衛生管理について必要な事項は、国立大学法人金沢大学安全衛生管理規程に定める。

(災害補償)

第76条 職員の業務上の災害については、労基法及び労働者災害補償保険法(以下「労災保険法」という。)の定めるところにより、これらの各補償給付を受ける。

(通勤災害)

第77条 通勤途上における災害については、労災保険法の定めるところにより、同法の各給付を受ける。

(健康診断)

第78条 職員に対して採用時の健康診断及び毎年1回(労働安全衛生法等に定められた者については毎年2回以上)の定期健康診断を行う。



- 2 前項の健康診断のほか、法令で定められた有害業務に従事する職員に対しては、特別の項目について健康診断を行う。
- 3 職員は、正当な理由がなく本学が行う健康診断を拒んではならない。ただし、他の医師の健康診断を受け、その結果を証明する書類を提出した場合は、この限りでない。
- 4 健康診断の結果については、各職員に通知する。学長は、健康診断の結果により、必要があると認めるときは、職員に対し、就業時間の短縮、職務の変更その他健康保持上必要とする措置を命ずることがある。

#### 第9章 雑則

##### (宿舍の利用)

第79条 職員の宿舍の利用については、国立大学法人法附則第13条及び関連する規定の定めるところによる。

##### (法令との関係)

第80条 この規則の定める労働条件等が法令の定める労働条件等の基準に達しない場合、この規則の当該部分は適用されず、法令の定めるところによる。

##### (労働協約との関係)

第81条 この規則と異なる労働協約の適用を受ける職員については、この規則の当該部分は適用せず、労働協約の定めるところによる。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則に基づく規程については、当該規程が整備されるまでの間、平成16年4月1日以前に本学に適用された、相当する規程の例による。
- 3 第17条第2項の規定にかかわらず、施行日の前日に行政職俸給表(二)の適用を受ける職員のうち、用務員の地位にあるものの定年は、63歳とする。

#### 附 則

##### (施行期日)

- 1 この規則は、平成16年12月2日から施行する。  
(寒冷地手当の廃止に伴う経過措置)
- 2 平成16年12月1日から引き続き在職する職員(第2条に定める職員をいい、外国人研究員及び第19条により再雇用された職員を除く。)のうち、平成16年から平成19年までの毎年11月から翌年3月までの各月の初日(以下「基準日」という。)において在職する者については、改正後の第33条の規定にかかわらず、国立大学法人金沢大学職員給与規程の一部を改正する規程(平成16年規程第155号)附則第2項の定めるところにより、寒冷地手当を支給する。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成16年10月29日に在職する者及び平成16年10月29日の翌日から平成16年12月1日までに採用された者の平成16年度における寒冷地手当の支給は、従前のおりとする。  
(支給日及び支給方法)
- 4 第2項による寒冷地手当は、基準日の属する月の給与支給日(第34条に定める給与の支給日をいう。)に支給する。ただし、前項が適用される職員の平成16年度の支給日は、12月の給与支給日とする。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年6月30日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の際、現に本学の職員である者については、改正後の第60条第2項の規定は平成25年1月1日から適用する。
- 3 この規則による改正後の規則の適用を受ける職員が、労働契約法(平成19年法律第128号)第18条第1項の規定に基づき労務が提供される期間の定めのない労働契約の締結の申込みをしたときは、当該申込に係る期間の定めのない労働契約の内容である労働条件は、当該労働契約の締結の申込みを行った際に現に締結している有期労働契約の内容である労働条件(契約期間を除く。)と同一の労働条件(当該労働条件(契約期間を除く。)について別段の定めがある部分を除く。)とする。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年11月20日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年1月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年3月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。  
(経過措置)
- 2 第12条第4項の規定は、この規則の施行日の前日に、安全衛生管理規程第28条の規定により同規程別表第3に定める生活規制の面の区分においてBの指導区分の決定を受け、当該指導区分に応じた事後措置の基準により勤務時間を軽減されている職員の引き続き勤務時間を軽減する期間並びに第12条第1項第1号により休職とされた職員の当該休職及び病気休暇中である職員の当該病気休暇又は当該病気休暇に引き続き休職に伴う事後措置として勤務時間を軽減する期間について、同項中、「6か月を超える場合」とあるのは、「1年を超える場合」と読み替えるものとする。
- 3 第13条第2項の規定は、この規則の施行日の前日に、第12条第1項第1号により休職となっている職員及び特定病気休暇中である職員(引き続き病気休職の期間を含む。)の引き続き当該休職期間については、適用しない。
- 4 第61条第4項の規定は、この規則の施行日の前日に、特定病気休暇中である職員の引き続き当該休暇期間については、適用しない。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 第7条の規定にかかわらず、教育職員以外の職員のうち、この規則の施行日の前日に在職する者及び規則の施行日から2020年3月31日までに採用された者の試用期間は、従前のおりとする。
- 3 第60条第8項及び第9項の規定は、平成31年4月1日以降に付与された年次有給休暇について適用する。

附 則

- 1 この規則は、令和元年7月1日から施行する。
- 2 令和元年において、改正後の別表第3(特別休暇)の規定のうち16「職員が夏季における盆等の諸行事、心身の健康の維持及び増進又は家庭生活の充実のため勤務しないことが相当であると認められる場合」の「特別休暇付与日数」欄ただし書き中「一の年における」とあるのは、「一の年の6月から12月までの期間内に

おける」と読み替えるものとする。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

別表第1(規則第13条, 14条関係)  
(休職)

休職事由	期間	給与支給率	在職期間調整
第12条第1項第1号(傷病)	3年以内	業務上の場合 休職期間中 100/100以内 私傷病 1年間 80/100以内 上記以外の期間 支給しない	3/3 1/3
第12条第1項第2号(刑事事件)	事件が裁判所に係属する期間	60/100以内	無罪判決の場合3/3
第12条第1項第3号(出向)	個別に応じて	100/100以内	3/3
第12条第1項第4号(研究)	3年以内 2年の更新が可能	支給しない	3/3
第12条第1項第5号(共同)	5年以内	70/100以内	3/3
第12条第1項第6号(役員等)	3年以内 2年の更新が可能	支給しない	3/3
第12条第1項第7号(派遣)	5年以内	70/100以内	3/3
第12条第1項第8号(専従)	5年以内	支給しない	2/3
第12条第1項第9号(行方不明)	3年以内	業務上の場合 100/100以内 上記以外の場合 70/100以内	3/3 1/3
第12条第1項第10号(特別事情)	事例に応じて個別に決定	事例に応じて個別に決定	事例に応じて個別に決定

別表第2(規則第60条関係)  
(年次有給休暇)

在職期間	日数
1月に達するまでの期間	2日
1月を超え2月に達するまでの期間	3日
2月を超え3月に達するまでの期間	5日
3月を超え4月に達するまでの期間	7日
4月を超え5月に達するまでの期間	8日
5月を超え6月に達するまでの期間	10日
6月を超え7月に達するまでの期間	12日
7月を超え8月に達するまでの期間	13日
8月を超え9月に達するまでの期間	15日
9月を超え10月に達するまでの期間	17日

10月を超え11月に達するまでの期間	18日
11月を超え1年未満の期間	20日

別表第2の2(規則第60条関係)  
(育児短時間勤務者の年次有給休暇)

在職期間	1週間の勤務日数	日数
1月に達するまでの期間	5日	2日
	3日	1日
1月を超え2月に達するまでの期間	5日	3日
	3日	2日
2月を超え3月に達するまでの期間	5日	5日
	3日	3日
3月を超え4月に達するまでの期間	5日	7日
	3日	4日
4月を超え5月に達するまでの期間	5日	8日
	3日	5日
5月を超え6月に達するまでの期間	5日	10日
	3日	6日
6月を超え7月に達するまでの期間	5日	12日
	3日	7日
7月を超え8月に達するまでの期間	5日	13日
	3日	8日
8月を超え9月に達するまでの期間	5日	15日
	3日	9日
9月を超え10月に達するまでの期間	5日	17日
	3日	10日
10月を超え11月に達するまでの期間	5日	18日
	3日	11日
11月を超える期間	5日	20日
	3日	12日

別表第3(規則第62条関係)  
(特別休暇)

特別休暇の事由・期間	特別休暇付与日数
1 職員が公職選挙法(昭和25年法律第100号)に規定する選挙権のほか、最高裁判所の裁判官の国民審査及び普通地方公共団体の議会の議員又は長の解職の投票に係る権利等を行行使する場合で、勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
2 職員が裁判員、証人、鑑定人、参考人等として国会、裁判所、地方公共団体の議会その他官公署へ出頭する場合で、その勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
3 職員が骨髄移植のための提供希望者としてその登録を実施する者に対して登録の申出を行	必要と認められる期間

<p>い、又は骨髄移植のため配偶者、父母、子及び兄弟姉妹以外の者に骨髄液を提供する場合で、当該申出又は提供に伴い必要な検査、入院等のため勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。</p>	
<p>4 職員が自発的に、かつ、報酬を得ないで次に掲げる社会に貢献する活動(専ら親族に対する支援となる活動を除く。)を行う場合で、その勤務しないことが相当であると認められるとき。</p> <p>(1) 地震、暴風雨、噴火等により災害救助法(昭和22年法律第118号)による救助が行われる程度の規模の災害が発生した市町村(特別区を含む。)又はその属する都道府県若しくはこれに隣接する都道府県における生活関連物資の配布、居宅の損壊、水道、電気、ガスの遮断等により日常生活を営むのに支障が生じている者に対して行う炊出し、避難場所での世話、がれきの撤去その他必要な援助作業等の被災者を支援する活動</p> <p>(2) 身体障害者療養施設、特別養護老人ホームその他主として身体上若しくは精神上の障害がある者又は負傷し、若しくは疾病にかかった者に対して必要な措置を講ずることを目的とする施設における活動で学長が認める施設における活動</p> <p>(3) (1)及び(2)に掲げる活動のほか、身体上若しくは精神上の障害、負傷又は疾病により常態として日常生活を営むのに支障がある者に対して行う調理、衣類の洗濯及び補修、慰問その他直接的な援助を行う活動</p>	<p>一の年において5日の範囲内の期間</p>
<p>5 職員が結婚の日の5日前から当該結婚の日後1年を経過するまでに、結婚式、旅行その他結婚に伴い必要と認められる行事等のために勤務しないことが相当であると認められるとき。</p>	<p>連続する5日の範囲内の期間</p>
<p>6 分娩予定日から起算して8週間(多胎妊娠の場合にあっては、14週間)以内に出産する予定である女性職員が申し出た場合</p>	<p>出産の日までの申し出た期間</p>
<p>7 女性職員が出産(妊娠満12週以後の分娩をいう。以下同じ。)した場合</p>	<p>出産の日の翌日から8週間を経過するまでの期間(産後6週間を経過した女性職員が就業を申し出た場合において医師が支障がないと認めた業務に就く期間を除く。)</p>
<p>8 生後1年に達しない子を育てる職員が、その子の保育のために必要と認められる授乳、託児所への送迎等を行う場合</p>	<p>1日2回それぞれ30分以内の期間(その子の当該職員以外の親が当該職員がこの号の休暇を使用しようとする日におけるこの号の休暇(これに相当する休暇を含む。)を承認され、又は労基法第67条の規定により同日における育児時間を請求した場合は、1日2回それぞれ30分から当該承認又は請求に係る各回ごとの期間を差し引いた期間を超えない期間)</p>

<p>9 職員の妻(届出をしないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。次号において同じ。)が出産するために病院に入院する等の日から当該出産の日後2週間を経過する日までに、その出産に伴い勤務しないことが相当であると認められる場合</p>	<p>2日の範囲内の期間(1日又は1時間単位で取得可能)</p>
<p>10 職員の妻が出産する場合であって、その出産予定日の8週間(多胎妊娠の場合にあつては、14週間)前の日から当該出産の日後8週間を経過する日までの期間において、当該出産に係る子又は小学校就学の始期に達するまでの子(妻の子を含む。)を養育する職員が、これらの子の養育のため勤務しないことが相当であると認められる場合</p>	<p>当該期間における5日の範囲内の期間(1日又は1時間単位で取得可能)</p>
<p>11 小学校就学の始期に達するまでの子(配偶者の子を含む。)を養育する職員が、その子の看護(負傷し、若しくは疾病にかかったその子の世話又は疾病の予防を図るためにその子の世話を行うことをいう。)のため申し出た場合</p>	<p>一の年において5日(その養育する小学校就学の始期に達するまでの子が2人以上の場合にあつては、10日)の範囲内の期間(1日又は1時間単位で取得可能)</p>
<p>12 負傷、疾病若しくは老齢により2週間以上の期間にわたり日常生活を営むのに支障がある家族(以下この号において「要介護家族」という。)の介護、要介護家族の付添い、要介護家族が介護サービスを受けるために必要な手続きの代行その他の要介護家族の必要な世話を行う職員が、当該世話を行うため申し出た場合</p>	<p>一の年において5日(要介護家族が2人以上の場合にあつては、10日)の範囲内の期間(1日又は1時間単位で取得可能)</p>
<p>13 職員の親族(別表[1]の親族欄に掲げる親族に限る。)が死亡した場合で、職員が葬儀、服喪その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事等のため勤務しないことが相当であると認められるとき。</p>	<p>親族に応じ同表の日数欄に掲げる連続する日数(葬儀のため遠隔の地に赴く場合にあつては、往復に要する日数を加えた日数)の範囲内の期間</p>
<p>14 職員が父母の追悼のための特別な行事(父母の死亡後15年以内のものに限る。)のため勤務しないことが相当であると認められる場合</p>	<p>1日の範囲内の期間</p>
<p>15 職員の勤務する部局で夏季一斉休業が実施される場合</p>	<p>一の年の8月14日から8月16日までの期間。ただし、8月14日から8月16日のいずれかが休日と重なる場合は、その重なる日数分を13日以前で直近の休日以外の日に振り替えるものとする。また、8月14日が火曜日となる場合は、8月13日から8月15日までの期間</p>
<p>16 職員が夏季における盆等の諸行事、心身の健康の維持及び増進又は家庭生活の充実のため勤務しないことが相当であると認められる場合</p>	<p>一の年の7月から9月までの期間内における休日及び代休日を除く3日の範囲内の期間。ただし前号の夏季一斉休業の実施されない部局においては、一の年における休日及び代休日を除く6日の範囲内の期間(いずれも1日単位で取得可能)</p>
<p>17 地震、水害、火災その他の災害により職員の現住居等が滅失し、又は損壊した場合で、職員が当該住居等の復旧作業等のため勤務しないことが相当であると認められるとき。</p>	<p>5日の範囲内の期間(1日単位で取得可能)</p>

18 地震, 水害, 火災その他の災害又は交通機関の事故等により出勤することが著しく困難であると認められる場合	必要と認められる期間
19 地震, 水害, 火災その他の災害時において, 職員が退勤途上における身体の危険を回避するため勤務しないことがやむを得ないと認められる場合	必要と認められる期間
20 国立大学法人金沢大学表彰規程(以下, 「表彰規程」という。)第6条に該当する職員で, 心身のリフレッシュを図るため勤務しないことが相当であると認められる場合	表彰規程第6条に規定する勤労感謝の日の翌日から翌年の勤労感謝の日の前日までの間の休日を除く連続する3暦日の範囲内の期間

別表 [1]

親族	日数
配偶者	7日
父母	
子	5日
祖父母	3日(職員が代襲相続し, かつ, 祭具等の承継を受ける場合にあっては7日)
孫	1日
兄弟姉妹	3日
おじ又はおば	1日(職員が代襲相続し, かつ, 祭具等の承継を受ける場合にあっては7日)
父母の配偶者又は配偶者の父母	3日(職員と生計を一にしていた場合にあっては7日)
子の配偶者又は配偶者の子	1日(職員と生計を一にしていた場合にあっては5日)
祖父母の配偶者又は配偶者の祖父母	1日(職員と生計を一にしていた場合にあっては3日)
兄弟姉妹の配偶者又は配偶者の兄弟姉妹	
おじ又はおばの配偶者	1日



想定する将来像 大学院へ進学・修了後、大学や研究機関等において、**次代の先進医療の根拠となる知見(病因解明、治療標的同等等)の創出を担う研究者**

医薬共通の基礎から生体情報機能医科学領域の深い専門性へとシームレスに学ぶ教育課程を編成

コースの専門性に応じた知識の醸成

学年、コースを跨ぐ多面的・多角的な学修

研究マインド 倫理観 国際性の醸成

専門性の深化

4年次  
3年次  
2年次

視野の拡大

研究者としての資質醸成

課題研究科目 (10)

研究指導 ( **組織学** **分子細胞病理学** 他 )

- 4年次 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅲ  
医薬科学研究Ⅱ 医薬科学演習Ⅱ
- 3年次 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学演習Ⅰ

コース専門科目 (49)

<必修科目> (34単位)

- ・人体解剖学Ⅰ ・ **組織学Ⅰ** ・神経解剖学Ⅰ ・発生学Ⅰ
- ・器官生理学Ⅰ ・神経生理学Ⅰ ・生化学Ⅰ ・生化学Ⅱ
- ・薬理学Ⅰ ・動物実験と再生医学 ・遺伝学Ⅰ
- ・ゲノム解析演習 ・ **分子細胞病理学Ⅰ** ・人体病理学Ⅰ
- ・ウイルス感染症 ・細菌感染症Ⅰ ・寄生虫学 ・免疫学
- ・衛生学Ⅰ ・公衆衛生学Ⅰ ・法医学Ⅰ ・脳神経医学

<選択科目> (15単位以上)

- ・ **組織学Ⅱ** ・神経解剖学Ⅱ ・器官生理学Ⅱ ・神経生理学Ⅱ
- ・生化学Ⅲ ・生化学Ⅳ ・ **分子細胞病理学Ⅱ** ・人体病理学Ⅱ
- ・生命医科学海外AL実習 ・生命医科学国内AL実習 等

\* 創薬科学コースの必修科目(講義)の中から2単位以上を  
選択必修とする

※ **赤字** 将来像と特に深く関連する科目

コース選択

専門共通科目 (22)

- 4年次 医薬科学試問
- 3年次 医薬科学先端領域特論 医薬科学研究者養成Ⅱ  
医薬科学特別演習
- 国際医薬科学Ⅱ
- 2~3年次 医薬科学基礎  
ローテーション実習
- 2年次 医薬科学基礎実習
- 2年次 国際医薬科学Ⅰ 医薬科学研究者養成Ⅰ
- 1年次 医薬科学イノベーション概論 医薬科学研究者入門

医学・薬学双方の基礎的知識の醸成

専門基礎科目 (10)

基礎人体解剖学 基礎人体構造学 基礎人体機能学 基礎分子細胞生物学 基礎生物化学  
物理有機化学 基礎医薬化学 基礎有機反応学 基礎医薬合成学 基礎分析化学

学域GS科目 (2)

医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ

学域GS言語科目 (2)

医薬科学英語Ⅰ・Ⅱ

基盤形成

1年次

共通教育

導入科目 (4)

- 大学・社会生活論
- 初学者ゼミ
- テークアウト基礎
- 地域概論

GS科目 (15)

- 健康科学
- 科学技術と科学方法論
- クリティカル・シンキング
- 異文化間コミュニケーション 等

基礎科目 (4)

- 微分積分学Ⅰ A
- 微分積分学Ⅰ B
- 統計数学 A
- 統計数学 B

自由履修科目 (3)

- アントラ・レナーシップⅠ
- 生物学実験
- Pythonデータ分析入門

GS言語科目 (8)

- TOEIC準備Ⅰ~Ⅳ
- EAPⅠ~Ⅳ

想定する将来像

大学院へ進学・修了後、大学や研究機関等において、**次代の先進医療の実現に向けた新たな予防・診断・治療法の創出を担う基礎研究者**

医薬共通の基礎からシステム統御医科学領域の深い専門性へとシームレスに学ぶ教育課程を編成

コースの専門性に応じた知識の醸成

学年、コースを跨ぐ多面的・多角的な学修

研究マインド 倫理観 国際性の醸成

専門性の深化

4年次  
3年次  
2年次

視野の拡大

研究者としての資質醸成

課題研究科目 (10)

研究指導 (遺伝学 免疫学 他)

- 4年次 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅲ  
医薬科学研究Ⅱ 医薬科学演習Ⅱ
- 3年次 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学演習Ⅰ

コース専門科目 (49)

<必修科目> (34単位)

- ・人体解剖学Ⅰ ・組織学Ⅰ ・神経解剖学Ⅰ
- ・器官生理学Ⅰ ・神経生理学Ⅰ ・生化学Ⅰ ・生化学Ⅱ
- ・薬理学Ⅰ ・動物実験と再生医学 ・遺伝学Ⅰ
- ・ゲノム解析演習 ・分子細胞病理学Ⅰ ・人体病理学Ⅰ
- ・ウイルス感染学 ・細菌感染学Ⅰ ・寄生虫学 ・免疫学
- ・衛生学Ⅰ ・公衆衛生学Ⅰ ・法医学Ⅰ ・脳神経医学

<選択科目> (15単位以上)

- ・発生理学Ⅱ ・生化学Ⅲ ・生化学Ⅳ ・薬理学Ⅱ ・遺伝学Ⅱ
- ・細菌感染学Ⅱ ・衛生学Ⅱ ・公衆衛生学Ⅱ
- ・薬理学実習 ・免疫学実習
- ・生命医科学海外AL実習 ・生命医科学国内AL実習 等
- \* 創薬科学コースの必修科目 (講義) の中から2単位以上を  
選択必修とする ※ 赤字 将来像と特に深く関連する科目

コース選択

専門共通科目 (22)

- 4年次 医薬科学試問
- 3年次 医薬科学先端領域特論 医薬科学研究者養成Ⅱ  
医薬科学特別演習
- 国際医薬科学Ⅱ
- 2～3年次 医薬科学基礎  
ローテーション実習
- 2年次 医薬科学基礎実習
- 2年次 国際医薬科学Ⅰ 医薬科学研究者養成Ⅰ
- 1年次 医薬科学イノベーション概論 医薬科学研究者入門

医学・薬学双方の基礎的知識の醸成

専門基礎科目 (10)

基礎人体解剖学 基礎人体構造学 基礎人体機能学 基礎分子細胞生物学 基礎生物化学  
物理有機化学 基礎医薬化学 基礎有機反応学 基礎医薬合成学 基礎分析化学

学域GS科目 (2)

医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ

学域GS言語科目 (2)

医薬科学英語Ⅰ・Ⅱ

基盤形成

1年次

共通教育

導入科目 (4)

- 大学・社会生活論
- 初学者ゼミ
- テークアウト基礎
- 地域概論

GS科目 (15)

- 健康科学
- 科学技術と科学方法論
- クリティカル・シンキング
- 異文化間コミュニケーション 等

基礎科目 (4)

- 微分積分学Ⅰ A
- 微分積分学Ⅰ B
- 統計数学 A
- 統計数学 B

自由履修科目 (3)

- アントラ・レナーシップⅠ
- 生物学実験
- Pythonデータ分析入門

GS言語科目 (8)

- TOEIC準備Ⅰ～Ⅳ
- EAPⅠ～Ⅳ

想定する将来像 大学院へ進学・修了後、**有機化学・合成学を主な専門領域とし、大学や企業等で医薬品探索、中間体合成、機能素材等の分野で活躍する研究者**

医薬共通の基礎から有機化学領域の深い専門性へとシームレスに学ぶ教育課程を編成

コースの専門性に応じた知識の醸成

学年、コースを跨ぐ多面的・多角的な学修

研究マインド 倫理観 国際性の醸成

専門性の深化  
4年次  
3年次  
2年次

視野の拡大

研究者としての資質醸成

**課題研究科目 (10)** 研究指導 ( **精密分子構築学** **生物有機化学** **機能性分子合成学** **分子生薬学** )

4年次	医薬科学研究Ⅲ 医薬科学研究Ⅱ	医薬科学演習Ⅲ 医薬科学演習Ⅱ
3年次	医薬科学研究Ⅰ	医薬科学演習Ⅰ

**コース専門科目 (49)** (必修34単位・選択15単位以上)

<必修科目>

- ・生物化学Ⅰ ・生物化学Ⅱ ・衛生薬学Ⅰ ・衛生薬学Ⅱ
- ・生体防御学 ・微生物学 ・薬品作用学Ⅰ ・薬品作用学Ⅱ
- ・物理化学Ⅰ ・物理化学Ⅱ ・物理化学Ⅲ ・分析化学
- ・**応用有機化学Ⅰ** ・**応用有機化学Ⅱ** ・薬剤学Ⅰ ・薬剤学Ⅱ
- ・薬物治療学Ⅰ ・臨床薬物代謝化学 ・**応用有機化学演習Ⅰ**
- ・**応用有機化学演習Ⅱ**

<選択科目>

- ・無機薬化学 ・生薬学 ・**生物有機化学** ・**有機反応化学**
- ・天然物化学 ・**有機金属化学** ・**有機機器分析**
- ・医薬品化学 ・放射薬品学 ・創薬科学海外AL実習Ⅰ

\* 生命医科学コースの必修科目(講義)の中から2単位以上を選択必修とする

※ 赤字 将来像と特に深く関連する科目

**専門共通科目 (22)**

4年次	医薬科学試問	
3年次	医薬科学先端領域特論 医薬科学特別演習	医薬科学研究者養成Ⅱ
	国際医薬科学Ⅱ	
2~3年次	医薬科学基礎 ローテーション実習	
2年次	医薬科学基礎実習	
2年次	国際医薬科学Ⅰ	医薬科学研究者養成Ⅰ
1年次	医薬科学イノベーション概論	医薬科学研究者入門

コース選択

医学・薬学双方の基礎的知識の醸成

<b>専門基礎科目 (10)</b>	基礎人体解剖学 基礎人体構造学 基礎人体機能学 基礎分子細胞生物学 基礎生物化学 物理有機化学 基礎医薬化学 基礎有機反応学 基礎医薬合成学 基礎分析化学
<b>学域GS科目 (2)</b>	医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ
<b>学域GS言語科目 (2)</b>	医薬科学英語Ⅰ・Ⅱ

基盤形成  
1年次

<b>共通教育</b>	<b>導入科目 (4)</b>	<b>GS科目 (15)</b>	<b>基礎科目 (4)</b>	<b>自由履修科目 (3)</b>	<b>GS言語科目 (8)</b>
	大学・社会生活論 初学者ゼミ グローバル基礎 地域概論	物理の世界 化学の世界 数学的発想法 科学技術と科学方法論 等	微分積分学ⅠA 微分積分学ⅠB 統計数学A 統計数学B	物理学 物理学実験 化学実験	TOEIC準備Ⅰ~Ⅳ EAPⅠ~Ⅳ

想定する将来像

大学院へ進学・修了後、  
**生体防御学、生化学、細胞生物学等を主な専門領域とし、大学や企業等で病因解明、標的探索、ワクチン開発等の分野で活躍する研究者**

医薬共通の基礎から生物薬学領域の深い専門性へとシームレスに学ぶ教育課程を編成

コースの専門性に応じた知識の醸成

学年、コースを跨ぐ多面的・多角的な学修

研究マインド 倫理観 国際性の醸成

課題研究科目 (10) 研究指導 (生体防御応答学 遺伝情報制御学  
 ワクチン・免疫科学 衛生化学)

- 4年次 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅲ  
 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学演習Ⅱ
- 3年次 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学演習Ⅰ

専門共通科目 (22)

- 4年次 医薬科学試問
- 3年次 医薬科学先端領域特論 医薬科学研究者養成Ⅱ  
 医薬科学特別演習
- 国際医薬科学Ⅱ
- 2～3年次 医薬科学基礎  
 □-テーション実習
- 2年次 医薬科学基礎実習
- 2年次 国際医薬科学Ⅰ 医薬科学研究者養成Ⅰ
- 1年次 医薬科学イノベーション概論 医薬科学研究者入門

コース専門科目 (49) (必修34単位・選択15単位以上)

<必修科目>

- ・生物化学Ⅰ ・生物化学Ⅱ ・衛生薬学Ⅰ ・衛生薬学Ⅱ
- ・生体防御学 ・微生物学 ・薬品作用学Ⅰ ・薬品作用学Ⅱ
- ・物理化学Ⅰ ・物理化学Ⅱ ・物理化学Ⅲ ・分析化学
- ・応用有機化学Ⅰ ・応用有機化学Ⅱ ・薬剤学Ⅰ ・薬剤学Ⅱ
- ・薬物治療学Ⅰ ・臨床薬物代謝化学 ・応用有機化学演習Ⅰ
- ・応用有機化学演習Ⅱ

<選択科目>

- ・生命・医療倫理 ・生薬学 ・病態生理学 ・細胞生物学
- ・生命工学Ⅰ ・生命工学Ⅱ ・製剤学 ・薬物治療学Ⅱ
- ・放射薬品学 ・毒性学 ・東洋医学 ・創薬科学海外AL実習Ⅰ
- \*生命医科学コースの必修科目(講義)の中から2単位以上を  
 選択必修とする

※ 赤字 将来像と特に深く関連する科目

コース選択

医学・薬学双方の基礎的知識の醸成

専門基礎科目 (10) 基礎人体解剖学 基礎人体構造学 基礎人体機能学 基礎分子細胞生物学 基礎生物化学  
 物理有機化学 基礎医薬化学 基礎有機反応学 基礎医薬合成学 基礎分析化学

学域GS科目 (2) 医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ

学域GS言語科目 (2) 医薬科学英語Ⅰ・Ⅱ

導入科目 (4)

- 大学・社会生活論
- 初学者ゼミ
- テ-クニ以基礎
- 地域概論

GS科目 (15)

- 地球生物圏と人間
- 健康科学
- 細胞・分子生物学
- 統計学から未来を見る 等

基礎科目 (4)

- 微分積分学Ⅰ A
- 微分積分学Ⅰ B
- 統計数学 A
- 統計数学 B

自由履修科目 (3)

- ひとのからだ
- アントレナ-シップ
- 生物学実験

GS言語科目 (8)

- TOEIC準備Ⅰ～Ⅳ
- EAPⅠ～Ⅳ

共通教育

4年次  
3年次  
2年次

基盤形成

1年次

専門性の深化

視野の拡大

研究者としての資質醸成

想定する将来像

大学院へ進学・修了後、  
薬物動態学や薬物代謝化学を主な専門領域とし、大学者や企業等で薬物輸送、個別化医療、毒性予測等の分野で活躍する研究者

医薬共通の基礎から薬物動態学領域の深い専門性へとシームレスに学ぶ教育課程を編成

コースの専門性に応じた知識の醸成

学年、コースを跨ぐ多面的・多角的な学修

研究マインド 倫理観 国際性の醸成

専門性の深化

4年次  
3年次  
2年次

視野の拡大

研究者としての資質醸成

課題研究科目 (10) 研究指導 (薬物代謝安全性学 薬物動態学 分子薬物治療学 薬理学)

- 4年次 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅲ  
医薬科学研究Ⅱ 医薬科学演習Ⅱ
- 3年次 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学演習Ⅰ

専門共通科目 (22)

- 4年次 医薬科学試問
- 3年次 医薬科学先端領域特論 医薬科学研究者養成Ⅱ  
医薬科学特別演習
- 国際医薬科学Ⅱ
- 2～3年次 医薬科学基礎  
□-テーション実習
- 2年次 医薬科学基礎実習
- 2年次 国際医薬科学Ⅰ 医薬科学研究者養成Ⅰ
- 1年次 医薬科学イノベーション概論 医薬科学研究者入門

コース専門科目 (49) (必修34単位・選択15単位以上)

<必修科目>

- ・生物化学Ⅰ ・生物化学Ⅱ ・衛生薬学Ⅰ ・衛生薬学Ⅱ
- ・生体防御学 ・微生物学 ・薬品作用学Ⅰ ・薬品作用学Ⅱ
- ・物理化学Ⅰ ・物理化学Ⅱ ・物理化学Ⅲ ・分析化学
- ・応用有機化学Ⅰ ・応用有機化学Ⅱ ・薬剤学Ⅰ ・薬剤学Ⅱ
- ・薬物治療学Ⅰ ・臨床薬物代謝化学 ・応用有機化学演習Ⅰ
- ・応用有機化学演習Ⅱ

<選択科目>

- ・無機薬化学 ・生命・医療倫理 ・生薬学 ・病態生理学
- ・細胞生物学 ・生命工学Ⅰ ・製剤学 ・薬物治療学Ⅱ
- ・臨床検査学 ・毒性学 ・放射薬品学
- ・創薬科学海外AL実習Ⅰ
- \* 生命医科学コースの必修科目(講義)の中から2単位以上を  
選択必修とする ※ 赤字 将来像と特に深く関連する科目

コース選択

医学・薬学双方の基礎的知識の醸成

専門基礎科目 (10) 基礎人体解剖学 基礎人体構造学 基礎人体機能学 基礎分子細胞生物学 基礎生物化学  
物理有機化学 基礎医薬化学 基礎有機反応学 基礎医薬合成学 基礎分析化学

学域GS科目 (2) 医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ

学域GS言語科目 (2) 医薬科学英語Ⅰ・Ⅱ

基盤形成

1年次

共通教育

導入科目 (4)

- 大学・社会生活論
- 初学者ゼミ
- テ-クニ以基礎
- 地域概論

GS科目 (15)

- 統計学から未来を見る
- プレゼン・ディベート論
- 細胞・分子生物学
- クリティカルシンキング 等

基礎科目 (4)

- 微分積分学Ⅰ A
- 微分積分学Ⅰ B
- 統計数学 A
- 統計数学 B

自由履修科目 (3)

- 線形代数学Ⅰ
- 健康科学
- 数学的発想法

GS言語科目 (8)

- TOEIC準備Ⅰ～Ⅳ
- EAPⅠ～Ⅳ



想定する将来像

大学院へ進学・修了後、  
分析化学、放射線科学、情報科学等を主な専門領域とし、大学や企業等でラジオセラノスティクス、オミックス解析等の分野で活躍する研究者

医薬共通の基礎から物理分析化学領域の深い専門性へとシームレスに学ぶ教育課程を編成

コースの専門性に応じた知識の醸成

学年、コースを跨ぐ多面的・多角的な学修

研究マインド 倫理観 国際性の醸成

専門性の深化

4年次  
3年次  
2年次

視野の拡大

研究者としての資質醸成

課題研究科目 (10)

研究指導 (臨床分析化学  
活性関連物理化学)

- 4年次 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅲ  
医薬科学研究Ⅱ 医薬科学演習Ⅱ
- 3年次 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学演習Ⅰ

専門共通科目 (22)

- 4年次 医薬科学試問
- 3年次 医薬科学先端領域特論 医薬科学研究者養成Ⅱ  
医薬科学特別演習
- 国際医薬科学Ⅱ
- 2～3年次 医薬科学基礎  
ローテーション実習
- 2年次 医薬科学基礎実習
- 2年次 国際医薬科学Ⅰ 医薬科学研究者養成Ⅰ
- 1年次 医薬科学イノベーション概論 医薬科学研究者入門

コース専門科目 (49) (必修34単位・選択15単位以上)

<必修科目>

- ・生物化学Ⅰ ・生物化学Ⅱ ・衛生薬学Ⅰ ・衛生薬学Ⅱ
- ・生体防御学 ・微生物学 ・薬品作用学Ⅰ ・薬品作用学Ⅱ
- ・物理化学Ⅰ ・物理化学Ⅱ ・物理化学Ⅲ ・分析化学
- ・応用有機化学Ⅰ ・応用有機化学Ⅱ ・薬剤学Ⅰ ・薬剤学Ⅱ
- ・薬物治療学Ⅰ ・臨床薬物代謝化学 ・応用有機化学演習Ⅰ
- ・応用有機化学演習Ⅱ

<選択科目>

- ・無機薬化学 ・生命・医療倫理 ・生物有機化学 ・製剤学
  - ・細胞生物学 ・臨床検査学 ・有機金属化学 ・有機機器分析
  - ・医薬品化学 ・放射薬品学 ・創薬科学海外AL実習Ⅰ
- \*生命医科学コースの必修科目(講義)の中から2単位以上を選択必修とする

※ 赤字 将来像と特に深く関連する科目

コース選択

医学・薬学双方の基礎的知識の醸成

専門基礎科目 (10)

基礎人体解剖学 基礎人体構造学 基礎人体機能学 基礎分子細胞生物学 基礎生物化学  
物理有機化学 基礎医薬化学 基礎有機反応学 基礎医薬合成学 基礎分析化学

学域GS科目 (2)

医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ

学域GS言語科目 (2)

医薬科学英語Ⅰ・Ⅱ

基盤形成

1年次

共通教育

導入科目 (4)

大学・社会生活論  
初学者ゼミ  
グローバル基礎  
地域概論

GS科目 (15)

論理学から見る世界  
価値と情動の認知科学  
数学的発想法  
統計学から未来を見る 等

基礎科目 (4)

微分積分学ⅠA  
微分積分学ⅠB  
統計数学A  
統計数学B

自由履修科目 (3)

情報の科学  
コンピュータグラフィックス演習  
物理の世界

GS言語科目 (8)

TOEIC準備Ⅰ～Ⅳ  
EAPⅠ～Ⅳ

医薬科学類創薬科学コースと薬学類のカリキュラムの差異

※下記以外は両学類とも共通

科目区分	授業科目 緑字：創薬科学コース独自科目 黒字：薬学類独自科目 紫字：薬学類と創薬科学コースの共通科目	学年	単位数	学類	
				薬学類	医薬科学類 創薬科学コース
学域GS言語科目	学域GS言語科目Ⅰ（薬学英語Ⅰ）	2	1	必修	／
	学域GS言語科目Ⅱ（薬学英語Ⅱ）	2	1	必修	／
	医薬科学英語Ⅰ	2	1	／	必修
	医薬科学英語Ⅱ	2	1	／	必修
専門基礎科目	生体の機能	1	2	必修	／
	生体の構造	1	2	必修	／
	基礎人体解剖学	1	1	／	必修
	基礎人体構造学	1	1	／	必修
	基礎人体機能学	1	1	／	必修
	基礎分子細胞生物学	1	1	／	必修
	基礎生物化学	1	1	／	必修
	物理有機化学	1	1	／	必修
	基礎医薬化学	1	1	／	必修
	基礎有機反応学	1	1	／	必修
	基礎医薬合成学	1	1	／	必修
	基礎分析化学	1	1	／	必修
	専門共通科目	国際医薬科学Ⅰ	2	1	／
国際医薬科学Ⅱ		3	1	／	必修
医薬科学イノベーション概論		1	1	／	必修
医薬科学研究者入門		1	1	／	必修
医薬科学研究者養成Ⅰ		2	1	／	必修
医薬科学研究者養成Ⅱ		3	1	／	必修
医薬科学先端領域特論		3～4	1	／	必修
医薬科学基礎実習		2	1	／	必修
医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース）Ⅰ		2	1.5	／	必修
医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース）Ⅱ		2	1	／	必修
医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース）Ⅲ		2	4	／	必修
医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース）Ⅳ		2	1	／	必修
医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース）Ⅴ		2	3	／	必修
医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース）Ⅵ		2	1	／	必修
医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース）Ⅶ		3	2	／	必修
医薬科学基礎ローテーション実習（創薬科学コース）Ⅷ		3	0.5	／	必修
医薬科学特別演習	3	0.5	／	必修	
医薬科学試問	4	0.5	／	必修	
専門科目 講義	生命科学入門	1	1	必修	／
	有機化学ⅠA	1	1	必修	／
	有機化学ⅠB	1	1	必修	／
	分子細胞生物学Ⅰ	1	2	必修	／
	分析化学Ⅰ	1	2	必修	／
	有機化学ⅡA	1	1	必修	／
	有機化学ⅡB	1	1	必修	／
	分子細胞生物学Ⅱ	2	2	必修	／
	生物化学Ⅰ	2	2	／	必修
	分析化学Ⅱ	2	2	必修	／
	分析化学	2	2	／	必修
	薬理学Ⅰ	2	2	必修	／
	薬品作用学Ⅰ	2	2	／	必修
	有機化学Ⅲ	2	2	必修	／
	応用有機化学Ⅰ	2	2	／	必修
	生命・医療倫理	2	1	必修	選択
	生薬学	2	2	必修	選択
分子細胞生物学Ⅲ	2	2	必修	／	

科目区分	授業科目 緑字：創薬科学コース独自科目 黒字：薬学類独自科目 紫字：薬学類と創薬科学コースの共通科目	学年	単位数	学類		
				薬学類	医薬科学類 創薬科学コース	
専門教育科目 専門科目	講義	生物化学Ⅱ	2	2	/	必修
		薬理学II	2	2	必修	/
		薬品作用学Ⅱ	2	2	/	必修
		有機化学IV	2	2	必修	/
		応用有機化学Ⅱ	2	2	/	必修
		天然物化学	3	2	必修	選択
		細胞生物学	3	1	必修	選択
		製剤学	3	2	必修	選択
		薬物治療学II	3	2	必修	選択
		臨床検査学	3	2	必修	選択
		無機薬化学	2	1	必修	選択
		東洋医学	3	1	必修	選択
		薬学関係法規I	3	2	必修	/
		薬局薬学	3	1	必修	/
		医療統計学	3	1	必修	/
		調剤学総論	3	2	必修	/
		臨床医学入門	3	1	必修	/
		臨床栄養学	3	1	必修	/
		医薬品化学	3	1	必修	選択
		生命工学I	3	1	必修	選択
		薬剤疫学	3	1	選択	/
		化学療法学	3	1	選択	/
		医薬品評価学	3	1	選択	/
		医薬品情報学	4	1	必修	/
		医薬品安全性学	4	2	必修	/
		看護学入門	4	1	必修	/
		多職種連携概論	4	1	必修	/
		注射薬概論	4	1	必修	/
		薬学関係法規II	4	2	選択	/
		臨床心理学	4	1	選択	/
		薬学ビッグデータマネジメント	3	1	選択	/
		臨床研究デザイン	4	1	選択	/
	薬学研究者入門I	1	1	必修	/	
	薬学研究者入門II	1	1	必修	/	
	キャリア形成序論I	1	1	必修	/	
	キャリア形成序論II	2	1	必修	/	
	キャリア形成概論I	3~4	1	必修	/	
	キャリア形成概論II	4	0.5	必修	/	
	演習	有機化学演習I	1	0.5	必修	/
		有機化学演習II	1	0.5	必修	/
		有機化学演習III	2	0.5	必修	/
		応用有機化学演習Ⅰ	2	0.5	/	必修
		有機化学演習IV	2	0.5	必修	/
応用有機化学演習Ⅱ		2	0.5	/	必修	
薬学国際演習Ⅰ		2	0.5	必修	/	
薬学国際演習Ⅱ		3	0.5	必修	/	
薬物治療モニタリング演習		3	0.5	必修	/	
服薬指導演習		4	1	必修	/	
プライマリケア演習		4	1	必修	/	
薬学演習I		3	0.5	必修	/	
薬学演習II		4	1	必修	/	



科目区分	授業科目 緑字：創薬科学コース独自科目 黒字：薬学類独自科目 紫字：薬学類と創薬科学コースの共通科目	学年	単位数	学類		
				薬学類	医薬科学類 創薬科学コース	
専門教育科目 専門科目	演習	薬学演習III	5	0.5	必修	/
		薬学演習IV	6	1	必修	/
		症例演習	4	1	必修	/
		薬物治療演習	4	1	必修	/
		総合薬学演習	6	1	必修	/
		実務実習準備	3~4	0.5	必修	/
	実習	測定法と分析法を学ぶI	2	1.5	必修	/
		測定法と分析法を学ぶII	2	1	必修	/
		有機化合物の扱い方を学ぶ	2	4	必修	/
		生物の取り扱いを学ぶI	2	3	必修	/
		生物の取り扱いを学ぶII	2	1	必修	/
		医療における薬を学ぶI	2	1	必修	/
		医療における薬を学ぶII	3	2	必修	/
		医療における薬を学ぶIII	4	2	必修	/
		実務実習I	5	3.5	必修	/
		実務実習II	5	10	必修	/
		実務実習III	5	5.5	必修	/
		実務実習IV	5	1	必修	/
		チーム医療実習	5/6	2	選択	/
		ラボローテーション	3	0.5	必修	/
		医薬科学研究 I	3	2.5	/	必修
		医薬科学研究 II	4	3	/	必修
		医薬科学研究 III	4	3	/	必修
		医薬科学演習 I	3	0.5	/	必修
		医薬科学演習 II	4	0.5	/	必修
		医薬科学演習 III	4	0.5	/	必修
		薬学研究I	3	2	必修	/
		薬学研究II	4	4.5	必修	/
		薬学研究III	5	2.5	必修	/
		薬学研究IV	6	5	必修	/
		薬学海外AL実習 I	1~6	0.5	選択	/
		創薬科学海外AL実習 I	2~4	0.5	/	選択
		薬学海外AL実習 II	1~6	0.5	選択	/
		創薬科学海外AL実習 II	2~4	0.5	/	選択
早期ラボローテーション I	1	0.5	選択	/		
早期ラボローテーション II	2	0.5	選択	/		
早期ラボローテーション III	2~3	0.5	選択	/		
キャリアプラン研修 I	4~6	0.5	選択	/		
キャリアプラン研修 II	4~6	0.5	選択	/		

金沢大学 医薬保健学域医薬科学類

学生の確保の見通し等を記載した書類

国立大学法人 金沢大学

## 目 次

<b>(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況</b>	
① 学生の確保の見通し	1
ア) 定員充足の見込み	1
イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
ウ) 学生納付金の設定の考え方	3
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	3
<b>(2) 人材需要の動向等社会の養成</b>	
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)	4
② 上記①が社会的, 地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	6
資料目次	8

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### ① 学生の確保の見通し

##### ア) 定員充足の見込み

金沢大学は、「次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材」を養成するために、医薬保健学域医薬科学類（学士課程）（以下「本学類」と表記。）を設置することとしている。

入学定員の設定は、表1のとおりである。

表1 入学定員

新設学部等の名称	入学定員	
医薬保健学域医薬科学類	18名	生命医科学コース : 9名
		創薬科学コース : 9名

この入学定員の設定に当たり、学生の確保の見通しを明らかにするため、『医薬保健学域「新学類」に関するアンケート』を以下のとおり実施した。

#### ○『金沢大学医薬保健学域「新学類」に関するアンケート』（【資料1】参照）

調査方法：郵送調査

期 間：2019年11月～2019年12月

対 象：北陸3県（石川県、富山県、福井県）内の理系の高校2年生（32校、2,765名）

※令和3年度入学予定者を想定

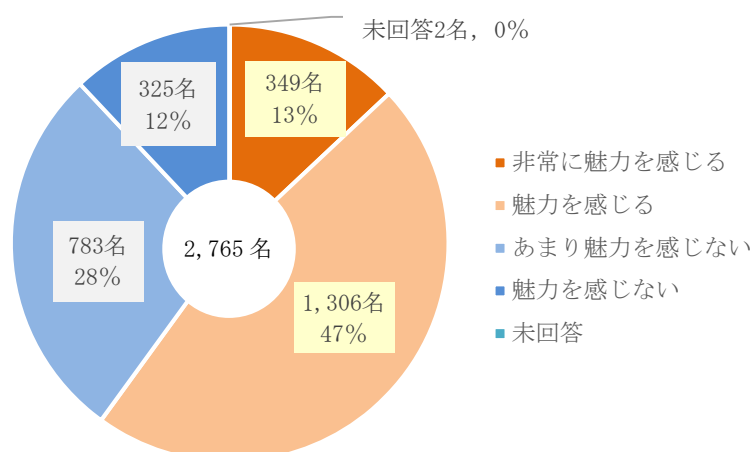
その結果、本学類において設定した入学定員については、適切な選抜がなされた上で、安定的に確保することが可能であり、十分な定員充足の見込みが立つと判断される。

## イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

上述の「ア 定員充足の見込み」に示した、『医薬保健学域「新学類」に関するアンケート』による調査の結果は、次のとおりである。

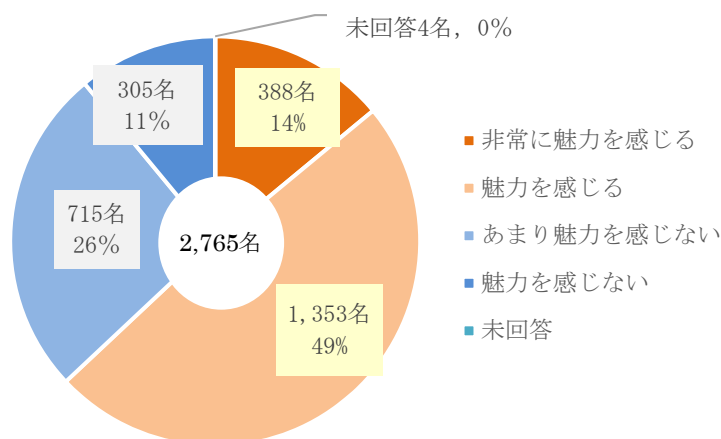
“基礎医学と基礎薬学の両分野について、科学的真理の探究から実社会への応用まで様々な学問知識や手法を学ぶ本学類の新たな4年制教育に魅力を感じるか”について調査したところ、図1のとおり、約60%の高校生が本学類の教育に対し関心を示した。

図1 “基礎医学と基礎薬学の両分野について、科学的真理の探究から実社会への応用まで様々な学問知識や手法を学ぶ新たな4年制教育に魅力を感じるか”に対する回答



次に、“医薬科学類に進学先としての魅力を感じるか”について調査したところ、図2のとおり、約63%の高校生が本学類に進学先としての魅力を感じていることが分かった。

図2 “医薬科学類に進学先としての魅力を感じるか”に対する回答



また、アンケートにおいて、大学の進学先分野として「医学、薬学または保健学の分野」を選択し、図1並びに図2において「非常に魅力を感じる魅力を感じる」又は「魅力を感じる」と回答した者のうち、将来就職したい職業として「大学の教員や、公的研究所等の研究者」を希望する者は、38名であった。

本学類において養成する人材像は「次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界トップレベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材」であり、主として学術研究機関において研究者となることを想定していることから、この38名については本学類へ入学を志願することが見込まれる。

本アンケートは北陸3県（石川県、富山県、福井県）内の理系の高校2年生を対象としており、当該範囲内だけでも本学類への入学志願者が入学定員18名の2倍以上に当たる38名である。さらに北陸3県以外からの入学志願者も想定されることから、入学定員の設定18名は、十分な競争性を担保した適切なものであると言える。

#### ウ) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成16年3月31日文科科学省令第16号）に基づき、同省令に掲げる授業料、入学料及び検定料の額を標準とし、本学において設定する。

## ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では、学生募集の専門部署として入試課を、広報の専門部署として広報室を設置し、全学の学生募集・広報活動を統括しているほか、個々の学域・学類においても委員会を設置し、広報活動を展開している。

なお、今後の本学類に関する広報活動として、入試課及び広報室の下、対象者のニーズ等を踏まえた広報行事を実施する予定であるほか、医薬保健学域に本学類の学生募集活動を担う委員会を設置し、学生募集・広報活動に用いるパンフレットの作成や、Webサイトを構築することとしている。さらに、同委員会委員が北陸3県の高等学校へ出向き、本学類に関する説明を行うことや例年8月に開催している高校2年生以上を対象としたキャンパスビジットにおいて本学類の説明を行うことを予定しており、本学類のコンセプト等の詳細までを含め、その認知度を高めるための取組みを行うこととしている。

以上のとおり、本学類に関する広報活動を丁寧に行うことにより、十分な受験生及び入学学生の確保が見込まれると判断される。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

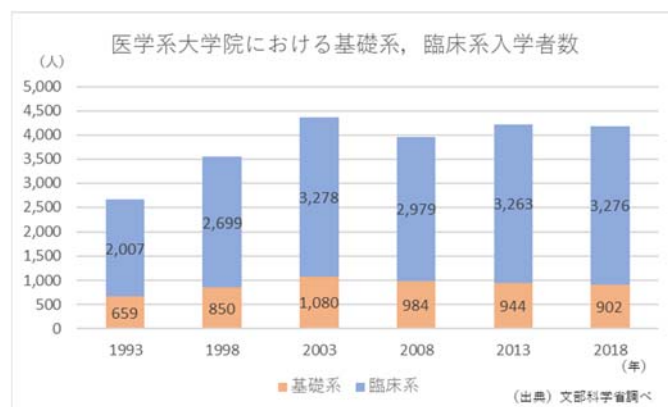
世界に先駆けて超高齢化社会を迎えた我が国においては、世界保健機関が2000年に提唱した健康寿命 (Healthy life expectancy) という概念を受け、いかに健康的に長生きをするかという課題を設定し、課題解決先進国として、健康長寿社会の形成に向けた取り組みが精力的に進められている (「健康・医療戦略 (平成26年7月22日 閣議決定, 平成29年2月17日 一部変更) 」)。この取組に当たり、医療分野全体の研究開発ポテンシャルの向上が必要であり、そのためには、大学において、世界の最先端医療の研究・開発等をリードし、将来的にその成果を国内外に普及できる実行力を備えたメディカルイノベーション推進人材を養成することが重要である。

また、医療分野における世界的な研究動向として、精密医療等の次世代の先進的医療の実現に向け医学分野・薬学分野の双方向からの医学・薬学研究の重視を挙げることができる。Society 5.0やIndustry 4.0等に見られるように、科学技術が大きく進展しており、基礎医学・薬学分野においても研究内容が多様化・高度化・複雑化する中で、大学において高度人材育成のための教育・研究や、臨床教育・研究への橋渡し等を担うことが強く求められている。

医学・薬学研究の主たる担い手が、研究医や研究薬剤師 (医師, 薬剤師の資格を持った研究者) であることは論を待たない。しかしながら、全国的に医学系大学院への入学者数 (特に医学部卒業者) は減少傾向にある。中でも大学院の基礎医学系分野に入学する医学部卒業者 (基礎系 MD) は非常に少なく、基礎医学研究者の枯渇による研究力低下が深刻化している。

(図 3)

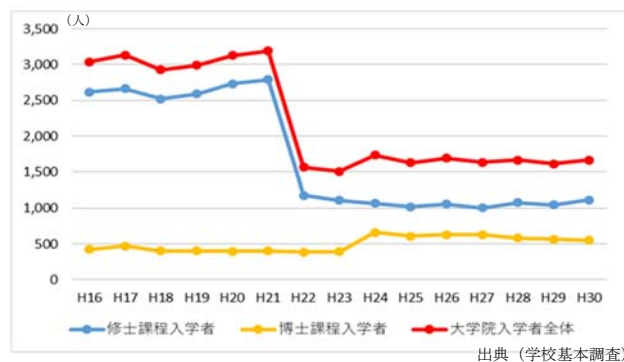
図 3 医学系大学院における基礎系, 臨床系入学者数



日本学術会議基礎医学委員会「基礎医学分野の展望」(平成22年4月5日)において、「大学の臨床部門が人材不足になるに伴い、基礎部門への派遣は激減し、現在基礎医学研究を行っているほとんどの講座では医学部出身者は皆無に近い状態に陥っている。(中略)現在の医学知識および医療技術が過去の基礎医学研究の成果の上に成立していると同様に、今後の医療の進歩は現在の医学研究に依存していることは明白である。基礎医学分野の人材の育成は喫緊の課題である。」と提言されており、以前より基礎医学研究の凋落が課題として指摘されている。また、国立大学医学部長会議「国立大学医学部における医学教育の指針一國

立大学医学部長会議からの提言」(平成 29 年 3 月)においても、「国立大学の法人化後、(中略)基礎医学系教員ポストの数が減少するとともに研究や教育に関するアクティビティが明らかに低下している。(中略)今後はさらに基礎医学志望の学部学生、若手医師が減少し、将来の医学部での教育指導者が不足し、医学の進歩が停滞することが懸念される。(中略)今後は教育体制が崩壊するなど、危機的状況になる可能性がある」と懸念される。」と指摘されており、基礎医学分野における人材不足及び研究力低下が長期的に解消されていない状況である。一方、薬学系においては、平成 18 年度より薬剤師養成を目的とする 6 年制学部・学科と、薬学の専門知識をもって社会の様々な分野で活躍する人材の養成を目的とする 4 年制学部・学科とを併設する教育制度が開始され、平成 28 年度に 6 年制学部・学科に接続する 4 年制博士課程の完成年度を迎えたばかりではあるが、博士課程の修了者が少なく、将来、大学での薬学教育・研究を担う人材の枯渇といった課題が顕在し始めている。日本学術会議基礎医学委員会「薬学分野の展望」(平成 22 年 4 月 5 日)において、「近年薬学の学部教育の重心が、より高い職能を有する薬剤師養成を目的とする 6 年制の臨床薬学に移ったために、逆に基礎薬学の教育・研究が急速に衰退する可能性が危惧されている。創薬科学、基礎薬学の分野の人材育成や研究成果を通じた社会貢献が不十分にならないように、歴史と実績のある本分野についても維持・発展させる必要がある。」と示されているところであるが、平成 22 年度に薬学系分野の大学院への入学者数が大幅に減少してから現在に至るまで、入学者数が従来の約半数のままの状態が継続しており、我が国における今後の、創薬科学、基礎薬学の分野を担う人材不足が表面化すると危惧される。

図 4 薬学系大学院における入学者数



このような社会的背景に鑑み、本学類では、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材を養成する。

この人材養成のため、本学類では、全国的に見ても極めて稀有な、医学分野と薬学分野、双方の基礎的な知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ教育プログラムを構築する。

具体的には、1年次に、医薬科学研究の基礎的な知識(人体の構造と機能、生命科学の基礎、有機化学の基礎、分析化学の基礎)を学ぶカリキュラムを構築した上で、2年次のコース配属先として、専門化した分野の大枠となる「生命医科学コース」と、「創薬科学コース」の2コースを設ける。

生命医科学コースにおいては、これまでの医薬保健学域における医学分野の6年制教育プ



プログラム（医師養成）とは異なる，基礎医学・生命医科学を専門とした上で薬学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。また，創薬科学コースにおいては，既存の創薬科学類のカリキュラムを踏襲しつつ，基礎薬学・創薬科学領域を専門とした上で医学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。これら両コースにおいて，基礎医学・薬学両分野の広域にわたる基礎的知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供することにより，基礎医学・薬学研究の多様化・高度化・複雑化に対応しながら医学・薬学領域の様々な分野で活躍する基礎研究者を養成する。

## ② 上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学類の教育目的は，上記のとおり世界で活躍する医薬科学研究人材（基礎医学研究・生命医科学研究人材ならびに基礎薬学研究・創薬科学研究人材）を学士課程から養成するものである。本学類の卒業生は，博士前期課程を経て博士後期課程へ進学し，博士後期課程修了後，大半は学術研究機関において研究者となることを想定していることから，国内外の高等教育機関・研究機関の研究職について，科学技術振興機構（JST）が運営する国内最大の研究者求人サイト（Jrec-In Portal）の求人情報に基づき，次のとおり分析した。

令和2年2月現在において，基礎医学分野で助教相当33件及びポストク相当37件の公募があった。また，薬学分野では助教相当10件及びポストク相当9件であったことから，国内の高等教育機関・研究機関において，本学類が養成する医薬科学研究人材に対する需要があることが窺える。

なお，上述のとおり，本学類の卒業生は，博士前期課程を経て博士後期課程へ進学し，博士後期課程修了後，大半は学術研究機関において研究者となることを想定しているものの，博士課程修了者の一部については，製薬，医療系の企業への就職も想定される。このため，それらの主要企業を対象に，本学類の設置趣旨を説明した上で，「企業が求める人材」と言う観点から，以下のとおり2019年11月にアンケートを実施し，31社から表2の回答を得た。

### ○製薬，医療系の主要企業へのアンケート調査

調査方法：電子メールによる調査

期 間：2019年11月

対 象：医薬保健学域医薬科学類の卒業生は大学院への進学を想定しており，  
博士後期課程修了後の就職先として想定する製薬，医療系の主要企業

表2 “製薬，医療系主要企業への出口調査”

調査依頼先	31社	
〈質問1〉医学，薬学両分野に精通し，研究マインドと国際性を身につけた人材は，貴組織の業務遂行に有用だと思いますか。		
非常に有用であると思う。	22社 (71%)	} 31社 (100%)
有用であると思う。	9社 (29%)	
有用である可能性があると思う。	0社 (0%)	
有用ではないと思う。	0社 (0%)	
〈質問2〉医学，薬学両分野に精通し，研究マインドと国際性を身につけた人材の採用について，どうお考えでしょうか。		
ぜひ採用したい	13社 (42%)	} 27社 (87%)
採用を前向きに考えたい	14社 (45%)	
採用については想定できない	2社 (6.5%)	
不明・わからない	2社 (6.5%)	
企業からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状，このような人材は少ないので貴重であると考えます。一方で，医学，薬学のそれぞれの専門家がいた状況で，両分野について専門家と同じレベルで精通した人材であることが重要であると考えます。</li> <li>・近年は，業種の垣根がなくなってきており，企業は社会課題の解決に向けた取組が重要なテーマとなっています。その中で，医療やヘルスケアは最重要のテーマであり，どの業種でも通用するスキルになるかと思えます。</li> <li>・製薬企業では，医学と薬学の両領域の知識が必要であり，入社後に教育・自己学習する必要があるため，採用段階でそれらの基礎能力があることは非常に有用と考える。</li> <li>・医薬品の研究開発業務において，医学的知識や国際性がある人材は，これまでの薬学系のみの人材に比べ，より革新性があり，世界に発信できる薬剤の開発につながると考えます。</li> </ul>	

表2のとおり，アンケートに回答した全ての企業において，本学類で養成する人材が組織の業務遂行に「非常に有用であると思う」または「有用であると思う」と回答し，そのうち87%の企業が当該人材の採用に前向きであることが確認された。

以上のアンケート調査結果により，本学類の卒業後，博士前期課程を経て博士後期課程へ進学し，博士後期課程を修了した者で，学術研究機関ではなく製薬，医療系の企業へ就職を希望する場合においても，十分に需要があると言える。

このように，本学が養成しようとする次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材は，社会的人材需要の動向を十分に踏まえたものであると言える。

## 資 料 目 次

<b>資料 1</b>	金沢大学医薬保健学域「新学類」に関するアンケート	9
	調査方法：郵送調査	
	期 間：2019年11月～2019年12月	
	対 象：北陸3県（石川県，富山県，福井県）内の理系の高校2年生（32校，2,765名）	

## 金沢大学 医薬保健学域「新学類」に関するアンケート



金沢大学医薬保健学域は、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる医薬科学研究を推進し国際的に活躍できる研究者を養成するため、令和3年度より**新たな学類(医薬科学類(仮称))**を設置することを構想しています。

高校生の皆さんの意見を参考にさせていただきたく、以下のアンケートにご協力ください。記入後は、学校へ提出してください。

金沢大学医薬保健学域長

性別： 男 ・ 女

※ ご自身の現在の状況や考えに、もっとも当てはまると思う「番号(数字)」を、右の□の中に記入してください

Q1. 大学に進学する場合に、進学先の分野(学部)として、どこを考えていますか？

1. 医学、薬学または保健学の分野      2. 1以外の理系の分野(理学・工学分野など)

Q1

Q2. 医薬保健学域の新学類(医薬科学類(仮称))は、医師、薬剤師の養成ではなく、基礎医学と基礎薬学の両分野に精通した卓越研究者を養成するための4年制の学類です。新学類のコンセプトである“医学・薬学分野の融合型教育”(基礎医学と基礎薬学の両分野について、科学的真理の探究から実社会への応用まで、様々な学問知識や手法を学べる新たな4年制教育)に、魅力を感じますか？

1. 非常に魅力を感じる      2. 魅力を感じる      3. あまり魅力を感じない      4. 魅力を感じない

Q2

新学類(医薬科学類(仮称))で身につけることができる主な能力・スキル

<医薬科学類(仮称)(4年制)>

- ・ 医薬科学に共通する基礎知識・実験力
- ・ 医薬科学に関する高度な専門知識・実験力
- ・ 異分野融合・連携を可能にする幅広い教養
- ・ 国際的視野・英語力
- ・ プレゼンテーション能力

医師・薬剤師の国家試験受験資格は得られません

Q3. 医薬保健学域の新学類(医薬科学類(仮称))には、2つのコース(生命医科学コースと創薬科学コース(いずれも仮称))を設置します。両コースはいずれも、医学類あるいは薬学類の中核となる共通の専門科目を学ぶ機会を提供します。また、海外研修やラボ・ローテーション(複数の研究室を訪問し、最先端の研究課題を直接体験する学習)などを通じて、早期からマンツーマンに近い形で研究マインド・能力を醸成する少数精鋭の先進的医薬科学教育を実践します。このような新学類に、進学先としての魅力を感じますか？

1. 非常に魅力を感じる      2. 魅力を感じる      3. あまり魅力を感じない      4. 魅力を感じない

Q3

Q4. 今の時点で、どのような職業に就職したいと考えていますか？もっとも当てはまるものを1つ選択してください。

1. 大学の教員や、公的研究所等の研究者      2. 民間企業の研究者  
3. 資格取得が必要な医療職(医師、薬剤師など)      4. 公務員(中学や高校の先生を含む)  
5. その他(1~4以外の職業)      6. まだ決めていない、わからない

Q4

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。学校単位でご返送願います。  
☆回答は統計的に処理します☆

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ヤマザキ コウエツ 山崎 光悦 <平成26年4月>		工学 博士		金沢大学 学長 (平成26.4～令和4.3)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。



調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
6	専	准教授	ゴトウ キョウコ 後藤 享子 <令和3年4月>		博士 (薬学)		初學者ゼミⅠ 医薬科学英語Ⅱ 基礎医薬合成学※ 医薬科学先端領域特論 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 天然物化学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1① 2② 1④ 3②~④④ 2③ 3③~④ 4③~④ 3①~② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 4③~④ 4③~④	1 1 0.4 1 0.6 0.5 0.5 1.7 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平24.4)	5日
7	専	准教授	シバカ ショウキ 白坂 善之 <令和3年4月>		博士 (薬学)		プレゼン・ディベート論(初学 者ゼミⅡ) 医薬科学英語Ⅱ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1② 2② 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (令2.4)	5日
8	専	講師	ナガタ ナオ 長田 直人 <令和3年4月>		博士 (薬学)		初學者ゼミⅠ プレゼン・ディベート論(初学 者ゼミⅡ) 医薬科学英語Ⅰ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅱ 薬理学Ⅰ※ 薬理学Ⅱ※ 薬理学実習 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1① 1② 2① 2②~③① 2③~④ 3① 3① 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 1 1 8 0.4 0.5 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 講師 (平24.10)	5日
9	専	助教	イシ ヒロシ 石井 宏史 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学英語Ⅱ 基礎人体構造学※ 神経解剖学Ⅰ※ 神経解剖学Ⅱ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2② 1② 2① 2② 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.1 0.1 0.1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平27.8)	5日
10	専	助教	フクヨシ シュウイチ 福吉 修一 <令和3年4月>		博士 (薬学)		初學者ゼミⅠ プレゼン・ディベート論(初学 者ゼミⅡ) 基礎分析化学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅰ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 物理化学Ⅱ 物理化学Ⅲ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1① 1② 1③ 2② 3③~④ 4③~④ 2② 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 1 0.1 0.6 0.5 0.5 1 1.1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平19.4)	5日
11	専	助教	ムネノ セイイチ 棟居 聖一 <令和3年4月>		博士 (生物工学)		基礎生物化学※ 医薬科学先端領域特論 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 生化学Ⅱ※ 生化学Ⅳ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1① 3②~④④ 2②~③① 2①~② 2③ 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 3②~④ 4①~② 4③~④ 4①~② 4③~④	0.4 1 6 0.5 1.7 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平19.4)	5日
12	兼担	教授	アノドウ ヒロシ 安藤 仁 <令和3年4月>		博士 (医学)		薬理学Ⅰ※ 薬理学Ⅱ※ 薬理学実習	2③~④ 3① 3①	0.6 0.8 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平28.3)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
13	兼任	教授	オノキ ノリキ 尾崎 紀之 <令和3年4月>		博士 (医学)		大学・社会生活論 基礎人体解剖学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース) I 人体解剖学 I ※ 人体解剖学 II ※	1① 1① 2②～3① 2①～② 2①～②	1 0.3 6 1.5 2.6	1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平21.5)	
14	兼任	教授	カサキ ヒロシ 河崎 洋志 <令和3年4月>		博士 (医学)		神経生理学 I ※ 神経生理学 II ※ 脳神経医学※	2③ 2④ 2①	0.3 0.3 0.8	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平25.1)	
15	兼任	教授	クワチ マコト 倉知 慎 <令和3年4月>		博士 (医学)		地域概論 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース) I 生化学 I ※ 生化学 III ※	1①～② 2②～3① 2①～② 2③	1 6 1.1 1.1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平30.9)	
16	兼任	教授	ツカ マサヒコ 塚 正彦 <令和3年4月>		博士 (医学)		法医学 I ※ 法医学 II ※ 法医学実習 臨床法医学特論	2④ 3①～③ 3②～③ 3④	0.9 1.9 0.5 1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平18.9)	
17	兼任	教授	カミラ ヒロユキ 中村 裕之 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬保健学基礎 II ※ 公衆衛生学 I ※ 公衆衛生学実習	1② 3①～② 3①～②	0.1 0.8 1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平19.1)	
18	兼任	教授	ニシヤマ マサアキ 西山 正章 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体解剖学※ 基礎人体構造学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース) I 組織学 I 組織学 II	1① 1② 2②～3① 2①～② 2③	0.4 0.3 6 2 1	1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平29.10)	
19	兼任	教授	ハラダ ケンイチ 原田 憲一 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース) I 人体病理学 I ※	2②～3① 2④～3①	6 1.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平8.4)	
20	兼任	教授	フジガキ ユウコ 藤永 由佳子 <令和3年4月>		博士 (医学)		細菌感染学 I ※ 細菌感染学 II ※ 細菌感染学実習	2③～④ 3① 3①	1 1.3 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平27.8)	
21	兼任	教授	ウチノ ユキ 堀 修 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体構造学※ 神経解剖学 I ※ 神経解剖学 II ※ 発生学 I 発生学 II ※	1② 2① 2② 2① 2②	0.4 1.3 1.1 1 1.4	1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平11.5)	
22	兼任	教授	ミヅガミ マチロ 三枝 理博 <令和3年4月>		博士 (理学)		基礎人体機能学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース) I 神経生理学 I ※ 神経生理学 II ※	1④ 2②～3① 2③ 2④	0.3 6 0.5 1.1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平20.1)	
23	兼任	教授	ヤマモト ヤスヒコ 山本 靖彦 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬保健学基礎 II ※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース) I 生化学 II ※ 生化学 IV ※	1② 2②～3① 2①～② 2③	0.1 6 0.9 1.9	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平11.4)	
24	兼任	教授	ワタライ ヒロシ 渡会 浩志 <令和3年4月>		博士 (医学)		データサイエンス基礎 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース) I 動物実験と再生医学※	1① 2②～3① 2③	1 6 0.3	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (令1.6)	
25	兼任	教授	ヨネダ タカシ 米田 隆 <令和3年4月>		博士 (医学)		健康科学 イノベーションを起こして、起 業家になろう 2 イノベーションを起こして、起 業家になろう 4 医薬科学イノベーション概論	1①・②・③・④ 1② 1④ 1③	15 1 1 1	15 1 1 1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平29.10)	
26	兼任	教授	サトリ マコト 佐藤 純 <令和3年4月>		博士 (理学)		神経生理学 I ※	2③	0.3	1	金沢大学 新学術創成研究機構 教授 (平24.4)	
27	兼任	教授	オオクニ タカコ 大黒 多希子 <令和3年4月>		博士 (薬学)		動物実験と再生医学※	2③	0.3	1	金沢大学 学際科学実験センター 教授 (平27.6)	
28	兼任	教授	シュナイダー アンドリュー E SCHNEIDER, Andrew E <令和3年4月>		修士 (教育)		国際医薬科学 I 国際医薬科学 II	2③ 3①	1 1	1 1	金沢大学 附属病院 特任教授 (平22.9)	



調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
29	兼担	教授	イシヅキ ジュンコ 石崎 純子 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試問 生命・医療倫理※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3③～④ 4③～④ 2③ 3②～④ 4①～② 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④	0.5 0.5 0.2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平17.4)	
30	兼担	教授	オオミヤ ヒロキ 大宮 寛久 <令和3年4月>		博士 (工学)		基礎有機反応学※ 基礎医薬合成学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試問 有機反応化学※ 有機金属化学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1③ 1④ 2③ 3① 3③～④ 4③～④ 3①～② 3③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④	0.8 0.3 1.1 0.5 0.5 0.5 1.6 1.8 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平29.4)	
31	兼担	教授	オガワ ナツマ 小川 数馬 <令和3年4月>		博士 (薬学)		基礎分析化学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅰ※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試問 分析化学 無機薬化学 臨床検査学※ 放射薬品学 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1③ 2② 3① 3③～④ 4③～④ 2① 2② 3③～④ 3④ 3②～④ 4①～② 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④	0.5 0.9 0.5 0.5 0.5 2 1 1.3 1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 新学術創成研究機構 教授 (平16.2)	
32	兼担	教授	カノウ ユキオ 加藤 将夫 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試問 薬物治療学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3① 3③～④ 4③～④ 3①～② 3③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④	0.5 0.5 0.5 2 1.2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平14.6)	
33	兼担	教授	カナダ カサキ 金田 勝幸 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試問 薬品作用学Ⅰ※ 薬品作用学Ⅱ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3① 3③～④ 4③～④ 2① 2③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④	0.5 0.5 0.5 1.3 1.1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平27.4)	
34	兼担	教授	クニシマ ミツヲ 國嶋 崇隆 <令和3年4月>		薬学博士		物理有機化学 基礎医薬化学※ 医薬科学研究者入門※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試問 生物有機化学 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1① 1② 1④ 2③ 3① 3③～④ 4③～④ 3①～② 3②～④ 4①～② 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④	1 0.6 0.1 1.1 0.5 0.5 0.5 2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平20.3)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
35	兼担	教授	スズキ リョウ 鈴木 亮 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅱ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 衛生薬学Ⅰ※ 衛生薬学Ⅱ※ 生体防御学※ 生化学Ⅱ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2② 3① 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 2③~④ 3② 3②~④ 4①~② 4③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 0.5 1.4 0.5 0.7 0.3 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究 域 薬学系 教授 (平29.4)	
36	兼担	教授	タニ イクミ 玉井 郁巳 <令和3年4月>		薬学博士		アントレプレナーシップⅠ 実践アントレプレナー学 コーヒーと社会 コーヒーと科学 医薬科学研究者入門※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅶ※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 薬剤学Ⅰ 薬剤学Ⅱ 製剤学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1① 1③ 1③ 1④ 1④ 3① 3① 3③~④ 4③~④ 2③~④ 3①~② 3①~② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 4③~④	1 1 1 1 0.1 1.1 0.5 0.5 2 2 1.2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究 域 薬学系 教授 (昭62.4)	
37	兼担	教授	ナカノ マサキ 中嶋 美紀 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅶ※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 臨床薬物代謝化学※ 毒性学※ 創薬科学海外AL実習Ⅰ 創薬科学海外AL実習Ⅱ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3① 3① 3③~④ 4③~④ 3①~② 3④ 2①~4④ 2①~4④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.1 0.5 0.5 0.5 1.1 0.5 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 ナノ生命科学研究所 教授 (平9.8)	
38	兼担	教授	マツタ リョウ 松下 良 <令和3年4月>		博士 (薬学)		地域概論 医薬保健学基礎Ⅰ※ 医薬保健学基礎Ⅱ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 製剤学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1①~② 1① 1② 3③~④ 4③~④ 3①~② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.7 0.3 0.5 0.5 0.8 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究 域 薬学系 教授 (平9.4)	
39	兼担	教授	ヨシダ シゲト 吉田 栄人 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎分子細胞生物学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅴ※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生物化学Ⅰ※ 生体防御学※ 微生物学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1② 2④ 3① 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 2② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.3 1 0.5 0.5 0.5 1.2 0.5 0.2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究 域 薬学系 教授 (平22.10)	
40	兼担	教授	タニグチ タカミ 谷口 巧 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬保健学基礎Ⅱ※	1②	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究 域 医学系 教授 (平9.11)	
41	兼担	教授	ナガセ ケイジ 長瀬 啓介 <令和3年4月>		博士 (医学)		生命・医療倫理※	2③	0.3	1	金沢大学 附属病院 教授 (平20.8)	
42	兼担	教授	ムラヤマ トシノリ 村山 敏典 <令和3年4月>		博士 (医学)		生命・医療倫理※	2③	0.1	1	金沢大学 附属病院 教授 (平成26.11)	
43	兼担	教授	ワダ カチ 和田 隆志 <令和3年4月>		博士 (医学)		臨床検査学※	3③~④	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究 域 医学系 教授 (平13.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 適当たり平均 日 数
44	兼担	教授	アキタ ジュンイチ 秋田 純一 <令和3年4月>		博士 (工学)		イノベーションを起こして、起 業家になろう1 イノベーションを起こして、起 業家になろう3	1① 1③	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 電子情報通信学系 教授 (平10.4)	
45	兼担	教授	イノエ コウジ 入江 浩司 <令和3年4月>		修士 (文学) ※		ギリシア語A1-1 ギリシア語A1-2 ギリシア語A2-1 ギリシア語A2-2 ギリシア語A3-1 ギリシア語A3-2 ギリシア語A4-1 ギリシア語A4-2	1① 1② 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平11.4)	
46	兼担	教授	ウエダ ノブム 上田 望 <令和3年4月>		博士 (文学)		グローバル時代の文学	1⑩・⑪・⑫・⑬	14	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平9.7)	
47	兼担	教授	ウノ フミオ 宇野 文夫 <令和3年4月>		法学士		ジャーナリズム論 世界農業遺産「能登の里山里 海」とSDGsを考察するスタ ディ・ツアー	1④ 1⑪・⑫	1 1	1 1	金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任教授 (平31.4)	
48	兼担	教授	オオタ アキラ 太田 亨 <令和3年4月>		修士 (文学)		講義の聴解A 講義の聴解B 日本語で学ぶ論理A 日本語で学ぶ論理B 異文化理解のためのビデオ会議 ディスカッション	1⑩・⑪・⑫ 1⑫・⑬ 1⑬ 1⑭ 1⑬	2 2 1 1 1	2 2 1 1 1	金沢大学 国際機構 教授 (平10.4)	
49	兼担	教授	オオカ ヒロシ 大塚 浩史 <令和3年4月>		博士 (理学)		微分積分学ⅠA 微分積分学ⅠB	1① 1②	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 数物科学系 教授 (平25.4)	
50	兼担	教授	オオヤマ カナ 大藪 加奈 <令和3年4月>		Ph. D. (英国)		English for Academic Purposes I English for Academic Purposes II English for Academic Purposes III English for Academic Purposes IV English for Academic Purposes (Retake)	1① 1①・② 1③ 1④ 2⑩・⑪・⑫・⑬	2 4 4 4 4	2 4 4 4 4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.3)	
51	兼担	教授	オノ マサキ 奥野 正幸 <令和3年4月>		理学博士		ガラスとクリスタルⅠ ガラスとクリスタルⅡ	1② 1③	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系 教授 (昭和61.8)	
52	兼担	教授	オキチ ヤスカ 垣内 康孝 <令和3年4月>		博士 (学術)		科学技術と科学方法論	1⑩・⑪・⑫・⑬	11	11	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平27.11)	
53	兼担	教授	オスミ ユキコ 数見 由紀子 <令和3年4月>		修士 (言語学)		TOEIC準備Ⅰ	1①	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.2)	
54	兼担	教授	オシロ ユウイチ 粕谷 雄一 <令和3年4月>		文学修士		フランス語B-1 フランス語B-2 フランス語C-1 フランス語C-2 ゼミ/アフリカ系人の音楽を通 じて知る現代の世界1 ゼミ/アフリカ系人の音楽を通 じて知る現代の世界2	2①・③ 2②・④ 2③ 2④ 1③ 1④	3 3 4 4 1 1	3 3 4 4 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平3.4)	
55	兼担	教授	オホノ(おの)エミコ 小林(堀井) 恵美子 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		異文化間コミュニケーション	1⑩・⑪・⑫・⑬	13	13	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平17.10)	
56	兼担	教授	オノノ ミチヲ 斎藤 峯雄 <令和3年4月>		博士 (理学)		物理学ⅠA 物理学ⅠB	1① 1②	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 数物科学系 教授 (平16.4)	
57	兼担	教授	オガミ ルコ 阪上 るり子 <令和3年4月>		Docteur de l'universite de paris- sorbonne (仏 国)		フランス語A(充実クラスⅠ- 1) フランス語A(充実クラスⅠ- 2)	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平14.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
58	兼担	教授	サカワ テツヤ 佐川 哲也 <令和3年4月>		教育学修士		地元学A(地域資源調査) 地元学B(聞き書き) ゼミ/角間の里山づくり 春編 ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1① 1② 1① 1③	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平5.4)	
59	兼担	教授	サクライ タケシ 櫻井 武 <令和3年4月>		工学博士		化学I A 化学I B 化学II A 化学II B	1① 1② 1③ 1④	2 2 1 1	2 2 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 特任教授 (平30.2)	
60	兼担	教授	サカタ シゲヤス 澤田 茂保 <令和3年4月>		博士 (情報科学)		TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.2)	
61	兼担	教授	スズキ ノブオ 鈴木 信雄 <令和3年4月>		博士 (理学)		海洋生化学演習	1①	2	1	金沢大学 環日本海域環境研究センター 教授 (平7.4)	
62	兼担	教授	タニノ タカヒサ 滝野 隆久 <令和3年4月>		博士 (医学)		細胞・分子生物学	1①・②・③・④	10	10	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平11.10)	
63	兼担	教授	タナベ ヒロシ 田邊 浩 <令和3年4月>		文学修士		地域創造学特別講義C 地域創造学特別講義D	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平9.4)	
64	兼担	教授	ツルギ シンジ 塚脇 真二 <令和3年4月>		理学博士		地学実験 英国諸島の地史I 英国諸島の地史II 環境動態学概説I 環境動態学概説II	1②~③ 1② 1③ 1③ 1④	4 1 1 1 1	2 1 1 1 1	金沢大学 環日本海域環境研究センター 教授 (平6.4)	
65	兼担	教授	ツツミ アツロウ 堤 教朗 <令和3年4月>		博士 (医学)		国際社会とボランティア	1①・②	2	2	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平28.4)	
66	兼担	教授	ナカニ トシオ 中谷 壽男 <令和3年4月>		医学博士		ひとのからだ1 ひとのからだ2 ひとのからだ3 ひとのからだ4	1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 教授 (平7.4)	
67	兼担	教授	ナム サンヨン 南 相璽 <令和3年4月>		文学修士 ※		金沢・能登と世界の地域文化 朝鮮語A1-1 朝鮮語A1-2 朝鮮語A2-1 朝鮮語A2-2 朝鮮語A3-1 朝鮮語A3-2 朝鮮語A4-1 朝鮮語A4-2 朝鮮語B-1 朝鮮語B-2 朝鮮語C-1 朝鮮語C-2	1②・③・④ 1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2①・③ 2②・④	8 3 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2 2	8 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平4.4)	
68	兼担	教授	ヒラセ ナオキ 平瀬 直樹 <令和3年4月>		博士 (文学)		日本史要説	2①~②	2	1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平8.7)	
69	兼担	教授	フカシラ ノブミ 深澤 のぞみ <令和3年4月>		博士 (学術)		アカデミック基礎日本語A アカデミック基礎日本語B	1① 1②	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平20.4)	
70	兼担	教授	フルハタ トオル 古畑 徹 <令和3年4月>		文学修士 ※		石川県の市町 金沢の歴史と文化 東洋史要説	1①~② 1③~④ 2①~②	2 2 2	1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平2.4)	
71	兼担	教授	ホライ ムサシ 堀井 祐介 <令和3年4月>		博士 (言語文化学)		道徳教育および宗教教育をグ ローバルに考える	1④	1	1	金沢大学 国際基幹教育院 高等教育開発・支援系 教授 (平16.2)	
72	兼担	教授	ホンダ ミツリ 本田 光典 <令和3年4月>		博士 (工学)		化学実験	1③~④, 2①~②	6	3	金沢大学 理工研究域 物質化学系 教授 (平4.4)	
73	兼担	教授	マツイ ミチ 松井 三枝 <令和3年4月>		博士 (医学)		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④	8	8	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平28.9)	
74	兼担	教授	ミウラ カネ 三浦 要 <令和3年4月>		博士 (文学)		哲学(自我論) ギリシア語B-1 ギリシア語B-2 ギリシア語C-1 ギリシア語C-2	1①・②・③・④ 3① 3② 3③ 3④	11 1 1 1 1	11 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平13.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
75	兼担	教授	ミネ マサシ 峯 正志 <令和3年4月>		文学修士 ※		口頭発表 I A 口頭発表 I B 日本事情 A 日本事情 B	1① 1② 1①・③ 1②・④	1 1 2 2	1 1 2 2	金沢大学 国際機構 教授 (平8.12)	
76	兼担	教授	ヤマザキ トモ 山崎 友也 <令和3年4月>		法学修士 ※		日本国憲法概説	1③	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平21.4)	
77	兼担	教授	ヨシカワ ヒロアキ 吉川 弘明 <令和3年4月>		医学博士		健康論実践D 心と体の健康A 心と体の健康B	1④ 1③ 1④	1 1 1	1 1 1	金沢大学 保健管理センター 教授 (平7.4)	
78	兼担	教授	ワカギ マチ 若槻 聡 <令和3年4月>		博士 (理学)		線形代数学 I A 線形代数学 I B	1① 1②	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 数物科学系 教授 (平18.4)	
79	兼担	准教授	イシザキ アスミ 石崎 有澄美 <令和3年4月>		博士 (医学)		ウイルス感染学 ウイルス感染学実習 国際保健学	2④ 3① 3①~②	2 0.5 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平19.1)	
80	兼担	准教授	エネミ マサヨシ 榎並 正芳 <令和3年4月>		博士 (理学)		生化学 I ※ 生化学 III ※	2①~② 2③	0.9 0.9	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平3.5)	
81	兼担	准教授	オクダ ヒロアキ 奥田 洋明 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体解剖学 ※ 人体解剖学 I ※ 人体解剖学 II ※	1① 2①~② 2①~②	0.1 0.3 0.2	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平28.4)	
82	兼担	准教授	ササキ モトコ 佐々木 素子 <令和3年4月>		博士 (医学)		人体病理学 I ※ 人体病理学 II ※	2④~③① 3②	0.5 0.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平1.12)	
83	兼担	准教授	サトウ ヤスリ 佐藤 保則 <令和3年4月>		博士 (医学)		人体病理学 II ※	3②	0.3	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平14.10)	
84	兼担	准教授	シンヨウ 洋平 新明 洋平 <令和3年4月>		博士 (工学)		神経生理学 I ※ 神経生理学 II ※ 脳神経医学 ※	2③ 2④ 2①	0.1 0.3 0.2	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平26.4)	
85	兼担	准教授	スギモト ナオト 杉本 直俊 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体機能学 ※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース) I 器官生理学 I ※ 器官生理学 II ※	1④ 2②~③① 2③ 2④	0.1 6 1 1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平7.4)	
86	兼担	准教授	デムラ マサシ 出村 昌史 <令和3年4月>		博士 (医学)		衛生学 I 衛生学 II 衛生学実習 生命・医療倫理 ※	3①~② 3③ 3①~② 2③	1.5 1.5 0.5 0.1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平20.4)	
87	兼担	准教授	トコロ マサハル 所 正治 <令和3年4月>		博士 (医学)		寄生虫学 ※ 寄生虫学実習	2④ 3①	0.5 0.5	1 1	金沢大学 先進予防医学研究センター 准教授 (平15.4)	
88	兼担	准教授	ハツリ ヲシ 服部 剛志 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体構造学 ※ 発生学 II ※	1② 2②	0.1 0.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平25.8)	
89	兼担	准教授	ハラ アキラ 原 章規 <令和3年4月>		博士 (医学)		公衆衛生学 I ※ 公衆衛生学 II	3①~② 3③	0.2 0.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平26.4)	
90	兼担	准教授	ホシチ カズヨシ 細道 一善 <令和3年4月>		博士 (畜産学)		遺伝学 I ※ 遺伝学 II ※ ゲノム解析演習 ※	2③ 2④ 3①	0.4 0.2 0.4	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平27.2)	
91	兼担	准教授	マシマ タカシ 前島 隆司 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体機能学 ※ 神経生理学 I ※ 神経生理学 II ※	1④ 2③ 2④	0.1 0.7 0.1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平25.11)	
92	兼担	准教授	ハシモト リヨシ 橋本 憲佳 <令和3年4月>		博士 (獣医学)		動物実験と再生医学 ※	2③	0.1	1	金沢大学 学際科学実験センター 准教授 (平4.4)	
93	兼担	准教授	ホシノ イチ 堀家 慎一 <令和3年4月>		博士 (生命科学)		動物実験と再生医学 ※	2③	0.2	1	金沢大学 学際科学実験センター 准教授 (平19.11)	
94	兼担	准教授	サカイ リヒコ 坂井 宣彦 <令和3年4月>		博士 (医学)		人体病理学 II ※	3②	0.3	1	金沢大学 附属病院 准教授 (平19.11)	
95	兼担	准教授	イケガ ヒロコ 池田 博子 <令和3年4月>		博士 (医学)		人体病理学 II ※	3②	0.1	1	金沢大学 附属病院 准教授 (平21.4)	
96	兼担	准教授	ヒラヤス コウキ 平安 恒幸 <令和3年4月>		博士 (保健学)		免疫学 ※	2③~④	0.7	1	金沢大学 先進予防医学研究センター 准教授 (平30.1)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
97	兼担	准教授	アサキ ヒデキ 朝倉 英策 <令和3年4月>		博士 (医学)		臨床検査学※	3③~④	0.1	1	金沢大学 附属病院 准教授 (平6.10)	
98	兼担	准教授	カイ ミチオ 酒井 佳夫 <令和3年4月>		博士 (医学)		臨床検査学※	3③~④	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平17.4)	
99	兼担	准教授	マツハラ コウタ 松原 孝祐 <令和3年4月>		博士 (保健学)		医薬保健学基礎II※	1②	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平20.4)	
100	兼担	准教授	ヤマダ ケイスケ 山田 圭輔 <令和3年4月>		博士 (医学)		生命・医療倫理※	2③	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平12.4)	
101	兼担	准教授	イトリ ミツヒロ 伊従 光洋 <令和3年4月>		博士 (歯学)		基礎分子細胞生物学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)V※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生体防御学※ 微生物学※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	1② 2④ 3③~④ 4③~④ 2③~④ 2② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.2 1 0.5 0.5 0.3 0.8 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平27.10)	
102	兼担	准教授	ウチヤマ マサヒコ 内山 正彦 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)III※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 応用有機化学II 応用有機化学演習II 有機機器分析 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	2③ 3③~④ 4③~④ 2③~④ 2④ 3③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.2 0.5 0.5 2 0.5 2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 学際科学実験センター 准教授 (平14.4)	
103	兼担	准教授	クラシ カズキ 倉石 貴透 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎生物化学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)V※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 細胞生物学※ 生命工学II※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	1① 2④ 3③~④ 4③~④ 3① 3② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.6 1 0.5 0.5 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平28.1)	
104	兼担	准教授	ササキ ヨウヘイ 佐々木 陽平 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)IV 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生薬学※ 東洋医学 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	2①,2③ 3③~④ 4③~④ 2③~④ 3④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 1.6 1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平22.8)	
105	兼担	准教授	タケノコ ユキオ 菅 幸生 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平19.10)	
106	兼担	准教授	タカハシ ヒロシ 高橋 広夫 <令和3年4月>		博士 (工学)		データサイエンス基礎 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)I※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 物理化学I 物理化学III※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	1① 2② 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.6 0.5 0.5 1 0.9 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平29.10)	
107	兼担	准教授	フジイ ヒロト 坪井 宏仁 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 病態生理学※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	3③~④ 4③~④ 2④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.5 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平23.1)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
108	兼担	准教授	トウチ 唐 寧 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅱ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2② 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 環日本海城環境研究センター 准教授 (平19.4)	
109	兼担	准教授	トリハ アキラ 鳥羽 陽 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅱ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 衛生薬学Ⅰ※ 衛生薬学Ⅱ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2② 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 0.5 1.4 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平11.6)	
110	兼担	准教授	フカミ タツキ 深見 達基 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅶ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 臨床薬物代謝化学※ 医薬品化学※ 毒性学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3① 3③~④ 4③~④ 3①~② 3④ 3④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.1 0.5 0.5 0.9 0.2 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平20.10)	
111	兼担	准教授	ヨシムラ トモキ 吉村 智之 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬品化学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2③ 3③~④ 4③~④ 3④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.2 0.5 0.5 0.8 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平27.9)	
112	兼担	准教授	ロス キヤリーメイソン ROSS GARY MABYN <令和3年4月>		Bachelor of Science with Honours of the First Class (英国)		国際医薬科学Ⅰ 国際医薬科学Ⅱ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2③ 3① 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平25.4)	
113	兼担	准教授	カサキ ミチオ 若杉 光生 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅴ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生物化学Ⅱ※ 細胞生物学※ 生命工学Ⅰ 生命工学Ⅱ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2④ 3③~④ 4③~④ 2③~④ 3① 3① 3② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 0.4 0.5 1 0.2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平14.4)	
114	兼担	准教授	アサヒ(ハシバ) アキオ 浅井(橋場) 暁子 <令和3年4月>		修士 (文学)		芸術と自己表現	1⑩・⑫・⑬・⑭	2	2	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平19.5)	
115	兼担	准教授	アサチ ユミ 足立 由美 <令和3年4月>		博士 (医学)		健康論実践E	1④	1	1	金沢大学 保健管理センター 准教授 (平18.10)	
116	兼担	准教授	アノウリク 安藤 利得 <令和3年4月>		理学博士		物理学ⅡA 物理学ⅡB	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 数物科学系 准教授 (平1.4)	
117	兼担	准教授	イノ アキラ 井出 明 <令和3年4月>		博士 (情報学)		異文化体験A 異文化体験B 異文化体験C 異文化体験D 異文化体験E 異文化体験F 異文化体験G 異文化体験H グローバル社会と地域の課題	1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑩・⑫・⑬・⑭	2 4 6 8 10 12 14 16 11	2 2 2 2 2 2 2 2 11	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)	
118	兼担	准教授	カヤマ トモキ 高山 知明 <令和3年4月>		博士 (言語学)		クリティカル・シンキング	1⑩・⑫・⑬・⑭	4	4	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平11.4)	

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
119	兼担	准教授	イナトモヒコ 井町 智彦 <令和3年4月>		博士(工学)		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ コンピュータグラフィクス演習Ⅱ プログラミング演習Ⅰ プログラミング演習Ⅱ	1③ 1④ 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 総合メディア基盤センター 准教授 (平15.10)	
120	兼担	准教授	イワサキ ヒロシ 岩崎 宏 <令和3年4月>		博士(理学)		物理の世界	1②・④	2	2	金沢大学 理工研究域 数物科学系 准教授 (平4.4)	
121	兼担	准教授	タカダ ヨシヒロ 高田 良宏 <令和3年4月>		博士(工学)		情報の科学	1①・②・③・④	18	18	金沢大学 総合メディア基盤センター 准教授 (昭59.3)	
122	兼担	准教授	オガワ ミチヒロ 小川 道大 <令和3年4月>		Ph. D. (印国)		現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④	18	18	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平28.10)	
123	兼担	准教授	オガタ ヨシコ 小田 佳子 <令和3年4月>		博士(体育学)		エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④	8	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平31.4)	
124	兼担	准教授	オギノキリ タカシ 小田桐 拓志 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.5)	
125	兼担	准教授	カワイ コウイチ 河合 晃一 <令和3年4月>		博士(公共経営)		石川県の行政	1③~④	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平28.4)	
126	兼担	准教授	キクタニ マリコ 菊谷 まり子 <令和3年4月>		Ph. D. (Psychology) (英国)		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平31.4)	
127	兼担	准教授	キムラ ヒロユキ 木村 岳裕 <令和3年4月>		博士(医学)		エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④	8	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)	
128	兼担	准教授	キヤクダシ 木矢 剛智 <令和3年4月>		博士(理学)		生物学実験	1①~②	2	1	金沢大学 理工研究域 生命理工学系 准教授 (平27.4)	
129	兼担	准教授	ウエダ ヒサオ 上田 長生 <令和3年4月>		博士(文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	3	3	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平25.7)	
130	兼担	准教授	カカワ ヒデアキ 黒川 英徳 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		論理学から見る世界 異文化体験A 異文化体験B 異文化体験C 異文化体験D 異文化体験E 異文化体験F 異文化体験G 異文化体験H	1①・②・③・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④	11 2 4 6 8 10 12 14 16	11 2 2 2 2 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平29.5)	
131	兼担	准教授	コウチ イホ 河内 幾帆 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		環境学とESD	1①・②・③・④	17	17	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.6)	
132	兼担	准教授	コジマ ヲウイチ 小島 莊一 <令和3年4月>		博士(学術)		上級読解ⅡA 上級読解ⅡB アカデミック・ライティングA アカデミック・ライティングB	1③ 1④ 1①・③ 1②・④	1 1 2 2	1 1 2 2	金沢大学 国際機構 特任准教授 (平27.4)	
133	兼担	准教授	サトウ トモコ 佐藤 朋子 <令和3年4月>		DOCTORAT (psychoses et etats limites) (仏国)		フランス語A 1-1 フランス語A 1-2 フランス語A 2-1 フランス語A 2-2 フランス語A 3-1 フランス語A 3-2 フランス語A 4-1 フランス語A 4-2 フランス語A (充実クラスⅡ-1) フランス語A (充実クラスⅡ-2)	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 3 3 2 2 4 4 1 1	2 2 3 3 2 2 4 4 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平30.4)	
134	兼担	准教授	タノガチ ヒロユキ 谷口 洋幸 <令和3年4月>		博士(法学)		人権・ジェンダー論	1②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)	
135	兼担	准教授	ヨシガキ マサミ 吉永 匡史 <令和3年4月>		博士(文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	3	3	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平成26.10)	
136	兼担	准教授	チヨウ セイ 趙 菁 <令和3年4月>		博士(文学)		中国語A 2-1 中国語A 2-2 中国語A 4-1 中国語A 4-2 中国語B-1 中国語B-2 中国語C-1 中国語C-2 中国語A (充実クラスⅡ-1) 中国語A (充実クラスⅡ-2)	1① 1② 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2③ 2④ 1③ 1④	2 2 2 2 3 2 1 1 1 1	2 2 2 2 3 2 1 1 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平14.4)	
137	兼担	准教授	ニシジマ ユイチ 西嶋 愉一 <令和3年4月>		工学修士		TOEIC準備Ⅱ TOEIC準備Ⅲ TOEIC準備Ⅳ 英語セミナー	1② 1③ 1④ 1①・②・③・④	4 4 4 4	4 4 4 4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平10.2)	



調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
138	兼担	准教授	ハカリ フミ 早川 文人 <令和3年4月>		博士 (文学)		ドイツ語A1-1 ドイツ語A1-2 ドイツ語A3-1 ドイツ語A3-2 ドイツ語A(充実クラスI-1) ドイツ語A(充実クラスI-2)	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④ 1③ 1④	3 3 3 3 1 1	3 3 3 3 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平25.10)	
139	兼担	准教授	ハラダ アイ 原田 愛 <令和3年4月>		博士 (文学)		中国語A1-1 中国語A1-2 中国語A3-1 中国語A3-2	1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平27.4)	
140	兼担	准教授	ヒラマツ(ヒラマツ)ジュンナ 平松(乗松) 潤奈 <令和3年4月>		博士 (文学)		ロシア語A1-1 ロシア語A1-2 ロシア語A2-1 ロシア語A2-2 ロシア語A3-1 ロシア語A3-2 ロシア語A4-1 ロシア語A4-2 ロシア語B-1 ロシア語B-2 ロシア語C-1 ロシア語C-2	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2①・③ 2②・④	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平24.4)	
141	兼担	准教授	フカガリ ミホ 深川 美帆 <令和3年4月>		博士 (文学)		上級読解IA 上級読解IB 日本の伝統芸能1 日本の伝統芸能2	1① 1② 1① 1②	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 国際機構 准教授 (平25.4)	
142	兼担	准教授	マツダ(シライ)マキコ 松田(白石) 真希子 <令和3年4月>		博士 (学術)		口頭発表II A 口頭発表II B	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 国際機構 准教授 (平22.4)	
143	兼担	准教授	ムラカミ ヒロシ 村上 裕 <令和3年4月>		修士 (地域政策)		現代社会における保険の制度と 役割	1③~④	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平16.4)	
144	兼担	准教授	ムラヤマ カズキ 村山 孝之 <令和3年4月>		博士 (学術)		スポーツ科学	1①・②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平20.9)	
145	兼担	准教授	ヤマタ ハルカズ 山下 治和 <令和3年4月>		法学修士		行政学の基礎	1①	2	1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平2.5)	
146	兼担	准教授	ヤマモト ヒロシ 山本 洋 <令和3年4月>		博士 (学術)		香りと日本文化	1②	1	1	金沢大学 国際機構 准教授 (平22.4)	
147	兼担	講師	マツムラ タクヒロ 松村 拓大 <令和3年4月>		博士 (医学)		細菌感染学I※ 細菌感染学II※ 細菌感染学実習	2③~④ 3① 3①	0.3 0.2 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 講師 (平28.2)	
148	兼担	講師	ヨシカ カズアキ 吉岡 和晃 <令和3年4月>		博士 (工学)		基礎人体機能学※ 器官生理学I※ 器官生理学II※	1④ 2③ 2④	0.3 0.9 0.9	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 講師 (平14.4)	
149	兼担	講師	タケモト ケンイチ 竹本 賢一 <令和3年4月>		博士 (保健学)		臨床検査学※	3③~④	0.3	1	金沢大学 附属病院 副衛生検査技師長 (平5.4)	
150	兼担	講師	カコエ ケンイチ 川越 謙一 <令和3年4月>		博士 (数理学)		数学的発想法	1①・②・③・④	6	6	金沢大学 理工研究域 数物科学系 講師 (平9.6)	
151	兼担	講師	ササキ ハツキ 佐々木 葉月 <令和3年4月>		博士 (国際公共政策)		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④	20	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (令2.3)	
152	兼担	講師	マスミユウカ 眞住 優助 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④	15	15	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (平29.10)	
153	兼担	講師	マツウラ ヨシアキ 松浦 義昭 <令和3年4月>		修士 (経営科学)		統計学から未来を見る	1①・②・③	20	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (平16.4)	
154	兼担	助教	アキ ショウ 安藝 翔 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体機能学※ 器官生理学I※ 器官生理学II※	1④ 2③ 2④	0.1 0.1 0.1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平27.7)	
155	兼担	助教	アマツ ショウ 阿松 翔 <令和3年4月>		博士 (医学)		法医学I※ 法医学II※ 法医学実習	2④ 3①~③ 3②~③	0.1 0.1 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平30.4)	
156	兼担	助教	イシカワ タツキ 石川 達也 <令和3年4月>		博士 (理学)		基礎人体解剖学※ 人体解剖学I※ 人体解剖学II※	1① 2①~② 2①~②	0.1 0.1 0.1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平30.3)	
157	兼担	助教	ウエダ アツシ 上田 篤 <令和3年4月>		博士 (医学)		動物実験と再生医学※	2③	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平27.11)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
158	兼任	助教	オヤマ ケル 尾山 武 <令和3年4月>		博士 (医学)		分子細胞病理学Ⅰ※ 分子細胞病理学Ⅱ※	2④～3① 3②	0.9 1.1	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平24.4)	
159	兼任	助教	キムラ ミ 木村 久美 <令和3年4月>		博士 (農学)		生化学Ⅱ※ 生化学Ⅳ※	2①～② 2③	0.3 1.6	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平30.5)	
160	兼任	助教	コバヤシ ノブヒ 小林 伸英 <令和3年4月>		博士 (薬科学)		細菌感染学Ⅰ※ 細菌感染学実習	2③～④ 3①	0.1 0.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平31.4)	
161	兼任	助教	サトウ タカヒ 佐藤 丈寛 <令和3年4月>		博士 (理学)		遺伝学Ⅰ※ 遺伝学Ⅱ※ ゲノム解析演習※	2③ 2④ 3①	0.2 0.4 0.4	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平27.8)	
162	兼任	助教	タニグチ ミ 寶田 美佳 <令和3年4月>		博士 (薬学)		基礎人体構造学※ 神経解剖学Ⅰ※ 神経解剖学Ⅱ※ 発生学Ⅱ※	1② 2① 2② 2②	0.1 0.1 0.3 0.1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平21.8)	
163	兼任	助教	ツルコウキ 津野 祐輔 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体機能学※ 神経生理学Ⅰ※ 神経生理学Ⅱ※	1④ 2③ 2④	0.1 0.1 0.1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平30.4)	
164	兼任	助教	ナカムラ リツコ 中村 律子 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 分子細胞病理学Ⅰ※ 分子細胞病理学Ⅱ※	2②～3① 2④～3① 3②	6 1.1 0.9	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平24.4)	
165	兼任	助教	ハラシマ アイ 原島 愛 <令和3年4月>		博士 (医学)		生化学Ⅱ※ 生化学Ⅳ※	2①～② 2③	0.3 1.6	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平25.1)	
166	兼任	助教	ヒノ ショウチン 畢 袖晴 <令和3年4月>		博士 (医学)		ウイルス感染学実習	3①	0.5	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平21.7)	
167	兼任	助教	サキ ノボミ 堀 紀代美 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体解剖学※ 人体解剖学Ⅰ※ 人体解剖学Ⅱ※	1① 2①～② 2①～②	0.1 0.1 0.1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平22.7)	
168	兼任	助教	マツモト ナオキ 松本 直之 <令和3年4月>		博士 (理学)		神経生理学Ⅱ※	2④	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平7.11)	
169	兼任	助教	モリシゲ ジュンイチ 盛重 純一 <令和3年4月>		博士 (工学)		薬理学Ⅰ※ 薬理学Ⅱ※ 薬理学実習	2③～④ 3① 3①	0.5 0.2 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平23.9)	
170	兼任	助教	ヤマノ トモヨシ 山野 友義 <令和3年4月>		博士 (理学)		免疫学※	2③～④	0.6	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平29.11)	
171	兼任	助教	ユタニ マサヒロ 油谷 雅広 <令和3年4月>		博士 (理学)		細菌感染学Ⅰ※ 細菌感染学実習	2③～④ 3①	0.1 0.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平28.2)	
172	兼任	助教	アラカワ ヒロシ 荒川 大 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3③～④ 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④	0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平28.2)	
173	兼任	助教	アンドウ ヒロカズ 安藤 広和 <令和3年4月>		博士 (創薬科学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅳ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生薬学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2①,2③ 3③～④ 4③～④ 2③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④	1 0.5 0.5 0.4 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平27.8)	
174	兼任	助教	イシガキ ナツコ 石田 奈津子 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3③～④ 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④	0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平28.10)	
175	兼任	助教	イシモト タカヒロ 石本 尚大 <令和3年4月>		博士 (創薬科学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3③～④ 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④	0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平31.3)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
176	兼任	助教	キカ タクト 黄檗 達人 <令和3年4月>		博士 (薬学)		基礎分析化学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)I※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	1③ 2② 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.4 0.9 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平21.4)	
177	兼任	助教	コモリ ヒロキズ 小森 久和 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)VII※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	3① 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平24.4)	
178	兼任	助教	サイトウ シロヘイ 齋藤 洋平 <令和3年4月>		博士 (生命科学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)III※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 天然物化学※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	2③ 3③~④ 4③~④ 3①~② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.6 0.5 0.5 0.3 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 先進予防医学研究センター 助教 (平26.4)	
179	兼任	助教	スマシロ ユウト 隅田 有人 <令和3年4月>		博士 (工学)		基礎有機反応学※ 基礎医薬合成学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)III※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 有機反応化学※ 有機金属化学※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	1③ 1④ 2③ 3③~④ 4③~④ 3①~② 3③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.1 0.2 1.1 0.5 0.5 0.1 0.1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (令1.9)	
180	兼任	助教	タムラ タカヒコ 田村 隆彦 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)V※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生物化学I※ 生体防御学※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	2④ 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 0.8 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平24.11)	
181	兼任	助教	デヤマ サトシ 出山 論司 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)VI 医薬科学特別演習 医薬科学試験 薬品作用学I※ 薬品作用学II※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	2④ 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 0.7 0.9 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平28.8)	
182	兼任	助教	カガオ カズノリ 長尾 一哲 <令和3年4月>		博士 (理学)		基礎有機反応学※ 基礎医薬合成学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)III※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 有機反応化学※ 有機金属化学※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	1③ 1④ 2③ 3③~④ 4③~④ 3①~② 3③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.1 0.1 1.1 0.5 0.5 0.3 0.1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平31.4)	
183	兼任	助教	ナガタ ユウ 長田 夕佳 <令和3年4月>		博士 (薬科学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)II 医薬科学特別演習 医薬科学試験 衛生薬学I※ 衛生薬学II※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	2② 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 0.1 0.1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平30.2)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
184	兼担	助教	ナノ マサカ 中野 正隆 <令和3年4月>		博士 (創薬科学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅶ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3① 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平30.4)	
185	兼担	助教	ニシタ ナオ 西谷 直也 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅵ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2④ 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (令2.3)	
186	兼担	助教	ホリ アキ 堀 亜紀 <令和3年4月>		博士 (創薬科学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅴ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2④ 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平30.9)	
187	兼担	助教	マスイ ヨシタ 増尾 友佑 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 薬物治療学Ⅱ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3③~④ 4③~④ 3③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.5 0.5 0.8 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平25.4)	
188	兼担	助教	シロ ケンジ 三代 憲司 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2③ 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 新学術創成研究機構 助教 (平28.1)	
189	兼担	助教	ヨシタ ナオ 吉田 直子 <令和3年4月>		博士 (臨床薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 病態生理学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3③~④ 4③~④ 2④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.5 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平21.11)	
190	兼担	助教	カネダ レイゾウ 金田 礼三 <令和3年4月>		博士 (医学)		生命・医療倫理※	2③	0.1	1	金沢大学 附属病院 助教 (平24.10)	
191	兼担	助教	ハヤシ ケン 林 研至 <令和3年4月>		博士 (医学)		臨床検査学※	3③~④	0.1	1	金沢大学 附属病院 助教 (平17.10)	
192	兼担	助教	ヒカシ トモミ 東 朋美 <令和3年4月>		博士 (医学)		生命・医療倫理※	2③	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平9.4)	
193	兼担	助教	カネ ヒロシ 金子 浩 <令和3年4月>		博士 (理学)		物理学実験	1③~④, 2①~②	8	4	金沢大学 理工研究域 数物科学系 助教 (平6.12)	
194	兼担	助教	キタムラ ケンジ 北村 健二 <令和3年4月>		Ph. D. (加国)		里山里海体験実習 in 能登 半島 里山概論	1①・② 1①・②	1 1	1 1	金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任助教 (平31.4)	
195	兼担	助教	キノタ タケ 木下 健 <令和3年4月>		博士 (医学)		細胞・分子生物学	1⑩・⑫・⑬・⑭	10	10	金沢大学 がん進展制御研究所 助教 (平10.10)	
196	兼担	助教	クラチヤンスカ ヤナ KLACANSKA JANA <令和3年4月>		Master of Arts (独国)		ドイツ語A 2-1 ドイツ語A 2-2 ドイツ語A 4-1 ドイツ語A 4-2 ドイツ語B-1 ドイツ語B-2 ドイツ語C-1 ドイツ語C-2 ドイツ語A(充実クラスII- 1) ドイツ語A(充実クラスII- 2)	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④ 2① 2② 2①・③ 2②・④ 1③ 1④	4 4 4 4 2 2 3 3 1 1	4 4 4 4 2 2 3 3 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 助教 (令1.10)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
197	兼任	助教	サト トモ 佐藤 智哉 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		地域「超」体験プログラム	1①・②・④	4	4	金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任助教 (平31.4)	
198	兼任	助教	サト リュウジ 佐藤 竜二 <令和3年4月>		修士 (人間・環境 学) ※		多民族・多文化共生の未来を探 る	1①	1	1	金沢大学 高大接続コア・センター 特任助教 (合1.8)	
199	兼任	助教	タカ ゲンゴ 田中 源吾 <令和3年4月>		博士 (理学)		地球生物圏と人間	1①・②・③・④	16	16	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平29.4)	
200	兼任	助教	ヒガシ アキラ 東 昭孝 <令和3年4月>		博士 (工学)		Pythonデータ分析入門	1③	1	1	金沢大学 総合メディア基盤センター 助教 (平27.5)	
201	兼任	助教	フリツアス ジェルミ デビッド PHILLIPPS JEREMY DAVID <令和3年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 特任助教 (平28.1)	
202	兼任	助教	ミツバ リョウジ 三橋 了爾 <令和3年4月>		博士 (理学)		化学の世界	1①・②・③・④	8	8	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平31.4)	
203	兼任	助教	モリ ヨシヒロ 森 祥寛 <令和3年4月>		博士 (理学)		クラウド時代の「ものグラミング」 概論 シェルスクリプト言語論 シェルスクリプトを用いた「も のグラミング」演習 プレゼンテーション演習A プレゼンテーション演習B 動画配信サービスを用いた情報 発信演習A 動画配信サービスを用いた情報 発信演習B Society 5.0 概論	1①~② 1①~② 1② 1③ 1④ 1① 1② 1③~④	1 1 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 総合メディア基盤センター 助教 (平19.4)	
204	兼任	助教	ユニ イルヒ 尹 一喜 <令和3年4月>		博士 (社会福祉 学)		生活と社会保障	1①・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平29.10)	
205	兼任	講師	ムラカミ マサフ 村上 学 <令和3年4月>		博士 (農学)		寄生虫学実習	3①	0.5	1	金沢医科大学 准教授 (平8.6)	
206	兼任	講師	オカワ ヨウジ 及川 陽三郎 <令和3年4月>		博士 (医学)		寄生虫学※ 寄生虫学実習	2④ 3①	0.2 0.5	1 1	金沢医科大学 嘱託講師 (昭55.4)	
207	兼任	講師	キタムラ セイコ 北村 星子 <令和3年4月>		博士 (医学)		人体病理学Ⅱ※	3②	0.2	1	芳珠記念病院 医長 (平26.4)	
208	兼任	講師	クルマヤ ヒロシ 車谷 宏 <令和3年4月>		医学士		人体病理学Ⅱ※	3②	0.3	1	石川県立中央病院 診療部長 (昭63.10)	
209	兼任	講師	ミナト ヒロシ 湊 宏 <令和3年4月>		博士 (医学)		人体病理学Ⅱ※	3②	0.3	1	石川県立中央病院 診療部長 (平29.7)	
210	兼任	講師	オカザキ トシユキ 岡澤 孝雄 <令和3年4月>		博士 (理学)		寄生虫学※ 寄生虫学実習	2④ 3①	0.3 0.5	1 1	元 金沢大学留学生センター 教授 (平24.3まで)	
211	兼任	講師	イノウエ カミ 井上 克己 <令和3年4月>		理学博士		統計数学A 統計数学B	1③ 1④	2 2	2 2	元 金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平29.3まで)	
212	兼任	講師	エダムラ ショウヘイ 枝村 祥平 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		ラテン語B-1 ラテン語B-2 ラテン語C-1 ラテン語C-2	3① 3② 3③ 3④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢星稜大学 教養教育部 教授 (平28.4)	
213	兼任	講師	オオタニ ソニア 雄谷 ソニア 啓子 <令和3年4月>		マドリード工 芸大学大学院 建築学専攻修 了		スペイン語A1-1 スペイン語A1-2 スペイン語A2-1 スペイン語A2-2 スペイン語A3-1 スペイン語A3-2 スペイン語A4-1 スペイン語A4-2 スペイン語B-1 スペイン語B-2 スペイン語C-1 スペイン語C-2	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	北國新聞文化センター 講師(スペイン語) (平17.10)	
214	兼任	講師	オノミ ヒロシ 細見 博志 <令和3年4月>		文学修士		ラテン語A1-1 ラテン語A1-2 ラテン語A2-1 ラテン語A2-2 ラテン語A3-1 ラテン語A3-2 ラテン語A4-1 ラテン語A4-2	1① 1② 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	元 金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系特任 教授 (平30.3まで)	

教員の氏名等													角間キャンパス
(医薬保健学域 医薬科学類)													
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	
1	専	教授	タノマ アツシ 田嶋 敦 <令和3年4月>		博士(理学)		医薬保健学基礎Ⅰ※ 医薬保健学基礎Ⅱ※ 医薬科学研究者入門※ 医薬科学基礎実習 医薬科学特別演習 医薬科学試験	1① 1② 1④ 2① 3③~④ 4③~④	0.7 0.4 0.3 1 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平26.9)	5日	
2	専	教授	ノヤマ 時利 華山 力成 <令和3年4月>		博士(医学)		医薬科学研究者入門※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験	1④ 3③~④ 4③~④	0.3 0.5 0.5	1 1 1	金沢大学 ナノ生命科学研究所 教授 (平27.6)	5日	
3	専	教授	マオ ジュンイチ 松尾 淳一 <令和3年4月>		博士(薬学)		医薬保健学基礎Ⅰ※ 医薬保健学基礎Ⅱ※ 医薬科学英語Ⅰ 基礎医薬化学※ 医薬科学研究者入門※ 医薬科学研究者養成Ⅰ 医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 応用有機化学Ⅰ 応用有機化学演習Ⅰ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1① 1② 2① 1② 1④ 2①~④ 2③ 3① 3③~④ 4③~④ 2① 2② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.3 0.4 1 0.4 0.1 1 1.2 0.5 0.5 2 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平17.9)	5日	
4	専	教授(医薬科学類長)	マツカガ ヲササ 松永 司 <令和3年4月>		博士(薬学)		大学・社会生活論 医薬科学英語Ⅰ 基礎分子細胞生物学※ 医薬科学研究者入門※ 医薬科学研究者養成Ⅱ 医薬科学基礎実習 医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅴ※ 医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生物化学Ⅱ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1① 2① 1② 1④ 3①~④ 2① 2④ 3① 3③~④ 4③~④ 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 1 0.5 0.1 1 1 1 0.5 0.5 1.6 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平2.12)	5日	
5	専	准教授	オホカ イカズヒロ 大貝 和裕 <令和3年4月>		博士(保健学)		医薬科学イノベーション概論 医薬科学特別演習 医薬科学試験	1③ 3③~④ 4③~④	1 0.5 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平25.11)	5日	
6	専	准教授	ゴトウ キヨコ 後藤 享子 <令和3年4月>		博士(薬学)		初学者ゼミⅠ 医薬科学英語Ⅱ 基礎医薬合成学※ 医薬科学先端領域特論 医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 天然物化学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1① 2② 1④ 3②~④④ 2③ 3③~④ 4③~④ 3①~② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 1 0.4 1 0.6 0.5 0.5 1.7 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平24.4)	5日	
7	専	准教授	シロカ ヨシユキ 白坂 善之 <令和3年4月>		博士(薬学)		プレゼン・ディベート論(初学者ゼミⅡ) 医薬科学英語Ⅱ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1② 2② 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (令2.4)	5日	
8	専	講師	ナガタ ナト 長田 直人 <令和3年4月>		博士(薬学)		初学者ゼミⅠ プレゼン・ディベート論(初学者ゼミⅡ) 医薬科学特別演習 医薬科学試験	1① 1② 3③~④ 4③~④	1 1 0.5 0.5	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 講師 (平24.10)	5日	
9	専	助教	イシイ ヒロシ 石井 宏史 <令和3年4月>		博士(医学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験	3③~④ 4③~④	0.5 0.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平27.8)	5日	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 適当たり平均 日数
10	専	助教	フクギ シュウイチ 福吉 修一 <令和3年4月>		博士 (薬学)		初學者ゼミⅠ プレゼン・ディベート論(初學者ゼミⅡ) 基礎分析化学※ 医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅰ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 物理化学Ⅱ 物理化学Ⅲ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1① 1② 1③ 2② 3③~④ 4③~④ 2② 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 1 0.1 0.6 0.5 0.5 1 1.1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平19.4)	5日
11	専	助教	キナシ セイイチ 棟居 聖一 <令和3年4月>		博士 (生物工学)		基礎生物化学※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験	1① 3③~④ 4③~④	0.4 0.5 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平19.4)	5日
13	兼任	教授	オノキ ノリキ 尾崎 紀之 <令和3年4月>		博士 (医学)		大学・社会生活論	1①	1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平21.5)	
15	兼任	教授	クニマツト 倉和 慎 <令和3年4月>		博士 (医学)		地域概論	1①~②	1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平30.9)	
17	兼任	教授	ナカムラ ヒロユキ 中村 裕之 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬保健学基礎Ⅱ※	1②	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平19.1)	
23	兼任	教授	ヤマモト ヒロコ 山本 靖彦 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬保健学基礎Ⅱ※	1②	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平11.4)	
24	兼任	教授	ワタライ ヒロシ 渡会 浩志 <令和3年4月>		博士 (医学)		データサイエンス基礎	1①	1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (令1.6)	
25	兼任	教授	ヨシタ カン 米田 隆 <令和3年4月>		博士 (医学)		健康科学 イノベーションを起こして、起業家になろう2 イノベーションを起こして、起業家になろう4 医薬科学イノベーション概論	1⑩・⑪・⑫・⑬ 1② 1④ 1③	15 1 1 1	15 1 1 1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平29.10)	
29	兼任	教授	イシザキ ジュンコ 石崎 純子 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 生命・医療倫理※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3③~④ 4③~④ 2③ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.5 0.5 0.2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平17.4)	
30	兼任	教授	オオミヤ ヒロユキ 大宮 寛久 <令和3年4月>		博士 (工学)		基礎有機反応学※ 基礎医薬合成学※ 医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 有機反応化学※ 有機金属化学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1③ 1④ 2③ 3① 3③~④ 4③~④ 3①~② 3③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.8 0.3 1.1 0.5 0.5 1.6 1.8 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平29.4)	
31	兼任	教授	オガワ カズマ 小川 数馬 <令和3年4月>		博士 (薬学)		基礎分析化学※ 医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅰ※ 医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅷ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 分析化学 無機薬化学※ 臨床検査学※ 放射薬品学 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1③ 2② 3① 3③~④ 4③~④ 2① 2② 3③~④ 3④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4①~② 4③~④	0.5 0.9 0.5 0.5 2 1 1.3 1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 新学術創成研究機構 教授 (平16.2)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 適当たり平均 日 数
32	兼担	教授	カノウ コキ 加藤 将夫 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 3① 医薬科学特別演習 3③~④ 医薬科学試験 4③~④ 薬物治療学Ⅰ 3①~② 薬物治療学Ⅱ※ 3③~④ 医薬科学研究Ⅰ 3②~④ 医薬科学研究Ⅱ 4①~② 医薬科学研究Ⅲ 4③~④ 医薬科学演習Ⅰ 3②~④ 医薬科学演習Ⅱ 4①~② 医薬科学演習Ⅲ 4③~④	0.5 0.5 0.5 2 1.2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平14.6)		
33	兼担	教授	カネダ カツキ 金田 勝幸 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 3① 医薬科学特別演習 3③~④ 医薬科学試験 4③~④ 薬品作用学Ⅰ※ 2① 薬品作用学Ⅱ※ 2③~④ 医薬科学研究Ⅰ 3②~④ 医薬科学研究Ⅱ 4①~② 医薬科学研究Ⅲ 4③~④ 医薬科学演習Ⅰ 3②~④ 医薬科学演習Ⅱ 4①~② 医薬科学演習Ⅲ 4③~④	0.5 0.5 0.5 1.3 1.1 2.5 3 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平27.4)		
34	兼担	教授	クニシマ ムネカ 國嶋 崇隆 <令和3年4月>		薬学博士		物理有機化学 1① 基礎医薬化学※ 1② 医薬科学研究者入門※ 1④ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅲ※ 2③ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 3① 医薬科学特別演習 3③~④ 医薬科学試験 4③~④ 生物有機化学 3①~② 医薬科学研究Ⅰ 3②~④ 医薬科学研究Ⅱ 4①~② 医薬科学研究Ⅲ 4③~④ 医薬科学演習Ⅰ 3②~④ 医薬科学演習Ⅱ 4①~② 医薬科学演習Ⅲ 4③~④	1 0.6 0.1 1.1 0.5 0.5 0.5 2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平20.3)		
35	兼担	教授	スズキ リョウ 鈴木 亮 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅱ 2② 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 3① 医薬科学特別演習 3③~④ 医薬科学試験 4③~④ 衛生薬学Ⅰ※ 2① 衛生薬学Ⅱ※ 2③~④ 生体防御学※ 2③~④ 生命工学Ⅱ※ 3② 医薬科学研究Ⅰ 3②~④ 医薬科学研究Ⅱ 4①~② 医薬科学研究Ⅲ 4③~④ 医薬科学演習Ⅰ 3②~④ 医薬科学演習Ⅱ 4①~② 医薬科学演習Ⅲ 4③~④	1 0.5 0.5 1.4 0.5 0.7 0.3 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平29.4)		
36	兼担	教授	タニ イキ 玉井 郁巳 <令和3年4月>		薬学博士		アントレプレナーシップⅠ 1① 実践アントレプレナー学 1③ コーヒーと社会 1③ コーヒーと科学 1④ 医薬科学研究者入門※ 1④ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅶ※ 3① 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 3① 医薬科学特別演習 3③~④ 医薬科学試験 4③~④ 薬剤学Ⅰ 2③~④ 薬剤学Ⅱ 3①~② 製剤学※ 3①~② 医薬科学研究Ⅰ 3②~④ 医薬科学研究Ⅱ 4①~② 医薬科学研究Ⅲ 4③~④ 医薬科学演習Ⅰ 3②~④ 医薬科学演習Ⅱ 4①~② 医薬科学演習Ⅲ 4③~④	1 1 1 1 0.1 1.1 0.5 0.5 0.5 2 1.2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (昭62.4)		
37	兼担	教授	カシマ ミキ 中嶋 美紀 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅶ※ 3① 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅷ 3① 医薬科学特別演習 3③~④ 医薬科学試験 4③~④ 臨床薬物代謝化学※ 3①~② 毒性学※ 3④ 創薬科学海外AL実習Ⅰ 2①~④ 創薬科学海外AL実習Ⅱ 2①~④ 医薬科学研究Ⅰ 3②~④ 医薬科学研究Ⅱ 4①~② 医薬科学研究Ⅲ 4③~④ 医薬科学演習Ⅰ 3②~④ 医薬科学演習Ⅱ 4①~② 医薬科学演習Ⅲ 4③~④	1.1 0.5 0.5 0.5 1.1 0.5 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 ナノ生命科学研究所 教授 (平9.8)		



調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 適当たり平均 日 数
38	兼担	教授	マツタ リョウ 松下 良 <令和3年4月>		博士 (薬学)		地域概論 医薬保健学基礎Ⅰ※ 医薬保健学基礎Ⅱ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試問 製剤学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1①~② 1① 1② 3③~④ 4③~④ 3①~② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.7 0.3 0.5 0.5 0.8 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平9.4)	
39	兼担	教授	ヨシタ シノブ 吉田 栄人 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎分子細胞生物学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)V※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)VIII 医薬科学特別演習 医薬科学試問 生物化学Ⅰ※ 生体防御学※ 微生物学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1② 2④ 3① 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 2② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.3 1 0.5 0.5 0.5 1.2 0.5 0.2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平22.10)	
40	兼担	教授	タニガチ タカミ 谷口 巧 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬保健学基礎Ⅱ※	1②	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平9.11)	
44	兼担	教授	アキタ ジュンイチ 秋田 純一 <令和3年4月>		博士 (工学)		イノベーションを起こして、起 業家になろう1 イノベーションを起こして、起 業家になろう3	1① 1③	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 電子情報通信学系 教授 (平10.4)	
45	兼担	教授	イノコウジ 入江 浩司 <令和3年4月>		修士 (文学) ※		ギリシア語A1-1 ギリシア語A1-2 ギリシア語A2-1 ギリシア語A2-2 ギリシア語A3-1 ギリシア語A3-2 ギリシア語A4-1 ギリシア語A4-2	1① 1② 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平11.4)	
46	兼担	教授	ウエダ ナツム 上田 望 <令和3年4月>		博士 (文学)		グローバル時代の文学	1⑩・⑪・⑫・⑬・⑭	14	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平9.7)	
47	兼担	教授	ウツノ フミオ 宇野 文夫 <令和3年4月>		法学士		ジャーナリズム論 世界農業遺産「能登の里山里 海」とSDGsを考察するスタ ディ・ツアー	1④ 1①・②	1 1	1 1	金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任教授 (平31.4)	
48	兼担	教授	オオタ アキラ 太田 亨 <令和3年4月>		修士 (文学)		講義の聴解A 講義の聴解B 日本語で学ぶ論理A 日本語で学ぶ論理B 異文化理解のためのビデオ会議 ディスカッション	1①・③ 1②・④ 1③ 1④ 1③	2 2 1 1 1	2 2 1 1 1	金沢大学 国際機構 教授 (平10.4)	
49	兼担	教授	オオカ ヒロシ 大塚 浩史 <令和3年4月>		博士 (理学)		微分積分学ⅠA 微分積分学ⅠB	1① 1②	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 数物科学系 教授 (平25.4)	
50	兼担	教授	オオバウ カナ 大藪 加奈 <令和3年4月>		Ph. D. (英国)		English for Academic Purposes I English for Academic Purposes II English for Academic Purposes III English for Academic Purposes IV English for Academic Purposes (Retake)	1① 1①・② 1③ 1④ 1⑩・⑪・⑫・⑬・⑭	2 4 4 4 4	2 4 4 4 4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.3)	
51	兼担	教授	オノ マサキ 奥野 正幸 <令和3年4月>		理学博士		ガラスとクリスタルⅠ ガラスとクリスタルⅡ	1② 1③	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系 教授 (昭和61.8)	
52	兼担	教授	オノケチ ヤスカ 垣内 康孝 <令和3年4月>		博士 (学術)		科学技術と科学方法論	1⑩・⑪・⑫・⑬・⑭	11	11	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平27.11)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 適当なり平均 日 数
53	兼担	教授	カミ ヌキコ 数見 由紀子 <令和3年4月>		修士 (言語学)		TOEIC準備 I	1①	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.2)	
54	兼担	教授	カサ ユウイチ 粕谷 雄一 <令和3年4月>		文学修士		フランス語B-1 フランス語B-2 フランス語C-1 フランス語C-2 ゼミ/アフリカ系人の音楽を通 じて知る現代の世界1 ゼミ/アフリカ系人の音楽を通 じて知る現代の世界2	2①・③ 2②・④ 2③ 2④ 1③ 1④	3 3 4 4 1 1	3 3 4 4 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平3.4)	
55	兼担	教授	コハヤシ(ホリ)エミコ 小林(堀井)恵美子 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④	13	13	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平17.10)	
56	兼担	教授	サイトウ ミチ 斎藤 肇雄 <令和3年4月>		博士 (理学)		物理学I A 物理学I B	1① 1②	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 数物科学系 教授 (平16.4)	
57	兼担	教授	カガミ ルコ 阪上 るり子 <令和3年4月>		Docteur de l'universite de paris- sorbonne(仏 国)		フランス語A(充実クラスI- 1) フランス語A(充実クラスI- 2)	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平14.4)	
58	兼担	教授	サカワ テツヤ 佐川 哲也 <令和3年4月>		教育学修士		地元学A(地域資源調査) 地元学B(聞き書き) ゼミ/角間の里山づくり 春編 ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1① 1② 1① 1③	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平5.4)	
59	兼担	教授	サクライ タケ 櫻井 武 <令和3年4月>		工学博士		化学I A 化学I B 化学II A 化学II B	1① 1② 1③ 1④	2 2 1 1	2 2 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 特任教授 (平30.2)	
60	兼担	教授	サワダ シゲヤス 澤田 茂保 <令和3年4月>		博士 (情報科学)		TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.2)	
61	兼担	教授	スズキ ノブオ 鈴木 信雄 <令和3年4月>		博士 (理学)		海洋生化学演習	1①	2	1	金沢大学 環日本海域環境研究センター 教授 (平7.4)	
62	兼担	教授	タニノ カサヒ 滝野 隆久 <令和3年4月>		博士 (医学)		細胞・分子生物学	1①・②・③・④	10	10	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平11.10)	
63	兼担	教授	タナベ ヒロシ 田邊 浩 <令和3年4月>		文学修士		地域創造学特別講義C 地域創造学特別講義D	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平9.4)	
64	兼担	教授	ツカサキ シンジ 塚脇 真二 <令和3年4月>		理学博士		地学実験 英国諸島の地史I 英国諸島の地史II 環境動態学概説I 環境動態学概説II	1②~③ 1② 1③ 1③ 1④	4 1 1 1 1	2 1 1 1 1	金沢大学 環日本海域環境研究センター 教授 (平6.4)	
65	兼担	教授	ツツミ アツシ 堤 敦朗 <令和3年4月>		博士 (医学)		国際社会とボランティア	1①・②	2	2	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平28.4)	
66	兼担	教授	ナカノ トシオ 中谷 壽男 <令和3年4月>		医学博士		ひとのからだ1 ひとのからだ2 ひとのからだ3 ひとのからだ4	1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 教授 (平7.4)	
67	兼担	教授	ナム サンヨン 南 相璽 <令和3年4月>		文学修士 ※		金沢・能登と世界の地域文化 朝鮮語A1-1 朝鮮語A1-2 朝鮮語A2-1 朝鮮語A2-2 朝鮮語A3-1 朝鮮語A3-2 朝鮮語A4-1 朝鮮語A4-2 朝鮮語B-1 朝鮮語B-2 朝鮮語C-1 朝鮮語C-2	1②・③・④ 1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2①・③ 2②・④	8 3 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2 2	8 3 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平4.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
68	兼担	教授	ヒラノ ナオキ 平瀬 直樹 <令和3年4月>		博士 (文学)		日本史要説	2①~②	2	1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平8.7)	
69	兼担	教授	フカサ ノブミ 深澤 のぞみ <令和3年4月>		博士 (学術)		アカデミック基礎日本語A アカデミック基礎日本語B	1① 1②	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平20.4)	
70	兼担	教授	フカサ トオル 古畑 徹 <令和3年4月>		文学修士 ※		石川県の市町 金沢の歴史と文化 東洋史要説	1①~② 1③~④ 2①~②	2 2 2	1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平2.4)	
71	兼担	教授	ホリ ユウスケ 堀井 祐介 <令和3年4月>		博士 (言語文化 学)		道徳教育および宗教教育をグ ローバルに考える	1④	1	1	金沢大学 国際基幹教育院 高等教育開発・支援系 教授 (平16.2)	
72	兼担	教授	ホンダ ミツリ 本田 光典 <令和3年4月>		博士 (工学)		化学実験	1③~④, 2①~②	6	3	金沢大学 理工研究域 物質化学系 教授 (平4.4)	
73	兼担	教授	マツイ ミエ 松井 三枝 <令和3年4月>		博士 (医学)		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④	8	8	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平28.9)	
74	兼担	教授	ミヅウ カネ 三浦 要 <令和3年4月>		博士 (文学)		哲学(自我論) ギリシア語B-1 ギリシア語B-2 ギリシア語C-1 ギリシア語C-2	1⑩・⑪・⑫・⑬ 3① 3② 3③ 3④	11 1 1 1 1	11 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平13.4)	
75	兼担	教授	ミネ マサシ 峯 正志 <令和3年4月>		文学修士 ※		口頭発表 I A 口頭発表 I B 日本事情 A 日本事情 B	1① 1② 1①・③ 1②・④	1 1 2 2	1 1 2 2	金沢大学 国際機構 教授 (平8.12)	
76	兼担	教授	ヤマギキ トモキ 山崎 友也 <令和3年4月>		法学修士 ※		日本国憲法概説	1③	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平21.4)	
77	兼担	教授	ヨシカ ヒロアキ 吉川 弘明 <令和3年4月>		医学博士		健康論実践D 心と体の健康A 心と体の健康B	1④ 1③ 1④	1 1 1	1 1 1	金沢大学 保健管理センター 教授 (平7.4)	
78	兼担	教授	ワカサ サトシ 若槻 聡 <令和3年4月>		博士 (理学)		線形代数学 I A 線形代数学 I B	1① 1②	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 数物科学系 教授 (平18.4)	
99	兼担	准教授	マツバラ コウスケ 松原 孝祐 <令和3年4月>		博士 (保健学)		医薬保健学基礎II※	1②	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平20.4)	
101	兼担	准教授	イトリ ミツヒロ 伊従 光洋 <令和3年4月>		博士 (歯学)		基礎分子細胞生物学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)V※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生体防御学※ 微生物学※ 医薬科学研究 I 医薬科学研究 II 医薬科学研究 III 医薬科学演習 I 医薬科学演習 II 医薬科学演習 III	1② 2④ 3③~④ 4③~④ 2③~④ 2② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 4③~④	0.2 1 0.5 0.5 0.3 0.8 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平27.10)	
102	兼担	准教授	ウチヤマ マサヒコ 内山 正彦 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)III※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 応用有機化学II 応用有機化学演習 II 有機機器分析 医薬科学研究 I 医薬科学研究 II 医薬科学研究 III 医薬科学演習 I 医薬科学演習 II 医薬科学演習 III	2③ 3③~④ 4③~④ 2③~④ 2④ 3③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.2 0.5 0.5 2 0.5 2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 学際科学実験センター 准教授 (平14.4)	
103	兼担	准教授	クラシ カズキ 倉石 貴透 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎生物学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)V※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 細胞生物学※ 生命工学II※ 医薬科学研究 I 医薬科学研究 II 医薬科学研究 III 医薬科学演習 I 医薬科学演習 II 医薬科学演習 III	1① 2④ 3③~④ 4③~④ 3① 3② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.6 1 0.5 0.5 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平28.1)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
104	兼担	准教授	サキ ヲハイ 佐々木 陽平 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)IV 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生薬学※ 東洋医学 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2①, 2③ 3③~④ 4③~④ 2③~④ 3④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 1.6 1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平22. 8)	
105	兼担	准教授	スダ ユキオ 菅 幸生 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平19. 10)	
106	兼担	准教授	タカハシ ヒロオ 高橋 広夫 <令和3年4月>		博士 (工学)		データサイエンス基礎 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅰ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 物理化学Ⅰ 物理化学Ⅲ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	1① 2② 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.6 0.5 0.5 1 0.9 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平29. 10)	
107	兼担	准教授	フカイ ヒロト 坪井 宏仁 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 病態生理学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3③~④ 4③~④ 2④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.5 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平23. 1)	
108	兼担	准教授	トウ シ 唐 寧 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅱ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2② 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 環日本海域環境研究センター 准教授 (平19. 4)	
109	兼担	准教授	トリバ アキラ 鳥羽 陽 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅱ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 衛生薬学Ⅰ※ 衛生薬学Ⅱ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2② 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 0.5 1.4 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平11. 6)	
110	兼担	准教授	フカミ タツキ 深見 達基 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅶ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 臨床薬物代謝化学※ 医薬品化学※ 毒性学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3① 3③~④ 4③~④ 3①~② 3④ 3④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.1 0.5 0.5 0.9 0.2 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平20. 10)	
111	兼担	准教授	ヨシムラ トモキ 吉村 智之 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬品化学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2③ 3③~④ 4③~④ 3④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.2 0.5 0.5 0.8 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平27. 9)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
112	兼担	准教授	ロスギヤリメバYN ROSS GARY MABYN <令和3年4月>		Bachelor of Science with Honours of the First Class (英国)		国際医薬科学Ⅰ 国際医薬科学Ⅱ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2③ 3① 3③～④ 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④ 3②～④ 4①～② 4③～④	1 1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平25.4)	
113	兼担	准教授	カシミツオ 若杉 光生 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)V※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生物化学Ⅱ※ 細胞生物学※ 生命工学Ⅰ 生命工学Ⅱ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2④ 3③～④ 4③～④ 2③～④ 3① 3① 3② 3②～④ 4①～② 4③～④ 4③～④ 3②～④ 4①～② 4①～② 4③～④	1 0.5 0.5 0.4 0.5 1 0.2 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授 (平14.4)	
114	兼担	准教授	アサヒハコ 浅井(橋場) 暁子 <令和3年4月>		修士 (文学)		芸術と自己表現	1⑩・②・③・④	2	2	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平19.5)	
115	兼担	准教授	アサチユミ 足立 由美 <令和3年4月>		博士 (医学)		健康論実践E	1④	1	1	金沢大学 保健管理センター 准教授 (平18.10)	
116	兼担	准教授	アノウリク 安藤 利得 <令和3年4月>		理学博士		物理学ⅡA 物理学ⅡB	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 数物科学系 准教授 (平1.4)	
117	兼担	准教授	イデアキラ 井出 明 <令和3年4月>		博士 (情報学)		異文化体験A 異文化体験B 異文化体験C 異文化体験D 異文化体験E 異文化体験F 異文化体験G 異文化体験H グローバル社会と地域の課題	1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑩・②・③・④	2 4 6 8 10 12 14 16 11	2 2 2 2 2 2 2 2 11	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)	
118	兼担	准教授	カヤマトモキ 高山 知明 <令和3年4月>		博士 (言語学)		クリティカル・シンキング	1⑩・②・③・④	4	4	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平11.4)	
119	兼担	准教授	イマトモヒコ 井町 智彦 <令和3年4月>		博士 (工学)		コンピュータグラフィクス演習 Ⅰ コンピュータグラフィクス演習 Ⅱ プログラミング演習Ⅰ プログラミング演習Ⅱ	1③ 1④ 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 総合メディア基盤センター 准教授 (平15.10)	
120	兼担	准教授	イワキヒロシ 岩崎 宏 <令和3年4月>		博士 (理学)		物理の世界	1⑫・④	2	2	金沢大学 理工研究域 数物科学系 准教授 (平4.4)	
121	兼担	准教授	カカシヒロ 高田 良宏 <令和3年4月>		博士 (工学)		情報の科学	1⑩・②・③・④	18	18	金沢大学 総合メディア基盤センター 准教授 (昭59.3)	
122	兼担	准教授	カワミヒロ 小川 道大 <令和3年4月>		Ph. D. (印国)		現代世界への歴史的アプローチ	1⑩・②・③・④	18	18	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平28.10)	
123	兼担	准教授	カノヨシコ 小田 佳子 <令和3年4月>		博士 (体育学)		エクササイズ&スポーツ 実技	1⑩・②・③・④	8	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平31.4)	
124	兼担	准教授	カノキリカク 小田桐 拓志 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		ケーススタディによる応用倫理 学	1⑩・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.5)	
125	兼担	准教授	カワイコウイチ 河合 晃一 <令和3年4月>		博士 (公共経営)		石川県の行政	1③～④	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平28.4)	
126	兼担	准教授	カクニマコ 菊谷 まり子 <令和3年4月>		Ph. D. (Psychology) (英国)		パーソナリティ心理学	1⑩・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平31.4)	
127	兼担	准教授	キムラカヒロ 木村 岳裕 <令和3年4月>		博士 (医学)		エクササイズ&スポーツ 実技	1⑩・②・③・④	8	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)	
128	兼担	准教授	キヤクシ 木矢 剛智 <令和3年4月>		博士 (理学)		生物学実験	1①～②	2	1	金沢大学 理工研究域 生命理工学系 准教授 (平27.4)	
129	兼担	准教授	ウエダヒサオ 上田 長生 <令和3年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	3	3	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平25.7)	
130	兼担	准教授	カカヒデノリ 黒川 英徳 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		論理学から見る世界 異文化体験A 異文化体験B 異文化体験C 異文化体験D 異文化体験E 異文化体験F 異文化体験G 異文化体験H	1⑩・②・③・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④ 1⑫・④	11 2 4 6 8 10 12 14 16	11 2 2 2 2 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平29.5)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
131	兼担	准教授	コウチ イホ 河内 幾帆 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		環境学とESD	10・②・③・④	17	17	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.6)	
132	兼担	准教授	コジマ ヲウイチ 小島 莊一 <令和3年4月>		博士 (学術)		上級読解II A 上級読解II B アカデミック・ライティングA アカデミック・ライティングB	1③ 1④ 1①・③ 1②・④	1 1 2 2	1 1 2 2	金沢大学 国際機構 特任准教授 (平27.4)	
133	兼担	准教授	サトウ トモ 佐藤 朋子 <令和3年4月>		DOCTORAT (psychoses et etats limites) (仏国)		フランス語A 1-1 フランス語A 1-2 フランス語A 2-1 フランス語A 2-2 フランス語A 3-1 フランス語A 3-2 フランス語A 4-1 フランス語A 4-2 フランス語A (充実クラスII-1) フランス語A (充実クラスII-2)	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 3 3 2 2 4 4 1 1	2 2 3 3 2 2 4 4 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平30.4)	
134	兼担	准教授	タケグチ ヒロキ 谷口 洋幸 <令和3年4月>		博士 (法学)		人権・ジェンダー論	1②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)	
135	兼担	准教授	ヨシカミ マサヒ 吉永 匡史 <令和3年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	3	3	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平成26.10)	
136	兼担	准教授	チヨウ セイ 趙 菁 <令和3年4月>		博士 (文学)		中国語A 2-1 中国語A 2-2 中国語A 4-1 中国語A 4-2 中国語B-1 中国語B-2 中国語C-1 中国語C-2 中国語A (充実クラスII-1) 中国語A (充実クラスII-2)	1① 1② 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2③ 2④ 1③ 1④	2 2 2 2 3 2 1 1 1 1	2 2 2 2 3 2 1 1 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平14.4)	
137	兼担	准教授	ニシジマ ユウイチ 西嶋 愉一 <令和3年4月>		工学修士		TOEIC準備 II TOEIC準備 III TOEIC準備 IV 英語セミナー	1② 1③ 1④ 10・②・③・④	4 4 4 4	4 4 4 4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平10.2)	
138	兼担	准教授	ハヤカワ フミト 早川 文人 <令和3年4月>		博士 (文学)		ドイツ語A 1-1 ドイツ語A 1-2 ドイツ語A 3-1 ドイツ語A 3-2 ドイツ語A (充実クラスI-1) ドイツ語A (充実クラスI-2)	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④ 1③ 1④	3 3 3 3 1 1	3 3 3 3 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平25.10)	
139	兼担	准教授	ハラダ アイ 原田 愛 <令和3年4月>		博士 (文学)		中国語A 1-1 中国語A 1-2 中国語A 3-1 中国語A 3-2	1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平27.4)	
140	兼担	准教授	ヒラマツ(リマツ)ジュンナ 平松(乗松) 潤奈 <令和3年4月>		博士 (文学)		ロシア語A 1-1 ロシア語A 1-2 ロシア語A 2-1 ロシア語A 2-2 ロシア語A 3-1 ロシア語A 3-2 ロシア語A 4-1 ロシア語A 4-2 ロシア語B-1 ロシア語B-2 ロシア語C-1 ロシア語C-2	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2①・③ 2②・④	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平24.4)	
141	兼担	准教授	フカガミ ミホ 深川 美帆 <令和3年4月>		博士 (文学)		上級読解I A 上級読解I B 日本の伝統芸能1 日本の伝統芸能2	1① 1② 1① 1②	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 国際機構 准教授 (平25.4)	
142	兼担	准教授	マツダ(シライ)マキコ 松田(白石) 真希子 <令和3年4月>		博士 (学術)		口頭発表II A 口頭発表II B	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 国際機構 准教授 (平22.4)	
143	兼担	准教授	ムラサキ ヒロシ 村上 裕 <令和3年4月>		修士 (地域政策)		現代社会における保険の制度と 役割	1③~④	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平16.4)	
144	兼担	准教授	ムラヤマ カズキ 村山 孝之 <令和3年4月>		博士 (学術)		スポーツ科学	10・②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平20.9)	
145	兼担	准教授	ヤマノタ ハルカズ 山下 治和 <令和3年4月>		法学修士		行政学の基礎	1①	2	1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平2.5)	
146	兼担	准教授	ヤマモト ヒロシ 山本 洋 <令和3年4月>		博士 (学術)		香りと日本文化	1②	1	1	金沢大学 国際機構 准教授 (平22.4)	
150	兼担	講師	カゴエ ケンイチ 川越 謙一 <令和3年4月>		博士 (数理学)		数学的発想法	10・②・③・④	6	6	金沢大学 理工研究域 数物科学系 講師 (平9.6)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
151	兼担	講師	ササキ ハツキ 佐々木 葉月 <令和3年4月>		博士 (国際公共政策)		グローバル時代の政治経済学	10・20・30・40	20	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (令2.3)	
152	兼担	講師	マシムコウカ 眞住 優助 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		グローバル時代の社会学	10・20・30・40	15	15	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (平29.10)	
153	兼担	講師	マツウラ ヨシアキ 松浦 義昭 <令和3年4月>		修士 (経営科学)		統計学から未来を見る	10・20・30	20	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (平16.4)	
172	兼担	助教	アワカ ヒロシ 荒川 大 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	33~44 43~44 32~44 41~22 43~44 32~44 41~22 43~44	0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平28.2)	
173	兼担	助教	アントウ ヒロカズ 安藤 広和 <令和3年4月>		博士 (創薬科学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅳ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生薬学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	21,23 33~44 43~44 23~44 32~44 41~22 43~44 32~44 41~22 43~44	1 0.5 0.5 0.4 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平27.8)	
174	兼担	助教	イシガ ナツコ 石田 奈津子 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	33~44 43~44 32~44 41~22 43~44 32~44 41~22 43~44	0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平28.10)	
175	兼担	助教	イシモト カキヒロ 石本 尚大 <令和3年4月>		博士 (創薬科学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	33~44 43~44 32~44 41~22 43~44 32~44 41~22 43~44	0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平31.3)	
176	兼担	助教	キリカ タクト 黄檗 達人 <令和3年4月>		博士 (薬学)		基礎分析化学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅰ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	13 22 33~44 43~44 32~44 41~22 43~44 32~44 41~22 43~44	0.4 0.9 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平21.4)	
177	兼担	助教	コモリ ヒサカズ 小森 久和 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅶ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	31 33~44 43~44 32~44 41~22 43~44 32~44 41~22 43~44	1.1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平24.4)	
178	兼担	助教	サイトウ ヨウヘイ 齋藤 洋平 <令和3年4月>		博士 (生命科学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 天然物化学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	23 33~44 43~44 31~22 32~44 41~22 43~44 32~44 41~22 43~44	0.6 0.5 0.5 0.3 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 先進予防医学研究センター 助教 (平26.4)	
179	兼担	助教	スマダ ユウト 隅田 有人 <令和3年4月>		博士 (工学)		基礎有機反応学※ 基礎医薬合成学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 有機反応化学※ 有機金属化学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	13 14 23 33~44 43~44 31~22 33~44 32~44 41~22 43~44 32~44 41~22 43~44	0.1 0.2 1.1 0.5 0.5 0.1 0.1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (令1.9)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 適当たり平均 日
180	兼担	助教	タムラ カヒロ 田村 隆彦 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)V※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 生物化学I※ 生体防御学※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	2④ 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 0.8 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平24.11)	
181	兼担	助教	テヤマ サトシ 出山 諭司 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)VI 医薬科学特別演習 医薬科学試験 薬品作用学I※ 薬品作用学II※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	2④ 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 0.7 0.9 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平28.8)	
182	兼担	助教	ナガオ カズヲ 長尾 一哲 <令和3年4月>		博士 (理学)		基礎有機反応学※ 基礎医薬合成学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)III※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 有機反応化学※ 有機金属化学※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	1③ 1④ 2③ 3③~④ 4③~④ 3①~② 3③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.1 0.1 1.1 0.5 0.5 0.3 0.1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平31.4)	
183	兼担	助教	ナガタ ヲ 長田 夕佳 <令和3年4月>		博士 (薬科学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)II 医薬科学特別演習 医薬科学試験 衛生薬学I※ 衛生薬学II※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	2② 3③~④ 4③~④ 2① 2③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 0.1 0.1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平30.2)	
184	兼担	助教	ナカノ マサカ 中野 正隆 <令和3年4月>		博士 (創薬科学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)VII※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	3① 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平30.4)	
185	兼担	助教	ニシタ ナヲ 西谷 直也 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)VI 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	2④ 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (令2.3)	
186	兼担	助教	ホリ アキ 堀 亜紀 <令和3年4月>		博士 (創薬科学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)V※ 医薬科学特別演習 医薬科学試験 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	2④ 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平30.9)	
187	兼担	助教	マシ ヲクサ 増尾 友佑 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試験 薬物治療学II※ 医薬科学研究I 医薬科学研究II 医薬科学研究III 医薬科学演習I 医薬科学演習II 医薬科学演習III	3③~④ 4③~④ 3③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.5 0.5 0.8 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平25.4)	



調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
188	兼担	助教	シロ カンジ 三代 憲司 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(創薬科学コース)Ⅲ※ 医薬科学特別演習 医薬科学試問 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2③ 3③~④ 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1.1 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 新学術創成研究機構 助教 (平28.1)	
189	兼担	助教	ヨシガ ナホ 吉田 直子 <令和3年4月>		博士 (臨床薬学)		医薬科学特別演習 医薬科学試問 病態生理学※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3③~④ 4③~④ 2④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	0.5 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教 (平21.11)	
193	兼担	助教	カネ ヒロシ 金子 浩 <令和3年4月>		博士 (理学)		物理学実験	1③~④, 2①~②	8	4	金沢大学 理工研究域 数物科学系 助教 (平6.12)	
194	兼担	助教	ヤマラ ケンジ 北村 健二 <令和3年4月>		Ph.D. (加国)		里山里海体験実習 in 能登 半島 里山概論	1①・② 1①・②	1 1	1 1	金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任助教 (平31.4)	
195	兼担	助教	キタタ ケン 木下 健 <令和3年4月>		博士 (医学)		細胞・分子生物学	1①・②・③・④	10	10	金沢大学 がん進展制御研究所 助教 (平10.10)	
196	兼担	助教	クラチヤンスカ ヤ KLACANSKA JANA <令和3年4月>		Master of Arts (独国)		ドイツ語A 2-1 ドイツ語A 2-2 ドイツ語A 4-1 ドイツ語A 4-2 ドイツ語B-1 ドイツ語B-2 ドイツ語C-1 ドイツ語C-2 ドイツ語A (元夫クフスII- 1) ドイツ語A (元夫クフスII- 2)	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④ 2① 2② 2①・③ 2②・④ 1③ 1④	4 4 4 4 2 2 3 3 1 1	4 4 4 4 2 2 3 3 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 助教 (令1.10)	
197	兼担	助教	サトウ トモ 佐藤 智哉 <令和3年4月>		Ph.D. (米国)		地域「超」体験プログラム	1①・②・④	4	4	金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任助教 (平31.4)	
198	兼担	助教	サトウ リョウジ 佐藤 竜二 <令和3年4月>		修士 (人間・環境 学) ※		多民族・多文化共生の未来を探 る	1①	1	1	金沢大学 高大接続コア・センター 特任助教 (令1.8)	
199	兼担	助教	タナカ ケンゴ 田中 源吾 <令和3年4月>		博士 (理学)		地球生物圏と人間	1①・②・③・④	16	16	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平29.4)	
200	兼担	助教	ヒガシ アキラ 東 昭孝 <令和3年4月>		博士 (工学)		Pythonデータ分析入門	1③	1	1	金沢大学 総合メディア基盤センター 助教 (平27.5)	
201	兼担	助教	フィリップス ジェレミー デビッド PHILLIPPS JEREMY DAVID <令和3年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 特任助教 (平28.1)	
202	兼担	助教	ミツバ リョウジ 三橋 了爾 <令和3年4月>		博士 (理学)		化学の世界	1①・②・③・④	8	8	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平31.4)	
203	兼担	助教	モリ ヨシヒロ 森 祥寛 <令和3年4月>		博士 (理学)		クラウド時代の「ものグラミン グ」概論 シェルスクリプト言語論 シェルスクリプトを用いた「も のグラミング」演習 プレゼンテーション演習A プレゼンテーション演習B 動画配信サービスを用いた情報 発信演習A 動画配信サービスを用いた情報 発信演習B Society 5.0概論	1①~② 1①~② 1② 1③ 1④ 1① 1② 1③~④	1 1 2 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 総合メディア基盤センター 助教 (平19.4)	
204	兼担	助教	コノ イチ 尹 一喜 <令和3年4月>		博士 (社会福祉 学)		生活と社会保障	1①・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平29.10)	
211	兼任	講師	イノウエ カミ 井上 克己 <令和3年4月>		理学博士		統計数学A 統計数学B	1③ 1④	2 2	2 2	元 金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平29.3まで)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
212	兼任	講師	エダムラ ショウヘイ 枝村 祥平 <令和3年4月>		Ph. D. (米国)		ラテン語B-1 ラテン語B-2 ラテン語C-1 ラテン語C-2	3① 3② 3③ 3④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢星稜大学 教養教育部 教授 (平28.4)	
213	兼任	講師	オヤ ソニア ケイコ 雄谷 ソニア 啓子 <令和3年4月>		マドリード工 芸大学大学院 建築学専攻修 了		スペイン語A1-1 スペイン語A1-2 スペイン語A2-1 スペイン語A2-2 スペイン語A3-1 スペイン語A3-2 スペイン語A4-1 スペイン語A4-2 スペイン語B-1 スペイン語B-2 スペイン語C-1 スペイン語C-2	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	北國新聞文化センター 講師 (スペイン語) (平17.10)	
214	兼任	講師	ホミ ヒロシ 細見 博志 <令和3年4月>		文学修士		ラテン語A1-1 ラテン語A1-2 ラテン語A2-1 ラテン語A2-2 ラテン語A3-1 ラテン語A3-2 ラテン語A4-1 ラテン語A4-2	1① 1② 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	元 金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系特任 教授 (平30.3まで)	

教員の氏名等

宝町・鶴間キャンパス

(医薬保健学域医薬科学類)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
1	専	教授	タジマ アツシ 田嶋 敦 <令和3年4月>		博士 (理学)		医薬科学英語Ⅰ 医薬科学研究者養成Ⅰ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅱ 遺伝学Ⅰ※ 遺伝学Ⅱ※ ゲノム解析演習※ 生命医科学国内AL実習Ⅰ 生命医科学国内AL実習Ⅱ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2① 2①~④ 2②~③① 2③ 2④ 3① 2①~④④ 2①~④④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 1 8 0.4 0.4 0.2 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平26.9)	5日
2	専	教授	ハヤマ リナリ 華山 力成 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学英語Ⅱ 医薬科学研究者養成Ⅱ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 免疫学※ 免疫学実習 生命医科学海外AL実習Ⅰ 生命医科学海外AL実習Ⅱ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2② 3①~④ 2②~③① 2③~④ 3① 2①~④④ 2①~④④ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 1 6 0.7 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 ナノ生命科学研究所 教授 (平27.6)	5日
5	専	准教授	マカイ カズヒロ 大貝 和裕 <令和3年4月>		博士 (保健学)		国際医薬科学Ⅰ 国際医薬科学Ⅱ	2③ 3①	1 1	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平25.11)	5日
8	専	講師	ナカタ ナオト 長田 直人 <令和3年4月>		博士 (薬学)		医薬科学英語Ⅰ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅱ 薬理学Ⅰ※ 薬理学Ⅱ※ 薬理学実習 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2① 2②~③① 2③~④ 3① 3① 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 8 0.4 0.5 0.5 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 講師 (平24.10)	5日
9	専	助教	イシ ヒロシ 石井 宏史 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学英語Ⅱ 基礎人体構造学※ 神経解剖学Ⅰ※ 神経解剖学Ⅱ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	2② 1② 2① 2② 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 0.1 0.1 0.1 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平27.8)	5日
11	専	助教	ムネコ セイイチ 棟居 聖一 <令和3年4月>		博士 (生物工学)		医薬科学先端領域特論 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 生化学Ⅱ※ 生化学Ⅳ※ 医薬科学研究Ⅰ 医薬科学研究Ⅱ 医薬科学研究Ⅲ 医薬科学演習Ⅰ 医薬科学演習Ⅱ 医薬科学演習Ⅲ	3②~④④ 2②~③① 2①~② 2③ 3②~④ 4①~② 4③~④ 3②~④ 4①~② 4③~④	1 6 0.5 1.7 2.5 3 3 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平19.4)	5日
12	兼担	教授	アンドウ ヒロシ 安藤 仁 <令和3年4月>		博士 (医学)		薬理学Ⅰ※ 薬理学Ⅱ※ 薬理学実習	2③~④ 3① 3①	0.6 0.8 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平28.3)	
13	兼担	教授	オノキ リヨキ 尾崎 紀之 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体解剖学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 人体解剖学Ⅰ※ 人体解剖学Ⅱ※	1① 2②~③① 2①~② 2①~②	0.3 6 1.5 2.6	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平21.5)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
14	兼担	教授	カサキ ヒロシ 河崎 洋志 <令和3年4月>		博士 (医学)		神経生理学Ⅰ※ 神経生理学Ⅱ※ 脳神経医学※	2③ 2④ 2①	0.3 0.3 0.8	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平25.1)	
15	兼担	教授	クナ マコト 倉知 慎 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 生化学Ⅰ※ 生化学Ⅲ※	2②～3① 2①～② 2③	6 1.1 1.1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平30.9)	
16	兼担	教授	ツカ マサヒコ 塚 正彦 <令和3年4月>		博士 (医学)		法医学Ⅰ※ 法医学Ⅱ※ 法医学実習 臨床法医学特論	2④ 3①～③ 3②～③ 3④	0.9 1.9 0.5 1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平18.9)	
17	兼担	教授	ナカムラ ヒロキ 中村 裕之 <令和3年4月>		博士 (医学)		公衆衛生学Ⅰ※ 公衆衛生学実習	3①～② 3①～②	0.8 1	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平19.1)	
18	兼担	教授	ニシヤマ マサキ 西山 正章 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体解剖学※ 基礎人体構造学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 組織学Ⅰ 組織学Ⅱ	1① 1② 2②～3① 2①～② 2③	0.4 0.3 6 2 1	1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平29.10)	
19	兼担	教授	ハラタ ケイ 原田 憲一 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 人体病理学Ⅰ※	2②～3① 2④～3①	6 1.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平8.4)	
20	兼担	教授	フシガキ ユウコ 藤永 由佳子 <令和3年4月>		博士 (医学)		細菌感染学Ⅰ※ 細菌感染学Ⅱ※ 細菌感染学実習	2③～④ 3① 3①	1 1.3 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平27.8)	
21	兼担	教授	ウチ ユキ 堀 修 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体構造学※ 神経解剖学Ⅰ※ 神経解剖学Ⅱ※ 発生学Ⅰ 発生学Ⅱ※	1② 2① 2② 2① 2②	0.4 1.3 1.1 1 1.4	1 1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平11.5)	
22	兼担	教授	ミヅガミ ヒロ 三枝 理博 <令和3年4月>		博士 (理学)		基礎人体機能学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 神経生理学Ⅰ※ 神経生理学Ⅱ※	1④ 2②～3① 2③ 2④	0.3 6 0.5 1.1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平20.1)	
23	兼担	教授	ヤマモト ヤスヒコ 山本 靖彦 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 生化学Ⅱ※ 生化学Ⅳ※	2②～3① 2①～② 2③	6 0.9 1.9	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平11.4)	
24	兼担	教授	ワタナイ ヒロシ 渡会 浩志 <令和3年4月>		博士 (医学)		医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 動物実験と再生医学※	2②～3① 2③	6 0.3	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (令1.6)	
26	兼担	教授	サトウ マコト 佐藤 純 <令和3年4月>		博士 (理学)		神経生理学Ⅰ※	2③	0.3	1	金沢大学 新学術創成研究機構 教授 (平24.4)	
27	兼担	教授	オオクニ タキ 大黒 多希子 <令和3年4月>		博士 (薬学)		動物実験と再生医学※	2③	0.3	1	金沢大学 学際科学実験センター 教授 (平27.6)	
28	兼担	教授	シュナイダー アンドリュー エ SCHNEIDER, Andrew E <令和3年4月>		修士 (教育)		国際医薬科学Ⅰ 国際医薬科学Ⅱ	2③ 3①	1 1	1 1	金沢大学 附属病院 特任教授 (平22.9)	
41	兼担	教授	カサセ ケイサク 長瀬 啓介 <令和3年4月>		博士 (医学)		生命・医療倫理※	2③	0.3	1	金沢大学 附属病院 教授 (平20.8)	
42	兼担	教授	ムラヤマ トシノリ 村山 敏典 <令和3年4月>		博士 (医学)		生命・医療倫理※	2③	0.1	1	金沢大学 附属病院 教授 (平成26.11)	
43	兼担	教授	ワカ ケン 和田 隆志 <令和3年4月>		博士 (医学)		臨床検査学※	3③～④	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平13.4)	
79	兼担	准教授	イシガキ アズミ 石崎 有澄美 <令和3年4月>		博士 (医学)		ウイルス感染学 ウイルス感染学実習 国際保健学	2④ 3① 3①～②	2 0.5 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平19.1)	
80	兼担	准教授	エフミ マサシ 榎並 正芳 <令和3年4月>		博士 (理学)		生化学Ⅰ※ 生化学Ⅲ※	2①～② 2③	0.9 0.9	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平3.5)	
81	兼担	准教授	オクダ ヒロアキ 奥田 洋明 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体解剖学※ 人体解剖学Ⅰ※ 人体解剖学Ⅱ※	1① 2①～② 2①～②	0.1 0.3 0.2	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平28.4)	
82	兼担	准教授	ササキ モトコ 佐々木 素子 <令和3年4月>		博士 (医学)		人体病理学Ⅰ※ 人体病理学Ⅱ※	2④～3① 3②	0.5 0.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平1.12)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
83	兼担	准教授	サトウ ヤスリ 佐藤 保則 <令和3年4月>		博士 (医学)		人体病理学Ⅱ※	3②	0.3	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平14.10)	
84	兼担	准教授	シノヨウ ヨウヘイ 新明 洋平 <令和3年4月>		博士 (工学)		神経生理学Ⅰ※ 神経生理学Ⅱ※ 脳神経医学※	2③ 2④ 2①	0.1 0.3 0.2	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平26.4)	
85	兼担	准教授	サキモト ナオシ 杉本 直俊 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体機能学※ 医薬科学基礎ローテーション実 習(生命医科学コース)Ⅰ 器官生理学Ⅰ※ 器官生理学Ⅱ※	1④ 2②～3① 2③ 2④	0.1 6 1 1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平7.4)	
86	兼担	准教授	テムラ マサシ 出村 昌史 <令和3年4月>		博士 (医学)		衛生学Ⅰ 衛生学Ⅱ 衛生学実習 生命・医療倫理※	3①～② 3③ 3①～② 2③	1.5 1.5 0.5 0.1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平20.4)	
87	兼担	准教授	トコロ マサヒコ 所 正治 <令和3年4月>		博士 (医学)		寄生虫学※ 寄生虫学実習	2④ 3①	0.5 0.5	1 1	金沢大学 先進予防医学研究センター 准教授 (平15.4)	
88	兼担	准教授	ハツトリ ヲヨシ 服部 剛志 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体構造学※ 発生学Ⅱ※	1② 2②	0.1 0.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平25.8)	
89	兼担	准教授	ハラ アキヲ 原 章規 <令和3年4月>		博士 (医学)		公衆衛生学Ⅰ※ 公衆衛生学Ⅱ	3①～② 3③	0.2 0.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平26.4)	
90	兼担	准教授	ホノチ カズヨシ 細道 一善 <令和3年4月>		博士 (畜産学)		遺伝学Ⅰ※ 遺伝学Ⅱ※ ゲノム解析演習※	2③ 2④ 3①	0.4 0.2 0.4	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平27.2)	
91	兼担	准教授	マコシマ タカシ 前島 隆司 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体機能学※ 神経生理学Ⅰ※ 神経生理学Ⅱ※	1④ 2③ 2④	0.1 0.7 0.1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平25.11)	
92	兼担	准教授	ハシモト リヨシ 橋本 憲佳 <令和3年4月>		博士 (獣医学)		動物実験と再生医学※	2③	0.1	1	金沢大学 学際科学実験センター 准教授 (平4.4)	
93	兼担	准教授	コトケ シンイチ 堀家 慎一 <令和3年4月>		博士 (生命科学)		動物実験と再生医学※	2③	0.2	1	金沢大学 学際科学実験センター 准教授 (平19.11)	
94	兼担	准教授	サカイ リヒコ 坂井 宣彦 <令和3年4月>		博士 (医学)		人体病理学Ⅱ※	3②	0.3	1	金沢大学 附属病院 准教授 (平19.11)	
95	兼担	准教授	イケガキ ヒロコ 池田 博子 <令和3年4月>		博士 (医学)		人体病理学Ⅱ※	3②	0.1	1	金沢大学 附属病院 准教授 (平21.4)	
96	兼担	准教授	ヒラヤス コロキ 平安 恒幸 <令和3年4月>		博士 (保健学)		免疫学※	2③～④	0.7	1	金沢大学 先進予防医学研究センター 准教授 (平30.1)	
97	兼担	准教授	アサクラ ヒデカ 朝倉 英策 <令和3年4月>		博士 (医学)		臨床検査学※	3③～④	0.1	1	金沢大学 附属病院 准教授 (平6.10)	
98	兼担	准教授	サカイ ヨシオ 酒井 佳夫 <令和3年4月>		博士 (医学)		臨床検査学※	3③～④	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平17.4)	
100	兼担	准教授	ヤマダ ケイスケ 山田 圭輔 <令和3年4月>		博士 (医学)		生命・医療倫理※	2③	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 (平12.4)	
147	兼担	講師	マツムラ タケヒロ 松村 拓大 <令和3年4月>		博士 (医学)		細菌感染学Ⅰ※ 細菌感染学Ⅱ※ 細菌感染学実習	2③～④ 3① 3①	0.3 0.2 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 講師 (平28.2)	
148	兼担	講師	ヨシカ カズアキ 吉岡 和晃 <令和3年4月>		博士 (工学)		基礎人体機能学※ 器官生理学Ⅰ※ 器官生理学Ⅱ※	1④ 2③ 2④	0.3 0.9 0.9	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 講師 (平14.4)	
149	兼担	講師	タケト ケンイチ 竹本 賢一 <令和3年4月>		博士 (保健学)		臨床検査学※	3③～④	0.3	1	金沢大学 附属病院 副衛生検査技師長 (平5.4)	
154	兼担	助教	アサヒ ショウ 安藝 翔 <令和3年4月>		博士 (医学)		基礎人体機能学※ 器官生理学Ⅰ※ 器官生理学Ⅱ※	1④ 2③ 2④	0.1 0.1 0.1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平27.7)	
155	兼担	助教	アマツ ショウ 阿松 翔 <令和3年4月>		博士 (医学)		法医学Ⅰ※ 法医学Ⅱ※ 法医学実習	2④ 3①～③ 3②～③	0.1 0.1 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平30.4)	
156	兼担	助教	イシカワ タツヤ 石川 達也 <令和3年4月>		博士 (理学)		基礎人体解剖学※ 人体解剖学Ⅰ※ 人体解剖学Ⅱ※	1① 2①～② 2①～②	0.1 0.1 0.1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平30.3)	

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する適当なり平均日
157	兼任	助教	ウエガ アツシ 上田 篤 <令和3年4月>		博士(医学)		動物実験と再生医学※	2③	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平27.11)	
158	兼任	助教	オヤマ タクル 尾山 武 <令和3年4月>		博士(医学)		分子細胞病理学Ⅰ※ 分子細胞病理学Ⅱ※	2④～3① 3②	0.9 1.1	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平24.4)	
159	兼任	助教	キムラ クミ 木村 久美 <令和3年4月>		博士(農学)		生化学Ⅱ※ 生化学Ⅳ※	2①～② 2③	0.3 1.6	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平30.5)	
160	兼任	助教	コバヤシ ノブヒデ 小林 伸英 <令和3年4月>		博士(薬科学)		細菌感染学Ⅰ※ 細菌感染学実習	2③～④ 3①	0.1 0.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平31.4)	
161	兼任	助教	サトウ タカヒロ 佐藤 丈寛 <令和3年4月>		博士(理学)		遺伝学Ⅰ※ 遺伝学Ⅱ※ ゲノム解析演習※	2③ 2④ 3①	0.2 0.4 0.4	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平27.8)	
162	兼任	助教	タカガミ ミチ 實田 美佳 <令和3年4月>		博士(薬学)		基礎人体構造学※ 神経解剖学Ⅰ※ 神経解剖学Ⅱ※ 発生学Ⅱ※	1② 2① 2② 2②	0.1 0.1 0.3 0.1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平21.8)	
163	兼任	助教	ツノ コウスケ 津野 祐輔 <令和3年4月>		博士(医学)		基礎人体機能学※ 神経生理学Ⅰ※ 神経生理学Ⅱ※	1④ 2③ 2④	0.1 0.1 0.1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平30.4)	
164	兼任	助教	ナカムラ リツコ 中村 律子 <令和3年4月>		博士(医学)		医薬科学基礎ローテーション実習(生命医科学コース)Ⅰ 分子細胞病理学Ⅰ※ 分子細胞病理学Ⅱ※	2②～3① 2④～3① 3②	6 1.1 0.9	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平24.4)	
165	兼任	助教	ハラシマ アイ 原島 愛 <令和3年4月>		博士(医学)		生化学Ⅱ※ 生化学Ⅳ※	2①～② 2③	0.3 1.6	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平25.1)	
166	兼任	助教	ヒノ ショウチン 畢 袖晴 <令和3年4月>		博士(医学)		ウイルス感染学実習	3①	0.5	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平21.7)	
167	兼任	助教	ホリ キヨミ 堀 紀代美 <令和3年4月>		博士(医学)		基礎人体解剖学※ 人体解剖学Ⅰ※ 人体解剖学Ⅱ※	1① 2①～② 2①～②	0.1 0.1 0.1	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平22.7)	
168	兼任	助教	マツモト ナオキ 松本 直之 <令和3年4月>		博士(理学)		神経生理学Ⅱ※	2④	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平7.11)	
169	兼任	助教	モリシゲ ジュンイチ 盛重 純一 <令和3年4月>		博士(工学)		薬理学Ⅰ※ 薬理学Ⅱ※ 薬理学実習	2③～④ 3① 3①	0.5 0.2 0.5	1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平23.9)	
170	兼任	助教	ヤマノ トモシ 山野 友義 <令和3年4月>		博士(理学)		免疫学※	2③～④	0.6	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平29.11)	
171	兼任	助教	ユタニ マサヒロ 油谷 雅広 <令和3年4月>		博士(理学)		細菌感染学Ⅰ※ 細菌感染学実習	2③～④ 3①	0.1 0.5	1 1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平28.2)	
190	兼任	助教	カネダ レイゾウ 金田 礼三 <令和3年4月>		博士(医学)		生命・医療倫理※	2③	0.1	1	金沢大学 附属病院 助教 (平24.10)	
191	兼任	助教	ハヤシ ケン 林 研至 <令和3年4月>		博士(医学)		臨床検査学※	3③～④	0.1	1	金沢大学 附属病院 助教 (平17.10)	
192	兼任	助教	ヒガシ トモミ 東 朋美 <令和3年4月>		博士(医学)		生命・医療倫理※	2③	0.1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 助教 (平9.4)	
205	兼任	講師	ムラカミ マサフ 村上 学 <令和3年4月>		博士(農学)		寄生虫学実習	3①	0.5	1	金沢医科大学 准教授 (平8.6)	
206	兼任	講師	オガワ ヨシザブロウ 及川 陽三郎 <令和3年4月>		博士(医学)		寄生虫学※ 寄生虫学実習	2④ 3①	0.2 0.5	1 1	金沢医科大学 嘱託講師 (昭55.4)	
207	兼任	講師	キタムラ セロ 北村 星子 <令和3年4月>		博士(医学)		人体病理学Ⅱ※	3②	0.2	1	芳珠記念病院 医長 (平26.4)	
208	兼任	講師	クルマヤ ヒロシ 車谷 宏 <令和3年4月>		医学士		人体病理学Ⅱ※	3②	0.3	1	石川県立中央病院 診療部長 (昭63.10)	
209	兼任	講師	ミナト ヒロシ 湊 宏 <令和3年4月>		博士(医学)		人体病理学Ⅱ※	3②	0.3	1	石川県立中央病院 診療部長 (平29.7)	
210	兼任	講師	オガサワリ タカオ 岡澤 孝雄 <令和3年4月>		博士(理学)		寄生虫学※ 寄生虫学実習	2④ 3①	0.3 0.5	1 1	元 金沢大学留学生センター 教授 (平24.3まで)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	3人	1人	人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	1人	1人	人	1人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	3人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1人	2人	6人	2人	人	人	11人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。





【1】学位の英語名称について、以下の点を明らかにすること。

(1) 生命医科学を「Medical Sciences」としているが、一般的に「MedicalSciences」は単に医科学としての意味で用いられることが多いと思われるため、英語名称の妥当性について説明を加えること。

(対応)

授与する学位である学士(生命医科学)の英語名称を「Bachelor of Biomedical Science」に変更し、その内容を設置の趣旨等を記載した書類に追記する。

学士(生命医科学)については、例えば、九州大学においては、本学と同様に学士(生命医科学)を使用している。また、英語名称の“Bachelor of Biomedical Science”については、上記の九州大学のほか、モナシュ大学(オーストラリア)等、海外の諸大学においても広く使用されている。

以上のように、学士(生命医科学)の英語名称である“Bachelor of Biomedical Science”は、既に使用されており、十分な通用性がある。

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(9 ページ) ③ 学部・学科等の名称及び学位の名称 ③ - 2 学位の名称及び理由 学位の名称並びにそれぞれの英語名称は、次のとおりとする。 学位名称：学士(生命医科学) / Bachelor of <u>Biomedical Science</u> または 学士(創薬科学) / Bachelor of Pharmaceutical Sciences 当該名称は教育内容を適切に表すものとして一般的であり、既に数多くの大学が使用していることから、十分な通用性がある。 <u>学士(生命医科学)については、例えば、九州大学においては、本学と同様に学士(生命医科学)を使用している。また、英語名称の“Bachelor of Biomedical Science”については、上記の九州大学のほか、モナシュ大学(オーストラリア)等、海外の諸大学においても広く使用されている。</u> (略)	(8 ページ) ③ 学部・学科等の名称及び学位の名称 ③ - 2 学位の名称及び理由 学位の名称並びにそれぞれの英語名称は、次のとおりとする。 学位名称：学士(生命医科学) / Bachelor of <u>Medical Sciences</u> または 学士(創薬科学) / Bachelor of Pharmaceutical Sciences 当該名称は教育内容を適切に表すものとして一般的であり、 <u>国内外において既に数多くの大学が使用していることから、十分な通用性がある。例えば、九州大学においては、学士(生命医科学)を、本学においては、学士(創薬科学)を使用している。また、英語名称はイギリス連邦の諸大学で広く使用されている。</u> (略)

(新旧対照表)

基本計画書

新	旧
<p>(新設学部等の概要)</p> <p>・学位又は称号</p> <p>学士(生命医科学) [Bachelor of <u>Biomedical Science</u>] 又は</p> <p>学士(創薬科学) [Bachelor of Pharmaceutical Sciences]</p>	<p>(新設学部等の概要)</p> <p>・学位又は称号</p> <p>学士(生命医科学) [Bachelor of <u>Medical Sciences</u>] 又は</p> <p>学士(創薬科学) [Bachelor of Pharmaceutical Sciences]</p>

(名称に関する意見) 医薬保健学域 医薬科学類

【1】学位の英語名称について、以下の点を明らかにすること。

(2) 創薬科学を「Pharmaceutical Sciences」としているが、高度な創薬科学人材を育成するという本学類の意図を適切に表すことが出来ているか不明瞭であるため、英語名称の妥当性について説明を加えること。

(対応)

授与する学位である学士(創薬科学)の英語名称(Bachelor of Pharmaceutical Sciences)の妥当性について、設置の趣旨等を記載した書類に追記する。

学士(創薬科学)については、本学の既存の創薬科学類に加え、東北大学、岡山大学、九州大学及び熊本大学で使用している。また、英語名称の“Bachelor of Pharmaceutical Sciences”については、本学に加え、上記の東北大学及び熊本大学のほか、ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)やロイヤルメルボルン工科大学(オーストラリア)等、海外の諸大学においても広く使用されていることから、海外においても十分な通用性がある。

なお、“学士(創薬科学) / Bachelor of Pharmaceutical Sciences”を使用している既存の創薬科学類は、高度な知識と技術、国際的競争力を備えた創薬科学分野における教育・研究者を養成する学類である。本学類の創薬科学コースは、この既存の創薬科学類のカリキュラムを核に基礎医学の科目を加えるとともに研究者養成の内容を充実し、より創薬研究志向を強めているものの、主たる学問分野は既存の創薬科学類と同様に創薬科学分野であることから、学位の日本語名称・英語名称とも、既存の学位名称を使用することが最も適切である。

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(9 ページ) ③ 学部・学科等の名称及び学位の名称 ③ - 2 学位の名称及び理由 ・・・広く使用されている。 <u>学士(創薬科学)については、本学の既存の創薬科学類に加え、東北大学、岡山大学、九州大学及び熊本大学で使用している。また、英語名称の“Bachelor of Pharmaceutical Sciences”については、本学に加え、上記の東北大学及び熊本大学のほか、ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)やロイヤルメルボルン工科大学(オース</u>	(8 ページ) ③ 学部・学科等の名称及び学位の名称 ③ - 2 学位の名称及び理由 ・・・広く使用されている。

トラリア) 等, 海外の諸大学においても広く使用されている。

なお, “学士(創薬科学) / Bachelor of Pharmaceutical Sciences” を使用している既存の創薬科学類は, 高度な知識と技術, 国際的競争力を備えた創薬科学分野における教育・研究者を養成する学類である。本学類の創薬科学コースは, この既存の創薬科学類のカリキュラムを核としており, 基礎医学の科目を加えるとともに研究者養成の内容を充実し, より創薬研究志向を強めているものの, 主たる学問分野は既存の創薬科学類と同様に創薬科学分野であることから, 既存の学位名称を使用することが最も適切である。

(略)

(略)

【2】本学類を新たに設置して基礎薬学研究者を養成する意義がより明確となるよう、以下の点について修正すること。

(1) 既設の創薬科学類において養成している基礎薬学研究者と、創薬科学コースにおいて新たに養成する基礎薬学研究者との違いやメリットをより詳細に示すこと。

(対応)

創薬科学コースにおいて新たに養成する基礎薬学研究者について、その内容を設置の趣旨等を記載した書類等に追記する。

本学類では、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材を養成する。

この人材養成のため、本学類では、全国的に見ても極めて稀有な、医学分野と薬学分野、双方の基礎的な知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ教育プログラムを構築する。この教育プログラムは、医学分野と薬学分野における基礎系分野を一体化し、双方の基礎的な部分をベースに、基礎医学又は基礎薬学いずれかの専門分野を深化させる階層的なものであり、本学類の大きな特徴と言える。

具体的には、1年次に、医薬科学研究の基礎的な知識（人体の構造と機能、生命科学の基礎、有機化学の基礎、分析化学の基礎）を学ぶカリキュラムを構築した上で、2年次のコース配属先として、専門化した分野の大枠となる「生命医科学コース」と「創薬科学コース」の2コースを設ける。

生命医科学コースにおいては、これまでの医薬保健学域における医学分野の6年制教育プログラム（医師養成）とは異なる、基礎医学・生命医科学を専門とした上で薬学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。また、創薬科学コースにおいては、既存の創薬科学類のカリキュラムを踏襲しつつ、基礎薬学・創薬科学領域を専門とした上で医学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。これら両コースにおいて、基礎医学・薬学両分野の広域にわたる基礎的知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供することにより、基礎医学・薬学研究の多様化・高度化・複雑化に対応しながら医学・薬学領域の様々な分野で活躍する基礎研究者を養成する。

既存の教育プログラムとの違い・メリットは、端的に言えば、“既存の創薬科学類では、臨床薬学を学ぶ機会はあるものの、医学分野の基礎的な知見を学ぶ機会はないが、同コースでは、基礎薬学研究者の育成過程において基礎医学を学ぶ機会も設けていること”である。また、“他大学を含めこれまでの基礎薬学分野における研究者養成と大きく異なっており、”“医学・薬学の両分野における幅広い視点を併せ持つ基礎薬学・創薬科学研究人材”であるという点が、既存の創薬科学類における養成する人材像との違いとなっている。

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(4 ページ)</p> <p>① 設置の趣旨及び必要性</p> <p>① - 3 教育上の目的及び養成する人材像 (略)</p> <p>この人材養成のため、<u>本学類では、全国的に見ても極めて稀有な、医学分野と薬学分野、双方の基礎的な知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ教育プログラムを構築する。</u></p> <p><u>具体的には、1年次に、医薬科学研究の基礎的な知識（人体の構造と機能、生命科学の基礎、有機化学の基礎、分析化学の基礎）を学ぶカリキュラムを構築した上で、2年次のコース配属先として、専門化した分野の大枠となる「生命医科学コース」と「創薬科学コース」の2コースを設ける。</u></p> <p><u>生命医科学コースにおいては、これまでの医薬保健学域における医学分野の6年制教育プログラム（医師養成）とは異なる、基礎医学・生命医科学を専門とした上で薬学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。</u></p> <p><u>また、創薬科学コースにおいては、既存の創薬科学類のカリキュラムを踏襲しつつ、基礎薬学・創薬科学領域を専門とした上で医学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。これら両コースにおいて、基礎医学・薬学両分野の広域にわたる基礎的知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供することにより、基礎医学・薬学研究の多様化・高度化・複雑化に対応しながら医学・薬学領域の様々な分野で活躍する基礎研究者を養成する。</u></p> <p>(略)</p> <p>(7 ページ)</p> <p>② 学部・学科等の特色</p>	<p>(4 ページ)</p> <p>① 設置の趣旨及び必要性</p> <p>① - 3 教育上の目的及び養成する人材像 (略)</p> <p>この人材養成のため、<u>基礎医学・生命医科学領域を専門とした上で薬学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする「生命医科学コース」、基礎薬学・創薬科学領域を専門とした上で医学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする「創薬科学コース」の2コースを設ける。</u></p> <p>(略)</p> <p>(6 ページ)</p> <p>② 学部・学科等の特色</p>

<p>(略)</p> <p>新たに創設する本学類においては、学域の教育目的に応じ、“医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する”というカリキュラム・ポリシーに沿って、医学分野と薬学分野における基礎系分野を一体化し、双方の基礎的な部分をベースに、<u>基礎医学又は基礎薬学いずれかの専門分野を深化させる階層的な教育プログラムを構築しており、全国的に見てもこのような教育プログラムは稀有であり、大きな特徴と言える。創薬科学コースを例に挙げると、既存の創薬科学類においては、臨床薬学を学ぶ機会はあるものの、医学分野の基礎的な知見を学ぶ機会はないが、同コースでは、基礎薬学研究者の育成過程において基礎医学を学ぶ機会も設けており、この点が他大学を含めこれまでの基礎薬学分野における研究者養成と大きく異なり、医学・薬学の両分野における幅広い視点を併せ持つ基礎薬学・創薬科学研究人材の養成が可能となる。</u></p> <p>(略)</p>	<p>(略)</p> <p>新たに創設する本学類においては、学域の教育目的に応じ、“医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する”というカリキュラム・ポリシーに沿って、医学分野と薬学分野における基礎系分野を一体化し、双方の基礎的な部分をベースに専門分野を深化させる階層的な教育プログラムを構築しており、全国的に見てもこのような教育プログラムは稀有であり、大きな特徴と言える。</p> <p>(略)</p>
--	--

(新旧対照表)

学生の確保の見通し等を記載した書類

新	旧
<p>(5 ページ)</p> <p>(2) 人材需要の動向等社会の要請</p> <p>① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)</p> <p>(略)</p> <p>この人材養成のため、<u>本学類では、全国的に見ても極めて稀有な、医学分野と薬学分野、双方の基礎的な知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ教育プログラムを構築する。</u></p> <p><u>具体的には、1年次に、医薬科学研究の基礎的な知識 (人体の構造と機能、生命科学の基礎、有機化学の基礎、分析化学の基礎) を</u></p>	<p>(5 ページ)</p> <p>(2) 人材需要の動向等社会の要請</p> <p>① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)</p> <p>(略)</p> <p>この人材養成のため、<u>基礎医学・生命医科学領域を専門とした上で薬学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする「生命医科学コース」、基礎薬学・創薬科学領域を専門とした上で医学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする「創薬科学コース」の2コースを設ける。</u></p>

学ぶカリキュラムを構築した上で、2年次のコース配属先として、専門化した分野の大枠となる「生命医科学コース」と「創薬科学コース」の2コースを設ける。

生命医科学コースにおいては、これまでの医薬保健学域における医学分野の6年制教育プログラム（医師養成）とは異なる、基礎医学・生命医科学を専門とした上で薬学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。また、創薬科学コースにおいては、既存の創薬科学類のカリキュラムを踏襲しつつ、基礎薬学・創薬科学領域を専門とした上で医学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。これら両コースにおいて、基礎医学・薬学両分野の広域にわたる基礎的知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供することにより、基礎医学・薬学研究の多様化・高度化・複雑化に対応しながら医学・薬学領域の様々な分野で活躍する基礎研究者を養成する。

(略)

(略)



【2】本学類を新たに設置して基礎薬学研究者を養成する意義がより明確となるよう、以下の点について修正すること。

(2) 創薬科学コースの教育課程には医学系分野の必修科目が少なく、選択科目において医学系科目が設定されているものの、薬学系科目だけの取得で卒業可能なカリキュラムとなっており、また「医薬科学基礎ローテーション実習(創薬科学コース)Ⅰ～Ⅷ」については、いずれも薬学系の実習であり、医学系の要素がほとんど含まれていないと見受けられるため、これらが、本学類が想定する「医学分野と薬学分野双方の基礎的な知見を醸成する早い段階からの教育プログラム」となっているかについて明確に説明するとともに、必要に応じてカリキュラムを修正すること。

(対応)

学位の質を確保するためのコースであること、コース選択に至るまでの間(早期の段階)に他分野の基礎的知見の醸成を重視していること、その上でコース分岐後の早い時期に両コースの学生全員が一堂に受講する医学分野と薬学分野双方の基礎実習を必修科目として設定すること等について、設置の趣旨等を記載した書類等に追記する。

また、自らの専門分野の知見の深化に応じ、他分野の知見を付加することが効果的であることから、コース分け後も、他コースにおいて必修とするコース専門科目2単位以上を選択必修とした上でそれ以外の他コース専門科目の履修を可能とするカリキュラムを再整理し、併せてその旨を設置の趣旨等を記載した書類等に追記する。

本学類における“次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材”の養成には、医学・薬学双方の基礎的知識を身につけ、医薬科学の基盤を形成した上で、“基礎医学・生命医科学”または“基礎薬学・創薬科学”に分化させ、当該分野の高度な専門性と最先端の知識・スキルを身につけることが重要と考えた。また、“先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開する”ために、入学後の早い時期から研究マインド・倫理観を醸成するとともに、国際的な感性・素養や語学力を涵養することも不可欠である。

このような理念の下、“医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する”というカリキュラム・ポリシーを設定し、専門基礎科目等により医薬の基盤となる知見を醸成した上で、基礎医学・生命医科学の専門的知識を修得した者には「学士(生命医科学)」を、基礎薬学・創薬科学の専門的知識を修得した者には「学士(創薬科学)」の学位を授与することを念頭に置き、基礎医学・生命医科学を主体とした「生命医科学コース」と、基礎薬学・創薬科学を主体とした「創薬科学コース」を選択する教育課程を編成した。さらに、研究マインド・倫理観・国際性の醸成のために、1年次から4年次まで連続的、かつ段階的にステップアップする形で専門共通科目群を配置した。

具体的には、まず1年次に、専門基礎科目を10科目配置して医薬の基盤を形成するとともに、共通教育科目「初学者ゼミⅠ」・「プレゼン・ディベート論(初学者ゼミⅡ)」、学域GS科目「医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ」、専門共通科目「医薬科学研究者入門」「医薬科学イノベーション概論」を通して研究マインドや倫理観の醸成をスタートする。医学と薬学の両分野の基礎的学識を修得するための専門基礎科目として、「基礎人体解剖学」「基礎人体構造学」「基礎人体機能学」「基礎分子細胞生物学」「基礎生

物化学」「物理有機化学」「基礎医薬化学」「基礎有機反応学」「基礎医薬合成学」「基礎分析化学」の10科目（各1単位）を履修し、両コース共通の医薬科学の基盤を築く。特に、将来、基礎薬学・創薬科学を専門とする学生が基礎医学・生命医科学分野の科目である「基礎人体解剖学」「基礎人体構造学」等を、また、将来、基礎医学・生命医科学を専門とする学生が基礎薬学・創薬科学分野の科目である「物理有機化学」「基礎有機反応学」等を学ぶ教育カリキュラムは、コース選択に至るまでの1年次において必修科目とすることにより、将来、他分野となる基礎的知見も醸成できる、医学と薬学の専門分野の壁を越えた特徴的な履修システムとなっている。また、学域GS科目として開講される「医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ」では、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材が具体的にどのような者であるかを、医学・薬学の両分野の実例に基づき理解することにより、早い時期から将来の進路選択の一助とする。具体的には、医薬科学分野において活躍している大学、研究所、企業の研究者によるキャリアパス教育や、医学系・薬学系研究施設の見学のほか、病院等診療施設、検査・治療設備、薬剤部等の見学を通じた早期医療福祉現場体験を実施する。さらに、「初学者ゼミⅠ」・「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」で複数の医学系及び薬学系の両分野の研究室を訪問して教員や大学院生にインタビューし、内容をまとめて発表させることで、早期の段階から基礎医学・生命医科学分野及び基礎薬学・創薬科学分野の両方の各研究室の研究課題に触れる機会を設け、将来、自身が行う基礎医学・生命医科学分野又は基礎薬学・創薬科学分野の研究への深い理解を獲得させる。

2年次以降は、コース分け後に基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学のコース専門科目を履修して専門性を深めながら、専門共通科目の「医薬科学研究者養成Ⅰ・Ⅱ」「医薬科学先端領域特論」で研究マインドをステップアップし、「国際医薬科学Ⅰ・Ⅱ」において英語でのコミュニケーション力を鍛えて国際性を醸成する。コース専門科目は、「学士（生命医科学）」又は「学士（創薬科学）」の学位の質を担保するための各コースのより専門的な科目から成り、生命医科学コースは医学類と、創薬科学コースは薬学類の学生とともに受講し、専門性を高める。ここにも医学と薬学に共通する科目が含まれているが（生化学、衛生学、微生物学、薬理学など）、医学と薬学では立ち位置が異なるためウエートの置き方やカバーされる範囲等も異なり、各コースの当該分野を専門とする教員が授業を担当する。必修科目はコアの34単位に厳選し、多様な選択科目の中から、専門性に合った履修モデルを提供するとともに、多様化・複雑化する基礎医学・薬学研究分野における課題解決に向け、自身の専門分野の知見の深化に応じ、他分野の知見を付加することが効果的であることから、コース分け後も、他コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）の中から2単位以上を選択必修とした上で、それ以外他コース専門科目の履修を可能とする。また、同一学年全員による「医薬科学特別演習」（3年次）「医薬科学試問」（4年次）も配置することで、両コースの学生が交流し、知的好奇心や視野を拡大できる環境を提供する。

研究力の養成に関しては、2年次の各コース配属後のQ1に、「医薬科学基礎ローテーション実習」の前段階として、二つのコースの学生全員が一堂に受講する「医薬科学基礎実習」により、生命医科学研究、創薬科学研究双方の実験・実習に際して一般的な注意事項や実験データの整理・解析の仕方等を理解した上で、「医薬科学基礎ローテーション実習」を開始し、基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学分野の基礎実験を体験して基本的実験技術を身につけつつ、多様な研究の体験により将来の専門とする研究分野を定める機会とする。「医薬科学基礎ローテーション実習」の例として、創薬科学コースにおいては合計8科目を必修とし、容量分析等の各種分析法や、食品衛生試験等の主要試験法、有機

化学実験，薬物動態の理論的解析等の実習を通して，基礎薬学・創薬科学研究の深化を図る。本実習を踏まえ，3年次のQ2からは，研究室に配属して課題研究に取り組み，研究活動に必要な様々なスキルを身につけ，各研究分野での研究力を高める。

以上のように，本学類においては，1年次の早期の段階から基礎医学・生命医科学及び基礎薬学・創薬科学分野の両方の知見を醸成した上で，2年次のコース配属時に基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学分野のどちらかの専門分野を選択する，“医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する”教育プログラムを構築している。

また，コース選択直後に，全学生が一堂に受講する「医薬科学基礎実習」を必修とし，生命医科学研究，創薬科学研究双方の実験・実習に際して一般的な注意事項や実験データの整理・解析の仕方等を理解した上で，「医薬科学基礎ローテーション実習」において，主として選択した専門分野の基礎的実験技術を身につけ，同分野の知見の深化を図る。

このように，学年の進行に応じ，専門性を深化させる教育プログラムとなっているところであるが，基礎薬学・創薬科学分野の知見の深化に応じ，基礎医学・生命医科学分野の知見を付加することも効果がある面もあることから，創薬科学コースへの配属後も，生命医科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）の中から2単位以上を選択必修とした上で，それ以外の生命医科学コース専門科目の履修も可能とするカリキュラムとする。この他コースのコース専門科目の履修については，生命医科学コースにおいても同様である。

（新旧対照表）

設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(10 ページ)</p> <p>④ 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>④ - 1 教育課程の編成の考え方 (略)</p> <p>このような理念の下，“医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する”というカリキュラム・ポリシーを設定し，専門基礎科目等により医薬の基盤となる知見を醸成した上で，<u>基礎医学・生命医科学の専門的知識を修得した者には「学士（生命医科学）」を，基礎薬学・創薬科学の専門的知識を修得した者には「学士（創薬科学）」の学位を授与することを念頭に置き，基礎医学・生命医科学を主体とした「生命医科学コース」と，基礎薬学・創薬科学を主体とした「創薬科学コース」を選択する教育課程を編成した。さらに，研究マインド・倫理観・国際性の醸成の</u></p>	<p>(9 ページ)</p> <p>④ 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>④ - 1 教育課程の編成の考え方 (略)</p> <p>このような理念の下，“医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する”というカリキュラム・ポリシーを設定し，専門基礎科目等により医薬の基盤となる知見を醸成した上で，基礎医学・生命医科学を主体とした「生命医科学コース」，基礎薬学・創薬科学を主体とした「創薬科学コース」を選択する教育課程を編成した。さらに，研究マインド・倫理観・国際性の醸成のために，1年次から4年次まで連続的，かつ段階的にステップアップする形で専門共通科目群を配置した。</p>

ために、1年次から4年次まで連続的、かつ段階的にステップアップする形で専門共通科目群を配置した。

具体的には、まず1年次に専門基礎科目を10科目配置して医薬の基盤を形成するとともに、共通教育科目「初学者ゼミⅠ」・「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」、学域GS科目「医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ」、専門共通科目「医薬科学研究者入門」「医薬科学イノベーション概論」を通して研究マインドや倫理観の醸成をスタートする。2年次以降は、コース分け後に基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学のコース専門科目を履修して専門性を深めながら、専門共通科目の「医薬科学研究者養成Ⅰ・Ⅱ」「医薬科学先端領域特論」で研究マインドをステップアップし、「国際医薬科学Ⅰ・Ⅱ」において英語でのコミュニケーション力を鍛えて国際性を醸成する。

研究力の養成に関しては、2年次の各コース配属後のQ1に、「医薬科学基礎ローテーション実習」の前段階として、二つのコースの学生全員が一堂に受講する「医薬科学基礎実習」により、生命医科学研究、創薬科学研究双方の実験・実習に際して一般的な注意事項や実験データの整理・解析の仕方等を理解した上で、「医薬科学基礎ローテーション実習」を開始し、基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学分野の基礎実験を体験して基本的実験技術を身につけつつ、各研究分野の特徴を理解する機会を提供する。3年次のQ2からは、研究室に配属して課題研究に取り組み、研究活動に必要な様々なスキルを身につけ、各研究分野での研究力を高めていくことになる。

一方、多様化・複雑化する基礎医学・薬学研究分野における課題解決に向け、自身の専門分野の知見の深化に応じ、他分野の知見を付加することが効果的であることから、コース分け後も、他コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）の中から2単位以上を選

具体的には、まず1年次に専門基礎科目を10科目配置して医薬の基盤を形成するとともに、共通教育科目「初学者ゼミⅠ」・「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」、学域GS科目「医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ」、専門共通科目「医薬科学研究者入門」「医薬科学イノベーション概論」を通して研究マインドや倫理観の醸成をスタートする。2年次以降は、コース分け後に各々のコース専門科目を履修して専門性を深めながら、専門共通科目の「医薬科学研究者養成Ⅰ・Ⅱ」「医薬科学先端領域特論」で研究マインドをステップアップし、「国際医薬科学Ⅰ・Ⅱ」において英語でのコミュニケーション力を鍛えて国際性を醸成する。

研究力の養成に関しては、2年次から「医薬科学基礎ローテーション実習」を開始し、様々な研究分野の基礎実験を体験して基本的実験技術を身につけつつ、各研究分野の特徴を理解する機会を提供する。3年次のQ2からは、研究室に配属して課題研究に取り組み、研究活動に必要な様々なスキルを身につけ、各研究分野での研究力を高めていくことになる。

一方、コース分け後も、他コースのコース専門科目を選択履修することが可能であり、また同一学年全員による「医薬科学特別演習」（3年次）「医薬科学試問」（4年次）も配置することで、両コースの学生が交流し、知的好奇心や視野を拡大できる環境を提供する。

択必修とし、それ以外の他コース専門科目も選択履修することを可能とする。なお、各コースにおける選択必修科目は、以下のとおりである。

**【生命医科学コース選択必修科目（2単位以上）】**

「生物化学Ⅰ」（2年Q1・2単位）、「生物化学Ⅱ」（2年Q3～Q4・2単位）、「衛生薬学Ⅰ」（2年Q1・2単位）、「衛生薬学Ⅱ」（2年Q3～Q4・2単位）、「生体防御学」（2年Q3～Q4・2単位）、「微生物学」（2年Q2・1単位）、「薬品作用学Ⅰ」（2年Q1・2単位）、「薬品作用学Ⅱ」（2年Q3～Q4・2単位）、「物理化学Ⅰ」（2年Q1・1単位）、「物理化学Ⅱ」（2年Q2・1単位）、「物理化学Ⅲ」（2年Q3～Q4・2単位）、「分析化学」（2年Q1・2単位）、「応用有機化学Ⅰ」（2年Q1・2単位）、「応用有機化学Ⅱ」（2年Q3～Q4・2単位）、「薬剤学Ⅰ」（2年Q3～Q4・2単位）、「薬剤学Ⅱ」（3年Q1～Q2・2単位）、「臨床薬物代謝化学」（3年Q1～Q2・2単位）、「薬物治療学Ⅰ」（3年Q1～Q2・2単位）

**【創薬科学コース選択必修科目（2単位以上）】**

「人体解剖学Ⅰ」（2年Q1～Q2・2単位）、「組織学Ⅰ」（2年Q1～Q2・2単位）、「神経解剖学Ⅰ」（2年Q1・1.5単位）、「発生学Ⅰ」（2年Q1・1単位）、「器官生理学Ⅰ」（2年Q3・2単位）、「神経生理学Ⅰ」（2年Q3・2単位）、「生化学Ⅰ」（2年Q1～Q2・2単位）、「生化学Ⅱ」（2年Q1～Q2・2単位）、「薬理学Ⅰ」（2年Q3～Q4・1.5単位）、「動物実験と再生医学」（2年Q3・1単位）、「遺伝学Ⅰ」（2年Q3・1単位）、「分子細胞病理学Ⅰ」（2年Q4～3年Q1・2単位）、「人体病理学Ⅰ」（2年Q4～3年Q1・2単位）、「ウイルス感染学」（2年Q4・2単位）、「細菌感染学Ⅰ」（2年Q3～Q4・1.5単位）、「寄生虫学」（2年Q4・1単位）、「免疫学」（2年Q3～Q4・2単位）、「衛生学Ⅰ」（3年

Q1～Q2・1.5 単位) , 「公衆衛生学 I」 (3 年 Q1～Q2・1 単位) , 「法医学 I」 (2 年 Q4・1 単位) , 「脳神経医学」 (2 年 Q1・1 単位)

また、同一学年全員による「医薬科学基礎実習」 (2 年次) 「医薬科学特別演習」 (3 年次) 「医薬科学試問」 (4 年次) も配置することで、両コースの学生が交流し、知的好奇心や視野を拡大できる環境を提供する。

(略)

(11 ページ)

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

④ - 2 教育課程の特色

1) 1 年次における医薬基礎教育

一括入試により入学した18名は、共通教育科目の他に、医学と薬学の両分野の基礎的学識を修得するための「専門基礎科目」として、「基礎人体解剖学」「基礎人体構造学」「基礎人体機能学」「基礎分子細胞生物学」「基礎生物化学」「物理有機化学」「基礎医薬化学」「基礎有機反応学」「基礎医薬合成学」「基礎分析化学」の10科目 (各1単位) を履修し、両コース共通の医薬科学の基盤を築く。

特に、将来、基礎薬学・創薬科学を専門とする学生が基礎医学・生命医科学分野の科目である「基礎人体解剖学」「基礎人体構造学」等を、また、将来、基礎医学・生命医科学を専門とする学生が基礎薬学・創薬科学分野の科目である「物理有機化学」「基礎有機反応学」等を学ぶ教育カリキュラムは、コース選択に至るまでの1年次において必修科目とすることにより、将来、他分野となる基礎的知見も醸成できる、医学と薬学の専門分野の壁を越えた特徴的な履修システムとなっている。

また、上記の医薬科学研究における基礎的知見の醸成のほか、学域 GS 科目として開講され

(略)

(10 ページ)

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

④ - 2 教育課程の特色

1) 1 年次における医薬基礎教育

一括入試により入学した18名は、共通教育科目の他に、医学と薬学の基礎的学識を修得するための「専門基礎科目」として、「基礎人体解剖学」「基礎人体構造学」「基礎人体機能学」「基礎分子細胞生物学」「基礎生物化学」「物理有機化学」「基礎医薬化学」「基礎有機反応学」「基礎医薬合成学」「基礎分析化学」の10科目 (各1単位) を履修し、両コース共通の医薬科学の基盤を築く。

特に、将来、基礎薬学・創薬科学を専門とする学生が「基礎人体解剖学」「基礎人体構造学」等を、また、将来、基礎医学・生命医科学を専門とする学生が「物理有機化学」「基礎有機反応学」等を学ぶ教育カリキュラムは、医学と薬学の専門分野の壁を越えた特徴的な履修システムとなっている。

また、学域 GS 科目として開講される「医薬保健学基礎 I・II」では、キャリアパス教育や

る「医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ」では、次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材が具体的にどのような者であるかを、医学・薬学の両分野の実例に基づき理解することにより、早い時期から将来の進路選択の一助とする。具体的には、医薬科学分野において活躍している大学、研究所、企業の研究者によるキャリアパス教育や、医学系・薬学系研究施設の見学のほか、病院等診療施設、検査・治療設備、薬剤部等の見学を通した早期医療福祉現場体験を実施する。

2) コース配属後の各コース専門科目とコース横断選択科目

1年次に医薬科学の基礎的知識を身につけた後、本人の希望等によりコース分けを行い、基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学の専門性を高めるコース専門科目（必修・選択）を履修する。初期は、医学と薬学に共通する分野（生化学、衛生学、微生物学、薬理学など）を各コースの視点から学ぶことで分岐を始め、次第にコース独自の専門性の高い科目を増やしていくことでシームレスに深い専門性を修得する編成になっている。これらの科目は、生命医科学コースは医学類と、創薬科学コースは薬学類の学生とともに受講し、相互の交流により刺激し合うことが期待される。

また、国家試験受験を前提とする医学類・薬学類とは異なり、本学類では両コースとも必修科目をコアとなるものだけに絞り込み、将来の専門分野に応じて推奨される履修モデル（後述）に沿って選択科目を履修・修得し、基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学それぞれの専門性を深化させていく。一方で、多様化・複雑化する基礎医学・薬学研究の課題解決に向けた他分野の知見の付加を目的として、コース

医学系・薬学系研究施設の見学や研究者からの説明・講義を通じて研究者を目指す将来へのイメージを持たせるほか、病院の診療施設、検査・治療設備、薬剤部等の見学を通して早期医療福祉現場体験も実施する。

2) コース配属後の各コース専門科目とコース横断選択科目

1年次に医薬科学の基礎的知識を身につけた後、本人の希望等によりコース分けを行い、各々の専門性を高めるコース専門科目（必修・選択）を履修する。初期は、医学と薬学に共通する分野（生化学、衛生学、微生物学、薬理学など）を各コースの視点から学ぶことで分岐を始め、次第にコース独自の専門性の高い科目を増やしていくことでシームレスに深い専門性を修得する編成になっている。これらの科目は、生命医科学コースは医学類と、創薬科学コースは薬学類の学生とともに受講し、相互の交流により刺激し合うことが期待される。

また、国家試験受験を前提とする医学類・薬学類とは異なり、本学類では両コースとも必修科目をコアとなるものだけに絞り込み、将来の専門分野に応じて推奨される履修モデル（後述）に沿って選択科目を履修・修得し、各々の専門性を深化させていく。一方で、学生は他コースのコース専門科目の履修を可能としており（単位数の制限なし）、修得した単位は4単位を上限として卒業に必要な選択科目の単位

分け後も、他コースにおいて必修とするコース  
専門科目（授業形態：講義）の中から2単位以上  
を選択必修とした上で、それ以外の他コース  
専門科目の履修を可能としている。これらにより  
修得した単位は4単位（選択必修で修得した  
単位を含む）を上限として卒業に必要な選択科目  
の単位として認め、専門性の深化に応じた学生  
の知的好奇心や視野の拡大を奨励する。さらに、  
余力のある優秀な学生には、進学予定専攻の  
大学院科目の先取り履修を10単位まで認める。

3) 両コース合同の課題研究発表会における多  
面的・多角的討論  
(略)

4) 早期から段階的に研究マインド・倫理観  
や国際性を醸成する科目の配当

世界をリードする医薬科学研究者を養成す  
るために、両コースに共通の理念に沿って研  
究マインド・スキルや国際性を醸成する科目  
を「専門共通科目」として早期から配当す  
る。

研究マインドの醸成に関しては、1年次に  
「医薬科学研究者入門」を配当し、研究者や研  
究活動について理解させるとともに研究倫理  
に関する教育も行う。また、共通教育科目の「初  
学者ゼミⅠ」・「プレゼン・ディベート論（初  
学者ゼミⅡ）」で複数の医学系及び薬学系の  
両分野の研究室を訪問して教員や大学院生にイ  
ンタビューし、内容をまとめて発表させること  
で、早期の段階から基礎医学・生命医科学分野  
及び基礎薬学・創薬科学分野の両方の各研究室  
の研究課題に触れる機会を設け、将来、自身が  
行う基礎医学・生命医科学分野又は基礎薬学・  
創薬科学分野の研究への深い理解を獲得させ  
る。

(略)

として認め、専門性の深化に応じた学生の知的  
好奇心や視野の拡大を奨励する。さらに、余力  
のある優秀な学生には、進学予定専攻の大学院  
科目の先取り履修を10単位まで認める。

3) 両コース合同の課題研究発表会における多  
面的・多角的討論  
(略)

4) 早期から段階的に研究マインド・倫理観  
や国際性を醸成する科目の配当

世界をリードする医薬科学研究者を養成す  
るために、両コースに共通の理念に沿って研  
究マインド・スキルや国際性を醸成する科目  
を「専門共通科目」として早期から配当す  
る。

研究マインドの醸成に関しては、1年次に  
「医薬科学研究者入門」を配当し、研究者や研  
究活動について理解させるとともに研究倫理  
に関する教育も行う。また、共通教育科目の「初  
学者ゼミⅠ」・「プレゼン・ディベート論（初  
学者ゼミⅡ）」で複数の医学系及び薬学系の研  
究室を訪問して教員や大学院生にインタビュー  
し、内容をまとめて発表させることで、各研  
究室の研究課題に触れさせる。

(略)



また、2年次のコース分け直後のQ1に、両コースの全学生が「医薬科学基礎実習」により、生命医科学研究、創薬科学研究双方の実験・実習に際して一般的な注意事項や実験データの整理・解析の仕方等を理解した上、「医薬科学基礎ローテーション実習」も始まり、3年Q1期終了時の研究室配属までローテーションしながら、様々な研究分野の基礎実験を体験して基本的実験技術を身につけるとともに、自分の興味に合う研究分野とのマッチングを図る機会とする。

(略)

(17 ページ)

⑥ 教育方法、履修指導の方法及び卒業要件

⑥ - 1 教育方法・履修指導に関する基本的な考え方

(略)

○専門教育科目 (計 96 単位以上)

(略)

・専門共通科目 (計 23 単位)

「医薬科学研究者入門」(1年Q4・1単位)、「医薬科学研究者養成Ⅰ」(2年通年・1単位)、「医薬科学研究者養成Ⅱ」(3年通年・1単位)、「医薬科学先端領域特論」(3年Q2～4年Q4・1単位)、「国際医薬科学Ⅰ」(2年Q3・1単位)、「国際医薬科学Ⅱ」(3年Q1・1単位)、「医薬科学イノベーション概論」(1年Q3・1単位)、「医薬科学基礎実習」(2年Q1・1単位)、「医薬科学基礎ローテーション実習」(2年Q1～3年Q1・14単位)、「医薬科学特別演習」(3年Q3～Q4・0.5単位)、「医薬科学試問」(4年Q3～Q4・0.5単位)

専門共通科目は、本学類両コース共通の理念である「次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開できる人材の養成」に重要な科目群となる。1年次の「医薬科学研究

2年次からは「医薬科学基礎ローテーション実習」も始まり、3年Q1期終了時の研究室配属までローテーションしながら、様々な研究分野の基礎実験を体験して基本的実験技術を身につけるとともに、自分の興味に合う研究分野とのマッチングを図る機会とする。

(略)

(14 ページ)

⑥ 教育方法、履修指導の方法及び卒業要件

⑥ - 1 教育方法・履修指導に関する基本的な考え方

(略)

○専門教育科目 (計 95 単位以上)

(略)

・専門共通科目 (計 22 単位)

「医薬科学研究者入門」(1年Q4・1単位)、「医薬科学研究者養成Ⅰ」(2年通年・1単位)、「医薬科学研究者養成Ⅱ」(3年通年・1単位)、「医薬科学先端領域特論」(3年Q2～4年Q4・1単位)、「国際医薬科学Ⅰ」(2年Q3・1単位)、「国際医薬科学Ⅱ」(3年Q1・1単位)、「医薬科学イノベーション概論」(1年Q3・1単位)、「医薬科学基礎ローテーション実習」(2年Q1～3年Q1・14単位)、「医薬科学特別演習」(3年Q3～Q4・0.5単位)、「医薬科学試問」(4年Q3～Q4・0.5単位)

専門共通科目は、本学類両コース共通の理念である「次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開できる人材の養成」に重要な科目群となる。1年次の「医薬科学研究

者入門」から4年次の「医薬科学先端領域特論」まで、連続的に研究マインドの醸成科目を配当し、各コース配属後、「医薬科学基礎実習」を履修した上で、「医薬科学基礎ローテーション実習」において、基礎医学・生命医科学分野又は基礎薬学・創薬科学分野の実験の基礎技能を習得させながら、多様な研究の体験により将来の専門とする研究分野を定めていく機会を与える。「医薬科学基礎ローテーション実習」の例として、創薬科学コースにおいては合計8科目を必修とし、容量分析等の各種分析法や、食品衛生試験等の主要試験法、有機化学実験、薬物動態の理論的解析等の実習を通して、基礎薬学・創薬科学研究の深化を図る。

(略)

**【生命医科学コース】**

・コース専門科目（必修34単位・選択15単位以上、計49単位以上）

※ 選択科目のうち、創薬科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）2単位以上を、選択必修とする。

(略)

**【創薬科学コース】**

・コース専門科目（必修34単位・選択15単位以上、計49単位以上）

※ 選択科目のうち、生命医科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）2単位以上を、選択必修とする。

(略)

コース専門科目は、「学士（生命医科学）」又は「学士（創薬科学）」の学位の質を担保するための各コースのより専門的な科目から成り、生命医科学コースは医学類と、創薬科学コースは薬学類の学生とともに受講し、専門性を

者入門」から4年次の「医薬科学先端領域特論」まで、連続的に研究マインドの醸成科目を配当し、「医薬科学基礎ローテーション実習」においては実験の基礎技能を習得させながら、多様な研究分野を体験して将来の専門分野を定めていく機会を与える。

(略)

**【生命医科学コース】**

・コース専門科目（必修34単位・選択15単位以上、計49単位以上）

(略)

**【創薬科学コース】**

・コース専門科目（必修34単位・選択15単位以上、計49単位以上）

(略)

コース専門科目は、各コースのより専門的な科目から成り、生命医科学コースは医学類と、創薬科学コースは薬学類の学生とともに受講し、専門性を高める。ここにも医学と薬学に共通する科目が含まれているが(生化学, 衛生学,

高める。ここにも医学と薬学に共通する科目が含まれているが（生化学，衛生学，微生物学，薬理学など），医学と薬学では立ち位置が異なるためウエートの置き方やカバーされる範囲等も異なり，各コースの当該分野を専門とする教員が授業を担当する。上述のとおり，必修科目はコアの 34 単位に厳選し，多様な選択科目の中から，専門性に合った履修モデルを提供するとともに，多様化・複雑化する基礎医学・薬学研究分野における課題解決に向け，自身の専門分野の知見の深化に応じ，他分野の知見を付加することが効果的であることから，学生の興味に応じて他コース開講科目を含む自由な履修も可能にし，計 15 単位以上の選択科目の修得を求めるものとする。

なお，他コース専門科目の履修上限は設定しないが，他コースにおいて必修とする科目（授業形態：講義）の中から 2 単位以上を選択必修とした上で，修得した単位を卒業に必要な選択科目の計 15 単位以上に含める場合は 4 単位を上限とする。

（略）

（22 ページ）

⑥ 教育方法，履修指導の方法及び卒業要件

⑥ - 2 研究指導

（略）

1 年次に医薬科学の基礎的知識を身につけた後，本人の希望等によりコース分けを行い，基礎医学・生命医科学又は基礎薬学・創薬科学の専門性を高めるコース専門科目（必修・選択）を履修する。初期は，医学と薬学に共通する分野（生化学，衛生学，微生物学，薬理学など）を各コースの視点から学ぶことで分岐を始め，次第にコース独自の専門性の高い科目を増やしていくことでシームレスに深い専門性を修得する編成になっている。これらの科目は，生命医科学コースは医学類と，創薬科学コースは

微生物学，薬理学など），医学と薬学では立ち位置が異なるためウエートの置き方やカバーされる範囲等も異なり，各コースの当該分野を専門とする教員が授業を担当する。上述のとおり，必修科目はコアの 34 単位に厳選し，多様な選択科目の中から，専門性に合った履修モデルを提供するとともに，学生の興味に応じて他コース開講科目を含む自由な履修も可能にし，計 15 単位以上の選択科目の修得を求めるものとする。

なお，他コース専門科目の履修上限は設定しないが，修得した単位を卒業に必要な選択科目の計 15 単位以上に含める場合は 4 単位を上限とする。

（略）

（18 ページ）

⑥ 教育方法，履修指導の方法及び卒業要件

⑥ - 2 研究指導

（略）

1 年次に医薬科学の基礎的知識を身につけた後，本人の希望等によりコース分けを行い，各々の専門性を高めるコース専門科目（必修・選択）を履修する。初期は，医学と薬学に共通する分野（生化学，衛生学，微生物学，薬理学など）を各コースの視点から学ぶことで分岐を始め，次第にコース独自の専門性の高い科目を増やしていくことでシームレスに深い専門性を修得する編成になっている。これらの科目は，生命医科学コースは医学類と，創薬科学コ

薬学類の学生とともに受講し、相互の交流により刺激し合うことが期待される。

(略)

(22 ページ)

⑥ 教育方法，履修指導の方法及び卒業要件  
⑥ - 3 卒業要件

4年以上在学し，以下の合計 130 単位以上を修得した者

○共通教育科目から所定の 34 単位以上（導入科目 4 単位，GS 科目（5 群）の各群から 3 単位（計 15 単位），GS 言語科目 8 単位，自由履修科目 3 単位，基礎科目 4 単位）

※自由履修科目は，自由履修科目に加え，GS 科目及び基礎科目の最低修得要件を超えて修得した科目並びにその他の共通教育科目（導入科目及び GS 言語科目を除く。）を含む。

○専門教育科目 96 単位以上（必修科目 81 単位・選択科目 15 単位以上）

※専門科目における各コースの単位数は次のとおり。

**【生命医科学コース・創薬科学コース共通】**

- ・学域 GS 科目（必修科目 2 単位）
- ・学域 GS 言語科目（必修科目 2 単位）
- ・専門基礎科目（必修科目 10 単位）
- ・専門共通科目（必修科目 23 単位）

**【生命医科学コース】**

- ・コース専門科目（必修科目 34 単位，選択科目 15 単位以上）

※ 選択科目のうち，創薬科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）2 単位以上を，選択必修とする。

- ・課題研究科目（必修科目 10 単位）

**【創薬科学コース】**

- ・コース専門科目（必修科目 34 単位，選択科目 15 単位以上）

ースは薬学類の学生とともに受講し，相互の交流により刺激し合うことが期待される。

(略)

(19 ページ)

⑥ 教育方法，履修指導の方法及び卒業要件  
⑥ - 3 卒業要件

4年以上在学し，以下の合計 129 単位以上を修得した者

○共通教育科目から所定の 34 単位以上（導入科目 4 単位，GS 科目（5 群）の各群から 3 単位（計 15 単位），GS 言語科目 8 単位，自由履修科目 3 単位，基礎科目 4 単位）

※自由履修科目は，自由履修科目に加え，GS 科目及び基礎科目の最低修得要件を超えて修得した科目並びにその他の共通教育科目（導入科目及び GS 言語科目を除く。）を含む。

○専門教育科目 95 単位以上（必修科目 80 単位・選択科目 15 単位以上）

※専門科目における各コースの単位数は次のとおり。

**【生命医科学コース・創薬科学コース共通】**

- ・学域 GS 科目（必修科目 2 単位）
- ・学域 GS 言語科目（必修科目 2 単位）
- ・専門基礎科目（必修科目 10 単位）
- ・専門共通科目（必修科目 22 単位）

**【生命医科学コース】**

- ・コース専門科目（必修科目 34 単位，選択科目 15 単位以上）

- ・課題研究科目（必修科目 10 単位）

**【創薬科学コース】**

- ・コース専門科目（必修科目 34 単位，選択科目 15 単位以上）

※ 選択科目のうち、生命医科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）2単位以上を、選択必修とする。

・課題研究科目（必修科目 10 単位）

○履修科目の年間登録上限は、1年次は 56 単位、2～4年次は 48 単位とする。

(37 ページ)

⑩ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

⑩ - 1 教育課程内の取組

(略)

・・・また、共通教育科目の「初学者ゼミⅠ」・「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」で複数の医学系及び薬学系の両分野の研究室を訪問して教員や大学院生にインタビューし、内容をまとめて発表させることで、早期の段階から基礎医学・生命医科学分野及び基礎薬学・創薬科学分野の両方の各研究室の研究課題に触れる機会を設け、将来、自身が行う基礎医学・生命医科学分野又は基礎薬学・創薬科学分野の研究への深い理解を獲得させる。2年次のコース分け以降は、「医薬科学研究者養成Ⅰ・Ⅱ」「医薬科学先端領域特論」で学内外の一線研究者の講演を聴き、終了後に講師を囲んで討論する機会を設ける。また、2年次からは「医薬科学基礎実習」や「医薬科学基礎ローテーション実習」も始まり、3年 Q1 期終了時の研究室配属までローテーションしながら、様々な研究分野の基礎実験を体験して基本的実験技術を身につけるとともに、自分の興味に合う研究分野とのマッチングを図る機会とする。研究室配属後は、コース専門科目を履修しながら課題研究をスタートし、研究活動に必要な様々なスキルを身につける。

(略)

・課題研究科目（必修科目 10 単位）

○履修科目の年間登録上限は、1年次は 56 単位、2～4年次は 48 単位とする。

(33 ページ)

⑩ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

⑩ - 1 教育課程内の取組

(略)

・・・また、共通教育科目の「初学者ゼミⅠ」・「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」で複数の医学系及び薬学系の研究室を訪問して教員や大学院生にインタビューし、内容をまとめて発表させることで、各研究室の研究課題に触れさせる。2年次のコース分け以降は、「医薬科学研究者養成Ⅰ・Ⅱ」「医薬科学先端領域特論」で学内外の一線研究者の講演を聴き、終了後に講師を囲んで討論する機会を設ける。また、2年次からは「基礎研究ローテーション実習」も始まり、3年 Q1 期終了時の研究室配属までローテーションしながら、様々な研究分野の基礎実験を体験して基本的実験技術を身につけるとともに、自分の興味に合う研究分野とのマッチングを図る機会とする。研究室配属後は、コース専門科目を履修しながら課題研究をスタートし、研究活動に必要な様々なスキルを身につける。

(略)

(新旧対照表)

基本計画書

新	旧
(教育課程) ・ 開設する授業科目の総数 実験・実習： <u>57</u> 科目，計 <u>479</u> 科目 ・ 卒業要件単位数 <u>130</u> 単位	(教育課程) ・ 開設する授業科目の総数 実験・実習： <u>56</u> 科目，計 <u>478</u> 科目 ・ 卒業要件単位数 <u>129</u> 単位

(新旧対照表)

教育課程等の概要

新	旧
(専門教育科目) 専門共通科目 (合計 <u>20</u> 科目・必修 <u>37</u> 単位) ・ <u>医薬科学基礎実習</u> (配当年次 2①，必修，1 単位，専任教員 2 名配置 (教授・共同))  (卒業要件及び履修方法) 4 年以上在学し，以下の合計 <u>130</u> 単位以上を 修得した者。 (1) 共通教育科目 34 単位以上 (導入科目： 4 単位，GS 科目：各群から 3 単位 15 単 位，GS 言語科目 8 単位，自由履修科目 3 単位，基礎科目 4 単位) ※ 自由履修科目は，自由履修科目に加 え，GS 科目及び基礎科目の最低修得要 件を超えて修得した科目並びにその他 の共通教育科目 (導入科目及び GS 言語 科目を除く。) を含む。 (2) 専門教育科目 <u>96</u> 単位以上 (必修科目 <u>81</u> 単位，選択科目 15 単位以上) ※ 専門科目における各コースの単位数 は次のとおり。  【生命医科学コース・創薬科学コース共通】 ・ 学域 GS 科目 (必修科目 2 単位) ・ 学域 GS 言語科目 (必修科目 2 単位) ・ 専門基礎科目 (必修科目 10 単位)	(専門教育科目) 専門共通科目 (合計 <u>19</u> 科目・必修 <u>36</u> 単位) (追加)  (卒業要件及び履修方法) 4 年以上在学し，以下の合計 <u>129</u> 単位以上を 修得した者。 (1) 共通教育科目 34 単位以上 (導入科目： 4 単位，GS 科目：各群から 3 単位 15 単 位，GS 言語科目 8 単位，自由履修科目 3 単位，基礎科目 4 単位) ※ 自由履修科目は，自由履修科目に加 え，GS 科目及び基礎科目の最低修得要 件を超えて修得した科目並びにその他 の共通教育科目 (導入科目及び GS 言語 科目を除く。) を含む。 (2) 専門教育科目 <u>95</u> 単位以上 (必修科目 <u>80</u> 単位，選択科目 15 単位以上) ※ 専門科目における各コースの単位数 は次のとおり。  【生命医科学コース・創薬科学コース共通】 ・ 学域 GS 科目 (必修科目 2 単位) ・ 学域 GS 言語科目 (必修科目 2 単位) ・ 専門基礎科目 (必修科目 10 単位)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門共通科目（必修科目 <u>23</u> 単位）</li> <li>【生命医科学コース】</li> <li>・ コース専門科目（必修科目 34 単位，選択科目 15 単位以上）</li> <li>    ※ <u>選択科目のうち，創薬科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）2 単位以上を，選択必修とする。</u></li> <li>・ 課題研究科目（必修科目 10 単位）</li> <li>【創薬科学コース】</li> <li>・ コース専門科目（必修科目 34 単位，選択科目 15 単位以上）</li> <li>    ※ <u>選択科目のうち，生命医科学コースにおいて必修とするコース専門科目（授業形態：講義）2 単位以上を，選択必修とする。</u></li> <li>・ 課題研究科目（必修科目 10 単位）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門共通科目（必修科目 <u>22</u> 単位）</li> <li>【生命医科学コース】</li> <li>・ コース専門科目（必修科目 34 単位，選択科目 15 単位以上）</li> <li>・ 課題研究科目（必修科目 10 単位）</li> <li>【創薬科学コース】</li> <li>・ コース専門科目（必修科目 34 単位，選択科目 15 単位以上）</li> <li>・ 課題研究科目（必修科目 10 単位）</li> </ul>
---	--

（新旧対照表）

授業科目の概要

新	旧
<p>（専門教育科目）</p> <p>専門共通科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>医薬科学基礎実習</u></li> </ul> <p><u>両コースの「医薬科学基礎ローテーション実習」が始まる前に，生命医科学研究及び創薬科学研究における実験を行う際の一般的注意や心構えについて学んだ後，危険物や劇物試薬や実験器具の取り扱い，廃棄物の処理等，今後必要となる知識や技能を簡単な実験を通じて身につける。さらに，実験記録のとり方，実験データの整理・解析の仕方，論理的な考察をもとにレポートを書く方法について習得する。</u></p>	<p>（専門教育科目）</p> <p>専門共通科目</p> <p><u>（追加）</u></p>

(新旧対照表)

教員名簿 [教員の氏名等]

新	旧
<p>・田嶋 敦 (1) 専 教授 &lt;令和3年4月&gt; ・<u>医薬科学基礎実習</u></p> <p>・松永 司 (4) 専 教授 &lt;令和3年4月&gt; ・<u>医薬科学基礎実習</u></p>	<p>・田嶋 敦 (1) 専 教授 &lt;令和3年4月&gt; <u>(追加)</u></p> <p>・松永 司 (4) 専 教授 &lt;令和3年4月&gt; <u>(追加)</u></p>



【3】ディプロマ・ポリシーについて、前段部分の養成する人材像等に係る記載と、後段部分の各コースで掲げられているディプロマ・ポリシーの内容がどのように対応しているか不明瞭であるため、関連性がわかるような記載となるように、適切に修正すること。

(対応)

ディプロマ・ポリシーについて、再整理するとともに、その内容を設置の趣旨等を記載した書類に追記する。

本学類では、“次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材”を養成する。

この養成する人材像は、言い換えれば、将来、基礎医学・薬学研究の多様化・高度化・複雑化に対応しながら医学・薬学領域の様々な分野で活躍する基礎研究者となる学士レベルの知識・スキルを有する者の育成を意図したものである。

また、養成する人材像に掲げる核となる部分（醸成する能力）は、養成する人材が学士レベルであるという点からも、将来の医薬科学研究を展開する“高度な研究基盤力”を備えた人材であると捉えている。

このため、ディプロマ・ポリシーにおいては、“高度な研究基盤力”を以下のとおり、大きく3つに分類し設定しており、さらに、その分類の下、身に付ける知識等を細分化し明確化した。

- (1) 医学と薬学の基礎的知識
- (2) 基礎医学・生命医科学領域/基礎薬学・創薬科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル
- (3) 世界をリードする研究者に求められる研究マインド、倫理観、国際性

この人材養成のため、本学類では、全国的に見ても極めて稀有な、医学分野と薬学分野、双方の基礎的な知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ教育プログラムを構築する。

具体的には、1年次に、医薬科学研究の基礎的な知識（人体の構造と機能、生命科学の基礎、有機化学の基礎、分析化学の基礎）を学ぶカリキュラムを構築した上で、2年次のコース配属先として、専門化した分野の大枠となる「生命医科学コース」と「創薬科学コース」の2コースを設ける。

生命医科学コースにおいては、これまでの医薬保健学域における医学分野の6年制教育プログラム（医師養成）とは異なる、基礎医学・生命医科学を専門とした上で薬学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。また、創薬科学コースにおいては、既存の創薬科学類のカリキュラムを踏襲しつつ、基礎薬学・創薬科学領域を専門とした上で医学の基礎的知識も身につけた研究者の養成を主目的とする。これら両コースにおいて、基礎医学・薬学両分野の広域にわたる基礎的知識から特定の領域における深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供することにより、基礎医学・薬学研究の多様化・高度化・複雑化に対応しながら医学・薬学領域の様々な分野で活躍する基礎研究者を養成する。

以上の理念の下、本学類において養成する人材像を踏まえ、以下のとおりディプロマ・ポリシーを設定する。

## ○ディプロマ・ポリシー

本学類では、養成する人材像（次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材）を踏まえ、所定の卒業要件を満たし、以下に掲げる生命医科学コースの学修成果を達成した者に学士（生命医科学）の学位を、創薬科学コースの学修成果を達成した者に、学士（創薬科学）の学位をそれぞれ授与する。

### 【学修成果（生命医科学コース）】

#### （1）医学と薬学の基礎的知識

- ・医学と薬学の各分野の根幹となる基礎的知識を身につける。
- ・医薬科学研究に取り組む上で必要な基礎的知識を身につける。

#### （2）基礎医学・生命医科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル

- ・基礎医学の専門的知識を身につける。
- ・生命医科学各分野の基礎的な知識・スキルを身につける。
- ・基礎医学・生命医科学の特定領域の深い専門性を身につける。
- ・主体的な自己研鑽により、身につけた専門的知識・スキルを実践レベルまで発展させることができる。

#### （3）世界をリードする研究者に求められる研究マインド，倫理観，国際性

- ・専門分野の未解決な問題を抽出して解決する意欲と基礎的な能力を身につける。
- ・論理的な思考力と表現力を身につけ，他者と論理的に議論できる。
- ・生命倫理と研究倫理の基礎的知識を身につける。
- ・国際的視野を有し，英語でコミュニケーションする基礎を身につける。

### 【学修成果（創薬科学コース）】

#### （1）医学と薬学の基礎的知識

- ・医学と薬学の各分野の根幹となる基礎的知識を身につける。
- ・医薬科学研究に取り組む上で必要な基礎的知識を身につける。

#### （2）基礎薬学・創薬科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル

- ・基礎薬学の専門的知識を身につける。
- ・創薬科学各分野の基礎的な知識・スキルを身につける。
- ・基礎薬学・創薬科学の特定領域の深い専門性を身につける。
- ・主体的な自己研鑽により，身につけた専門的知識・スキルを実践レベルまで発展させることができる。

#### （3）世界をリードする研究者に求められる研究マインド，倫理観，国際性

- ・専門分野の未解決な問題を抽出して解決する意欲と基礎的な能力を身につける。
- ・論理的な思考力と表現力を身につけ，他者と論理的に議論できる。
- ・生命倫理と研究倫理の基礎的知識を身につける。
- ・国際的視野を有し，英語でコミュニケーションする基礎を身につける。

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(4 ページ)</p> <p>① 設置の趣旨及び必要性</p> <p>① - 3 教育上の目的及び養成する人材像 (略)</p> <p>○ <u>ディプロマ・ポリシー</u></p> <p>本学類では、養成する人材像 (<u>次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材</u>) を踏まえ、所定の卒業要件を満たし、<u>以下に掲げる生命医科学コースの学修成果を達成した者に学士 (生命医科学) の学位を、創薬科学コースの学修成果を達成した者に、学士 (創薬科学) の学位をそれぞれ授与する。</u></p> <p><b>【学修成果 (生命医科学コース)】</b></p> <p>(1) 医学と薬学の基礎的知識</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ <u>医学と薬学の各分野の根幹となる基礎的知識を身につける。</u></li><li>・ <u>医薬科学研究に取り組む上で必要な基礎的知識を身につける。</u></li></ul> <p>(2) 基礎医学・生命医科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ <u>基礎医学の専門的知識を身につける。</u></li><li>・ <u>生命医科学各分野の基礎的な知識・スキルを身につける。</u></li><li>・ <u>基礎医学・生命医科学の特定領域の深い専門性を身につける。</u></li><li>・ <u>主体的な自己研鑽により、身につけた専門的知識・スキルを実践レベルまで発展させることができる。</u></li></ul> <p>(3) 世界をリードする研究者に求められる研究マインド、倫理観、国際性</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ <u>専門分野の未解決な問題を抽出して解決する意欲と基礎的な能力を身につける。</u></li></ul>	<p>(4 ページ)</p> <p>① 設置の趣旨及び必要性</p> <p>① - 3 教育上の目的及び養成する人材像 (略)</p> <p>○ <u>ディプロマ・ポリシー</u></p> <p>本学類では、養成する人材像を踏まえ、所定の卒業要件を満たし、「<u>生命医科学コース</u>」に<u>掲げる学習成果を達成した者に学士 (生命医科学) の学位を、</u>「<u>創薬科学コース</u>」に<u>掲げる学修成果を達成した者に、</u>学士 (創薬科学) の学位をそれぞれ授与する。</p> <p><b>【生命医科学コース】</b></p> <p>(1) 医学と薬学の基礎的知識</p> <p>(2) 基礎医学・生命医科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル</p> <p>(3) 世界をリードする研究者に求められる研究マインド、倫理観、国際性</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>論理的な思考力と表現力を身につけ、他者と論理的に議論できる。</u></li> <li>・<u>生命倫理と研究倫理の基礎的知識を身につける。</u></li> <li>・<u>国際的視野を有し、英語でコミュニケーションする基礎を身につける。</u></li> </ul> <p><b>【学修成果（創薬科学コース）】</b></p> <p>(1) 医学と薬学の基礎的知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>医学と薬学の各分野の根幹となる基礎的知識を身につける。</u></li> <li>・<u>医薬科学研究に取り組む上で必要な基礎的知識を身につける。</u></li> </ul> <p>(2) 基礎薬学・創薬科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>基礎薬学の専門的知識を身につける。</u></li> <li>・<u>創薬科学各分野の基礎的な知識・スキルを身につける。</u></li> <li>・<u>基礎薬学・創薬科学の特定領域の深い専門性を身につける。</u></li> <li>・<u>主体的な自己研鑽により、身につけた専門的知識・スキルを実践レベルまで発展させることができる。</u></li> </ul> <p>(3) 世界をリードする研究者に求められる研究マインド、倫理観、国際性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>専門分野の未解決な問題を抽出して解決する意欲と基礎的な能力を身につける。</u></li> <li>・<u>論理的な思考力と表現力を身につけ、他者と論理的に議論できる。</u></li> <li>・<u>生命倫理と研究倫理の基礎的知識を身につける。</u></li> <li>・<u>国際的視野を有し、英語でコミュニケーションする基礎を身につける。</u></li> </ul> <p>(略)</p>	<p><b>【創薬科学コース】</b></p> <p>(1) 医学と薬学の基礎的知識</p> <p>(2) 基礎薬学・創薬科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル</p> <p>(3) 世界をリードする研究者に求められる研究マインド、倫理観、国際性</p> <p>(略)</p>
--	--

(その他) 医薬保健学域 医薬科学類

【3】カリキュラム・ポリシーにおいて、「医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する方針の下、階層化した教育課程を編成する」としているが、具体的にどのような考え方に基づいて階層化がなされているかについての説明が不十分であるため、より明確となるよう説明を加えること。

(対応)

科目群レベル、科目レベルでの階層化を含めた教育課程編成の考え方について整理し、その内容を設置の趣旨等を記載した書類に追記する。

本学類においては、医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学び、併せて研究マインド・倫理観および国際性を醸成する機会を提供するために、教育課程を科目群単位で階層化して編成している。

まず、基礎から専門性へのシームレスな学びについて、「専門基礎科目」→「コース専門科目」と階層化されており、具体例として、生命医科学コースでは「基礎人体解剖学」「基礎人体構造学」(専門基礎科目)→「人体解剖学Ⅰ」「組織学Ⅰ」(コース専門科目・必修)→「人体解剖学Ⅱ」「組織学Ⅱ」(コース専門科目・選択)など、また、創薬科学コースでは「基礎分子細胞生物学」「基礎生物化学」(専門基礎科目)→「生物化学Ⅰ」「生物化学Ⅱ」(コース専門科目・必修)→「細胞生物学」(コース専門科目・選択)などが挙げられる。このように、専門基礎科目から各コースの必修科目で基礎を学び、専門領域に応じて選択科目で応用を学ぶという段階的な学修ができる体系となっている。

研究マインド・倫理観の醸成に関しては、「学域GS科目」(1年次)→「専門共通科目」(1～4年次)が階層的にその役割(キャリア形成も含む)を担っている。国際性の醸成については、1年次の「学域GS言語科目」から「専門共通科目」の「国際医薬科学Ⅰ」(2年次)、「国際医薬科学Ⅱ」(3年次)で階層化され、各コースでは「海外AL実習Ⅰ・Ⅱ」として海外留学の機会も用意されている。

これらに並行する形で、将来の研究活動に必要な実験技術の基礎を身につけるため、全員が「医薬科学基礎実習」を履修した上で、「医薬科学基礎ローテーション実習」が、各コースの専門分野に応じたシリーズとして開講され、終了後の研究室配属を控えて、各専門分野を広く実感する機会としても位置づけられる。

上記のカリキュラムに沿って必要な知見を学び、3年次・Q2で研究室配属を行い、各専門分野における「課題研究科目」がスタートし、「医薬科学研究Ⅰ～Ⅲ」と「医薬科学演習Ⅰ～Ⅲ」で研究力を段階的にレベルアップする。また、「専門共通科目」の「医薬科学特別演習」(3年次Q3・Q4)と「医薬科学特別諮問」(4年次Q3・Q4)における両コース合同の発表会を通して学生のレベルのチェックや研究内容・手法等の補正等も実施する。

以上のように、本学類の養成する人材像である「次代の先進医療や画期的新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を世界レベルで展開するための高度な研究基盤力を備えた人材」の養成に向け、カリキュラム・ポリシーに掲げる医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレ

スに学ぶ機会を提供する方針の下、ディプロマ・ポリシーに掲げる「医学と薬学の基礎的知識」「基礎医学・生命医科学領域 / 基礎薬学・創薬科学領域の研究を遂行するために必要な専門的知識・スキル」「世界をリードする研究者に求められる研究マインド、倫理観、国際性」のそれぞれの事項に応じ、教育課程を科目群レベルや科目レベルで階層化している。

併せて、上記の内容を踏まえ、カリキュラム・ポリシーに、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果に応じ、科目群や科目単位で階層化した教育課程であることを明記する。

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(5 ページ)</p> <p>① 設置の趣旨及び必要性</p> <p>① - 3 教育上の目的及び養成する人材像</p> <p>○ <u>カリキュラム・ポリシー</u></p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する方針の下、<u>ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果に応じ、科目群や科目単位で階層化した教育課程を編成する。</u></p> <p>(略)</p>	<p>(4 ページ)</p> <p>① 設置の趣旨及び必要性</p> <p>① - 3 教育上の目的及び養成する人材像</p> <p>○ <u>カリキュラム・ポリシー</u></p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学ぶ機会を提供する方針の下、階層化した教育課程を編成する。</p> <p>(略)</p>
<p>(11 ページ)</p> <p>④ 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>④ - 2 教育課程の特色</p> <p>教育課程における特色は、1) 1年次における医薬基礎教育、2) コース配属後の各コース専門科目とコース横断選択科目、3) 両コース合同の課題研究発表会における多面的・多角的討論、4) 早期から段階的に研究マインド・倫理観や国際性を醸成する科目の配当、<u>5) 階層化した教育課程の編成、</u>が挙げられる。</p> <p>(略)</p>	<p>(10 ページ)</p> <p>④ 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>④ - 2 教育課程の特色</p> <p>教育課程における特色は、1) 1年次における医薬基礎教育、2) コース配属後の各コース専門科目とコース横断選択科目、3) 両コース合同の課題研究発表会における多面的・多角的討論、4) 早期から段階的に研究マインド・倫理観や国際性を醸成する科目の配当、<u>が挙げられる。</u></p> <p>(略)</p>
<p><u>5) 階層化した教育課程の編成</u></p> <p><u>医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学び、併せて研究マインド・倫理観および国際性を醸成する機会を提</u></p>	<p><u>(追加)</u></p>

供するために、教育課程を科目群単位で階層化して編成している。

まず、基礎から専門性へのシームレスな学びについて、「専門基礎科目」→「コース専門科目」と階層化されており、具体例として、生命医科学コースでは「基礎人体解剖学」「基礎人体構造学」（専門基礎科目）→「人体解剖学Ⅰ」「組織学Ⅰ」（コース専門科目・必修）→「人体解剖学Ⅱ」「組織学Ⅱ」（コース専門科目・選択）など、また、創薬科学コースでは「基礎分子細胞生物学」「基礎生物化学」（専門基礎科目）→「生物化学Ⅰ」「生物化学Ⅱ」（コース専門科目・必修）→「細胞生物学」（コース専門科目・選択）などが挙げられる。このように、専門基礎科目から各コースの必修科目で基礎を学び、専門領域に応じて選択科目で応用を学ぶという段階的な学修ができる体系となっている。

研究マインド・倫理観の醸成に関しては、「学域GS科目」（1年次）→「専門共通科目」（1～4年次）が階層的にその役割（キャリア形成も含む）を担っている。国際性の醸成については、1年次の「学域GS言語科目」から「専門共通科目」の「国際医薬科学Ⅰ」（2年次）、「国際医薬科学Ⅱ」（3年次）で階層化され、各コースでは「海外AL実習Ⅰ・Ⅱ」として海外留学の機会も用意されている。

これらに並行する形で、将来の研究活動に必要な実験技術の基礎を身につけるため、全員が「医薬科学基礎実習」を履修した上で、「医薬科学基礎ローテーション実習」が、各コースの専門分野に応じたシリーズとして開講され、終了後の研究室配属を控えて、各専門分野を広く実感する機会としても位置づけられる。

上記のカリキュラムに沿って必要な知見を学び、3年次・Q2で研究室配属を行い、各専門

<p>分野における「課題研究科目」がスタートし、  「医薬科学研究Ⅰ～Ⅲ」と「医薬科学演習Ⅰ～  Ⅲ」で研究力を段階的にレベルアップする。また、  「専門共通科目」の「医薬科学特別演習」  （3年次 Q3・Q4）と「医薬科学特別諮問」（4  年次 Q3・Q4）における両コース合同の発表会を  通して学生のレベルのチェックや研究内容・手  法等の補正等も実施する。（【資料3】参照）</p> <p>（43 ページ）  添付資料  【資料3】医薬科学類 階層化した教育課程の  編成（概要）</p>	<p>（40 ページ）  添付資料  （追加）</p>
--	-------------------------------------



(その他) 医薬保健学域 医薬科学類

【3】各コースへの振り分けについては、本人の希望等によりコース分けを行うと記載されているが、希望に偏りが生じたときの対応や、コース配属後の変更希望があった場合の対応について、明確にすること。

(対応)

コース希望の偏りが生じたときの対応、コース配属後の変更希望があった場合の対応について、趣旨等を記載した書類に追記する。

本学類の学生に対する履修指導においては、オリエンテーション等により全体説明を十分に行った上で、1学年18名の小規模である特徴を活かして、各学生に割り当てるアドバイス教員が、定期的な個人面談等を行って、学生の履修状況や単位修得状況、思い描く将来像等を踏まえながら、きめ細かく指導する。特に、本学類では、コース配属（2年次）という将来を左右する重要な選択があるため、各専門基礎科目および「医薬科学研究者入門」において、各コース・研究分野の情報を十分に提供し、アドバイス教員も適切な助言を行うことで、情報不足によるミスマッチが起こらないよう慎重に配慮する。各コース9名を想定しているが、最終的に偏りが生じることを可能な限り防ぐため、入学時からコース選択時までには数回の希望調査を行い、教員と学生の間、また学生間で相互にコース希望の動向を認識させる。また、各コースの魅力をも十分に説明する機会を設け、学生が随時コース選択に関わる相談をできる体制を準備し、学生の適正や希望を踏まえながら綿密かつ適切に指導を行う。

学生の希望により各コースの配属人数に偏りが生じた場合、学生の将来像や意向を踏まえ、一定の補正を慎重に行うこととしているが、多少の偏りがあっても、18名の学生に対し、創薬科学コースには5名、生命医科学コースには6名の専任教員を配置しているため、問題なくきめ細やかな教育を実施することができる。さらに、コース配属後に変更希望が生じた場合、関連する教員と学生が密に情報共有を行い、その学生の将来像に応じた履修指導を行う。

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(20 ページ) ⑥ 教育方法、履修指導の方法及び卒業要件 ⑥-1 教育方法・履修指導に関する基本的な考え方 (略) ・・・また、本学類では、コース配属（2年次）及び研究室配属（3年次）という将来を左右する重要な選択が2回あるため、前者は各専門基礎科目および「医薬科学研究者入門」において、	(18 ページ) ⑥ 教育方法、履修指導の方法及び卒業要件 ⑥-1 教育方法・履修指導に関する基本的な考え方 (略) ・・・また、本学類では、コース配属（2年次）及び研究室配属（3年次）という将来を左右する重要な選択が2回あるため、前者は各専門基礎科目および「医薬科学研究者入門」において、

後者は「医薬科学基礎ローテーション実習」において各コース・研究分野の情報を十分に提供し、アドバイス教員も適切な助言を行うことで、情報不足によるミスマッチが起こらないよう慎重に配慮する。

特にコース配属（2年次）においては、各コース9名を想定しているが、最終的に偏りが生じることを可能な限り防ぐため、入学時からコース選択時までに数回の希望調査を行い、教員と学生の間、また学生間で相互にコース希望の動向を認識させる。また、各コースの魅力を中心に説明する機会を設け、学生が随時コース選択に関わる相談をできる体制を準備し、学生の適正や希望を踏まえながら綿密かつ適切に指導を行う。

学生の希望により各コースの配属人数に偏りが生じた場合、学生の将来像や意向を踏まえ、一定の補正を慎重に行うこととしているが、多少の偏りがあっても、18名の学生に対し、創薬科学コースには5名、生命医科学コースには6名の専任教員を配置しているため、問題なくきめ細やかな教育を実施することができる。さらに、コース配属後に変更希望が生じた場合、関連する教員と学生が密に情報共有を行い、その学生の将来像に応じた履修指導を行う。

後者は「医薬科学基礎ローテーション実習」において各コース・研究分野の情報を十分に提供し、アドバイス教員も適切な助言を行うことで、情報不足によるミスマッチが起こらないよう慎重に配慮する。